

大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査

（調査の概要）

- 調査対象：9月時点において、対面授業の実施割合について半分未満と回答した大学及び高等専門学校
- 調査期間：令和2年10月16日～12月18日（授業の実施状況は10月20日時点）
- 調査趣旨：対象大学等の授業の実施状況や、学生の理解・納得を得るための取組状況、各大学等において行われている様々な工夫等を調査するもの。

（結果の概要）

- 調査対象校（377校※）のうち約半数（190校／50.4%）は、授業全体の半分以上を対面授業で実施。
- **残りの大学（187校／49.6%）**は、対面授業の実施割合は半分未満となっているが、このうち、「ほぼ全ての学生が、授業の形態等について理解・納得している」と回答しているのは18校（9.6%）、「大多数の学生が、授業の形態等について理解・納得している」と回答しているのは140校（74.9%）。
 - ・ これらの大学では、学生本人やその家族の健康、地域社会における安全など、授業形態の検討に当たり**大学が考慮した事項に関する学生への丁寧な説明**や、**学長・学部長メッセージの発信**等の取組を通じて、**学生の理解・納得を得て授業を実施**している。
 - ・ また、**図書館等の学内施設の開放**や、**学生同士が交流できる機会の設定**に努めている例、教職員によるオンライン授業の勉強会を週2回開催し、**オンライン授業の質の向上**に努めている例、学生からオンラインで寄せられた2000件以上の相談に、**担当者が丁寧に回答・対応**している例など、**学生に寄り添った対応に努めている例も多数**見られる。
 - ・ さらに、次年度の授業計画等において、**対面授業の段階的な拡大を予定・検討している**等の回答が自由記述に記載された大学も**70校程度**あり、各大学で取組が進められている。

（※）短期大学及び専門職大学を含む。なお、前回調査（9月15日発表）への誤回答の申告があった1校を含む。

大学等における後期授業の実施状況等について（各大学等の回答一覧）

【記載上の留意事項等】

- ・調査対象：文部科学省による「大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査」（令和2年9月15日結果発表）において、対面授業の実施割合が半分未満の見込みと回答した大学及び高等専門学校（377校）※
- ・調査時期：令和2年10月16日～12月18日（授業形態及び比率については、10月20日時点の状況で回答）
- ・「所在地」は、「主要なキャンパスが所在する都道府県」として各大学等から回答があった都道府県を記載している。
- ・「授業形態」について「②併用」と回答している大学等については、対面授業と遠隔授業の「比率」について質問している。
- ・**対面授業の実施割合が半分未満の大学に対しては**、対面授業が少ないことについての学生への説明内容、そのことについてどの程度の学生が理解・納得しているかの認識、当該認識の理由と今後の取組方針等についても質問し、自由記述によって回答を得ている（対面授業の実施割合が半分以上の大学等に対しては、質問をしていないため、欄を灰色にして示している）。
- ・「授業形態」「比率」「学生の理解状況」の欄は、多肢選択式にて回答を得ているが、選択肢の文言は便宜的に省略している（調査票上の文言は本表末尾に掲載している）。
- ・授業全体の半分以上を対面授業で行うとする大学等（190校）のうち、国立大学は24校、公立大学は27校、私立大学は134校、高等専門学校は5校である。
- ・対面授業の割合が半分未満の大学（187校）のうち、東京都に所在する大学は80校、埼玉県に所在するのは13校、千葉県は12校、神奈川県は10校である。

※短期大学及び専門職大学を含む。なお、9月15日発表調査の回答に誤りがあった旨の申告があった1校を含む。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
1	小樽商科大学	北海道	国立大学	②併用	④3割対面	限られた教室のキャパシティのなかで学生の安全を考慮し、三密を避けながら授業を行える科目は基礎ゼミナールや研究指導、少人数クラスなどに限られ、大教室を使う講義形式の授業は、ソーシャルディスタンスを確保しつつ100名以上の受講者を収容できる教室も2つしか持たないことから、基本的に遠隔授業ないしはハイブリッド型授業となることを説明している。 また、授業のみならず、空き時間、休憩時間及び通学時等の学生の行動においても三密を避ける必要があるため、一日の中で対面授業を受講する学生が多数になることを極力避ける必要があること、加えて学内ネットワークが、多数の学生によるオンライン授業の学内受講に耐えられないことから、学生のオンライン授業の受講環境は自宅が主となるため、学生の通学による移動時間を考慮すると、同日に時間割に基づいた遠隔授業と対面授業を混在させることは難しいことも説明している。	②大多数が理解	前期に引き続き、機器貸出や受講相談などについて、学生サポート体制を組み相談に応じているが、後期授業の半分が経過し、学生から授業の形態等について納得していないといった意見は寄せられていないことから、大多数の学生は理解・納得していると考えている。
2	帯広畜産大学	北海道	国立大学	②併用	④3割対面	1年次開講科目及びすべての実習科目については、ほとんどの科目で面接授業を開始している。しかし、教室の数には限りがあり、10月1日からの後期開始時は、2年次以上開講の講義科目については、3密を防ぐため当面の間は遠隔授業を継続することを説明している。ただし、2年次開講科目についても、12月1日から1年次開講科目と同様に面接授業が再開され、対面比率は59%となる見込み。	①ほぼ全員理解	学生へのアンケート結果では7割5分の学生がオンライン授業の継続を望んでいる。また、オンライン授業の満足度も約4割が満足と回答し、普通を含めると約8割がオンライン授業に肯定的であった。一方、不満・やや不満は約2割であった。
3	北見工業大学	北海道	国立大学	②併用	④3割対面	1) 前期終盤の8月4日に、学部1、2、3年生向けに学長から後期授業の実施方法についてLMSを利用して説明を行った。さらに、後期授業開始前に行った新入生向けのガイダンス（対面による分割実施）においても、学長から直接説明する機会を設けた。その中で、以下のような説明をして理解を求めた。 ・大都市を中心に急激に感染が拡大しており、夏季休暇やお盆後に、この感染は地方に広がるのが懸念されている。 ・そのため、後期においても原則オンライン講義を継続する。 ・その一方で、まだ本学に一度も来ていない学生がいることや、自宅学習が長期に及ぶことについては憂慮している。 ・そこで、後期授業から実験・実習を中心に一部対面講義を実施し、学内での受講機会を少しずつ増やしていくことにした。 ・感染症対策は自分一人の問題ではなく、学生、教職員、北見市民など、多くの方々の安全・安心を守るための対応である。 ・学内への入構に際しては、マスク着用、手洗いの励行、三密回避などの対策を厳守し、学外の生活においても、感染拡大防止に対する自覚と責任を持って行動するよう、お願いする。 ・安心、安全を確保した上で、爽りのある楽しい大学生活を送れるよう、教職員一同がサポートする。 2) 持病などにより、後期も引き続き在宅受講を希望する学生の調査を行い、合計17名の在宅受講を認めた。	②大多数が理解	1) 前期科目の全てについて授業アンケートを行っている。その中で、オンライン科目について調査した。その結果、以下となった。 <アンケート調査> 質問内容：今回はすべての講義をオンラインで受講する形となりましたが、この授業をオンラインで受講することについてどう思いますか。 選択肢：非常に良いと思った、まあまあ良いと思った、どちらとも言えない、あまり良くないと思った、全く良くないと思った <回答結果>回答科目数：295科目（前期開講全科目の93%） ・非常に良いと思った+まあまあ良いと思った：65.5% ・どちらとも言えない：21.8% ・あまり良くないと思った+全く良くないと思った：12.7% 以上の結果から、オンライン講義に対して約66%は肯定的であり、約88%は否定的に考えていない。 ○このことから、大多数の学生はオンライン講義について理解・納得していると判断した。 2) オンライン講義に向けた取り組み ・前期のオンライン講義実施にあたっては、本学の教育IT支援室を中心にWGを設置し、教員のオンライン講義の準備・実施を全面的に支援した。オンライン講義LMSとしてコースパワー、実施環境としてWebex、eラーニング教材作成のためのAdobe Presenter、Adobe Captivateなどの利用方法を事前に全教員にレクチャーしオンライン講義遂行能力を高めた。さらに、学生に対しても、事前にオンライン講義の受講方法をレクチャーしオンライン講義受講能力を高めた。このように、全学的に統一したシステム・方法を採用することで、効果的なオンライン講義を実施した。（次頁に続く）

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
								<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの質問・要望をリアルタイムで教員にフィードバックし、教員から速やかに回答することにより、不具合の解消とともに学生の不満解消に繋がった。 ・教員からの問い合わせ・要望について教員グループ内で共助し、共通窓口としてWGで対応する体制を整え、混乱なく講義を遂行できた。 ・オンデマンド教材、リアルタイムの場合は録画教材を一定期間視聴できるようにし、学生のネットワークトラブルにも柔軟に対応できるようにした。 ・学生のネットワーク環境を調査し、機器が必要な場合は支援するとともに、北見市に在住する学生に対しては大学構内の教室を一部開放しオンライン受講を許可した。 <p>○上記の取り組みを行ったことで、学生は比較的ストレスなくオンライン受講ができており、オンライン講義実施に対する理解も得られたと認識している。また、学長からの「感染状況を慎重に見極めながら対面授業を拡大していく」ことに関する丁寧な説明によって、学生もコロナ禍を冷静に捉え、責任を持って自覚ある行動の下、現時点においては感染者の発生もなく日々の学習ができています。なお、後期の定期試験、卒業論文、修士論文の研究発表会については、厳正な成績評価のため、感染防止対策を徹底した上で、対面で実施する予定である。今後、感染状況を見つつ徐々に対面授業を拡大することで、オンライン授業とのハイブリッドによるニューノーマルな教育環境の創出を目指している。</p> <p>本学は北海道オホーツク地域に立地する国立大学法人として、教育研究だけでなく、全国から集まる学生や地域住民の安全安心の確保、地域との信頼関係の醸成、地域貢献も重要なミッションである。本学は感染症拡大を防ぐという使命のもとで、教育効果を最大限維持向上させるべく最善の方法を選択していることをご理解頂きたい。</p>
4	北海道教育大学	北海道	国立大学	②併用	③半々			
5	北海道大学	北海道	国立大学	②併用	③半々			
6	公立はこだて未来大学	北海道	公立大学	②併用	③半々			
7	名寄市立大学	北海道	公立大学	②併用	③半々			
8	札幌保健医療大学	北海道	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
9	天使大学	北海道	私立大学	②併用	④3割対面	<p>【学生・保護者の皆さま】 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止」と「学生の学習機会の確保」の両立に向けて（抜粋） 2020年9月25日 天使大学学長</p> <p>前期は、新型コロナウイルス感染防止のため学生の入校を制限し、授業は「オンライン授業」を主体としながら、実験・演習・実習系の科目において「対面授業」を行ってまいりました。現在、札幌の感染状況が落ち着きを見せていること、学生と保護者の皆さまからのさまざまなご意見、文部科学省からの通知「本年度後期等における新型コロナウイルス感染症の拡大防止と学生の学修機会の確保の両立のための留意事項について（2020年9月15日）」をふまえ、後期に向けて、対面授業を前期よりも増やし、施設利用の制限を緩和することといたします。詳細は以下をご覧ください。</p> <p>ただし、札幌の感染者数が著しく増加した場合は、再度施設利用の制限を強めることがあることをご承知おきください。</p> <p>1. 後期の授業の基本方針 (1) 後期の授業は、基本的に「遠隔授業」を主として実施します。 (2) 「対面授業」は、技術・演習科目、実験・実習科目を優先して実施します。 (3) 講義科目についても、当該科目の一部を段階的に「対面授業」で実施します。 (4) 「対面授業」の実施にあたっては、本学の「新型コロナウイルス感染症防止対策について」に基づき、三密を徹底的に回避する対策を講じた上で、感染リスクに十分配慮して実施します。 (5) 「遠隔授業」と「対面授業」を半日単位で編成する等、学生の登下校に配慮しながら、なるべく昼食時間を挟まないような時間割編成にします。 (6) 全学年、少なくとも1週間に1回以上は「対面授業」で登校できるように配慮します。 (7) 「遠隔授業」で必要な学生への授業資料は、「対面授業」で登校した際に渡せるように準備します。ただし、時間割編成上、対面授業の期間が空場合や事前に資料の準備が困難な非常勤講師の授業資料については郵送等で対応します。</p>	①ほぼ全員理解	<p>前期授業は、新型コロナウイルス感染症対策のため授業開始を1ヶ月以上遅らせ、遠隔授業でスタート、緊急事態宣言解除後の7月以降は感染の状況を注視しながら技術・演習科目、実験・実習科目を優先して段階的に対面授業を実施してきた。</p> <p>前期終了にあたり、学生に「遠隔授業に関するアンケート調査」を実施した結果、教員の説明を何度も聞き直す事が出来る、自分のペースで進められる、通学しなくて良い等のプラスの面、友達と一緒に学べず孤独感を感じる、集中力が続かない、課題が多すぎる、教員に質問しにくい等のマイナス面も多く、一日も早く通常通り対面授業を実施してほしいとの声が多数あった。</p> <p>しかしながら後期の授業科目すべてを対面授業で実施することは、三密対策上、物理的に困難な状況であるため、前期同様に基本的に遠隔授業を主として実施している。</p> <p>後期についても前期同様に学生にはアンケートを実施する予定であり、来年度の取組みに活用していきたいと考えている。</p> <p>来年度の授業のあり方については、札幌の感染状況や教室の規模、受講者数、教育効果等を総合的に判断し、感染対策をより万全にして、今年度後期同様に、対面授業と遠隔授業を併用して実施していかざるを得ないと考えている。</p> <p>学生に対しては、授業方法・授業計画についてシラバスに明示すると共に、丁寧な説明が必要であると考えている。</p>
10	北星学園大学	北海道	私立大学	②併用	④3割対面	<p>〔後期開始前に学生に説明した内容〕 大学は自分の教室と机が決まっている小中高とは異なり、4学部、約4300名の学生、非常勤の教職員の方々も含めて約500名の教職員がキャンパスに集い、毎時間ごとに、別々の大中小の教室を移動しながら利用することになり、通常の対面授業を全面的に再開するには多くの課題が存在します。</p> <p>後期は、いわゆる「3密」を避け、キャンパスでの「学び」と「キャンパスライフ」の価値と意味をあらためて確認し、オンラインとオンキャンパスを有機的に組合せつつ、学生同士及び教職員とのコミュニケーションをより一層十分なものにし、大学での学びを工夫した対面授業を取り入れた授業運営を行います。</p> <p>感染予防の観点に加え、各学科カリキュラム、各授業の特性などを踏まえて検討した結果、後期開始時に対面を実施する授業は、学科・学年で多少の違いはあるものの全体の3割程度の規模に留まる見通しです。つまり、授業の7割は引き続き非対面で実施されます。</p> <p>ただし、前期と比較すれば、対面の授業が大幅に増えることに変わりはありません。また、サークル活動についても、感染対策を講じつつ再開される見通しであり、皆さん一人一人の感染予防の意識がより一層重要となります。このことに十分留意し、後期のキャンパスライフをスタートしてください。</p>	②大多数が理解	<p>全て遠隔で行われた前期授業終了後の8月末に実施した本学の学生アンケート（回答率約35%）では、後期も全て遠隔授業を希望する学生は約3割、面接授業と遠隔授業の併用を希望する学生は約6割であった。</p> <p>また、文部科学省発行の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」で「地域ごとの行動基準」が示されている通り、北海道及び札幌市の感染状況やほとんどの学生が地下鉄で通学していることなども勘案している。なお、11月に学生から意見を聞く機会を設ける予定である。</p>
11	北海学園大学	北海道	私立大学	②併用	⑦7割対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
12	酪農学園大学	北海道	私立大学	②併用	④3割対面	定期的にコロナ感染・蔓延状況に応じた対応を講じる上での基準となる危機管理ステージ表を策定し、周知している。	③大多数とは言えない	定期的にコロナ感染・蔓延状況に応じた対応を講じる上での基準となる危機管理ステージ表を策定し、周知している。そのため、学生にも大きな混乱は生じていない。以下は周知内容を示している。 <危機管理ステージ表のレベル2・3が想定される場合> 原則として遠隔授業で実施します。実験・実習科目、資格、国家試験に関わるなどの一部科目については、感染防止策を十分に取った上で、対面で授業を行う場合があります。また、自宅に通信環境が整っていない学生に加え、対面での授業や研究指導等を受けるなどキャンパスを利用する必要がある学生については、キャンパス内で遠隔授業を受講できることとします。対象の科目等は、シラバスおよびUNIPAでお知らせします。 【2021年度 授業実施方針】 2021年度は、今年度と同様に学生及び教職員の健康を最優先しつつ、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、以下に基づき授業を展開していきます。 1. 講義 本学施設の収容規模に基づき、大人数（160名以上）が履修する科目は遠隔授業とし、それ以外の科目は対面授業と遠隔授業を併用して実施します。 2. 実験・実習・演習・実技科目 履修人数や実習施設の規模によっては分散しますが、原則、対面授業で実施します。 3. 授業時間 食事施設・購買施設の混雑回避・長時間滞留を回避するため、昼休み時間延長、午後の授業開始時間変更の検討を行います。
13	尚綱学院大学	宮城県	私立大学	②併用	③半々			
14	仙台大学	宮城県	私立大学	②併用	③半々			
15	東北医科薬科大学	宮城県	私立大学	②併用	③半々			
16	東北学院大学	宮城県	私立大学	②併用	④3割対面	受講登録学生50人以下の授業を原則として対面で行うことをルールとしている。そのため、学部による違いが大きく、経済・経営・法の各学部では対面授業の機会が小さくなっている。	②大多数が理解	後期授業の開始にあたって全学生に通知したが、その形態・方法に関して特段のクレーム等はなかった。 ただし、ほとんどの学生、父母は理解しているとしても納得せず、不満を持つ学生等については十分把握されているわけではない。この点については学業不振学生との面談などを通じて個々の情報を収集しているところである
17	東北工業大学	宮城県	私立大学	②併用	④3割対面	6月18日に後期授業の学年暦を周知し、7月29日には後期授業の対面授業は、週1回程度の通学での実施を予定していると周知していた。その結果、アパート等の解約等の問い合わせが多く発生し、後期授業開始後に対面授業を増やすことはアパートを解約した学生が再度契約を取り交わす必要性があるなど、混乱を招くことが予測されたため、事前予告通り授業を実施している。 また、秋から冬にかけてインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の流行が懸念されるため、秋冬に大学が再度休校（閉鎖）したとしても授業（試験）が成立するよう後期をAとBに分け、後期Aには、実験・実習を中心に対面授業（1/3程度）として組み立て、後期Bについては、対面授業を実施しつつも大学がいつ休校したとしても直ぐにオンライン授業を開始できる授業科目を中心に配置するなどの工夫を行い、学年暦及び後期時間割を修正し学生へ周知を行った。	②大多数が理解	7月に500名の学生を抽出し緊急アンケートを実施した結果、前期の残りの授業について、「対面授業を希望する」が3割、「全てオンライン授業を希望する」が7割であった。 後期授業については、「全てオンラインを希望する」が1/3、「対面授業とオンライン授業の併用」が1/3、「後期授業を前半と後半に分け、前半を対面授業、後半をオンライン授業」が1/3という結果を得た。 その他、遠隔授業に対してPC等の遠隔授業に必要な機器の貸出しや、新型コロナウイルスへの感染を懸念し通学が困難な学生に対して遠隔授業を行えるよう整備した結果、遠隔授業の比率が大きくなったことについて、学生・父母からの質問や要望等が無い。 また、来年度の授業実施方針については、2020年10月28日に本学Webサイト、ポータルサイトにて公表している通り、1・2年生は7割、3・4年生は5割程度の対面授業を実施すると方針を示しているが、授業実施方法等については、今後の状況等により適宜見直し、柔軟に対応することとしている。
18	東北福祉大学	宮城県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
19	国際教養大学	秋田県	公立大学	③全面遠隔	—	<p>本学の特徴である学修・生活一体型キャンパスでは、学生1人が感染した場合、大規模なクラスターが発生する可能性が極めて高いことから、秋学期もオンラインを継続する。その間は、安定的な学修プログラムの提供を最重要課題として確実なものとしていく。さらに、オンラインでの海外提携校と連携した取組や地域交流などを展開していく。</p>	②大多数が理解	11月からの施設開放、1月の1年生宿舎入居など、状況を見ながら段階的な学生受け入れを行っていくほか、対面授業とオンラインとのパラレルによる授業提供を検討していく予定である。
20	会津大学	福島県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルスによる感染が、依然として全国的に多く発生していることから、教育効果や各科目の特性を踏まえ、面接授業と遠隔授業のいずれか、又は併用して実施する旨を学内周知しており、さらに、授業毎に教育効果や遠隔授業の履修環境を踏まえて実施形態を決定し、履修学生に周知している。</p>	②大多数が理解	授業評価アンケートにおいて、新型コロナウイルスの影響による遠隔授業の実施については、概ね理解が得られていた。また、第4学期については、教育効果や学生の心身への影響などを踏まえ、より多くの授業で面接授業が実施できるよう取り組んでいく予定である。なお、来年度第1学期からの授業については原則面接授業を実施する見込みである。
21	医療創生大学	福島県	私立大学	②併用	①ほぼ対面			
22	茨城大学	茨城県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>「面接授業の機会が少ないこと」について直接の説明はしていないが、後学期の開始にあたっては「最大限の感染防止策を講じつつ、オンラインによる遠隔授業の活用を推奨しながら、対面での授業を実施する。諸事情により対面授業への出席が不可能な履修者がいる場合は、不利益のないよう配慮する。」と説明している。</p> <p>十分な感染防止対策を講じて収容定員を調整した講義室を開講予定の全ての授業に対して準備することは困難な状況であるが、予め周知した「本学活動基準のレベルに応じた授業の実施方針」に従って、地域の感染拡大の状況に応じて活動基準のレベルが下げられれば、さらに面接授業を増やすことを周知している。</p> <p>なお、感染防止に配慮しつつ、学生同士の交流を促進することを目的に、すべての学生が少なくとも週1日以上は登校して面接授業を受講するように設定している。また、感染への不安を持ち対面授業を受講しない学生には、個別に特別の対応を行っている。</p>	②大多数が理解	<p>前学期に遠隔授業に関するアンケートを2回実施した（データ数：第1クォーター2,576、第2クォーター及び前学期9,209）。授業の理解度、満足度、双方向性への工夫など、これまでに実施した面接授業のアンケートと比較して、全体的に明らかな改善がみられた。</p> <p>特に大人数が受講する科目については、遠隔授業の満足度、学修効果とも高かったことから、後学期においても遠隔授業を実施している例が多い。自由記述からは、遠隔授業の質は面接授業と遜色なかった。質問などは対面の方がやりやすい、遠隔の方がやりやすいとさまざまな意見があったが、各担当教員の工夫により、十分な学修ができたという肯定的意見が多かった。</p> <p>なお、実験・実習・実技など、対面による指導を主とする科目については、教育効果を勘案して面接授業を原則としている。全体的な課題ではないが、面接授業を実施することに反対する保護者の声もあり、さらに現段階で20名程度の学生が感染への不安を理由に登校しておらず、出席に代えて課題提出などの対応を要している。以上より、面接授業と遠隔授業の併用状況については、学生の理解が得られていると認識している。</p>
23	筑波大学	茨城県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>オンライン授業の実施については、下記のように説明しています。</p> <p>・秋学期の対面授業は、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ観点から、学生同士の前後左右の間隔を概ね1メートル以上確保して実施する。この「3密」を避けた座席配置とした場合の新たな教室定員から、概ね100名を超える授業についてはオンライン授業により実施せざるを得ず、また、それ以下の人数であっても、履修人数と教室規模を勘案し調整を行った結果、「3密」を避けるための十分な広さの教室が確保できない場合は、オンライン授業により実施することになること。</p> <p>・対面授業への参加にあたり、通学や授業によって感染することへの不安がある、健康上不安のある親族と同居している、そして海外に居住して日本に来ることができない等の理由が学生にある場合は、オンラインにより実施するか、または対面とオンラインの併用（対面授業に参加しない学生に対してオンライン授業を実施）により実施することとしているので、対面授業への参加を希望しない/できない理由がある場合は、授業担当教員に相談すること。</p> <p>なお、秋学期の授業は対面授業とオンライン授業が混在することとなり、対面授業の教室の他に、オンライン授業受講のための学生の居場所も必要となるため、開放できる場所も随時検討し、情報を提供している。</p> <p>また、オンライン授業に関するアンケート結果を踏まえ、授業改善を図っていること、授業に関する質問や意見等については、遠慮せずに担当教員に伝えてほしい旨も学生にアナウンスしている。</p>	②大多数が理解	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の定員という物理的な問題があることを説明していること。 ・7～8月に、秋学期以降の教育改善等を目的に「オンライン授業に関する学修状況等の実態調査」をした結果、オンライン授業について、短所ばかりではなく長所もあることを多くの学生が認めていること。 <p>【調査の結果概要は以下のとおり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業で困ったことを聞いたところ、「課題が多かった」、「授業に関する友人との情報交換ができなかった」などの短所も挙げられたが、オンライン授業で良かったことを聞いたところ、「自分のペースで学習できた」、「場所を選ばず学習できた」、「復習が何度もできた」などの長所も多くの学生が感じており、また、オンライン授業をどのように受け止めたかの設問では、「授業の目的・目標、計画及び課題の評価基準が適切に示されていた」、「ICTが効果的に活用されていた」、「学生に対する指導やツールの使い方等の技術的な支援が十分に提供されていた」等の項目で、肯定的回答がそれぞれ半数を超えた。 ・同調査により抽出した「学生が困った点」を踏まえ、「過度な課題負担の防止」、「課題に対するフィードバックの充実」、「教員への質問機会や学生同士の意見交換の機会の充実」などを全学的に共有し、授業の改善を進めるとともに、その旨を学生にもフィードバックしていること。 ・新型コロナ感染拡大防止のためのガイドラインを策定し、学生にもそれに沿った指導をしていること。特に、学内に多くの学生宿舎を抱える本学では、感染リスクの高い状況が考えられ、様々な機会を通じて学生への注意喚起を行っていることから、学生も感染リスクについて理解しており、全面的な対面授業ができないことは納得していると思われること。 ・通学や対面授業によって感染することへの不安や、健康上不安のある親族と同居している等の理由から、実際にオンライン授業を希望する学生も一定数いること。（次頁に続く）

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
								<p>【 今後の取り組み方針 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの状況を見つ、対面の方が教育効果の高い授業については教室が確保できれば対面で実施するとともに、フレンド型学修（オンラインによる反転学修と対面授業の組合せ）の奨励等、オンラインによる教育も積極的に活用することも含め、より教育効果の高い実施方法について検討を進めている。 ・ オンライン授業の活用も含め、留学（派遣/受入の双方）の視点からも、その目的と教育内容について、検討を進めている。
24	筑波技術大学	茨城県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>(令和2年8月6日 学内第16報より)</p> <p>～2学期から対面授業を実施することをお知らせしましたが、本学には日本全国からの学生が集まっており、自宅から大学までの移動又は通学することを前提として、対面授業を全面的に実施した場合、学生・教職員の感染リスクを高めることが懸念されます。このような状況を総合的に勘案した結果、本学では、学部1年生は2学期も、1学期と同様、遠隔方式による授業を継続することとしました。</p> <p>また、学部2～4年生、大学院生は、遠隔方式による授業を中心に実施し、感染防止対策を講じた上で、実習・演習の授業の一部を新たに対面方式により行うこととします。対面授業の開始を楽しみにしていた学生の皆さんの気持ちは重々理解しておりますが、今回の決定は、大学として、学生・教職員の命を守り、学生の修学機会を確保するためのやむを得ない判断であることをご理解いただければ幸いです。～新型コロナウイルス感染症については、予断を許さない状況にあり、今後の情勢変化を踏まえて、再度、入構制限、授業形態の見直し等の措置を講じる場合があります。その際は、本学ホームページでお知らせいたしますので、定期的にご確認ください。</p> <p>(令和2年8月13日更新 HP掲載【重要】2学期の授業に関する学長メッセージより)</p> <p>1.学部1年生</p> <p>本学では、1年生の皆さんには2学期から対面授業を行う旨をお知らせしていました。しかし、現在の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑みると、2学期も引き続き遠隔授業を実施せざるを得ないと判断に至りました。したがって1年生は1学期同様、すべての授業が遠隔方式となります。入学以降、一度もキャンパスに登学することができず、パソコンやタブレットPCで授業を受けることに精神的なストレスが溜まっている学生がいることをたいへん憂慮しています。皆さんのストレスを軽減する方策について、大学は懸命に考えており、遠隔でのカウンセリングや学生交流イベント等についてあらためて皆さんにご連絡をいたします。</p> <p>なぜか、中学生が校舎で授業を受けることができ、大学生がキャンパスで授業を受けられないのか。このことは多くの大学の新生が感じていることです。大学は小中学校とは異なり、広い地域から学生が集まります。特に筑波技術大学は全国各地から学生が入学している大学です。新型コロナウイルス感染症は全国的に感染が拡大し、いつどこで誰が感染しても、おかしくない状態にあり、このような状況下で、自宅から大学までの移動又は通学することを前提として、対面授業を全面的に実施した場合、学生の皆さんの感染のリスクを高めることが懸念されます。</p> <p>今回の決定は、大学としては本当に苦渋の決断です。いったんは対面授業を予定したのに、これを覆すことになり、大変心苦しく思います。しかし、1年生の皆さんは、いつかは同級生や先輩、教員と対面できることを願って、自らの工夫で生活と学修のリズムを作るようにしてください。この工夫や努力は、将来、皆さんが社会に出た後の新たな働き方にも繋がるものです。そのようなことを意識すると、今よりもこの状況を前向きに捉えることができるかもしれません。</p> <p>2.学部2～4年生及び大学院生</p> <p>1学期同様に、原則、遠隔方式により実施します。学生は、現在居住している場所で受講してください。同時に、国家試験受験資格取得等のための実技実習系科目(2年生以上が対象)の一部については、2学期新たに対面方式で実施します。対面授業を行う科目については、別紙の通りです。</p> <p>ただし、現在、自宅に居住しており、感染のリスクから対面授業の参加に不安がある学生は、無理に登学する必要はありません。そのような学生に対してはテレビ会議システム等を用いて授業の様子を同時配信する等、必要な配慮を行います。</p> <p>3.すべての学生の皆さん</p> <p>オンライン授業であっても、自らの工夫で生活と学修のリズムを作るようにしてください。この工夫や努力は、将来、皆さんが社会に出た後の新たな働き方にも繋がるものです。そのようなことを意識して、2学期の学習に取り組んでください。</p>	<p>②大多数が理解</p>	<p>学生へのオンライン授業に関するアンケート調査の回答により、本学としては、多くの学生が授業の形態等について理解・納得しているものと考えており、引き続き、学生の意見を取り入れながら、きめ細かな対応を行っていくこととしている。</p> <p>(アンケート結果概要)</p> <p>「内容が理解しやすかった」と回答した学生の意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャットで筆談通訳してくれたのがよかった。 ・先生方が手厚くサポートしてくれたことが一番大きかったと思う。字幕を付けたら、画面を大きくしてくれたことでとてもわかりやすく授業を受けられたと思った。 ・時間（主に移動時間）を有効に使うことができ、予習、復習、資格（検定）対策といった自修が進みましたので、後期も今のような遠隔授業の形をとっていただきたいです。 ・このままオンラインでもいいと思うくらい革命的で、オンラインは自分だけの空間でとても安心します。 「内容が理解しにくかった」と回答した学生の意見等 ・やはり素にいと講義を受けても内容が頭にはいって来ないのが問題だった。改めて対面の良さを考えることができたと思う。 ・オンライン授業は私の性質と相性が悪かった。私は誰かしらの指導がないと怠けてしまう性なので、課題を放置してしまった。 <p>また、本学では、以下のような特別な事情等があり、これらに対するケアも行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学は全国で最も地元出身者の比率が低い、即ち全国各地から学生が入学している大学である。このため、学生の8割以上がキャンパス内の学生寄宿舎に居住することとなり、教育環境面のみならず、日常生活の面においても、感染症リスクへの配慮が必要となる。 2. 本学の学部学生は、聴覚または視覚に障害があることが入学資格となっており、例えば、以下のような障害特性を考慮した、リスク回避への対応が必要となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害学生：マスクをした状態でコミュニケーションに支障を来すため（口唇を読み取る「読唇」ができない）、フェイスシールド等を活用しているが、この場合も手話コミュニケーションにおいて顔の近くで表す手話単語が表現しにくい。 ・視覚障害学生：全盲学生の歩行移動においては、他者の身体に接触する「ガイドヘルプ」が必要となる場面が頻繁に生じる。また手摺りを含めた構造物に接触することが不可避となる。このため、大学予算で学生宿舎を含めた大学構内の消毒は毎日行っている。 <p>これらの状況から、より学生個々の健康状況に配慮するとともに、感染症拡大リスクを最大限回避するために、学生寄宿舎が密にならないよう配慮しながら、実習系科目及び卒業研究科目を中心に対面授業を実施してきている。</p> <p>同時に、遠隔授業を受けている学生に対しては、クラス担任及びアカデミックアドバイザー（学生3名に対して教員1名を配置）が、学習面だけでなく様々な相談に対応しており、さらに必要に応じて本学の保健管理センターのカウンセラーが遠隔によるカウンセリングを行い、精神面においてもきめ細かなケアを実施している。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
25	つくば国際大学	茨城県	私立大学	②併用	④3割対面	実験・実習は知識や技術を身につけるためにたいへん重要であることから、実験・実習は、極力、対面授業で行えるよう時間割を工夫した結果、実験・実習科目は、その67.5%が対面授業で実施できることになったが、その影響で座学・演習科目は、その84.2%が遠隔授業になってしまった。	②大多数が理解	<p>後期授業全体における遠隔授業の割合は62.7%、対面授業の割合は37.3%であるが、座学・演習科目は84.2%が遠隔授業で、15.8%が対面授業であるのに対して、実験・実習科目は32.5%が遠隔授業で、67.5%が対面授業である。</p> <p>医療系6学科で構成される本学においては、実験・実習が知識や技術を身につけるためにたいへん重要であると考えていることから、極力、実験・実習は対面授業で行えるよう時間割を工夫した結果である。なお、前期に実施した遠隔授業について実施した学生アンケートの結果、学生の遠隔授業への順応は早く、積極的に授業を受けている状況が読み取れた。</p> <p>特に4年生は後期後半において国家試験受験を意識した学習の総まとめの必要性があるので、全6学科において、4年生を対象に3密を回避した自習室を設置し、学生個々の学習の状況に対応できるよう、教員は交代で自習室を回り、適宜、声掛けを行い、質疑を交わしている。また、並行して国家試験模擬試験を対面で実施し、臨場感をもたせる工夫をしている。</p> <p>今後の計画や取組の方針</p> <p>後期の後半に予定されている臨床(臨地)実習については、首都圏の受入れ機関(病院等)がCOVID-19の影響で縮小されるなか、受入れてもらえる機関を県内で新規に開拓するとともに、臨床(臨地)実習の一部を見学実習に切替えたり、実習日数を少し減らすなど工夫をすることで、少なくとも全学生が臨床(臨地)実習を受けることができるように調整を行っている。</p> <p>来年度については、4月から全面的に対面授業を実施していきたいと思っているが、現況を勘案すると、遠隔授業と対面授業を並行せざるを得ないのではないかと考えている。しかしながら、今年度当初とは異なり、混乱の中でのスタートではなく、工夫された時間割に基づく落ち着いた学習環境となるよう協議を重ねている。</p>
26	常磐大学	茨城県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	2020年度秋 semester の授業については、できる限り面接授業を実施すべく検討を重ねてまいりましたが、依然として首都圏における感染者数の増加は著しく、また茨城県内においても連日感染者が確認されるなど、終息が見通せない状況が続いています。このような状況にあっても、教育活動に持続的に取り組むことができるような体制を整えておく必要があることから、2020年度秋 semester の授業等(定期試験を含む)については、遠隔授業等の対面によらない方法で実施することを基本とし、特に必要性の高い一部の授業科目については十分な感染予防対策を講じたうえで面接授業を実施することを決定しましたのでお知らせします。(2020年8月5日、本学ウェブサイト「2020年度秋 semester の授業等について」より)	②大多数が理解	<p>前期(春 semester)の授業終了後に併設短期大学と共同で学生へのアンケート調査を実施した。遠隔授業(オンライン授業)全体を通しての満足度について質問したところ、「非常に満足している」または「満足している」と回答した学生は、回答者全体の67.1%であったことから、おおむね大多数の学生が授業の形態等について理解・納得しているものと認識している。</p>
27	常磐短期大学	茨城県	私立大学	②併用	④3割対面	2020年度秋 semester の授業については、できる限り面接授業を実施すべく検討を重ねてまいりましたが、依然として首都圏における感染者数の増加は著しく、また茨城県内においても連日感染者が確認されるなど、終息が見通せない状況が続いています。このような状況にあっても、教育活動に持続的に取り組むことができるような体制を整えておく必要があることから、2020年度秋 semester の授業等(定期試験を含む)については、遠隔授業等の対面によらない方法で実施することを基本とし、特に必要性の高い一部の授業科目については十分な感染予防対策を講じたうえで面接授業を実施することを決定しましたのでお知らせします。(2020年8月5日、本学ウェブサイト「2020年度秋 semester の授業等について」より)	②大多数が理解	<p>前期(春 semester)の授業終了後に併設大学と共同で学生へのアンケート調査を実施した。遠隔授業(オンライン授業)全体を通しての満足度について質問したところ、「非常に満足している」または「満足している」と回答した学生は、回答者全体の67.1%であったことから、おおむね大多数の学生が授業の形態等について理解・納得しているものと認識している。</p>
28	宇都宮大学	栃木県	国立大学	②併用	③半々			
29	足利大学	栃木県	私立大学	②併用	③半々			
30	足利短期大学	栃木県	私立大学	②併用	③半々			
31	作新学院大学	栃木県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
32	白鷗大学	栃木県	私立大学	②併用	②7割対面			
33	群馬大学	群馬県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルスの感染については、全国及び群馬県における感染者数の動向を注視しているところですが、いまだに収束が見通せない状況であり、引き続き、学生、教職員が、一致団結して感染拡大防止の取り組みを粘り強く行う必要があること、また、本来であれば、学生にとって大学は、直接学生同士あるいは教職員とのコミュニケーションを通じての学習や学生生活は大事な経験となると考えており、通常の対面授業を行いたいところであるが、コロナウイルスに感染せず、安心・安全な生活を維持することを最優先し、学生の意見等を取り入れながら、教育の質の保証等を考えFD・SDを実施し工夫した対面授業や交流方策を検討している旨説明している。</p> <p>なお、既に教育上対面による指導が必要不可欠な実験・実習、対話を中心とする講義、演習等の授業科目については、対面授業を実施しているほか、コロナ感染防止対策の徹底を前提に、特定の授業科目について対面授業の試行を開始している。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、学生の安全を第一に考えた上で修学の機会を確保するためオンラインによる授業実施を決断したことについて、学長メッセージをはじめ、教務システム、大学ホームページ等を通して学生全員に理解と協力を求めた。</p> <p>なお、授業等の改善を図るため、学生全員に前期終了後に振り返りアンケート調査を依頼し、オンライン授業（Zoom）を利用した授業や、学習支援システム（moodle等）を利用した授業等の満足度を調査し、回答した学生の大多数の学生が「満足している」「どちらかといえば満足している」との結果を得ている。また、オンライン授業を主とする前期授業の実施に関する「学生と教員によるオンライン座談会」においても授業科目毎の課題の提出、通信機器のトラブル、図書館の利用及び課外活動の制限等への意見は寄せられたが、授業形態及び授業内容に関する否定的な意見は、特段無かったため、学生の理解が得られていると考えている。</p> <p>現在、教育上対面による指導が必要不可欠な実験・実習、対話を中心とする講義、演習等、また一部の授業科目について、対面授業を実施しているが、今後は、新型コロナウイルスの感染状況の社会的情勢を踏まえ、ほぼ全ての授業科目で対面による授業の機会を確保するため、策定した「対面授業実施にあたっての方針」に基づき、対面授業の拡大を図ることとしている。</p>
34	群馬県立女子大学	群馬県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>2020年度後期では、群馬県や首都圏の新型コロナウイルス感染拡大状況や、群馬県が定める「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の警戒度1から2への移行等を考えると、学生や教職員の皆さんの健康を守る上で全体的な対面授業の実施は困難と判断し、「原則遠隔授業」とし、教育効果の観点から対面での授業実施が必要な科目については、十分な感染対策を講じた上で、「一部授業を対面」で実施します。対面で行う授業については、感染への心配から登校は控えたいという学生向けに、オンデマンド、またはオンラインでの授業受講も可能にすることを予定しています。</p>	②大多数が理解	8月に実施した学生にアンケートでは、55%の学生が遠隔授業を望んでいた。
35	高崎経済大学	群馬県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>本年度後期授業については、本学HPにおいて文部科学省、厚生労働省その他関係省庁及び関係自治体から出された新型コロナウイルス感染拡大予防対策に関する通知を周知し、大学としての授業実施方針及び新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを示している。来年度からは対面による通常の授業を実施することとしたが、本年度後期は、実習科目及び全学生の7割が必修である演習科目、さらに一部の講義科目において、対面授業を再開した。これにより、専任教員が担当する科目の8割が対面授業となった。</p> <p>なお、対面授業の実施においては、対面授業への復帰に不安がある学生にも十分配慮することとしている。</p>	②大多数が理解	<p>本学HP及び学内システムにおいて、7月9日付で後期授業の実施方針を公表した。教員や事務局による相談体制を整備し、その積極的な活用を周知を行っているが、そこに寄せられる学生からの電話やメールなどによる相談や問合せは、4月～7月と比較し、8月以降は明らかに減少している。その個々の相談においても、社会情勢や感染防止対策などを丁寧に説明し、理解を得られるよう対応している。さらに、7割の学生が受講し、後期から対面授業を再開した演習科目においても、学生からは不安の声は聞かれず、授業も円滑に進んでいる。</p> <p>このような状況から、大多数の学生は本学の授業形態等について理解・納得しているものと考えている。</p>
36	桐生大学	群馬県	私立大学	②併用	②7割対面			
37	高崎健康福祉大学	群馬県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>都内、隣県、群馬県ともに感染数が確認されており、特に都内や埼玉県では感染者数が増加している様子がわかるため、本学の後期授業については前期同様に原則としてオンライン（オンデマンド型）授業での実施を行う。</p> <p>学外で予定していた実習などが先方の事情により実施できないなどした科目もあり、学内で行う授業は実習、実験、演習といった科目を各学科で指定曜日での実施に向けて調整するなど。</p>	②大多数が理解	<p>オンライン授業を主体に後期授業開始しているが、授業内容は対面授業とそん色なく行っており、また、そのことに関して苦情等も寄せられていないため。令和3年度より全体として5割以上の対面授業実施を計画している。</p>
38	高崎商科大学	群馬県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
39	埼玉大学	埼玉県	国立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学では、後期の授業形態について、令和2年7月3日に決定した。その内容は、原則として遠隔授業を継続したうえで、実験・実技・実習に加えて、感染防止策を講じて実施できるものについては面接授業（対面授業）を実施するものである。面接授業（対面授業）の機会が少ないことに対する学生への説明についてのポイントは以下のとおり。</p> <p>後期も遠隔授業を原則とする第一の理由は、教室における身体的距離を確保するためです。厚生労働省が挙げている「新しい生活様式」の実践例でも、できるだけ2m（最低1m）の確保が求められており、小中高等学校の教室の座席配置もこの原則に則っています。これを本学で実現しようとすると、教室の学生収容数を半分以下にする必要があります。</p> <p>もう一つの理由として、本学の学生は、近隣の都県から通学してくる方も多く、アルバイト等で行動範囲も広い傾向にあるため、学内の感染防止を特に重視する必要があります。学生及び教職員の安全確保・健康を最優先に検討した結果、これらの理由により遠隔授業を原則とすることに決定しました。</p>	①ほぼ全員理解	<p>オンライン授業に関する学生アンケートの結果によると、オンライン授業への総合的な満足度は「満足している」18%、「おおむね満足している」52%の計70%であり、本学におけるオンライン授業の満足度は概ね好調と判断することができます。また、感染者数が多い近隣都県から通学する学生も多く、アルバイト等で行動範囲も広い傾向にあるため、学内の感染防止を特に重視する必要があることについては学長メッセージ等を通じて発信しており、埼玉大学の置かれている状況について学生に説明を行っている。</p> <p>以上を勘案して、授業の形態等に関する学生の理解・納得を得られていると判断している。</p> <p>令和3年4月から、対面授業を拡大するとともに、対面授業と遠隔授業の併用によるハイブリッド型授業も導入し、教育の質的高度化および学習の効率化の推進を行っていく予定です。</p>
40	埼玉県立大学	埼玉県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>本学は保健医療福祉分野の教育を主体とする大学であり、その教育は県内をはじめとする多くの実習施設の患者や利用者の皆様の絶大な協力により成り立っている。しかし、この方々の多くは高齢者など何らかの基礎疾患を有する。すなわち新型コロナウイルス感染症で重症化しやすい集団である。そのため、実習先に本学学生が新型コロナウイルスを持ち込むことは絶対に避けなければならない。</p> <p>さらに、無症状の感染者も感染源となり得ることが知られている。多くの学生は若く、新型コロナウイルスに罹患しても無症状あるいは軽症である可能性がある。よって、新型コロナウイルスに罹患しても無症状あるいは軽症になる可能性がある。これは学生が体調管理を徹底しても自身の感染に気付けないまま高い行動性を維持する可能性を示唆する。</p> <p>そのため、感染リスクを可能な限り低減させるため、遠隔で実施可能な授業は遠隔実施し、面接授業は演習・学内実習といった必要不可欠な一部授業のみに限定する。</p>	②大多数が理解	<p>本学が保健医療福祉分野の大学であり学生と実習先の安全を守るため感染リスクを低減させなければならない。そのために面接授業を制限しているという説明を、学長メッセージなどを通じて機会があるたびに繰り返し実施し、本学のコロナ禍における教育に対する考え方の共有に努めてきた。この結果、前期授業期間終了後に実施した学生への遠隔授業評価アンケート調査においても、全体の9割から「遠隔授業の満足度は普通以上」との回答を得ている。</p> <p>本学の特別の事情としては、本学が保健医療福祉分野の教育を主体とする大学ということが挙げられる。本学の教育は県内をはじめとする多くの実習施設の患者や利用者の皆様の絶大な協力により成り立っているが、この方々の多くは高齢者など何らかの基礎疾患を有する。すなわち新型コロナウイルス感染症で重症化しやすい集団である。そのため、実習先に本学学生が新型コロナウイルスを持ち込むことは絶対に避けなければならない。</p> <p>さらに無症状の感染者も感染源となり得ることが知られているが、多くの学生は若く、新型コロナウイルスに罹患しても無症状あるいは軽症である可能性がある。これは学生が体調管理を徹底しても自身の感染に気付けないまま高い行動性を維持する可能性を示唆しており、感染リスクは可能な限り低減させなければならない。</p> <p>また、授業で用いる本学の講義室等施設は学生数に対して狭小であり、「3つの密」を回避するため必要な学生間の身体的距離をとると全ての科目で面接授業を行うことができず、学内実習等、より面接授業の必要性が高い科目を優先的に学内で授業実施せざるを得ない。さらに、本学学生の多くは国家資格取得のために国家試験を受験するが、新型コロナウイルスに罹患もしくは濃厚接触者となった場合、受験できないことが想定される。そのような学生が生じることがないよう、やはり学内での感染リスクは可能な限り低減させるべきと考える。</p> <p>今後の取組方針として、地域の感染状況などの様々な要素を考慮しつつ、実習施設の感染対策を踏まえ、相手先とよく相談を行いながら、面接授業実施の拡大について検討する。面接授業比率等の授業実施方法については、本学の特別の事情と併せ、学生に対し繰り返し丁寧な説明を行っていく。また、遠隔授業は教育効果をより高めるため、新たな知見や成功事例を積極的に取り入れ、合わせて効果検証を確実に進め改善を図る。</p>
41	秋草学園短期大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学として感染リスクを減らすことを検討した結果として、対面授業を実施する授業科目が全体の3～4割程度となりました。学生への遠隔授業実施についての説明内容は以下の通りです。</p> <p>①立地が東京都に隣接する場所にあり、都内からの通学者も多数いるため、通学時の公共交通機関等での感染リスクを抑える。また方が感染者が出た場合の授業におけるクラスターの発生を防止することを理由に、講義科目等大人数で受講する科目、及び遠隔で対応可能な科目については遠隔授業で実施することとします。</p> <p>②実技や演習科目等で対面授業が必要な科目については、消毒等の感染対策を十分におこなった上で教室内の密を避けて対面授業をおこなうこととします。但し、対面授業に対してどうしても不安を感じる学生については、個別に対応し配慮をします。</p> <p>③本学は幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得の課程を持っており、学生の実習派遣が必要となります。学生は同時期に一斉に実習に出ますので、実習準備期間や実習中に学生の感染が判明した場合には、感染した学生の実習圏はもちろん他の学生、及びそれら学生の実習圏までも含めその影響は計り知れません。そのため実習派遣の2週間前からは原則遠隔授業のみの実施とします。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業をおこなうにあたってのシステムの構築、クラス指導教員によるクラス単位でのケア、教職員からの個別も含めた学生宛のメール等での丁寧な連絡や学生支援、また、全ての学生に対する通信環境整備のための経済的支援や、経済的困難者に対する個別経済支援を実施してきた結果として、学生からの遠隔授業の割合に対する不満というものはほとんど聞かれません。</p> <p>また、大学を閉鎖している訳ではないので食堂等の一部を除き、図書館やコンピューター室などの施設は利用でき、教育的支援もおこなえております。2020年度前期の授業アンケートの際に遠隔授業に関する質問をおこないましたが、8割近くの学生が授業の分かりやすさについて対面と同等以上との回答をしております。以上のことから現状のコロナ禍における本学の対応は、大多数の学生から理解を得ていると認識しております。</p>
42	浦和大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
43	共栄大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
44	埼玉工業大学	埼玉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>令和2年度前期の授業運営では、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、学生の皆様に安全かつ十分な学修の場を提供するために、前期前半は遠隔授業とし、前期後半は遠隔授業と一部科目(実験・実習・卒業研究等)のみ面接授業を実施した。後期の授業については、遠隔授業で可能な科目は前期同様、原則遠隔授業で実施する。ただし、実験・実習・卒業研究等に限る。文部科学省のガイドライン等に準拠しつつ、感染防止対策を十分に取った上で、学生の登校を認め、面接授業を行う。大学に入構し面接授業を受講する日に他の遠隔授業の科目を受講する場合、通学時間の関係により自宅で受講できないときには、大学で遠隔授業を受講することも可能とした。学生の皆様には引き続き、感染拡大防止策への日常の取り組みをお願いをし、今後の感染状況等により授業実施を変更することがある場合は、速やかに案内をすることとし、ホームページ、メールのチェックのお願いをした。</p>	②大多数が理解	<p>大学のホームページ、内部ポータル及びメール・郵送等で学生への注意喚起を学生一人一人に確実に伝達できる方法を行った。後期授業運営については、原則遠隔授業を実施し、感染防止策を十分に講じた上で一部科目(実験・実習・卒業研究等)は面接授業を実施している。学生や教職員においては、適切な行動を心がけてもらい、現時点で新型コロナウイルス感染者はひとりも発生していない。来年度の授業については、全面的に面接授業を行いながら、同じ授業をオンラインで同時に配信し、学生が希望する授業方式を選択できるハイフレックス型授業を認める方向で、学内の感染防止措置と面接授業を適切に両立させていくことが重要と考え、少しでも多くの面接授業を取り入れた授業運営を行う予定。</p>
45	城西大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本年度後期の授業実施に際しては、本学ホームページ(7月31日付け)に「対面授業の再開に向けた感染症防止のための手引」及び「後期からの対面授業開始にあたって(学長メッセージ)」を掲載しています。特に「対面授業の再開に向けた感染症防止のための手引」においては、大学の環境整備、行動基準、基本的な感染症対策、学生生活一般に関する注意事項など10項目に分け明示しています。これらの情報発信を踏まえて、対面授業の実施方法については、三密を回避するため、原則、教室収容人数の33%以下で、科目の性質上(実習等)対面授業が必要なものに限定して実施することとしています。なお、対面授業を希望しない学生に対しては、遠隔授業等で対応することも明示しています。</p>	②大多数が理解	<p>9月11日から9月30日の期間で、本学在学生を対象に、オンライン授業による授業内容の習熟度や満足度を調査するためのアンケートを実施し、おおむね良好との結果が出ています。</p> <p>また、「対面授業を再開した場合、大学に来て受講しますか」との設問では、『可能な範囲で大学に行って受講したい』との回答が全体の約35%であり、『あまりそうは思わない』が約30%であった。その他、『絶対にいや』『どちらともいえない』が約11%、『ぜひ大学にいて受講したい』が約13%であった。このことから、大多数の学生については、理解・納得を得ていると考えます。</p> <p>なお、2021年度の授業実施方法については、対面授業を基本として検討しています。ただし、教室の規模、受講者数、教育効果等に加え、地域の感染状況なども踏まえて、学生、教職員、地域の安全・安心も含め総合的に判断します。</p> <p>また、本年度は、感染防止対策を講じた対面授業の方法や遠隔授業の実施方法などに関して、全学的な連絡会を毎月定例として設け、教育効果の向上を目指した取り組みを行っております。</p> <p>アンケート調査結果概要： (問) オンライン講義を受講しての印象はいかがでしたか。 (結果) 大変満足した 21%、やや満足 56%、やや不満 19%、大変不満 4%。 (問) 後期授業に対面授業が再開された場合、大学に来て受講しますか。 (結果) ぜひ大学にいて受講したい 13%、可能な範囲で大学にいて受講したい 35%、あまりそうは思わない 30%、絶対に嫌である 11%、どちらともいえない 11%。</p>
46	城西短期大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
47	女子栄養大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
48	聖学院大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>2020年7月29日付大学ホームページ掲載の『学長メッセージにおいて、高校生と比べて活動の幅が広く無症状の感染者が多い世代の学生からなる大学では、秋学期もコロナウイルス感染症予防対策に慎重に向き合うべきであること、「自粛から自衛へ」という考えのもと各種施策においても予防を徹底することを示した。</p> <p>これをふまえ、授業計画も原則としてオンライン授業を継続し、状況を見極めながら対面授業を取り入れるという方針を策定し、①授業実施方法は、オンライン授業を基本とすること②5週に一度、対面授業週を設け、一部科目のみ対面授業とすることを周知した。</p>	②大多数が理解	<p>春学期最終期に実施した学生対象の「授業アンケート」でもオンライン授業形態別満足度の設問において、「満足」「どちらかという満足」の回答がオンデマンド型71%、同時双方向型76%、課題学習型52%であったこと。9月には、保証人に対し「後援会と大学のオンライン交流会」を開催し、本学の秋学期授業計画についての説明、意見交換を行い理解を得られるように尽力したこと。また学生に対しては「オンライン授業サイト」の設置、秋学期授業の説明とガイドラインの提示、また各種ガイダンスにおける丁寧な周知などを行っている。これらを踏まえ、本学の方針に対して概ね理解を得られたと考えている。</p> <p>9月には、保証人に対し「後援会と大学のオンライン交流会」を開催し、本学の秋学期授業計画についての説明、意見交換を行い理解を得られるよう尽力したこと。また学生に対しては「オンライン授業支援サイト」の設置、秋学期授業の説明とガイドラインの提示、また各種ガイダンスにおける丁寧な周知などを行っている。これらを踏まえ、本学の方針に対して概ね理解を得られたと考えている。</p>
49	大東文化大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本年7月の段階では『後期はオンライン授業を継続しつつも、可能な限りにおいて対面授業を行います』との方針を学生に対して提示していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大がなお一層深刻度を増すなどの状況の変化に鑑み、8月には2020年度後期も原則、遠隔授業を継続することとし、学生に周知した。</p> <p>ただし、おもに演習科目、実験・実習科目、大学院の講義科目・演習科目等、一部の授業は、感染症対策を十分におこなった上で対面式にて実施することとした。また、すべての授業において原則オンデマンド方式による受講を可能にし、通学できない、もしくは通学に不安のある学生等に自宅等で受講可能とすること、自宅等での通信環境に不安がある場合は、本校舎内で遠隔授業を受講することもできるようWi-Fi利用可能スペースを増強して開放することとした。</p> <p>また同時に、後期授業開始後のキャンパス利用の方針を示し、図書館や情報教室、運動施設等の活用、食堂、売店、書店等の利用など、感染症防止対策を講じつつ授業以外でもキャンパスに入構し様々な活動ができることを周知している。</p>	②大多数が理解	<p>本学は、現時点で後期授業に対する学生対象アンケート調査等は実施していないが、学生の理解・納得の状況を知るうえで、今年9月末に実施したWeb調査「学生生活調査」（調査期間：9月25日～10月5日）の調査結果を参考にした。</p> <p>この調査の中で“前期授業に対する満足度”に関する設問があり、「とても不満である」と回答した学生は、全学年とも1割を大きく下回っている。</p> <p>また、上記のアンケートとは別に、8月に実施した「遠隔授業に関するアンケート」では、“感染症の影響に関わらずどの授業形態が良いと思うか”との問いに対し、「実験・実習・実技」以外の科目では多くの学生が「同時双方向型や配信型の遠隔授業が良い」と回答しており、とくに受講生が30人以上の授業に関しては、非対面授業を希望する声が8割以上という結果になった。</p> <p>以上より、大多数の学生は、現在の状況下で遠隔授業を継続することに一定の理解を示していると思われる。設問⑦に対する回答の根拠とした。</p> <p>なお、「遠隔授業に関するアンケート」で、不満に感じている理由のうちもっとも多かったものが、“課題が多い”点であったことを踏まえ、適切な課題付与を改めて各教員に徹底するとともに、前期の遠隔授業における問題点を改善するための非常勤講師を含む全教員を対象としたFD研究会を開催するなどし、後期はより質の高い遠隔授業を実現すべく取り組んでいる。</p> <p>2021年度の授業方法については感染症対策に十分留意しつつ、学生、保護者等に対する責務を果たしていくべきであると考え、原則として対面授業を実施すること、対面授業の実施に際しては、各教室内で十分な社会的距離を取り得る適切な規模の教室を準備すること、受講者数が多く教室内での感染予防がとりにくい授業については、オンライン併用型の授業も組み合わせるなどの配慮を継続することとしている。なお現時点で、2021年度は8割以上の授業を対面で実施できる見通しとなっている。</p>
50	東京国際大学	埼玉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルス感染拡大が継続している状況を鑑み、学生の健康、安全を最優先とし、一部の科目を除き、非対面を主体とした授業を実施。ただし、感染状況が終息へ向かう場合は、対面授業のウエイトを高めていく予定。</p>	②大多数が理解	<p>春学期のオンライン授業に関する調査で、6割を超えた学生が「満足」「やや満足」と回答している。加えて、秋学期は一部の科目で対面でもオンラインでも参加できる授業を実施しているが、感染予防の観点から、オンラインでの受講を希望する学生が多く、このような点からもオンライン授業の比率が大きいことに大多数の学生は理解していると思われる。</p> <p>来年度は原則として対面授業を実施する。感染予防に配慮して、一部オンライン授業も併用する。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
51	東都大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルス感染は依然として高いまん延を示しており、気温が下がるこれからは、さらに増えるおそれがあります。本学の学生入構に関しては7月に示した通り、引き続き入構禁止を原則といたします。</p> <p>ただし実習や演習など対面教育が望ましい科目を中心に入構を認めています。また外部機関での実習実施も、受け入れ先との協議を基に中止となった場合は学内あるいは遠隔での実習をおこなっております。この許可と実施に関しては、深谷キャンパス・蕨キャンパスの実情に合わせて総合的に判断しております。</p> <p>保護者の方々からは、対面授業の全面的な早期実施についての求めがあります。が、本学としてはまずは生命の安全を第一に考えております。医療機関との関係が深い本学では感染が発生した場合、広範で重大な影響があることをご理解いただきたく思います。</p> <p>教員・職員とも常に高い緊張感を持って教育にあたり、質的に劣らない教育を行うべく工夫と努力を重ねております。学生および保護者の皆様にもご理解いただき、なお一層のご協力をお願い申し上げます。</p>	②大多数が理解	<p>後期授業の開始前に、学生アンケートを実施。「対面授業を再開した場合、あなたは大学に登校したいですか?」という質問に対しては、「登校したい」29.9%、「できれば登校したくない」40.8%、「登校したくない」29.4%との結果を得た。</p> <p>また、「あなたが希望する後期授業形態の形式はどれですか?」との質問に対しては、「一部の講義・演習は学内における対面授業」40.5%、「全ての講義・演習はオンライン授業」31.3%、「学内における対面授業とオンライン授業を同時に実施し、選択できる」18.4%、「全ての講義・演習は学内における対面授業」9.7%との結果を得た。</p> <p>これらの結果や自由記述欄の記載内容を総合的に判断すると、遠隔授業では十分な教育効果を得ることが難しい演習・実習等の科目等を中心に対面での授業を実施し、学生の感染防止を第一に考えつつ、希望者に出来る限り、学内施設を利用できる環境を提供することは、学生の希望にも沿った内容となっており、後期授業の実施形態に対しては、理解を得ていると考える。</p>
52	獨協大学	埼玉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学生、教職員の健康、安全を第一優先とし、感染症拡大防止の観点から春学期は遠隔授業のみ実施することを説明しました。秋学期の学部授業についても、対面授業再開に向けて感染状況を見ながら検討を重ねて参りましたが、感染拡大が収束傾向にあるとは言い難く、秋学期も遠隔授業を中心として実施することを説明しました。</p> <p>しかし対面で行うことがより望ましい授業については、感染対策を十分に行いながら、この秋学期から対面授業を再開しています。</p> <p>また、春学期途中から一部再開した図書館の利用や就職相談、課外活動などは、秋学期も予約制により利用者数を調整しながら実施しています。大学院の授業については、院生が限られ少人数のことから、感染対策を十分に行ったうえで対面授業を再開しています。</p>	④把握していない	<p>学生の理解等についての状況把握については、教員が授業等において学生から個別に状況を聞いて情報収集を行っており、また学部学科でも集約し授業に反映させています。今年度は本学において初めての遠隔授業実施であったため、学生・教員ともに戸惑いがあり、対面できないことが残念だとの意見もありました。しかしオンデマンド形式で繰り返し授業が受けられるなどの遠隔授業の利点についての意見も多く聞いています。また感染リスクへの不安も多く、遠隔授業をやらざるを得ないという一定の理解はいただいているものと考えています。とはいえキャンパスにおける交流や活動が重要であることに間違いはありません。次年度は、コロナ禍の状況を精査しつつ感染対策を十分に取り入れて、対面授業を中心として行い、加えて遠隔授業の利点も取り入れ、併用して安心安全に授業が実施できるよう計画しています。また学内施設利用、課外活動等についても、感染対策を行いながらキャンパスライフを送ることができるよう対応して参ります。</p>
53	日本医療科学大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
54	日本工業大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
55	日本保健医療大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
56	日本薬科大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
57	人間総合科学大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
58	文教大学	埼玉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>秋学期の授業は原則オンラインとしたが、中でも、対面での実施が必要または効果的と考えられる授業科目については、感染防止策を十分に講じた上で対面での授業を実施する。また、各学部学科において、学年毎に、必修科目のうち1科目以上を対面での授業となるよう調整を図り、すべての学生が対面授業の実施を機に登校が可能となるよう調整する。</p> <p>なお、対面を実施する授業科目においても、基礎疾患を有するなど重症化リスクが高い学生、通学のために要する移動距離が長い学生、重症化リスクが高い高齢者と同居している学生など対面での授業に不安を有する学生に対しては、オンラインのみの受講も可とし、成績や単位取得の面で不利益とならないよう配慮する。春学期に続き、秋学期も原則オンライン授業を継続することとしたのは、学生、教職員の生命と安全を確保するため、また、社会全体の防疫に協力するためである。小学校や中学、高等学校以上に大学あるいは大学生が普段どおりの活動を行うことで、大学生の間での感染を引き起こし、社会に感染を広げるリスクを高める恐れがある。</p> <p>具体的には、 ①大学では授業ごとに学生が教室を移動し、受講者集団が常に組み変わる。また、小中学校・高等学校の学級規模の2倍を超える80人以上の授業も珍しくない。つまり、大学構内で学生は様々な場所に移動し多くの人と接触する。このことは学内での学生間の感染リスクを高めることとなる。 ②大学生は高校生までに比べて活動の自由度が高まるため、大勢で集まって課外活動を行ったり、食食をしたり、時にはお酒を共にしたりといった通常時であれば大学生らしい普通の行動が学生間の感染リスクを高めることとなる。 ③多くの大学生は、高校生以下の児童・生徒に比べて、通学のために公共交通機関を使って長距離を移動する。また、アルバイト等の社会的な活動も増えることから、学生本人の感染リスクだけでなく、学生が広い範囲にわたって他の人に感染させてしまうリスクが増大する。</p> <p>以上の理由により、本学は秋学期も原則オンライン授業を継続することを決定したが、秋学期は、春学期より対面での授業の規模を拡大し、学生の皆さんがキャンパスに登校できる機会を増やすことを決定した。学生の皆さんのご理解とご協力をお願いします。</p>	②大多数が理解	<p>秋学期に実施する対面での授業科目を発表した後から現在まで、学生や保護者からの「オンライン授業の比率が高すぎる」「対面授業の比率が低すぎる」という声は届いていない。1年生から3年生においては、各学部学科が開設している必修科目のうち1科目以上を対面授業で実施することとし、4年生においては、卒業研究・ゼミナールを原則として対面実施（オンライン併用可）としており、すべての学年の学生がキャンパスに登校する機会を確保できるようにしている。</p> <p>また、1年生から3年生のうち20.9%の学生が、対面を実施する授業科目において、感染リスクへの不安等を理由に「登校の免除」を申請しており、本学が示した「秋学期授業の原則オンライン化」とした理由と同等の理由で対面授業を控えたいとしている学生が一定数存在していることが窺われた。首都圏に所在する本学が全面的に対面授業を再開するには相当の困難がある、という大学の説明について、本学の学生は一定の理解を示してくれていると判断している。</p> <p>なお、学生への教育機会の提供という観点から言えば、学生同士や学生と教職員の間的人的交流等も「大学教育」における重要な要素であることから、更なる感染防止対策を講じ、正課内外の学生諸活動について、必要な支援を行っていくことは、教育機関として当然の責務であると認識している。</p>
59	平成国際大学	埼玉県	私立大学	②併用	③半々			
60	武蔵野学院大学	埼玉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>昔洪の決断ではあるが、学生の安全確保はもちろんのこと、先行きの見えない状況に鑑み、現段階で後期の授業を遠隔による実施と定めることが、安定的な授業の質の担保につながると判断した</p>	②大多数が理解	前期の授業評価アンケートの結果を踏まえつつ、総合的に判断した。
61	武蔵野短期大学	埼玉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>昔洪の決断ではあるが、学生の安全確保はもちろんのこと、先行きの見えない状況に鑑み、現段階で後期の授業を遠隔による実施と定めることが、安定的な授業の質の担保につながると判断した</p>	②大多数が理解	前期の授業評価アンケートの結果を踏まえつつ、総合的に判断した。
62	江戸川大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			
63	神田外語大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>後期授業では感染症対策に細心の注意をはらい、感染防止策を整えたうえで、一部対面授業の実施に向けて準備を行うと同時に学習施設利用条件の緩和を行います。</p> <p>また、8月末で携帯電話会社による学生支援サービスが終了しましたが、学内でもオンライン授業を受講可能とする通信環境整備を行いました。</p> <p>さらに、学生が感染を気にすることなくアルバイトができる機会の創出として、オンラインで自宅からできる「学生によるオンライン授業のサポート」を導入いたします。</p>	②大多数が理解	<p>学生へオンライン授業アンケートを定期的実施しており、概ね満足しているとの結果を得ている。</p> <p>11月からは、1年生の語学必修科目及び研究演習に加えて、2～4年生の語学必修科目においても対面授業を取り入れている。その結果、後期総クラス数に占める対面授業の割合は約10%にまで増加している。</p> <p>※地方の学生や基礎疾患を持つ学生等にも配慮し、ハイフレックス授業として授業を運営している。</p> <p>2021年度は、オンライン授業によって本来の教育目的・授業目標を達成できる科目（講義形式の大人数授業）を引き続きオンライン授業とする一方、オンライン授業よりも対面授業の方が教育効果が高いと再確認できた大半の授業（語学科目等70%以上の授業）については対面授業を実施する。</p>
64	国際武道大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
65	三育学院大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			
66	淑徳大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			
67	城西国際大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>首都圏における新型コロナウイルスの感染再拡大が進むなか、本学としては学生の健康及び安全を確保する観点から、文部科学省の提示する衛生管理マニュアルに厳格に沿う形で対面授業を計画的に実施している。ゼミなどの少人数必修科目や本学の施設を利用することが必須の実験・実習科目を中心に対面での授業・指導を行っている。多人数の授業（一部）はクラスを分割、またオンラインを併用して対面授業を行うなどして、学生全員が来学の機会を得られるよう工夫している。しかしながら、適切な環境を担保したうえで対面授業の実施となると、教室の数及び収容人数に鑑みて比較的少人数の授業を中心とせざるを得ず、全面的な対面授業の実施は困難な状況にある。学内においては図書館及び食堂（一部）を利用できるようにし、また、予め環境を整えた教室を指定し、キャンパスでオンライン授業の受講を希望する学生のために周知・開放している。</p> <p>状況の好転に備えて、少しでも多くの授業を即座に対面で実施できるように、オンライン授業の運営方法を工夫している。今後の状況の推移を慎重に見極め、適切かつ速やかに対応していききたい。</p>	②大多数が理解	<p>全学生を対象として、オンライン授業の満足度や対面授業の要望などについてアンケート調査を実施している。その結果、オンライン授業について不満を持つ学生は全体で3割未満に留まり、オンライン授業の継続を希望する学生は過半数を超えている。積極的に対面授業を希望する学生の割合は、学部・学科にもよるが平均すれば半数を大きく下回る。対面授業を希望しない理由としては、キャンパスや教室での感染機会の拡大を懸念する声が多い。対面授業の開始にあたっては、電話等で地域住民から懸念が寄せられたのと同時に、一部の保護者からも同様の声が上がる一方で、対面授業を再開してほしいとの声も確認しており、本学としては双方の意見に耳を傾け、感染再拡大の現況に鑑みて慎重に判断するに至った。</p>
68	聖徳大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			
69	清和大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学HPおよびGoogleClassroomでの周知を行っている。周知内容の一部抜粋は次のとおり。</p> <p>「報道などをご存知のとおり、千葉県を含む大都市圏を中心に新型コロナウイルスへの感染者数が再び増加しています。学生の皆さんや保護者・保証人の皆さまから、対面授業の再開には不安を感じるとの意見も寄せられており、大学としても重く受け止めています。大学の特殊事情として、通学のために比較的長時間の移動を要する人や、前期授業が全面的にオンライン授業となったことで大学近辺への引越越しを見合わせた人もいるため、通学圏が学校周辺に限られる小・中学校などと同様の基準で対面授業の再開を判断するのは難しいことも事実です。</p> <p>また、報道によれば、後期も原則としてオンライン授業を継続することを決定した大学もあるようです。しかし、学生の皆さんに登校してもらい、教室で教員や他の履修者と共に学び合う場を提供することが、やはり大学としての本来の姿です。そのことを踏まえた熟慮の結果、本学としては、全科目をオンライン授業のみで実施することを後期も継続することは避けるべきであるとの結論に至りました。そして、本来の開講形態である対面授業の実施と、学生の皆さんの感染防止とを両立させる、現時点での最善の方法として下記の【基本方針】を決定しました。</p> <p>対面授業の再開にあたり、本学は感染拡大防止のために万全の対策を実施します。それでもなお感染リスクに不安を感じることもあると思いますが、そうした場合には個別事情に十分な配慮を行います。大学での本来の学びの形態に少しでも近付けるため、在学生の皆さんと保護者・保証人の皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。」</p>	④把握していない	<p>前期終了時点での調査（アンケート）は行ったが、後期授業形態を決定してからの調査等を行っている。ただし、学生本人、保証人から本学の方針について、問い合わせ（苦情等）は殆どない。</p>
70	千葉敬愛短期大学	千葉県	私立大学	①全面対面	—			
71	千葉工業大学	千葉県	私立大学	②併用	③半々			
72	千葉商科大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>十分な安全確保をするためには、物理的な制約もあるため遠隔授業のものもかなり行わなければならない、と説明している。</p>	②大多数が理解	<p>全学部生に対しアンケートを実施し（回答率58.9% 2020年10月末実施）、学生意見の聴取から授業改善に繋げている。聴取した意見からは、面接授業が少ない、という意見は入っていない。</p> <p>また1年生には各クラスに担当職員をサポート者として配置し、定期的に学生の困り事などを確認しているが、遠隔授業の比率が大きいことへの不満の声は寄せられていない。</p> <p>なお、1月下旬に来期授業実施方法を決定する予定であり、面接授業の実施を基本としているが、感染状況等により、一部遠隔授業の実施や、面接授業と遠隔授業を組み合わせたいハイブリット型の授業実施も検討している。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
73	千葉明德短期大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	今般の状況を鑑みると全面的に対面授業を再開することは困難であると判断せざるを得ないため。	④把握していない	学生に対しアンケート等の聞き取り調査を行っていないが、2020年10月より、遠隔授業の質を向上させるためサポートチームが活動している。
74	中央学院大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	学生および教職員、更に地域の方たちの健康と安全を守るため、後期も遠隔授業を主として行っている。教員は対面授業を前提に準備していた後期授業計画を、前期に行った遠隔授業に更に工夫を加えて遠隔授業向けに組み直した。職員も一丸となって遠隔授業を支え、学生の質問にも教員はポータルサイト経由で、教務課は電話とメールで随時受けており、様々な面において学生に対する支援を行っている。 また、後期からは大学としてMicrosoft Teamsの利用を教員に推奨し、夏季休業中、教員対象に遠隔授業をオンライン同時双方向型に誘導する取り組みに関する講習会を一週間にわたって複数回開催した。その結果、Teamsを中心とした同時双方向型授業の割合が増加し、前期と比較して遠隔授業の質も向上したと思われる。 以上のことから、本学における遠隔授業の内容や質は対面授業より劣るものではなく、学生への対応も変わるわけではないと説明している。	②大多数が理解	【学生の理解についての認識】 前期授業終了後にweb経由で全学生を対象にアンケートを行い、約半数から回答を得た。その結果によると、前期授業における科目担当教員の対応について、アンケートに回答した学生の約8割が「とても満足している・それなりに満足している」と回答している。 また、授業に関する自由記述欄において、前期授業について授業内容や学生対応が良かったと感じる授業、反対に問題があったと感じた授業について尋ねたところ、「問題があった・不満だ」という否定的な回答のみの学生は回答者全体の3割弱であったことから、②と判断した。なお、不満だという回答については、改善できるよう継続して取り組んでいる。 【今後の計画や取組の方針】 10月下旬に全教員に対して対面授業実施についての意向調査を実施し、11月19日より、教室定員の関係で履修者50名以下の科目に限り対面授業を一部追加した。当初、ゼミについては実施回数を限定していたが、教員と学生の希望に応じて回数の増減を認めている。また、ゼミの対面授業に参加できない学生も、オンラインでゼミに参加できるように教員がそれぞれ工夫して授業を行っている。 来年度については、対面授業を基本とし、可能な限り3密を避けるなど感染防止対策を講じる準備を進めているが、今年度の学年末にかけて感染状況に終息が見られない場合は、来年度前期は遠隔授業が基本となる可能性も考えられる。その場合でも対面授業と内容も質も遜色ない遠隔授業ができるように、大学として設備・環境の充実を図るとともに遠隔授業のサポート体制をより一層整備し、科目担当教員に対しては来年度の授業に向けて十分な準備を行うよう理解と協力を求めていく。
75	東京基督教大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	学生の希望を踏まえて対応している。	②大多数が理解	学生へのアンケート調査に基づく。冬学期(12月)から面接・遠隔併用のハイブリッド授業を拡大。
76	東京情報大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	9月18日からはじまる後期授業について、遠隔授業を基本としながら、社会的距離を確保し、感染防止策を徹底するなど、いわゆる「3密」を避けた教室利用を前提に、対面授業を一部再開することといたしました。対面で授業ができるのは、一部の演習、実習など少数の授業科目に限られ、多くはオンラインにせざるを得ないと考えています。残念ですが、遠隔授業を伴わない通常の授業体制に復帰することは時期尚早と判断いたしました。	②大多数が理解	6月に学生からオンライン授業の調査をした結果、9割近くの学生からオンラインで「学べている」という回答がありました。また、前期末に実施した授業評価アンケートの中で、オンライン授業について調査を行い、「授業の実施方法について満足しているか」という設問で76%、「後期も同じ方法でオンライン授業を履修したいか」という設問で67%の学生から肯定的な回答が得られています。このことを踏まえ、後期もオンライン授業中心に授業を進めているが、このことについて、学生から特に意見等がないため、理解が得られていると判断しました。 なお、来年度については、感染防止策を講じた上で、できる限り対面授業を実施するよう計画中等であるが、オンライン授業も併用する予定です。
77	明海大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	・政府からは新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大を防ぎながら、経済・社会活動を再開していくことが求められ、また文部科学大臣より大学に対面授業を求めていくとの報道がなされている。そのような状況下において、本学では学生の安全を最優先し、感染リスクを回避した環境にて、後学期は対面授業と遠隔授業を併用することに決定した。 ・授業は、対面で行う科目と遠隔で行う科目がある。実技・実験・実習等、対面授業でなければ十分な効果が期待できない科目を対面授業、それ以外を遠隔授業としている。	②大多数が理解	地方出身者や通学の不安などから遠隔授業を希望する学生や、日本に入国できず大学で授業を受けることができない留学生らに対し「遠隔授業受講願」の提出を認めており、制度を利用する学生が浦安キャンパス学生数全体に占める割合は6.6%(241名)となっている。 対面授業が1割程度の状況の中で無視しえない人数となっており、対面授業がより多く実施されていけば、より多くの遠隔受講希望者が見込まれることから、遠隔授業実施への多数の理解は得られているものと判断できる。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
78	流通経済大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>秋学期授業方式の決定に際し、学生・保護者に対してWEB・郵送により、学長からのメッセージを通知している。その中で『学生・教職員の「健康と生命」を守ることを最優先に考えて』対面授業とオンライン授業を併用して行うことと、大学の登校が困難な学生については、事前に相談のうえ、対面ではなくオンラインで授業に参加することも認めている。</p> <p>なお、オンライン授業の内容については、春学期の経験を踏まえて、秋学期はより学力・専門技能の向上に資するよう改善を図ることになっている。</p>	③大多数とは言えない	現時点では、学生の理解・納得状況について正確な把握はできていないが、秋学期における学生への授業アンケートにより、状況把握を行う予定である。
79	麗澤大学	千葉県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>コロナウィルスの感染拡大が簡単に終息しないことが予想される中で、学生のキャンパスライフを少しづつ取り戻すことができるように、3密状態をさけるなどの感染対策が取りやすい科目から面接授業を開始する。併せて、通学に不安のある場合に無理に登校することがないように遠隔授業が選択できるようにしている。</p>	②大多数が理解	学生へのアンケートを実施し、早急に面接授業の開始を求める学生が2割だったこと。併せて、来年度1学期以降、またはコロナ感染拡大が落ち着き、ある程度の終息（感染リスクが低くなった）後に面接授業の開始を希望する学生が6割以上だったことを受け、2020年度の面接授業拡大は見送ったが、2021年度については、5割以上の授業を面接授業とする方向で準備している。
80	和洋女子大学	千葉県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学のホームページで、学生の健康と安全を守るため学長からコロナ禍における授業方針について動画で説明をしている。感染症から学生及び教職員を守り、感染拡大により授業が崩壊するリスクを回避する必要性と、同時双方向やオンデマンドの授業をバランスよく取り入れ内容を充実させ、教育の質を縮減することはないと伝えている。</p> <p>また、LMS（授業支援ツール）でも、授業運営方針について、実験、実習、実技科目など面接授業が必要不可欠と判断する科目のみ行うことなど、大学の方針について周知した。</p>	②大多数が理解	<p>2020年前期に遠隔授業アンケートを実施しており、「履修した科目は遠隔授業に適していたか?」「自身の大学での学びの目標達成に近づいたか?」という質問項目に対して、遠隔授業に対して6割程度の学生が満足しているという結果だった。</p> <p>また、昨年度の授業評価アンケートから同様の質問項目「教材資料が理解に役に立ったか」を比較すると昨年度は83%を超える満足度であったが、今年度の調査結果は91%と8ポイントほど満足度が上昇しており、遠隔授業やハイブリッド授業による取組みが一定の成果を得られることができた。</p> <p>2021年度前期（春学期）は、引き続き学生と教職員の安全確保に留意しながら、面接授業・面接+遠隔授業・遠隔授業を行い、学位授与方針のもと面接授業が必須である科目を中心に面接授業とする方針であり、開講科目の5割超を面接授業とする。なお、2021年度の後期（秋学期）は、感染状況を判断し、全面面接授業に転換する計画である。</p> <p>また、特に新入生には、「大学での学び」への理解を深めるためにも、面接授業を必ず設定する。遠隔授業については学生が自分のペースで学べる特徴を活かし、より学びやすいLMS（授業支援ツール）の環境を整え、教育の質の維持と向上に取り組んでいく。</p>
81	木更津工業高等専門学校	千葉県	高等専門学校	②併用	③半々			
82	お茶の水女子大学	東京都	国立大学	②併用	④3割対面	<p>本学における後期面接（対面）授業の割合は、現状で約4割である。</p> <p>前期授業終了時点（8月3～9日）に、前期授業および後期授業の形態について、全学生・教員にアンケート調査を行い、意見を収集したところ、前期のオンライン授業（主に同期型）の理解度および満足度は、学生・教員ともにきわめて高く、Zoomの機能を活用した双方向的な学習が効果的に実施されていることが確認された。</p> <p>後期の授業形態について希望を尋ねたところ、学生の回答では「基本オンライン授業」（58%）「全面オンライン授業」（24%）が多数を占めたが、他方で「基本対面授業」（18%）との意見もあった。</p> <p>対面授業が現状以上に増えて、一定量を超えれば、学生のほとんどが毎日登校して学内で対面及びオンラインの授業を受講することになる。すべての授業について、三密をさける（履修者数の倍以上の規模の教室を用意する）ことは不可能であり、また大学での授業の履修者構成の多様性から、教室の使用者も毎時限異なり、感染者や濃厚接触者が発生した場合の対応は容易ではない。このような状況に鑑み、授業の基本形態は学生の回答の最大公約数である「オンライン」とし、一部対面での授業を併用することとした。対面授業は、実験・実習・実技科目のほか、専門科目等について、学生の理解度や関心を確認・喚起するため、対面授業回（3回）を設けることとした。その実施に当たっては、各科目について特定の週・曜日を指定して開講することで、登校者数とその構成を把握し、感染防止を図ることとした。</p>	①ほぼ全員理解	<p>お茶の水女子大学では、学生の健康を守る（感染しない、感染させないこと）を第一とすることを学長がホームページ上で告知し、マスクの常用や手指の消毒・洗浄などの各人の感染防止行動の徹底を図ると共に、大学として、同一キャンパスに存在する附属学校園を含め、出来得る限りの感染防止対策を実施している。また、毎週コロナ対策室からメールを流すことで、学生と教職員への注意喚起や情報共有を図っている。</p> <p>6に述べた方針については、学生向けのメールマガジンで3回の説明を行い、さらにオンライン説明会（2回）を開催した上で、学修支援サイト（Moodle）に「後期授業の実施方法について」（説明スライド）を掲載して周知した。各学部・学科においても、メールやオンラインで説明をおこなっている。シラバスには、授業科目ごとに授業の形態（全面オンライン授業、一部対面授業、対面授業のみ）を明示し、受講学生へ周知している。常時、学生からの疑問や意見を受け付けているが、これまでに特段の問題点は寄せられていない。</p> <p>オンライン授業および生活状況については、前期に計4回の学生アンケートを実施し、集計結果の概要を学生に説明して、対策を示してきた（アンケートの回答率やメールマガジンの閲覧率はきわめて高い）。オンライン授業の内容や方法については、学生・教員のアンケートをもとに、様々な工夫・改善をおこなっている。6にも述べたが、現時点での対面授業科目の開講は全授業科目の約4割であり、今後も感染や学生の状況に応じて、最適の授業方法を採用していく方針である。</p>
83	政策研究大学院大学	東京都	国立大学	②併用	②7割対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
84	電気通信大学	東京都	国立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、学生のアンケートを参考に、面接授業の要望が多かった1年生の授業科目 および実験・演習科目を中心として、新型コロナウイルスに対する適切な感染対策を実施したうえで、面接授業を実施している。</p> <p>新型コロナウイルスに対する感染対策に関連して、教室の利用人数を定員の1/2までとしたこと、および遠隔授業と面接授業が混在する場合の対応として、学内で遠隔授業を受講できるよう教室を確保したことから、教室の数が足りなくなり面接授業が実施できる教室は限られてしまっている。</p> <p>また語学など、面接よりも遠隔の方が教育効果が高いと見込まれる一部の授業については、あえて面接を避けて遠隔で実施しているものもある。</p>	①ほぼ全員理解	<p>学生に対してアンケート調査を実施した結果、新入生は、対面授業の実施を希望する意見が多かったが、2年生以上（大学院生含む）の学生は、通学時間の節約や新型コロナウイルス感染リスクを低減することができる等の理由により遠隔授業を希望する意見が多かった。東京の複数路線が交わる駅に位置する本学においては、新型コロナウイルス感染リスクを重要と考える学生が多いのは止むを得ない。</p> <p>面接授業を実施するにあたり、登学に対して不安がある旨の申し出が実際に複数あった。これらの学生に対しては特別措置をとり、遠隔での単位取得をサポートしている。</p> <p>第3波が来てから、面接授業に不安を覚えて登学を拒否する事例が追加で出てきている。そのような事例に対しても個別対応し、なるべく面接授業を減らさない努力をしている。ただし、あまりその数が増えた場合には、遠隔授業への移行も止むを得ないものと考えている。</p>
85	東京大学	東京都	国立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>後期の授業については、7月15日に理事・副学長（教育・学生支援担当）及び8月25日に教養学部長から以下の趣旨で学生へのメッセージが出されている。</p> <p>・Aセメスター（後期に相当）においても、引き続き感染予防対策を講じながら、教育研究活動を実施。</p> <p>・今後の感染拡大については予測が困難であることなどを踏まえると、授業を対面で行うことには一定程度は抑制的に進める必要。</p> <p>・学生の修学・研究活動に支障を生じさせないこと、ならびに学生の健康面での安全を確保することを第一に、各学部・研究科等の分野の特性等にも応じて、大人数の講義など一定程度はオンラインによる授業を行いながら、対面での授業を再開。</p> <p>・対面実施の必要性が高いと考えられる「実験・実習」、「少人数ゼミ」などはできる限り対面授業で実施できるよう準備。</p> <p>・一方、感染防止の観点から、座席配置の工夫やアクリル板の設置等を講じても従来以上の教室が必要になることに加え、同一時間帯の入構制限や、換気やインフラ整備の必要性等から、従来と同様の規模での対面授業の実施は、現在点では困難である旨説明。</p>	②大多数が理解	<p>・新年度(令和2年度)開始時は、全面的にオンラインで授業を実施することを3月中に決定し、ネットワーク接続環境の確保や教員への説明会など、大学として十分な対策を講じ、周到な準備を進めた。その結果、4月早々より学事暦どおりに授業を開始することができた。このような背景のもと、本学の方針は学生の信頼を得ている。</p> <p>・前期はほぼ全ての授業をオンラインで実施し、その上で学生アンケートを実施した。対面授業にはない様々な特徴をオンライン授業が有することを評価する回答が寄せられた。一方で、課題による負担の増大やオフキャンパスでオンラインで参加することによる友人や教員とのコミュニケーションが制限されることへの改善などの要望が寄せられた。その解消に向けて継続的に対応を進めている。</p> <p>・不安を感じている学生は新入生に多く、新入生に対しては教養学部が夏休みより対応をはじめ、優先的にキャンパスに戻ることを進めている。本学のキャンパスが安全・安心な場であることが、構成員がキャンパスに戻るための不可欠な条件であると考え、そのための整備や対策を並行して進めてきた。</p> <p>・その他の学生については、2020年度後期では、オンライン授業を中心に、実験や実技を伴う演習などオンラインでは教育効果が低いと判断される内容について、感染対策を十分に講じながら対面での授業を始めている。また、卒業研究や大学院の研究は、大学の施設を利用する必要があるものについてはキャンパスで実施している。</p> <p>・令和3（2021）年度の授業については、引き続き学生及び教職員の健康に最大限の注意を払いつつ、教育効果、受講者数、科目の特性、人的ネットワークの構築を含む学生の成長機会の確保等を考慮して、対面・オンライン・併用の各授業形態の良さを生かしながら実施していく。</p> <p>・オンラインで実施することにより高い教育効果を期待できる授業科目はオンラインで、対面で実施するほうが教育効果の高い授業科目は可能な限り対面により授業を行う。対面授業を実施するにあたっては、十分な感染防止対策を講じた上で実施する。例えば、実技を伴ったり、大学にしかない設備を必要とする授業はなるべく対面で行い、大人数の講義形式の授業は原則としてオンラインで行う。また、人的ネットワークの構築に配慮して、学部1年次、学部後期課程への進学前後の時期等に履修が必要な授業も可能な限り対面で行うこととする。加えて、対面かオンラインかに関わらず、教員-学生間、学生-学生間のインタラクションの機会の設定や反転授業の導入など、能動的学修を増やして教育効果をより高める工夫も考えられる。</p> <p>・感染の状況は日々刻々と変化していることから、国内・都内における感染状況や受講者の希望等も踏まえて、学期の途中でも授業の実施方法を柔軟に見直し、更なる改善に努めていく。</p> <p>・対面授業等キャンパス内での学びの機会がほとんどないまま、学期を通じて自宅でのオンライン授業の受講に終始するような学生が生じることのないように対応を講じる。また、渡日困難な状況にある外国人留学生の場合や、個々の事情により通学が困難と判断される場合には、それらの事情に十分配慮した対応を進める。</p> <p>・感染拡大の収束が見通せない現状で、安全・安心を担保した上で対面授業を増加させるために、引き続き、様々な対策を継続的に強化することが不可欠である。</p> <p>本学では、各教室の換気設備の整備・増強といった「3密」防止のための施設整備を集中的に進めている。国からの教育の現場への経済的な支援の抜本的な拡大を強く要望する。</p>
86	東京学芸大学	東京都	国立大学	②併用	③半々			
87	東京工業大学	東京都	国立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
88	東京農工大学	東京都	国立大学	②併用	④③割対面	<p>新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大が収束に至らない現状を踏まえ、本学では、2020（令和2）年度第3.4学期においては、「三密」の回避などの感染拡大防止対策をとることができる授業については可能な限り対面による開講、その他については引き続きオンライン開講とすることにしましたのでお知らせします。という内容を9月1日（火）に本学HPで公表している。</p>	①ほぼ全員理解	<p>本学では、新型コロナウイルスの感染拡大とならないよう、3密を回避した授業実施について、以下のとおり学生に説明等を行っており、ほぼ全ての学生は授業の形態等について理解・納得していると判断した。</p> <p>①教室における面接授業については、ソーシャルディスタンスを保ちながら授業を実施できる教室についてのみ使用を認める方針であること。</p> <p>②遠隔授業では実施が難しい体育実技、実験、実習等については面接授業として実施している。</p> <p>③履修学生の半数が隔週で登校し、残りの半数は遠隔授業を実施するハイブリット授業が実施できるシステムを整え、このシステムを活用できる教室では、隔週で半数の学生に対し、面接授業を実施している。</p> <p>④上記の①～③について、学部毎に学生へ周知を行う既存システムである「WEB掲示板」で学生への周知を行っている。さらに、掲示板と併せて、本学HPでも「新型コロナウイルスへの対応について」の特設ページにおいても在学生向けの案内を行っているため、ほぼ全ての学生への周知ができており、本学の教務担当係に授業に関する学生からの問い合わせ等は少ない。</p> <p>また、4～6月は100%、6～9月は90%程度オンライン開講であったが、7～9月に実施した学生の授業アンケートでのオンライン講義に対する評価は大変高く、ただし、その際のコメントも参考に、10月からのオンライン講義ではさらに改善を図っている。</p>
89	一橋大学	東京都	国立大学	②併用	④③割対面	<p>大学Webページに7月15日に既に以下の通り説明をしている。 『2020年度・秋冬学期については、次の授業のみ対面授業を再開できることとし、それ以外の科目は原則としてオンライン授業を行います。なお、授業開始は当初の予定どおり9月14日（月）とします。 <対面授業とすることができる科目> ①学部1年生：PACE（再履修クラスを除く） ※週2回授業のうち、週1回のみ対面授業でもう1回はオンラインで実施します。詳細については学務情報システムCELS内でお知らせします。②商学部2年生：前期ゼミナールⅠ③経済学部2年生：基礎ゼミナール（2年生用クラスに限る）④法学部2年生：導入ゼミナール（2年生用クラスに限る）、法律実務入門（法曹コース学生用）⑤社会学部2年生：社会研究入門ゼミナール（2年生用クラスに限る）⑥学部3・4年生：後期ゼミナール、共通ゼミナール（副ゼミナールを含む）⑦大学院生：演習（副演習等を含む） <備考> (1)対面授業については、教室割振について各教室最大定員の3分の1程度を上限とし、十分な換気を行うなど感染症拡大防止策を取った上で実施します。各学生においては、求學時にマスク着用するとともに、体調不良の場合は来学を見合わせてください。(2)上記科目であっても、担当教員等の判断で、オンライン授業により行われる場合があります。(3)事情により対面授業への参加が困難な場合は、対面授業の内容を同時にライブ配信するなどの対応をする予定ですので、必ず事前に各ゼミナール・演習は担当教員に、PACEIについては教務課にご相談ください。相談方法については別途CELSでお知らせします。また、基礎疾患をお持ちの方など体調面に不安のある方も無理をせず、担当教員等に必ず相談をしてください。(4)対面授業で実施する科目の前後のコマで「ライブ配信授業」を履修している場合に限り、大学が指定する大教室などをオンライン授業受講用教室として開放します。(5)新型コロナウイルス感染症拡大等の情勢により、再度緊急事態宣言、休業要請が出された場合等には、上記対面授業の再開が中止される場合もありますので、大学ウェブサイト等で最新情報を随時確認してください。』</p>	②大多数が理解	<p>必修科目やゼミを中心に面接授業を行うことで、ほぼ全ての学生に対面で授業を受ける機会を与えている。また、全学生を対象としたオンラインで行われた2020年度春夏学期の授業評価アンケートの8536件の回答に基づくと、出席率についての平均スコア（5点満点）が4.89となり、対面で行われた2019年度春夏学期の同調査での平均スコア4.58より上昇し、オンライン授業により学生の授業への出席率が向上した。また、受講生にとって授業の意義があるかについての平均スコア（5点満点）も2020年度春夏学期は4.20となり2019年度同調査の平均スコア4.01より上昇し、より強く授業の意義を感じていることが明らかとなった。なお、いずれの上昇も値は0であり統計的に有意であった。</p> <p>令和3年度の授業実施方針については、8月21日に、大学Webページにて以下の通り周知している。 『2021（令和3）年度の授業について現時点での授業方針をお知らせします。この内容は、今後の情勢を踏まえ変更される場合があります。また、今後更新があった場合には大学ウェブサイト等で最新情報をお知らせする予定です。2021（令和3）年度の授業実施については、3つの「密」（密閉・密集・密接）を防ぐため、教室定員上限を設け、可能な限り多くの科目を対面授業とします。ただし、教室の割振りが困難となる大人教科目については、オンラインで授業を行います。』</p>
90	東京都立大学	東京都	公立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>大教室など感染のリスクの高いと考えられる授業については原則オンラインとしていること、教育効果等を踏まえ、実験・実習・演習等の授業については対面授業を実施可能としていることに加え、図書館や情報処理施設などを開放し、学内施設を利用した学びが可能となっていることを説明している。 また、対面授業以外にも、対面でのイベントなど希望する学生が定期的に通学できる機会を創出・検討していること、課外活動について段階的に再開可能となっていることを説明している。</p>	②大多数が理解	<p>学生からの問合せや学内の授業担当教員からの報告等を踏まえると、都内の感染状況を念頭にした上で授業の特性に応じた実施方法（オンライン又は対面）が行われていることについては、概ね理解が得られていると認識している。 学生の声は様ではなく、一部では「通学・対面授業について強い恐怖感・不安感」を抱えている学生・保護者も存在している（特に都内の感染状況を警戒する地方在住学生等）。</p> <p>本学としては、双方の声に寄り添った対応を引き続き継続していく。大学においては、通学・学内での学生間の交流等を希望する学生のため、課外活動の再開について学生の声を踏まえた弾力的な対応を行っているほか、学内での対面によるイベントを積極的に企画・実施しており、対面授業以外にも学生が来学し、仲間と交流を図る機会の充実を図っている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
91	東京都立産業技術大学院大学	東京都	公立大学	②併用	②7割対面			
92	青山学院大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>【学長より以下のメッセージを配信】</p> <p>本日9月14日から2020年度後期授業を開始しました。大げさな言い方が許されるなら、新型コロナウイルスと人類の攻防は長期化の様相を見せています。しかし、だからこそ本学は、コロナとの並存を図り、十分な感染予防対策など様々な工夫をしながら、皆さんの学びを止めることのないよう引き続き全学を挙げて対応していきます。</p> <p>後期授業は、オンライン授業を基本としますが、学部・研究科の実験、実習、演習等の一部科目については、感染防止策を講じた上で前期を上回る科目数の対面授業も実施します。</p> <p>加えて後期は、対面授業の前後にオンライン授業を受講できるように、青山・相模原キャンパスの一般教室の一部を開放しています。教室の開放は、対面授業のため入構する学生だけでなく、自宅等のオンライン授業受講環境が整っていない方も利用可能です。学生ポータルで詳細を確認の上、ぜひ活用してください。</p> <p>また、前期のオンライン授業について、学生の皆さんを対象にアンケートを実施しました。このアンケート結果については学生の皆さんにフィードバックするとともに、アンケート結果やいただいたご意見を真摯に受け止め、後期授業がさらに充実したものとなるように努めます。</p> <p>さらに、新入生の皆さんに対して、学部・学科によっては既にオンラインでの交流の場を設けていますが、今後は対面で実施することも検討していきます。</p>	③大多数とは言えない	<p>本学においては、学生のアンケート等を実施しておりますが、これは授業形態を決定するための判断材料の一つであって、現状における学生の感じている問題・課題を把握し、なるべく円滑な運営に結び付けていくための情報収集を主たる目的としております。以下、このような考え方に基づき大学が判断した経緯、学生からの声をどのように反映させているかという点について説明いたします。</p> <p>1. 今年度後期の授業形態については、学生の安全確保と受講上の公平性・平等性の観点から大学の責任において実現可能性に基づき決定するものとして進めています。その結果が、特定の科目（実習・演習・実験）の面接授業実施、その他の科目について遠隔授業の継続とであります。なお、安全確保の基準は、各教室における安全確保とキャンパス運営における安全確保です。仮に、約50%の授業において面接授業を実施した場合には、授業の合間に遠隔授業を受講することになるため、キャンパス内での滞留学生数は、青山キャンパスで5000人から10000人（相模原キャンパスでは3000人から5000人）を想定することになるため、各教室における安全確保を実現したとしても、キャンパス内での安全確保についての責任は負うことはできないと判断しております。</p> <p>2. 学生からの意見聴取においては、キャンパス入構への要望とキャンパス入構への不安が交錯しているなかで、上記1の前提に立つてなるべく効果的な授業実施を実現するためのものと位置づけています。したがって、学生からの意見聴取の主目的は遠隔授業における問題点を正確に把握することであり、その際に面接授業実施についての意見も同時に受け入れています。その趣旨に沿ったアンケートは実施しており、授業実施にあたってはその意見や提案を可能な限り参考にしていきます。その結果、学生は、面接授業と遠隔授業を、それぞれの立場や置かれている状況に応じて希望していることがわかりました。また、面接授業を受けたいとしても、現在の社会状況の中ではそれを断念したいという学生も存在していることがわかりました。</p> <p>3. このような経緯の中で、多くの講義科目については、面接授業実施を進めていくことは困難であるとの前提のうえで、実験・演習・実習科目を中心に面接授業を実施するとの判断をいたしました。ただし、その際に受講上の公平性・平等性を確保するための取り組みを、各科目の特性に合わせた形で実現しています。すなわち、受講学生の実情を個々に把握し、それに合わせて授業形態を決定するという手順をとることを前提としています。また、個々の授業における面接授業実施にあたっては、科目ごとに学生の置かれた状況に合わせて遠隔授業の併用を実施することで対応しているものもあります。このような実施形態を実現させるためには、固有の設備環境を必要とすることが多く、継続的にその整備についても対応しています。</p> <p>4. 2021年度に関して、本学では原則として面接授業を実施する方向で準備を進めている。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、余裕を持った教室配置を行う必要から、一部科目については遠隔授業を併用せざるを得ないと判断している。また、今年度実施している遠隔授業は、あくまでも緊急事態における特別措置だった。2021年度についても、遠隔授業の一部導入は、感染症対策という側面も残ることが予想されることから避けられないと考えている。しかし、今年度とは異なり、面接授業をより機能的に活かす手段として遠隔授業を活用していく予定である。なお、現在、今後の新型コロナウイルス感染症への見解、これまでで学生や保証人から寄せられている意見、青山キャンパスと相模原キャンパスのキャンパス特性、この1年間の教員個々の取り組みを踏まえた授業実施環境の整備を進めている。</p>
93	青山学院女子短期大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>・前期末に、次のような「後期の授業の基本方針」を学生に周知した。 感染拡大の収束が見えない社会情勢のなか、学生の安全確保と感染拡大防止の観点から、本学は引き続き、遠隔授業を継続すること。 一方、教育的観点から実質的に対面の必要性が高い授業については、「新しい生活様式」に基づき、安全に配慮の上、柔軟に面接授業を実施できるようにすること。ただし面接授業の受講は、学生の同意がある場合に限ること。 ・後期開始前に各授業の授業形態を一覧として提示し、授業選択の機会を与えた。 ・そのプロセスで、各授業において、受講希望学生と話し合いながら、授業形態を決めていった。学期中にも柔軟に変更できるように態勢を整え、学生とのやりとりを続けている。</p>	①ほぼ全員理解	<p>・前期末学生アンケートにおいて、後期に面接授業が再開された場合の通学に不安を感じる学生が88%であった。 ・後期は各授業で、教員が学生と丁寧に連絡を取り合いながら授業を行っている。そのなかで、現在の授業形態に対して不満の声はほとんど上がっていない。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
94	亜細亜大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学は、学生及び保護者へ毎月送付している「広報紙」を通じて、学長がメッセージを発信している。以下は、「広報紙9/25号（一部抜粋）」のメッセージです。</p> <p>学生の皆さまの安全と感染防止を最優先した決断です。一部の科目については、オンライン授業と対面式授業を同時並行的に行うハイブリッド授業も徐々に取り入れてはいますが、オンライン授業を前提としていることには変わりません。とりわけ後期からは、オンライン授業もパソコンを前提とした第2段階入ります。</p> <p>第2段階は、双方向かつ学生同士の関係構築を可能とした「質」の高い授業を目指した段階をいいます。遠隔会議システムであるZoomを用いて、教職員だけでなく、学生全員がオンラインによるミーティングを開くことができるようになり、より円滑な双方向同時並行的な授業が可能となりますので、モチベーションを高くもって授業に臨んでください。</p>	②大多数が理解	<p>① 大学において、授業改善のための学生アンケート[令和2年7月23日(木)から8月3日(月)]を実施。学部・大学院生6,587名のうち2,931名(44.5%)の回答があり、授業への満足について、強く思う22%、そう思う44%、合すると66%が、満足しているという回答があった。</p> <p>② 学生自治会も学部生を対象に独自の「学生総会アンケート前期学生生活に対する意見要望アンケート調査[令和2年7月6日(月)～7月10日(金)]を実施。学部生6,500名のうち4,528名(69.7%)の回答があった。授業満足度については、とても良い8.9%、良い20.3%、普通44.1%、悪い19.9%、とても悪い6.8%と回答があり、とても良い、良い、普通を合すると73.3%が概ね満足を得ている。</p> <p>③ また、「学生総会アンケート前期学生生活に対する意見要望アンケート調査結果に基づき、令和2年7月31日(金)に学長、副学長、学生委員長、学生部長と学生代表者が直接意見交換を行った。</p> <p>④ 11月26日(木)から感染予防対策を万全にした上で、面接授業の実施割合を約36%に拡大し実施予定であったが、東京都をはじめ全国的に感染拡大が見受けられたことに伴い、面接授業の拡大を見送ることとした。</p> <p>なお、次年度コロナ禍における時間割編成方針として、学生と教職員の安全を確保しつつ、大学全体におけるハイブリッド授業(面接授業<対面式授業>と遠隔授業<オンライン授業>)の並行授業)の割合を原則100%とすることとし、教室環境をはじめとするICT環境整備を進めている。</p>
95	跡見学園女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	新型コロナウイルス第2波蔓延のため。	②大多数が理解	<p>授業評価アンケート結果で、通信環境についての項目、及び、総合評価(授業満足度)の全体評価平均値が高かった。</p> <p>なお、11月より各学年のゼミを中心に順次、面接授業を増やすこととしている。</p>
96	上野学園大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
97	桜美林大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
98	大妻女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>後期からの対面授業再開を目指していたが、7月以降全国的な感染者数増加、とりわけ若い世代への感染拡大の中で、学生および教職員の安全確保を第一に考え、後期開始段階での対面授業は実験・実習、卒業論文(研究)指導やゼミ等一部科目とし、その他はオンライン授業とすることを決定した。</p> <p>授業がクラスや学年単位で編成されている小・中学校や高校とは異なり、大学の授業は各学生が選択して履修するため受講者が100名を超える授業も多く、授業だけでも毎日5,000名ほどの学生が登校していること、また学生により時間割が異なるため学内での流動性が高く三密を避けることが極めて困難であること等から、対面授業の実施については慎重に判断する必要があると考えている。</p> <p>後期開始段階でオンラインで実施することとした授業についても、感染者数の推移や社会情勢の変化に応じて適宜対面授業への変更について検討していく。また、新入生については後期開始前に対面によるガイダンスを実施する。</p>	②大多数が理解	<p>学生を対象に行った授業アンケートにおいて、オンライン授業に対する感想・意見を募ったところ、その多くは肯定的なものであり、授業評価の数値もこれまでと大きく変わるものではなかった。</p> <p>また、対面授業を少しずつ増やしている状況においても、新型コロナウイルス感染の懸念から対面授業への不安の声もある。一部対面授業の拡大を希望する意見もいただいているが、慎重に行っていることに対する理解は得られていると考えている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
99	嘉悦大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学生に対しては、公式Webページ、学生向けシステム、学生個人宛のメール（「2020年度秋学期授業の実施方針について」（2020年7月30日））等で、秋学期の授業実施方針について以下のような説明をおこなった。また、オンラインの保護者会を開催し、学生の保護者に対して説明をおこなった。</p> <p>(1) 秋学期の授業方針を決定した7月末の時点で、東京都は新型コロナウイルスの警戒レベルを4段階のうち最高レベルに引き上げた状況であった。こうした状況の中、カリキュラム表に設置された科目をほぼすべて開講し、学生の皆さんに例年と同様の学修機会を提供すること、日本国内の地方や海外に在住する学生の皆さんの学修機会を確保することを最優先すべきだと考えた。「オンライン授業」を基本とすることにより、新型コロナウイルス感染拡大の状況に関わらず、カリキュラム表に設置された科目のほぼすべての科目を履修することができる。</p> <p>(2) 「オンライン授業」を基本としつつも、対面での実施の必要性が極めて高いと考えられる一部の授業（ゼミナールなど）については、感染防止対策を十分に行うことを条件に、対面とオンラインのハイブリッド型で実施することとした。既存の教室のキャパシティを前提に「3密」を避ける形で「対面授業」を実施する方法を検討した結果、受講生が少人数の科目（ゼミナール科目等）を中心にハイブリッド型授業を実施することとした。</p> <p>(3) 7月に実施した学生向けアンケート調査の結果では、「オンライン授業」に満足している学生が50%以上であり、またオンライン授業に不満である学生は17%であった。本学の「オンライン授業」の60%以上がZoomなどのテレビ会議システムを利用したリアルタイムの双方向型授業として実施されており、リアルタイム性と双方向性の面で「対面授業」とあまり変わらない環境で授業を受講できたことが、「オンライン授業」の満足度の高さにつながったと考えられる。また、質問やグループワークのしやすさの点では「オンライン授業」のほうが優れている点も多かった。個々の授業の「授業評価アンケート」の結果をみても、「オンライン授業」の満足度が「対面授業」に比べて低いということはない。学生満足度面から「オンライン授業」を基本としても十分な「教育の質」を確保できると判断した。</p> <p>(4) 春学期の学生の成績（単位取得状況、GPA）などの面からみても、「オンライン授業」が「対面授業」に比べて劣っていることはなかった。学修効果の面からみても「オンライン授業」を基本としても十分な「教育の質」を確保できると判断した。</p> <p>(5) 「オンライン授業」を基本とする場合、学生のメンタル面が心配になるが、春学期の「オンライン授業」の出席率は前年度の「対面授業」よりも大きく向上し、退学・除籍率も前年度よりも大きく低下した。ゼミ担当教員、学生支援センター、カウンセラーが協力しながら学生のメンタル面のケアをすることで、メンタル面の問題に対応できると判断した。</p> <p>(6) 「オンライン授業」を基本とする場合、自宅のネットワーク環境や印刷環境が十分ではない学生を十分に支援する必要がある。こうした学生を支援するために、感染防止対策を十分におこなった上で学内の教室の一部を開放し、大学のキャンパスで「オンライン授業」を受講したり、学内プリンタを利用できるようにすることとした。また、「オンライン授業」での学修・研究環境をより充実したものとするために、自宅でも利用可能なオンラインデータベースの拡充、電子図書館サービスの導入など、図書館のe-library化を一層推進することとした。</p>	②大多数が理解	
100	学習院大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>十分な感染予防対策を行いつつ、面接授業の機会を可能な限り担保していきたいと考えていること、一方で、登校を控えたいと考える学生、通学圏外にいる学生には、面接授業を受講しなくても教育の機会が担保できるよう、面接授業実施教員が配慮すること、大学として学生を感染症から守り、感染症を広めない対応を必要があることを、HPやポータルサイトを通して周知している。</p> <p>なお、周知内容には、面接授業を再開する場合には、一ヶ月程度前に公表することとしており、今後も面接授業を再開できる科目を検討している段階である。</p>	③大多数とは言えない	<p>本アンケートは、文部科学省が大学に対して、面接授業の実施に舵を切るように促すために行うものと推察するが、必ずしも大多数の学生が、面接授業の再開を望んでいるとは言えないと考える。</p> <p>つまり、仮にすべての科目を面接授業に切り替えたところで、「大多数の学生が、授業の形態等について理解・納得している」という状況にはなり得ないのではないか。学生には、感染症の発生状況、感染症を取り巻く社会状況、自身の健康上の理由等により、面接授業を望まない学生が一定数いることに留意が必要である。</p> <p>各大学において感染者や濃厚接触者が発生し、相当数の学生を自宅待機扱いにせざるを得ない大学もあるような状況下において、面接授業に舵を切ることを「大多数の学生」が望んでいるとは思えない。</p> <p>現に本学でも感染者や濃厚接触者が発生しているが、面接授業を実施する科目を慎重に判断しているため、キャンパス内での感染者発生に繋がらず、キャンパス内での感染拡大を防いでいるものと考えられる。文部科学省の方針として、遠隔授業よりも面接授業を増やすべきと考えるのであれば、面接授業が円滑に実施できるようガイドラインの設定、施設設備整備のための援助、面接授業を受講しやすく安全であることを国としても丁寧に説明すること等が必要と考える。</p> <p>来年度の対面授業の方針については、現在検討中であるが、感染拡大の状況に左右される可能性がある。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
101	学習院女子大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	8月3日及び8月31日の秋学期授業の実施方針等に関する告知において、感染防止のための強力な対策を講じつつ、対面授業については感染拡大状況を見ながら漸増あるいは減少させる柔軟な措置の採用を基本方針とすることを説明しているところ。また、その際に、新型コロナウイルス感染症に対するリスクなどの個人差が大きいことを踏まえて、対面授業を望まない学生やその実施が困難な教員もいることに理解を求めているところ。です。	③大多数とは言えない	秋学期の対面授業と遠隔授業の組み合わせの程度に関するアンケート調査を実施していませんが、8月末に実施した春学期の全面遠隔授業に関するアンケート調査の自由記述欄に記載された秋学期の授業形態についての要望を見ると、全面遠隔授業を希望する声に対面授業と遠隔授業の組み合わせを希望する声を若干上回っていました。また、対面授業の出席者も、履修者数の3割程度未満に平均的にはとまっており、遠隔希望学生が想定よりも多いことが示唆されます。 一方で、現時点では登校日が週1回に限定されていることから、対面授業への参加を躊躇している、あるいは対面授業を望むものの履修科目が対面授業となっておりそれが叶わない学生も一定割合存在すると推測されます。以上を踏まえると、多数の学生は遠隔授業を選択しているものの、現在の対面・遠隔授業比率や本学の対面授業漸増方針について「大多数の学生の理解・納得が得られている」と推測できるエビデンスは現時点ではありません。今後、登校日数の制限の緩和などを行う場合、これまでと同様に対面授業出席状況を緊密にフォローしてまいります。
102	杏林大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	学生の安全と健康を守ることを重点に、新型コロナウイルス感染防止の観点から、3密を避けることに重点をおき、授業方針を検討した。1年生においては、一般教養科目以外は原則面接授業を行う。2年生以上においては、ゼミナール・プレゼミナール・演習・実習を主に面接授業とし、他の科目に対しては、遠隔授業と面接授業のハイブリッド型として実施。	③大多数とは言えない	遠隔授業に関するアンケート調査の結果、理解度（よく理解できた・だいたい理解できた）及び満足度（満足・やや満足・普通）において70%程度の学生が好意的な回答であった。 その一方で30%については、満足度が低かった。そのため、後期からは、面接授業と遠隔授業の併用を行い、学生の授業に対する理解度、満足度を上げるために、改善を行っている。
103	慶應義塾大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	新型コロナウイルス感染症が拡大する状況を踏まえて、学生、教職員、関係者の健康と安全を第一にさまざまな対策を講じており、秋学期授業においても、学生が安心して学問に打ち込める環境を整えている。原則としてオンライン授業を実施した春学期の経験からオンライン型にも反復学習や同時双方向の議論など一定の効果があることが確認されていると同時に、教室、図書館、体育館、グラウンドなどキャンパスでの多様な学びの重要性も本学の教育の根幹として示している。 新型コロナウイルス感染症については、依然として先行き不透明な状況が続いており、オンライン授業を継続しながらも、一部の授業をオンキャンパス（対面）で実施することとし、オンキャンパス（対面）授業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止のために必要な対策を講じる。また、キャンパスへの立ち入り、施設の利用についても、安全対策を徹底した上で、段階的に進めている。	②大多数が理解	首都圏の大規模大学として、秋学期の開始に向け、キャンパス入構時の検温チェックの実施、教室やその他の施設入口等への消毒用アルコールや除菌シートの設置、対面授業を行う教室においては、教室定員の2分の1以下の履修者数でソーシャルディスタンスを確保するなど、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しなければならぬの基本方針に基づき、具体的な予防対策を実施した。 また、キャンパス内でもオンライン授業を受講可能なWifi環境の整った自習室を設置し、図書館の閲覧室、学生食堂などの施設も段階的に開放し、課外授業や課外活動も段階的に再開している。 さらに、各キャンパスでオンライン授業に関するアンケートを実施しており学生からの意見を聴取しているほか、「オンライン授業 Good Practices」と称し、春学期に開講した授業のうちオンラインの利点がよく活用された授業の一部をWebサイト上（下記URL参照）で紹介しており、秋学期授業の質の向上に取り組んでいる。これら大学の努力が学生の理解につながっているものと考えている。 (以下参考URL) 日吉キャンパス オンライン授業の受講状況に関するアンケート調査「集計結果報告（概要）」 https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/files/survey1.pdf 「集計結果報告」 https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/files/survey2.pdf 湘南藤沢キャンパス「SFC2020 春学期オンライン授業レポート」 https://www.sfc.keio.ac.jp/campuslife/online2020_spring/ 湘南藤沢キャンパス「SFC2020 春学期オンライン授業 Good Practices」 https://www.sfc.keio.ac.jp/campuslife/online2020_spring/g-practices/

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
104	恵泉女学園大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学は小規模大学の特性を活かして、学生と教員が対面できめこまやかに学びあう形式を大切にしている。</p> <p>2020年8月の感染者拡大状況を受け、学生はもちろん教育活動に携わる教職員の健康と安全を守ることを優先した。</p> <p>スクールバス、食堂や教室など、本学の学内施設・設備の規模を考慮し、実習系(実習・実技・ゼミ等)の授業科目については対面実施(約3割)、その他講義系の授業科目については原則オンラインで実施することで学内の三密回避・感染拡大防止に効果があると考えたため。</p>	②大多数が理解	<p>全学生に対し、ポータルサイトで方針の案内をし、さらに、各ゼミ担当教員の面談で、配慮(対面授業を受けられない場合等)の必要の有無を確認するなどの対応報告による。</p>
105	工学院大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生の皆さんの安全を第一に考え、通常の面接授業と同じレベルの教育効果を期待できる方法による遠隔授業を実施しています。その中でも、大学の設備を用いることが必要な実験実習科目等を中心にキャンパスでの授業を実施している次第です。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業についてアンケートを実施したところ、大多数の学生が遠隔授業のメリットに関して好意的な回答を寄せており、予習復習ができやすいことなど、学修効果に一定の満足度を示していました。</p> <p>なお、来年度は通常通り、全て対面授業を実施予定ですが、手法として有効であると判断する授業については遠隔授業を取り入れます。</p>
106	國學院大學	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルス感染症に収束の兆しが見えないことから、学生をはじめ教職員の生命・身体を守りつつ大学の学びを守るため、後期の授業も遠隔を原則とすることを決定した旨を学長メッセージとして発信した。同時に、学生アンケート及び前期の成績評価の集計結果から、学生が遠隔授業にも一定の価値を認めて前向きに取り組んだことを説明し、今後は遠隔授業の質向上を図りつつ、ハイブリッド授業対応設備を整えて対面授業の再開を拡大していく方針を示した。</p>	②大多数が理解	<p>学生に対して、4月に受講環境と不安要因、5月に受講状況と不足設備・機器等、7月に遠隔授業の全体評価と総合満足度、同じく7月に個々の授業の評価を問う計4回のアンケートを実施した。7月のアンケートでは、「今後平常時においても遠隔授業を積極的に取り入れるべきか」との設問に対し「全般的に対面とするべき」との回答は16%に留まり、「全般的に遠隔とするべき(17%)」を下回ったほか、「遠隔を基本とし、一部対面(27%)」、「対面を基本とし、一部遠隔(40%)」との回答結果であった。また、前期授業評価アンケートを集計したところ、「到達目標達成度」「授業満足度」「授業のテーマ及び関連分野への関心」「授業外学修時間」の各設問において、対面式であった昨年度よりもポジティブな回答が増え、ネガティブ回答が減少した。</p> <p>一方、教員向けアンケートにおける対面と遠隔の学修効果を比べた設問では、全体及びライブ配信で対面が遠隔を上回ったものの、講義とオンデマンドを組合せた授業では遠隔が上回った。「学修効果に違いはない」とする回答も全体の2割を占めた。自由記述からは一長一短あり比較困難であること、教員も遠隔授業の効果に一定の手応えを感じていることが看取された。</p> <p>これらの調査結果から、学生も教員も遠隔授業に真正面から取り組み、その成果をふまえた方針に理解を示してくれたものと判断している。</p> <p>令和3年度以降は、対面授業を基本としつつ、遠隔授業で得られた知見を活用することにより、引き続き学修の質向上を図っていく。</p>
107	国際基督教大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルス(COVID-19)感染リスクに対する意識には、個人差があると思います。したがって、健康と安全を重視して、学生が秋学期キャンパスに来ないことを選択することを認めています。その場合、オンライン式の授業を受講する、または、ハイブリッド式の授業にオンラインで受講することになります。対面のみで開講されている科目は来年度以降に受講してください。</p> <p>秋学期にむけて、大学の寮、または、大学近くのアパートに引っ越すべきかどうか、公共交通機関などによって通学すべきかどうか、実家からオンラインで受講すべきかどうか、それぞれが保護者の方と相談するなどして、慎重に決定していただきたいと思っています。</p>	③大多数とは言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のほぼ全員が履修する語学プログラムについては、ハイブリッド型での実施を原則としたこと、また新入生のためのリトリートについて、宿泊プログラムからの変更を伴いつつ、来学希望者はオンキャンパスにて参加できる形で実施するなど、新たに大学生活を始めた学生へ配慮した対策を講じています。春学期終了後に実施したオンライン授業に対するアンケートでは、3,190人のうち1,229人から回答を得ましたが、オンライン授業のよい点として以下のような声も聞かれました。 ・チャット等のシステムにより、対面での授業より発言が容易である。 ・ディスカッションが高度で活発だった。 ・すべての人が最前列に座っているような印象で、質問がしやすい。 ・足跡からのライブ中継があった(通常授業では、人数的に難しかったと思われる)。 ・物理的な距離により招くことができなかったゲストスピーカー(海外から)の話を聞いた。 ・感染リスクを心配することなく授業を受けることができる。 ・英語開講授業を繰り返し確認し理解を深めることができた。等々 <p>しかしながら、大多数の学生がオンライン授業の割合が高い現状に対して理解・納得している根拠を提示することはできないため、設問7.については回答③とさせていただきます。</p>
108	国際仏教学大学院大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
109	国士館大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
110	駒澤大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学HPIに「学長メッセージ」として、在校生及び保護者向けに、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言並びに活動自粛要請の下、本学でも「三密」を回避するため、「前期」は大学への入構を制限し、オンラインを基本とした授業を展開せざるを得なかったこと、また、正課のみならず課外活動についても、大幅な活動制限を行ったことを説明した。</p> <p>その上で、後期においては、毎日報道される新型コロナウイルスの感染状況を冷静に分析、判断をして、遠隔授業を原則とするが、一部の少人数科目(40名以下)については、感染防止対策を講じた上で対面授業を再開することができる旨の説明を行った。さらには、11月16日以降より対面授業再開の条件を履修者数100名以下の科目まで緩和したことを学生ポータルサイトに説明した。今後も感染状況をふまえ、検討していく。</p>	②大多数が理解	<p>2020年8月1日～31日において、学部在学生に対し、「オンライン授業(前期)に関するアンケート調査」を実施した。「オンライン形態別の総合的な満足度(設問20,23,26)」では、「とても満足している」・「やや満足している」と回答した学生が、双方向型(68.6%)、オンデマンド配信型(70.3%)、資料・教材配信型(50.7%)という結果となっており、いずれも過半数以上の学生が「遠隔授業を活用することに満足している」と推定した。</p> <p>2021年度の授業については4月より原則として全科目対面授業で実施する。ただし、学内外における新型コロナウイルス感染状況に配慮し、対面授業の継続が困難と判断した場合には、直ちに全面オンライン授業に切り替える。その場合であっても、状況が改善されれば再度対面授業に戻す予定である。対面授業に参加できない学生に対しては、対面授業以外の形態でのフォローを行うものとする。</p>
111	駒沢女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルス感染症に対する政府の「緊急事態宣言」、あるいは東京都の「東京アラート」がそれぞれ解除となりましたが、その後の感染状況は好転せず、いまだ収束する目処はたっていないため、この状況を踏まえ、高度な教育や学修効果に実効性ある遠隔授業を実施し、学修の機会を確保しつつ、学生、教職員、関係者の「いのち」と安全を守り、感染拡大の防止を最優先する考えに立ち、本学における今後の方針を決定したことをお知らせした。</p>	②大多数が理解	<p>本年8月に学生の協力を得て、前期の遠隔授業に関するアンケート調査を実施した結果、このうち遠隔授業全体の満足度の調査では、「同時双方向型」・「オンデマンド型」の授業については、約75%の学生が満足(とても満足・満足・やや満足の合計)という回答している。</p> <p>後期より国の資格に関わる実験・実習科目などの一部について、「3密対策」等感染防止対策を十分に施した上で学内における面接授業を行うことにした。</p>
112	駒沢女子短期大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルス感染症に対する政府の「緊急事態宣言」、あるいは東京都の「東京アラート」がそれぞれ解除となりましたが、その後の感染状況は好転せず、いまだ収束する目処はたっていないため、この状況を踏まえ、高度な教育や学修効果に実効性ある遠隔授業を実施し、学修の機会を確保しつつ、学生、教職員、関係者の「いのち」と安全を守り、感染拡大の防止を最優先する考えに立ち、本学における今後の方針を決定したことをお知らせした。</p>	②大多数が理解	<p>本年8月に学生の協力を得て、前期の遠隔授業に関するアンケート調査を実施した結果、このうち遠隔授業全体の満足度の調査では、「同時双方向型」・「オンデマンド型」の授業については、約75%の学生が満足(とても満足・満足・やや満足の合計)という回答している。</p> <p>後期より国の資格に関わる実験・実習科目などの一部について、「3密対策」等感染防止対策を十分に施した上で学内における面接授業を行うことにした。</p>
113	産業能率大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学ホームページで、以下を説明している。</p> <p>「緊急事態宣言解除後、首都圏をはじめ全国的にも新型コロナウイルス感染者数は再び増加に転じていることから、本学としては、今後も大学内における感染拡大防止への取組を継続する必要があると判断いたしました。このような状況を鑑み、学生ならびに教職員の健康と安全を第一に考えた結果、後学期の授業形態については、原則としてオンライン授業とし、一部科目については、通常の教室内での対面授業を実施することを決定いたしましたので、ご連絡申し上げます。」</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業を行っていた前学期の授業評価結果から、昨年度とほぼ同様の満足度を獲得しているため。</p>
114	実践女子大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学長メッセージとして、学生・保護者について、7月30日付で次のとおり説明を行っています。</p> <p>残念ながら、新型コロナウイルス感染症は、現在もワクチンはなく、引き続き感染予防対策が必要な状況です。後期の授業実施については、学生及び教職員の健康を第一に、遠隔授業を継続しますが、十分に感染症対策を講じた上で、必要に応じてできるだけ教室での対面授業を増やしていくこととしました。前期に引き続き、多くが遠隔授業となりますが、言うまでもなく卒業に必要な要件を満たせるようにいたします。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、都内の他大学よりもいち早く、緊急事態宣言終了後の6月から、実験・実習などについて、感染予防対策をした上で対面授業を実施してきました。また、同時期にキャンパスの入校制限を解き、図書館等の学内施設についても、自由に利用できるようにしています。</p> <p>後期は、引き続き感染予防対策が必要な状況であるため、遠隔授業を継続しましたが、できるだけ教室での対面授業を増やすこととしました。学生・保護者からは、対面授業を実施して欲しい、感染の恐れがある中で対面授業を実施しない欲しい、との両方の意見がありました。そのため、対面授業を実施する科目についても同時配信等を行い、遠隔で受講できるようにしております。</p> <p>また、授業以外でも学生がキャンパスを利用する機会を積極的に設けるようにしています。前期授業アンケートでは、前年度より授業の満足度は高く、遠隔授業においても一定以上の教育効果を維持できているものと考えます。2021年度に向けては、更に感染症対策を充実させ、対面授業を更に増やす予定です。</p> <p>これらのことから、大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得しているのではないかと考えております。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
115	芝浦工業大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>後期開始時は、各学科・学年で主に実験・実習科目を中心に分散登校とする旨を周知した。ただし、学生および保護者の意見を尊重し、登校を強制はしないことが大前提で、登校しない場合もオンライン(遠隔)で授業の受講が可能であり、成績評価等で不利益が生じることがないことも合わせて周知した。その後、感染状況に鑑み、徐々に登校日を増加させた。</p> <p>直接指導が効果的な卒論指導、研究指導については、入校制限を設けておらず、また図書館の利用及び課外活動についても入校制限を設けていない。</p>	②) 大多数が理解	<p>前期の授業期間終了後に学生へ遠隔授業に関するアンケートを実施した。結果は、遠隔授業による講義科目については、「満足であった」の回答が約80%、演習科目については、「満足であった」の回答が約70%、実験・実習科目については、「満足であった」の回答が約60%であった。また、2018・2019年度と比較して、遠隔授業を中心とした教育で、授業外学修時間が増加し、全体的に成績が向上していることも確認できた。</p> <p>これらの成果に結びついたのは、2月に始まった新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえた遠隔授業の準備によるところが大きい。まず、同時双方向型授業のためZoomの導入を行い、オンデマンド型授業のためMS Streamの導入、LMS (Scomb) の性能強化を進め、3月上旬からMS Teamsの導入試行を開始した。4月16日に「遠隔授業に関するFD・SD研究会」をZoomを用いて開始し、300人を超える専任・非常勤教職員が参加した。授業開始までは週2回の頻度で研究会を実施し、教職員が交代で講師を務め、遠隔授業の取り組み方、反転授業の実施方法、遠隔授業での学修成果の評価の方法、オンラインでのPBLや研究室の運営環境、障がいを持った学生への合理的配慮、情報システムのバックアップの方法など多面的な内容を教職員間で共有した。</p> <p>遠隔授業で主に5項目に取り組んできた。まず、第1に学生を中心においた、学修の機会を確保するため、学生のネットワーク環境の調査、受講環境を整えるため8,700人の在学生への奨学金の給付、247台の貸し出し用ノートPCを用意した。第2に教職員のマネジメントである。「遠隔授業の実施ガイドライン」を策定し、4月23日に教職員に示した。4月26日には「遠隔授業の学修の手引き」を学生に示し、遠隔授業の質保証を進めた。その他、研究活動やフィールドワークに関するガイドラインも策定し、運用している。第3にオンライン授業に合った教授法である。教員の約90%が同時双方向型授業または同時双方向型とオンデマンド型を組み合わせた授業を実施している。遠隔授業に合った教授法の選択と導入が重要であり、講義、演習、実験・実習への反転授業等の導入に関して教員の多様な工夫が行われている。第4に教職員の協働である。遠隔授業に関するFD・SD研究会を12回開催し、現在も継続している。さらに、学生との協働にも取り組み、6月に学生自治会が学生アンケートを実施、6月11日に実施した学生上部団体への大学からの説明会では学生から建設的意見があり、遠隔授業の改善に反映された。第5にテクノロジーと環境の整備である。本学が授業収録システムを保有していたことが遠隔授業の立ち上げやオンラインでの反転授業の導入に大きく寄与している。</p> <p>後期開始時は、未だ感染の収束が見えない状況において、各学科・学年で主に実験・実習科目がある曜日を指定して学生が登校する分散登校制とした。その後、学生の登校日を増やし、概ね半数の登校機会を与えることとしたが、11月13日現在の感染状況に鑑み、登校割合を下げる見直しを行った。</p> <p>本学は、研究大学として、授業以外の研究時間も重視している。Withコロナ時代において、遠隔授業の満足度を上げる必要があり、卒論指導、研究指導など、直接指導が効果的な研究活動については、入校制限を設けず感染対策を設けた上で、積極的な対面指導を行っている。対面および遠隔、双方のメリットを活かした新しい教育体制を、学生の意見を取り入れながら検討している。感染を意識し登校しにくい学生が一定数いることから、登校を強制することができず、対面授業においても必ずオンラインでもライブ配信するハイブリッド授業とし、学生に不利益が出ないよう配慮している。また、図書館の利用及び課外活動に取り組む学生(部・サークル所属学生)についても入校制限を設けていない。</p> <p>2021年度前期授業開始時の感染状況にもよるが、現在2021年度前期授業から対面授業の実施割合を半数以上として、全学的に準備を進めている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
116	上智大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>7月半ばに学長名で、実験、実習科目、教職課程等資格取得に関わる科目、大学院の修了に関わる指導科目など対面がどうしても必要とされる科目を除き、秋学期もオンライン授業を基本とする方針を発表した。日本国内のみならず、海外諸国の状況からも、感染症拡大について収束の道筋を想定することが困難であるなか、どのような状況であっても授業を中断せず、大学構成員すべての安全を確保することを最優先課題とすること、さらにはキャンパスからの感染拡大を防ぐという社会的責任の遂行も理由として説明した。あわせてオンラインを含めた新しい学びのあり方や先進的な教育方法を探るとともに、教育の質の担保についても大学として努力する旨を伝えた。</p> <p>また、個別の問い合わせに対しては、同様の説明に加え、すべての学部、研究科の学生（留学生も含め総数にして約15000人）が通学する環境、学部学科の枠を超えて自由に履修可能なカリキュラム上の構造（＝中・高校とは異なる、時間割制御の困難さ）にも触れて、基本的にオンライン授業を継続することとした理由を伝えられている。</p> <p>秋学期に向けての具体的な対応としては、春学期の7月に行ったオンライン授業に関するアンケート結果も勘案し、感染状況拡大の状況を見ながら、まずは授業以外の交流イベント、図書館利用、課外活動等において入籍の機会を広げた。これに加えて、第4クォーター（11月中旬）以降は、受講者数や学生の状況など諸条件を満たす場合、複数回を対面形式で実施するオンライン授業の数を増やすこととした。新入生の孤立感や不安を解消するため9月に実施した対面での歓迎行事の評価が高かったため、学生の学修をフォローするための学部学科単位での対面の集会、交流を深めるイベントも計画している。こうした情報も随時案内している。</p>	③大多数とは言えない	<p>全学生について授業の形態等について理解・納得しているかを正確に把握するデータはないが、7月にオンライン授業に関するアンケートを実施、全学生数の約1/4の回答を得た。オンライン授業全般については、特に2年生以上の学生からは理解度、満足度共に高く、「自分のペースで学習できる」「感染のリスクを冒してキャンパスに行かなくてよい」というメリットを挙げる学生が多いことが示された。一方で、学年を問わず「課題が多い」という声が多数寄せられ、秋学期開始にあたっては全所属教員に対して共有のうえ、対応をしている。また、特に新入生からは、友人もできず、共に学べない環境で、孤立感を感じるという不安の声が多数届いた。また、オンライン授業そのものに満足していない学生、強く対面を希望する学生もいることから、大多数が理解・納得しているとはまでは言えないとした。</p> <p>他方、本学には、地方在住の学生、首都圏に住みながらも遠方から授業に参加している学生もおり、ことに本大学の場合、海外からの学生の割合が高い。こうした学生についてはオンラインの授業のメリットが大きい。たとえば、入国が制限されていた海外在住の学生が多い国際教養の学生の満足度は非常に高かった。また、オンラインを積極的に活用した授業として、アメリカの大学との連携による遠隔教育COIL (Collaborative Online International Learning) のように、あらゆる教育の取組を学生に体験してもらっている。この他にも学内でのFD活動で教職員間での情報共有を進め、オンライン授業により本学らしい教育を展開しようとしていることについては一定の理解が得られていると考えている。</p>
117	情報経営イノベーション専門職大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学生ポータルサイトでの案内や2回のガイダンスで全学生に説明</p>	①ほぼ全員理解	<p>全学生参加必須のガイダンスを2回実施（欠席者は動画視聴）をし授業について説明をした。その際、質問・意見等がある場合は問い合わせ期間を設け対応をしたが特に反対等意見などはなかった。</p>
118	昭和女子大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生には以下のとおりホームページおよび学生ポータルサイトにて説明しています（概要）。</p> <p>「小・中・高校においては対面授業を再開していますが、大学においては、学生それぞれによって選択する科目が異なっているため、学科・学年等の単位での分散登校ができません。さらにオンライン授業と対面授業を並行して実施すると、対面授業とオンライン授業を交互に受講する場合には、移動時間の確保が困難であることから、学内に学生が滞在せざるを得ないため学内滞在学生数が増加し、3密を避ける措置を講じることが難しくなります。通学に長時間かかり公共交通機関に長時間乗車する学生の感染リスクを抑えることにも配慮が必要となります。さらに、対面授業の再開に伴い、上京する必要がある学生も少なからずおります。</p> <p>よって、後期の授業もオンライン授業を継続し、一部の科目（おもに実験・実習・演習科目）は感染防止に十分留意しながら、対面で授業を行います。対面で実施する授業の場合、ご自身に基礎疾患があるなどやむを得ない事情（海外在住の留学生や遠隔地在住の学生等も含む）により通学できない学生に対しては、同時中継や録画配信、録音または課題での対応を行います。ただし、通学が可能な学生については、できるだけ対面での受講を推奨します。」</p>	④把握していない	<p>「遠隔授業の比率が大きいこと」に対して学生が理解・納得しているかのアンケート調査は実施しておりません。</p> <p>ただし、学生へは「対面で実施する科目への登校出席可否」についてのアンケート調査を2020年8月下旬から9月上旬にかけて全学生に向けて実施しました。結果としては「対面で実施する科目は、登校して受講が可能である」との回答が58%、「全科目についてオンライン等での受講を希望する」との回答が42%となりました。オンライン受講を希望する理由として、通学途中やキャンパス内での感染が不安、高齢者・基礎疾患を持っている方と同居等が挙げられていました。</p> <p>前期はほぼ全ての授業がオンライン実施となりましたが、依然として半数近くの学生が登校を希望せず全科目オンライン授業を望んでいることを踏まえ、後期の授業もオンライン授業を継続することとし、一方で、語学や実習等のオンライン授業では学修効果の低下が見込まれる一部の授業においては感染防止策を実施した上で対面授業を行っております。</p> <p>特に、語学をはじめとする一年生の必修科目等をなるべく対面授業とすることで、一年生が教員・同級生・キャンパスに馴染む機会をもてるよう配慮しています。</p>
119	白梅学園大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>ホームページにて後期開始前に「後期の教育活動について」（学長メッセージ）にて以下のように説明している。</p> <p>「命と健康を守ることを何より優先し、同時に教育を止めることなく確実な方法として、オンラインによる遠隔授業をすすめてきました」</p> <p>「大学・短期大学・大学院で、(中略)教職員も含めると、さらに多人数がキャンパスに集い、毎時間ごとに、各教室を移動することになります。以前のように、通常の対面授業を全面的に行うには、多くの課題がある」</p> <p>「感染予防をすることを最優先にし、互いの生命と健康を守ることを大前提に授業をすすめてまいります」と掲載している。</p> <p>学生ポータルサイト、ホームページから後期授業の実施概要を前期終了時に連絡している。</p>	②大多数が理解	<p>全科目において対面授業実施している（但し全ての授業回ではない）。よって全学生が通学する機会がある。また前期終了後に、学生に前期遠隔授業を受けての感想、授業、生活面や在学に関して感じていることについて把握したアンケート結果は以下の通りである。</p> <p>主な質問の回答：「このままオンライン授業が続いた場合に「退学」を考えていますか?」「考えていない」：97.3%「あなたが好きな授業形態は何ですか?」「全面オンライン授業」：26.5%、「併用」：44.4%、「全面対面授業」：29.1%</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
120	白百合女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>以下の内容を学長名で学生に学内通知システムによって周知するとともに、大学サイトに掲載した（掲載日：2020年8月3日）。</p> <p>『後期授業につきまして、現在の感染状況やその他諸条件を勘案し、遠隔授業を前提としつつ、対面による指導が不可欠な一部の科目を十分な感染予防対策を講じた上で、対面形式で実施することとなりました。このことに関して、学生・保護者の皆さまの中には、様々なご意見があることを承知しております。入学以来大学に登校する機会のない新入生や、クラスメイト・教職員との交流を熱望する学生の気持ちは痛いほど理解しております。しかしながら、何よりも学生の生命と健康を考えた上での苦渋の決断であり、社会の安全を守るためのものでもあることをご理解いただきたく存じます。』</p> <p>なお、今回の調査期限後にはなるが（10月末日予定）、2020年度後期及び2021年度の授業形態等について、学生を対象とした説明を動画配信により学長及び教学担当副学長が行う予定となっている。</p>	④把握していない	<p>後期の授業形態等について、現段階では、学生の理解・納得度という観点からは把握していない。一方、後期中に授業アンケートa)を複数回実施し（1回目は現在実施中）、その回答結果及び自由記述を通して、学生の意識を一定程度把握できると考えている。さらに、2021年度授業形態について、学生と協働で検討する体制b)としており、その場でも後期の授業形態についての学生の意見を聴取できる。</p> <p>これら2つの取り組みを通して、学生の声を例年以上に詳細に把握し、学生への説明責任を果たせるよう努めている。</p> <p>なお、前期に行った遠隔授業に関する学生アンケートc)では、遠隔授業に対して満足している回答は47.1%であった。</p> <p>a) 「2020年度後期 授業改善のための学生アンケート」 通年及び後期開講の個々の科目に対する学生の評価に関する調査である。 実施期間：形成的評価 2020年10月19日～26日 総括的評価 2021年1月18日～30日 対象学生：学部・大学院の全学生2,179名（科目等履修生を含む） 対象科目：959科目（通年・後期開講科目の92.4%） (https://www.shirayuri.ac.jp/news/usftr00000085ij.html)</p> <p>b) 学生と教職員協働体制の構築 2021年度授業は、面接授業を基本とする方針で現在準備中である。2021年度の授業の検討に学生にも参加してもらい、学生の意見を反映させた授業体制を準備することとした。</p> <p>c) 「2020年度前期 遠隔授業に関する状況調査アンケート」 遠隔授業について学生が経験・感じている困難・不安や意識に関する調査である。 実施期間：2020年6月12日～18日 対象学生：学部・大学院の全学生2,200名（科目等履修生を含む） 回答学生：1,221名（回答率55.5%） 結果：（満足度）全体では、満足している47.1%、どちらともいえない33.8%、満足していない14.7%であった。学年による回答に大きな違いはなかったが、1年生でどちらともいえないが多く、満足していないが少ない傾向が見られた。（授業の理解度）全体では、理解できている63.1%、どちらともいえない25.7%、理解できていない11.2%であった。 (https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftr000000706b-att/fdenquete_2020_01.pdf)</p> <p>d) 遠隔授業に関連する学生対応 遠隔授業が多い状況を踏まえ、以下の学生対応を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な手続きで学生が大学へ入構し、図書館を含む学内施設・機器の利用、教員との面談、学部4年生・大学院生は指導教員からの直接指導を、それぞれ自由にできるようにしている。 ・図書館の書籍の郵送貸出、文献コピーの郵送も、学生の希望を受け制限を設けず行っている。 ・ノートパソコン、Wi-Fiモバイルルーターの貸与を、条件を付けることなく行っている。 ・教科書販売について、学生の利便性を考慮し今年度からWeb販売方式を導入。発生する送料についても大学負担として対応している。 <p>【12月4日追記】 11月6日に2020年度後期及び2021年度の授業形態等について、学長及び教学担当副学長が説明を行った動画を学生向けに配信した他、11月24日には学生・保護者へ向けて動画で説明した内容を文書で報告した。学長メッセージについては同日大学サイトにおいて公表を行った。 (https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftr0000008bv3.html) 学生・保護者へ報告した「2021年度の授業実施に向けた本学の取組み」の概要は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は「面接授業」すなわち教室での対面による授業を基本とする。全体としては面接授業を中心とし、履修人数が多い一部の科目では、学生の安全・安心を第一に考え、教育的効果を踏まえつつ「遠隔授業」を取り入れる。また、感染への心配で通学を躊躇する学生がいた場合には、面接授業の内容を遠隔授業の形態で履修できるようにする予定。 ・密集・密閉を避けるため、教室の利用可能人数を原則通常定員の2/3程度とする。 ・大学内食堂のテーブルへの仕切り板設置や授業時以外の学生の居場所スペースへの消毒薬設置などを進める。 ・ノートパソコンやWi-Fiルーターの貸出は来年度も実施予定。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
121	成蹊大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	ゼミナールなどの少人数授業や実験実習系の授業などについて感染防止対策をとりながら対面授業を再開しているが、講義科目に関しては、履修者数と教室の広さの問題があり十分な感染防止対策を講じて対面授業を実施することが困難であるため、やむを得ずオンライン授業を継続していることを大学のポータルサイト並びに大学HPを通じて学生へ説明している。	②大多数が理解	現在の授業の実施状況について全学生にアンケート調査を実施し、コロナ禍において「ほとんどオンラインもやむを得ない、またはオンラインが基本で一部対面を含めるべき」と判断をしている学生の割合が、講義科目では約8割となっていることから、大勢として本学の対応は受け入れられていると判断している。 なお、演習科目と実験実習科目では同割合は下がるが、それらの科目については前述（問6の回答）のとおり対面授業を再開し始めている。クラスターの発生を予防するため「ソーシャルディスタンスを確保」した上で行う対面授業としては、現状の割合が限界である。
122	成城大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	教室の収容能力、その他施設設備の現状を踏まえ、感染の拡大を防ぎつつ、教育上の効果を最大にし、かつ学生の皆さんの負担が必要以上に増えないよう、授業の形態、内容等を考慮し、各授業を遠隔とするか対面とするか決した結果である。	②大多数が理解	毎日、在学生から多くのメール、電話を頂戴している。7月中旬までは後期から面接授業を望む声が圧倒的に多かったが、7月下旬から東京都の新型コロナウイルス感染者数が減少しない事を踏まえて、後期も遠隔授業を望む声が圧倒的に増えた。 なお、本学では、学生向けに、オンライン授業に関して2回のアンケートを実施した。1回目は授業開講前の本年4月から5月にかけて、オンライン授業に対する受講環境に関して調査を行い、2回目は本年6月にオンライン授業の受講に関する実態調査として行った。2回目のアンケート結果では、9割強の学生が円滑にオンライン授業を受講できているとの回答を得ており、概ね好評であった。
123	聖心女子大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	後期授業開始にあたり、9月18日HPにて「2020(令和2)年 後期授業開始(9月25日)以降の大学運営ガイドライン」を公表し、以下のように説明した。 「本学では、7月24日より適用している「レベル2.5」の活動制限基準のもとで、夏期集中講義等で一部対面授業をおこなってきましたが、9月25日からの後期授業についても、新型コロナウイルスの感染リスクの軽減と拡大防止に最大限の配慮をしつつ、インターネット・ツールを活用したオンライン授業と併用して、対面授業を実施することとします。この場合の対面授業は、専攻課程の実験・実技・実習等を中心に、特に対面での実施が必要と考えられる授業に限ります。 具体的な後期授業の各科目の授業形態については、Sophieの掲示板に掲載の「2020年度後期対面授業一覧表」にて確認してください。このような、新しい形の大学における教育活動を展開していくにあたっては、新型コロナウイルス感染症が終息に至っていないことも踏まえ、キャンパス内での活動はもちろんです。通学中や学外での活動を含めて、感染リスクをできる限り低くすることが必要となります。 そこで、学生の皆さんには、以下に添付する文書「来校時・対面授業受講時に知っておいていただきたいこと」の内容を十分に踏まえたくえで行動し、我々教職員とともに、この難局を乗り越え、またこの経験を糧として、新しい日常と未来を共に創ることに協力いただきたいと思います。 なお、当然ながら、これらの内容につきましては、感染拡大の状況や今後の政府および東京都の政策等を考慮しながら、臨機応変に対応してまいりますので、変更もあり得ます。」 また、学生に対するアンケート結果も踏まえ、感染予防対策をとり、オンラインを希望する学生のニーズも大切にしながら、少しでも面接授業を増やすことを検討し、10月16日にHPにて「学長メッセージ：後期の基本方針と大学における「新しい日常」（第2報）」として以下のように説明した。 (次頁へ続く)	②大多数が理解	本学では、新型コロナウイルス感染症対応として、3月27日に4月1日から予定されていた新年度のガイダンス等すべての行事を2週間先送りすることをHP及び教学支援システムを通じて学生及び保護者に周知した。これを受けて、4月8日より、学生生活課をはじめ事務局各部署では電話による質問受付を始め、多くの質問に答えている。 さらに教務課では、履修や授業・受講に関する質問を受け付けるGoogle Formと、これによる学生からの質問と本学からの回答を教学支援システムに掲示することで全学生が参照できるようにした(個人的な内容が含まれる質問については個人宛に回答)。学生からの質問は教務課に関する事項のみではないため、このFormに寄せられた質問を担当部署や教員に転送し、大学全体で学生からの質問や意見に対応できるようにした。Formでの学生からの質問・相談は多岐にわたり、4月からの合計で約2200件、前期授業終了後からだけでも約500件の問い合わせがあり、担当者より一つひとつに答えており、質問・相談受付と回答・対応は現在も継続中である。学生からは、この方法を通じて大学が学生に対して誠実に対応しているとの理解を得ており、感謝のコメントも寄せられている。 本学では、これまで学生に3つの調査を実施した。この結果から、本学学生は、前期の時点より、面接授業、ハイブリッドの授業とともに、遠隔授業が多数開講されることについて理解していることがわかった。また、①の調査結果については、学生に対し公表している。 ①「2020年度 前期授業への学部学生による授業評価」調査 前期授業終了後の7月24日(金)～8月14日(金)に実施し、863名の学生からの回答を得た。このアンケート結果から7割の学生がおおむね遠隔授業に満足していることが分かった。 (次頁へ続く)

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
						<p>「新型コロナウイルス感染症の問題が続く中、2020年度当初より、本学からの情報発信や要請に対して皆様が示してくださった適切な対応とご協力に対し、心より感謝を申し上げます。前期終了時点から新型コロナウイルスの感染状況と、学生・保護者を中心とした関係する皆様のご要望を踏まえ、感染防止とキャンパスの活用とを両立させる「新しい日常」への検討を進めてまいりました。</p> <p>対面で受講可能な授業を設けるとともに、自習や大学でのオンライン受講、施設・設備の利用を進める中、キャンパスでは現在、それほど多くはないものの、徐々に学生の姿が見られるようになってきています。11月6日(金)からは、これまでキャンパスに来る機会が少なかった1年次生にも、ごく一部ではありますが、キャンパスにて学習できる授業を用意できることになりました。</p> <p>もちろん、従来通り、オンラインでの受講も可能です。成績評価に有利、不利はありませんので、それぞれの環境に合わせ、各自の判断で受講の形式を選ぶことができます。」</p>		<p>②大学院学生対象「2020年度前期授業に関する調査」 前期授業終了後、遠隔授業に関する調査を実施し、14名から記述式回答を得た。遠隔授業に関しては全員が一定の満足を示し、教員の工夫に対する感謝の表明や、オンラインだからこそきめの細かい指導を受けられたとする回答も散見された。併せて改善に向けた前向きな提案もあった。</p> <p>③1年次生対象対面授業の拡大実施に向けての意向調査 1年次生対象に必修科目である「体育運動学」及び「1年英語」を面接授業に変更する件について、10月2日(金)～10月5日(月)にアンケート調査を実施した。実施に当たっては、次の通り記載した。「オンラインでの授業が多く安心されている人も多くいる反面、登校する機会が少なく残念に思っている人が多いことも承知しています。そこで、本学では時期をみて、必修授業の一部(特に1年英語2と体育運動学)について、感染症対策を十分にとったうえで、登校しての対面授業を増やすことを検討したいと考えています(対面授業には一部対面授業も含みます)。」このアンケートでは、学生たちが新型コロナウイルスへの感染を強く心配している事がわかった。面接授業のために上京が必要な学生の約75%が上京も登校もできないとして遠隔授業の継続を希望した。逆に首都圏在住の学生の約75%は登校して面接授業の受講が可能としたが、この内の約50%の学生が感染への心配を中心とした次の自由記述も併記していた。本学が渋谷区という東京の中心地にあることもこの要因と考えられる(自由記述まとめ3)。本学では、このアンケート結果により一部授業で面接授業を拡大実施することとしたが、その場合も遠隔授業でも受講可能とし、登校できない学生に対しても不利益が生じないように配慮した。自由記述をまとめると、面接授業を受けたい(機会があると嬉しい)という意見の他、対面への慎重な意見として以下の5点に集約できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遠隔授業の継続の希望(後期は既にそのように計画している、上京できない) 2. 面接授業による感染の不安、家族への感染の不安 3. 通学による感染の不安、通勤ラッシュの電車に乗るリスク・心配 4. 実技を伴う体育運動学は面接授業で、1年英語は遠隔授業でよい 5. 遠隔授業と面接授業の混在する日の受講への心配、大学で遠隔授業受講の可能性 <p>また、大学が面接授業実施に向けて努力している事への感謝のコメントも寄せられた。</p> <p>2021年度(2021年4月前期開始)の授業形式については、面接授業を中心に実施する予定である。その検討にあたっては、次の4つの方針を定めて作業を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教室定員の3分の2を新型コロナウイルス感染症対応の教室定員基準とする 2. できる限り全学生が公平に面接授業を受講できる機会を準備する 3. 必修科目を可能な限り面接授業とする 4. 面接授業においては、ハイブリッド形式で実施し、基礎疾患を有するなど重症化のリスクが高い学生、重症化リスクが高い高齢者と同居している学生など、面接授業受講について不安を有する者に対しては、遠隔授業での受講も認めるとともに成績評価の公平性を担保する <p>また、これに関連し、2020年度の前期に続き、本年度末に学生へのアンケート調査を実施することで、遠隔授業の長所と課題をさらに検討し、教員間で共有しながら学生が満足感を得られる授業運営を行う。</p> <p>なお、2021年度の大学院の授業については、原則面接授業を実施し、場合によっては遠隔授業の実施も認めることを予定している。</p>
124	清泉女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>7月時点の新型コロナウイルス感染症の流行状況等を踏まえ、後期の授業実施方針についてはオンライン授業を基本とし、感染防止に十分配慮した上で「実験、実習、実技等対面でないと実施が困難な科目」等、一部授業のみ対面で実施することを、7月末、公式サイトを通じ学長名で学生に向けて公表した。その際、学生・教職員の安全を第一に考えた末の苦渋の決断であること、今後状況が好転した場合には対面授業を増やす可能性があること、十分な安全策を施した上で、授業以外にも登校の機会を設けることを検討中であることも、あわせて説明している。</p> <p>その後、9月中旬に本学の活動制限レベルが1段階引き下げられたことを受け、10月からは事前申請により、学部4年生の卒業論文や大学院生への指導についても対面で実施できるようにしている他、11月中旬からは、対面で実施する授業科目を学年、学科のバランスに配慮しつつ、追加・拡充することが決定している。</p> <p>また、ほとんど登校したことのない学部1年生及び編入生のために、11月3日・7日・8日の3日間、学科ごとに日程を分けて、キャンパス見学ツアーやガイダンスなど、教員や同級生と直接交流する機会を設けた。</p>	②大多数が理解	<p>7月中旬から8月初めにかけて実施した「学生生活アンケート」では「今後のオンライン授業において、希望や要望、変えてほしい点、必要だと感じる支援があればお書きください」という自由記述式の質問項目があり、「大学に行きたい」対面授業がよい」と書いた学生の割合は約9%であった。また、同時期にウエルネスセンターが実施したアンケートの「今現在、新型コロナウイルス感染症に対して不安に感じていることはありますか」との質問項目に「電車などを使って通学すること」と回答した者は48%、「大学で授業を受けること」と回答した者は38%と、4割～5割の学生が授業を受けるために大学に来ることそのものに不安を感じていることが伺われ、前者のアンケート結果を裏付ける形となっている。これらの数字を見る限り、大多数の学生はオンラインを基本とした授業を行うことについて、やむを得ない状況であると理解、納得しているのではないかと考えられる。</p> <p>さらに、前述の「学生生活アンケート」には「学内で相談したい困りごと、悩みごとがありますか」という質問項目があり、「ある」と回答したのは全回答のうち9%であったが、具体的な困りごと、悩みごとが書かれていた場合には、学科教員、相談室カウンセラー、関連部署のスタッフなどが個別にフォローを行うなど、学生の不安を少しでも解消するような体制をとっている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
125	聖路加国際大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学の場合、付置機関にCOVID-19治療拠点病院（聖路加国際病院）を有しており、教育の継続と感染防止の両立の観点から、看護学部では後期授業のなかでも病院実習を学内実習やオンライン授業での教授法に置き換えるなど最善の策を講じている。学生や学生家族の修学に対する不安と、感染に対する不安の双方を鑑みでの最善策である。学生に対しては、後期授業開始にあたっての授業実施方針についての以下の説明を行っている：COVID-19の感染拡大は収まりを見せてはいないが、新しい生活様式のもと、COVID-19との共存が私たちに求められている。大学においても十分な感染対策のもと、対面授業を再開していることが文部科学省から要請されている。人をケアする専門職である看護職を養成する看護領域では、すべての授業を遠隔で行うことは教育の質保証の観点から困難であるため、後期の授業は遠隔を基本としながらも、厳密な体調管理、3密環境の回避に努めながら、必要、かつ実施可能な演習・実習等については対面で行う。学生のみなさんの中には様々な不安をお持ちの方がいることも理解しており、学生・教職員が知恵を出し合いながら学びを進めていきたい。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、緊急事態宣言が明けた6月より大学施設利用を再開し、図書館を含めた学習リソースを学生が最大限利用できる環境の確保に努めてきた。これに続き、看護学部では7月の時点で対面授業を増やすことを計画、学生に新たな時間割を提示したが、これに対し一部の学生から、通学時の感染に対する不安や同居家族への配慮から、対面授業参加へ躊躇する相談が寄せられたため、計画を変更し前期授業をほぼ遠隔実施とした経緯がある。前期の授業終了時には、学生の遠隔授業参加に関するアンケートを実施し、学生の立場から見た遠隔授業のメリット・デメリットを検証の上、後期の遠隔授業方針に反映させている。後期授業については、COVID-19と共存する新しい生活様式のもと、可能な範囲で対面授業を実施する方針とし、これまで臨床に赴き実施していた実習科目についても、Webカンファレンスで臨床スタッフに参加してもらうなど、アプローチ方法を工夫した学びの実践に取り組んでいる。遠隔授業の実施についても、前期学生アンケートに基づき、学生の負担を軽減する形で実施に努めている。学生の不安に対しては、学生相談窓口の他、複数教員による学生支援体制としてアドバイザー制度を設けており、全学部生に個別のWeb面接を実施し、一対一の面談を適宜行っている。大多数の学生が、学習環境の劇的な変化の中、新たな授業形態に適応し、意欲的に学ぶ姿勢を見せている。</p>
126	創価大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学の新型コロナウイルス感染症対策会議等で秋学期の授業方針を決定し、7月21日に大学ウェブサイトにて次の通り掲載しました。</p> <p>■7月21日大学ウェブサイトに掲載</p> <p>【本学では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、春学期の授業は、オンラインによる遠隔授業で実施しておりますが、秋学期については、オンラインの遠隔授業を中心に一部対面授業を実施します。科目によっては、対面授業とオンライン遠隔授業の両方を行うハイブリッド型授業も実施する予定です。対面授業を実施する一部の科目については、いわゆる三密を回避し、感染拡大防止に十分配慮しながら行います。授業に参加する学生の皆さんには「創価大学対面授業実施ガイドライン（後日発表）」を守り、感染拡大防止のためご協力をお願いいたします。対面で行う授業科目は、ポータルサイトPLASで後日（7月末から8月初旬を予定）お知らせしますので、定期的に確認をお願いします。なお、海外在住やその他通学できない事情により対面授業への参加が難しい方も学修が継続できるよう、対面授業を収録して配信、リアルタイム配信を併用など可能な限り対応する予定です。対面授業を予定している科目でも新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、秋学期の中でオンライン遠隔授業に変更せざるを得ない場合があります。今後も学生の皆さんと皆さんの大切な方の健康と安全を守り、学修の継続、学生生活の充実を図ることを最優先に対応してまいります。ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。】</p> <p>その後、7月27日付の文部科学省高等教育局からの事務連絡通知「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」を受け、新型コロナウイルス感染症対策会議等で検討をしたうえで、7月31日に学習支援ポータルサイトPLASで学生に次の通りお知らせをしました。</p> <p>■7月31日学習支援ポータルサイトPLASに掲載</p> <p>【7月21日に本学ホームページでお知らせした通り、秋学期の授業は新型コロナウイルス感染症の状況や大学の感染拡大予防体制等を鑑みオンラインの遠隔授業を中心に一部対面授業を実施する予定です。対面授業対象科目についても、原則オンライン遠隔授業で受講できるようにする等の対応をします。したがって、海外や地方在住の方をはじめ、居住地域や通学経路等における感染状況や、健康面・感染への不安から対面授業への参加ができない方も、学修を継続できます。】</p> <p>あわせて、①感染拡大防止のため、3密（密閉・密集・密接）を回避し、感染に十分に注意をすること。②教室定員の50%～30%の収容人数で授業を実施するなどを示した、「対面授業実施のためのガイドライン」を全学生にお知らせしました。</p>	②大多数が理解	<p>■学生の理解についての認識の理由</p> <p>本学で定期的に開催される全学協議会（理事会、教員、職員、学生の代表が参加、学生は学生会、学生寮、学生自治会、院生、留学生の代表で構成）が7月17日に開催され、秋学期の授業実施方針を説明しました。学生と意見交換を行い、結論として、概ね上記「6.」で回答した授業方針について賛同を得ました。1年生には、面接授業を必ず1科目以上受けられるように配慮しました。</p> <p>また、1年生の半数強の学生が入寮することを、7月に改めて1年生の入寮希望について確認をとりました。その結果、入寮を希望していた者のうち約1/3の学生が東京の感染状況を憂慮し入寮を辞退。地元でのオンライン授業受講を希望しました。</p> <p>さらに、9月中旬の全学年対象の履修登録では、面接授業科目を履修しているにもかかわらず実際には、オンライン遠隔授業で受講する学生が1/4強おりました。オンライン遠隔授業のみの履修者と面接授業をオンライン遠隔授業で受講することを希望する学生を合わせると全履修者の約半数がオンライン授業を希望しました。</p> <p>以上のことなどから、多くの学生が授業の形態等について理解・納得して、面接授業かオンライン授業かを選択したと考察します。</p> <p>■今後の取組方針</p> <p>2021年度春学期以降の授業方針については、対面による学生同士や学生と教職員の間の人的な交流等が日常的にできるよう、対面授業の割合を50%～100%に増やす方向で準備を進めています。決定にあたっては、本学独自の活動制限方針のレベルに基づいたうえで、来年の入学への準備期間も考慮して、大学ウェブサイトおよびポータルサイトにて発表する予定です。学生の意見を聞きながら、質の高い教育が提供できるよう創意工夫に努めてまいります。</p> <p>また、対面授業の実施にあたっては、引き続き、手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策の徹底に加え、感染拡大のリスクが高い3つの密（換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、近距離での会話や発話が生じる密接場面）を避けるなど、「新しい生活様式」の実践による感染対策を徹底して講じてまいります。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
127	創価女子短期大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学の新型コロナウイルス感染症対策会議等で秋学期の授業方針を決定し、7月21日に大学ウェブサイトにて次の通り掲載しました。</p> <p>「本学では、7月21日に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、前期の授業は、オンラインによる遠隔授業で実施しておりますが、後期については、オンラインの遠隔授業を中心に一部対面授業を実施します。科目によっては、対面授業とオンライン遠隔授業の両方を行うハイブリッド型授業も実施する予定です。対面授業を実施する一部の科目については、いわゆる三密を回避し、感染拡大防止に十分配慮しながら行います。」</p> <p>その後、7月27日付の文部科学省高等教育局からの事務連絡通知「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」を受け、学内で検討をした上で、8月4日にポータルサイト経由で</p> <p>「すでに7月21日に本学ホームページでお知らせした通り、後期の授業は新型コロナウイルス感染症の状況や短大の感染拡大予防体制等を鑑みオンラインの遠隔授業を中心に一部対面授業を実施する予定です。対面授業対象科目についても、原則オンライン遠隔授業で受講できるようにする等の対応をします。したがって、地方在住の方をはじめ、居住地域や通学経路等における感染状況や、健康面・感染への不安から対面授業への参加ができない方も、学修を継続できます。」</p> <p>あわせて、①感染拡大防止のため、3密（密閉・密集・密接）を回避し、感染に十分に注意をすること。②教室定員の50%～30%の収容人数で授業を実施するなどを示した、「創価女子短期大学対面授業実施ガイドライン」、「対面授業対象科目一覧」を全学生にお知らせしました。</p>	②大多数が理解	<p>■学生の理解についての認識の理由</p> <p>本学では、後期の授業実施に当たって新入生には、必ず対面型の授業の機会を提供することを前提に、授業科目数の3割程度を対面型での授業実施を決め、週のうち3日程度は通学可能となるように考えました。事前に周知のうえ、履修ガイダンスで説明し、ポータル等でも意見を聞き、理解と納得を得るよう努めました。</p> <p>その結果、新入生のうち約8割の学生が対面での授業履修を選択し、約2割の学生が通学や東京での感染状況を憂慮して、自宅や地元でのオンライン授業を選択しました。2年生においても、3割程度の授業を対面型での実施を決め、同様に理解と納得を得るよう努めた結果、対面型授業を約4割の学生が選択し、オンライン授業を約6割の学生が選択しました。</p> <p>短期大学全体では、オンライン授業のみの履修者と対面授業をオンライン授業で受講することを希望する学生を合わせると全履修者の約半数がオンライン授業を希望しました。地方出身の学生が2/3程度いますが、その保護者から地元で授業が受講できることに安心した。との意見も寄せられています。</p> <p>以上のことから、履修の手続きの経緯等により、多くの学生・保護者からの理解を得ていると考えております。</p> <p>■今後の取組方針</p> <p>2021年度春学期以降の授業方針については、対面による学生同士や学生と教職員の間の人間的交流等が日常的にできるよう、対面授業の割合を50%～100%に増やす方向で準備を進めています。決定にあたっては、本学独自の活動制限方針のレベルに基づいたうえで、来年の入学への準備期間も考慮して、大学ウェブサイトおよびポータルサイトにて発表する予定です。学生の意見を聞きながら、質の高い教育が提供できるよう創意工夫を努めてまいります。</p> <p>また、対面授業の実施にあたっては、引き続き、手洗いや咳エチケット、換気といった基本的な感染症対策の徹底に加え、感染拡大のリスクが高い3つの密（換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、近距離での会話や発話が生じる密接場面）を避けるなど、「新しい生活様式」の実践による感染対策を徹底して講じてまいります。</p>
128	大学院大学至善館	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>3月からオンライン授業に移行し、オフライン授業とほぼ遜色のない学習効果を実現できているが、これは、学生同士および学生と教員・学校との信頼関係の上に成り立つものと認識している。</p> <p>オフライン授業の目的の一つに、学びと成長に不可欠となる、一人称、ストレッチ、率直、信頼、支援といった「場の匂い (smell of the place)」の形成のもと、人間関係の構築という観点を取り入れ、授業の内容も鑑みた上で、オフライン授業/オンライン授業のいずれの方法で実施するかについて判断する。</p>	①ほぼ全員理解	<p>授業に対する満足度等が例年と大きな差異がないこと、および適宜、個別にヒアリング等を実施し、次のような回答や意見を得ていることによりほぼすべての学生が授業の形態に理解・納得をしていると考えている。</p> <p><個別のヒアリングより得た主な回答></p> <p>(社人対象の大学院のため) オンライン授業の方が仕事と学業の両立がしやすい。適度にオフライン授業が実施されていることやSNS等の活用により、学生間の交流もはかられていると感じている。オンライン授業のほうが質問しやすい(授業中にチャット機能を活用しているため)。また、オフライン授業の意義を問う意見や、極端な例ではあるが、所属企業からオフライン授業への参加をできるだけ見合わせるようにといったプレッシャーがある等の問い合わせもある。</p>
129	大正大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学公式ホームページにおいて、本学が秋学期の授業開始に向けて、コロナ禍における授業運営・キャンパス運営のあり方について長期間に渡り議論を重ねてきたこと、全学生を対象としたアンケート調査の実施・分析により「対面授業の再開と通学に不安を持つ学生が過半数を占めること」等の結果を得たことを伝えたくうえで秋学期の授業について決定したことを公表しました。</p> <p>(詳細はhttps://www.tais.ac.jp/guide/latest_news/20200909/68310/をご覧ください。)</p>	②大多数が理解	<p>「秋学期の授業開講に関する調査」(全学生対象、回答数2947件)を実施した結果、通学を希望する学生は29%であり、感染状況によっては通学できないと思う学生が51%、現時点ではわからないとする学生が20%でした。</p> <p>本学は、調査結果を踏まえ、対面授業の再開に不安を持つ学生が過半数を占めることから、秋学期の対面授業の割合を定めたところです。今後は状況を見ながら、対面授業を拡大しつつ通常授業の一日も早い実施を目指すべく尽力していく方針としております。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
130	高千穂大学	東京都	私立大学	②併用	④③割対面	<p>2020年7月、春学期の遠隔授業に対する学生・保護者の皆様からのご意見や、「新しい生活様式」の中での社会活動の状況を踏まえ、日々の感染者数が多い都3県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）及び近県（栃木県、群馬県、茨城県、山梨県、静岡県）を通学範囲とする大学として、秋学期の授業をどのように実施するかを慎重に検討いたしました。その結果、学生の感染防止を最優先とし、下記4フェーズのいずれかの方法にて学生指導・授業を進めることと致しました。なかでも、学内対面授業を実施する際には、(1) 教室内着席位置として前後左右十分な間隔をとること、(2) 通学時・帰宅時における公共交通機関の混雑を避けるために、1時間、5時間の授業は遠隔授業とすること、(3) 対面授業を実施した教室の消毒を徹底すること等を確認致しました。</p> <p>【第1フェーズ】1都8県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、群馬県、茨城県、山梨県、静岡県）を中心とするコロナ感染状況等により政府、自治体等における緊急事態宣言、外出自粛要請等が発出された場合は、全授業科目を遠隔で実施する。</p> <p>【第2フェーズ】1都8県を中心とするコロナ感染状況等により、緊急事態宣言や外出自粛要請等が解除され、ある程度収束されつつあると判断された場合、段階を踏んで履修学生の少ない科目の中で、同一時間帯の入構人数を制限し、一部対面授業を実施する。実施する対面授業は時間割を変更し、土曜日を実施する。学生は出席義務を負わない自主通学とする。</p> <p>【第3フェーズ】1都8県を中心とするコロナ感染状況等がかなり収束していると判断された場合、更に、対面授業の対象科目を増やすことを検討する。学生は出席義務を負わない自主通学とする。</p> <p>【第4フェーズ】1都8県を中心とするコロナ感染状況がほぼ収束（終息）していると判断された場合、全科目を対面授業とする。</p> <p>その結果、感染の状況を絶えず注視しながら、以下のような段階的な対面授業の実施を進めています。【第2フェーズ】として、10月3日（土）より1年生の「ゼミ1」と実践指導が不可欠な教職課程の「指導法」の授業科目を対面形式で土曜日の2時間と4時間で実施しています。【第3フェーズ】として、10月19日（月）より、通常時間割上の月曜日から金曜日の4時間に配置されている2、3、4年生を対象とした「専門ゼミ」を時間割どおりに対面形式で実施しています。また、10月24日（土）より、通常時間割上の月曜日から金曜日の5時間に配置される2、3、4年生を対象とした「専門ゼミ」と担当教員により対面形式が必要と判断される「起業事業承継コース」の科目について土曜日の3時間に体面形式で実施しています。</p>	②大多数が理解	<p>2020年10月2日、学生並びに保護者へ秋学期の授業実施方法について周知したこと（「学生への説明内容」参照）、及びその後の東京を中心としたコロナ感染者数の状況、さらに、学部学生を対象として実施した「2020年度春学期 遠隔授業評価アンケート」の設問「総合的に判断してこの授業に満足している」との回答において、回答数7,699件中、「強くそう思う」35.28%、「そう思う」46.89%となったため。</p> <p>なお、2021年度につきましては、本年度の知見を踏まえ、コロナ感染状況を注視したうえで、学生の感染防止を最優先としつつ、さらに対面形式での授業数をより増やすことが可能であるか否か等についても検討を進めていくこととなります。</p>
131	宝塚大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>大阪梅田にある看護学部では、問5の選択肢では、③の「おおむね半々」となっておりますが、東京新宿にある東京メディア芸術学部では⑤の回答となります。東京メディア芸術学部は、新宿駅至近のキャンパスであり、通学の際に感染リスクの高い場所を通らねばならないこと、キャンパス内での授業時に密集を避けるための十分な空間を得られにくいこと、また、学生や保護者側からも新宿という感染リスクの高いキャンパスへ登校することを危惧する声も寄せられていることを鑑み、学生の感染リスクを最大限減らすことを最優先にした結果、遠隔授業の比率が高まった旨、説明しています。</p> <p>また、本学では、10月27日に大学HPで学長から「在学生の皆さまへ、宝塚大学における今後の授業の進め方について」と題するメッセージを発信し、以下のような説明を行っております。「前期授業では、オンライン授業を中心としてきましたが、オンライン授業については、新たな学びの発見がある一方、対面授業でしか体験することができない先生方や仲間の学生との交流が乏しく、物足りないといった声も届いています。私たちもその点は心苦しく思っていますが、他方では新宿と梅田という感染リスクの高い都心にキャンパスがあることから、皆さんを感染させたくないという思いの狭間で苦慮していることも事実です。皆さん方の意見として、『キャンパスに行きたい』『大学施設を利用したい』という切実な意見を持っている方もおられる一方、登校することに不安を抱いている方も少なくありません。そこで、宝塚大学としては、後期授業を進めるにあたって、『可能な限り感染予防を講じ、対面授業の可能性を追求しながら、オンライン授業も併用すること』を基本方針とします。少人数で実施できる科目、授業クラスを分割して対面授業を実施できる科目、対面授業の日とオンライン授業の日を組み合わせる科目など、科目と受講生数・教室や設備の状況等に応じて授業を運営することとしています。また、可能な範囲でかつ感染予防に十分注意を払いながら、学生と教員の交流の場、学生同士の校内での交流の場を作れるように工夫をしていきます。しかしながら様々な理由で対面授業を難しいと感じられる方もおられると思います。基礎疾患がある、ご家族に高齢の方がいらっしゃる、PC環境が十分でないなど、そういう場合には、遠慮なく大学に相談してください。」</p>	②大多数が理解	<p>東京メディア芸術学部においては、ほぼすべてを遠隔授業で実施した前期授業について、10月9日から10月28日まで「2020年前期遠隔授業検証アンケート」（学部学生457名中215名回答、回答率47%）を行いました。『積極的に受講できた』『まあまあ積極的に受講できた』と回答した学生が合わせて79%、「消極的」と回答した学生は約9%であり、遠隔授業においても学生の主体的な学修を促すよう各授業科目での工夫が奏功していると考えます。</p> <p>また、後期授業が開始されていますが、学生からの遠隔授業の比率が高いことについて問題視する意見等は寄せられていません。</p> <p>また、大阪梅田にキャンパスをもつ看護学部においても、9月6日から22日まで行った「学生のための遠隔授業コミュニティ」上のWEB調査（学部生全員回答255名、回収率約64%）において、『積極的に受講できた』『まあまあ積極的に受講できた』と回答した学生が合わせて約76%であり、『消極的』と回答した学生は約9%でした。自由記述では、遠隔授業の長所として、『何度でも繰り返し学べる』『自分のペースで勉強ができる』『自分でスケジュール管理ができ自主的な学習ができる』『チャットやメールで先生に質問ができる（対面より質問しやすい）』『感染予防対策になる』が挙げられている一方、課題としては『課題が多すぎる』『文章では質問しにくい』『通信障害などのトラブルがある』『他の学生と交流できない』『集中力が持たない』なども挙げられています。これらを課題解決して、学生の主体的な学びが充実するように改善を図っていきます。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
132	拓殖大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>現在の大学の教育環境や都内における感染者数の増加等を考えると学生が所謂3密（密閉、密集、密接）を避けて講義を受け、ソーシャルディスタンスを保ちながらキャンパスライフを送ることが困難であることを説明している。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業におけるアンケートにおいて、感染リスクが高い3密状況の満員電車に乗りたくて良い、オンデマンド型授業は都合の良い時間に勉強できるので良いという結果等から、大多数の学生は理解していると考えられる。</p> <p>なお、11/2以降、以下についても対面授業・入構を認めている。</p> <p>(1)ゼミナール科目（論文指導含む） (2)実験・実習を伴う科目等 (3)ゼミナール科目担当教員が許可する学生によるゼミナール活動</p> <p>これにより、必要に応じて対面授業を実施できる機会が増え、この枠組みの中で登校する学生が増えた。</p> <p>また、10/19～24、11/16～21をそれぞれ後期特別授業期間として一部のゼミナール、語学および専門科目の対面授業を実施する期間を設けた。参加した学生の満足度は高かったが、11月実施分においては新型コロナ罹患患者数が急激に増えたこともあり、事前アンケートで出席予定と回答した学生もその多くが登校しなかった。</p>
133	玉川大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学学校医から、新型コロナウイルス感染症の大学生世代の感染者の多さ、大学生の行動範囲の広さによる感染拡大の懸念について、また、感染した場合の想定外のダメージ、犠牲になるものについて考え、そのうえで広く公衆衛生を考えた行動をとるようホームページおよび学内ポータルサイトに注意喚起をおこなっている。</p> <p>このような医学的な観点を踏まえ、秋学期の授業について学長および教務部長よりホームページおよび学内ポータルサイトにおいて、学生および教職員の安全を第一に考え、感染拡大防止のため遠隔教育を基本としつつ、一部「ハイブリッド型」の授業を実施することを説明している。</p> <p>具体的には教務部長の説明の中で、秋学期の授業方針として、遠隔授業の継続を基本としつつ、「実験・実習・実技等で施設・設備利用が必要な科目」、「1年生対象の少人数科目」、「4年生対象の少人数演習科目」、「大学院開講科目」については対面授業を実施することを説明している。</p> <p>【参考資料】 (学校医からの注意喚起) 大学生世代が小・中学生に比べて感染者が多い理由として、ウイルスに対する感受性の違いや、生活習慣の違いなどが考えられます。感受性の違い、つまり、「かかりやすさ」の違いについては、まだ医学的に結論は出ていません。一方、行動範囲の差は、感染者数の差に大きく寄与しています。さらに大学生世代の行動範囲の広さは、社会の様々な場所や人にウイルスを運ぶことにもつながっています。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症は、感染者年齢に比例して症状が強くなっていく傾向があります。多くの大学生患者は小・中学生と比べると症状が重く、頭痛やだるさなどの苦しい症状が続く、普段の生活から「隔離」され、1か月以上続く、想定外のダメージを受けているのが現実です。学生の中には、実習や就職活動のため、あるいはボランティア活動再開のために移動する人が多くいます。また、アルバイトをしている人もいます。それらは今必要な行動なのか、感染しやすい危険な環境にいないかを常に考え、自分が感染したら犠牲になるものは何か、それを親しい人に広げてしまったらと、常に想像してほしいと思います。そして、この習慣は、今後も長く必要と考えてください。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、人の行動によって一定のコントロールができることが世界中で示されました。玉川大学の学生には自分の生活だけではなく、広く公衆衛生を考えた行動を望みます。</p> <p>(学長から秋学期授業に向けて) 世界中の研究者がワクチンと治療法について研究開発中ですが、これは時間だけではなくコロナウイルスの変異との競争です。ウイルスの変異が強化なのか弱体化の傾向なのかは解明されていませんし、インフルエンザウイルスと同様に冬期により一層活性化するかさえも判っていません。</p> <p>そうした状況の中、秋学期開始の時期が迫ってきています。そこで本学としては春学期同様に遠隔教育を基本とした「ハイブリッド型」の教育を実施することにいたしました。ハイブリッド型とは、遠隔教育と対面型授業とを組み合わせた形態で、離散を保ちつつ行う集近閉型の教育です。 (次頁へ続く)</p>	②大多数が理解	<p>学部の教務主任へ「学生の理解、納得の状況について」聞き取り調査を行い、8学部中5学部（学生数の割合では73.1%）より、①ほぼ全ての学生が、授業の形態等について理解・納得している。②大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得しているとの回答があった。</p> <p>遠隔授業を継続して実施することについて説明を行い、理解が進んでいると考えられる。また、遠隔であっても学生間のつながりが得られるよう工夫している学部については、さらに学生の理解を得られている。学生個々の受け止め方に違いがあり、一律に対面授業を希望しているとはいえない状況もある。担任教員が学生へ面談を行い、対面授業を希望する科目を把握し、応じている。また、秋学期にこれまで対面で行っている授業のうち、12.1%の学生が授業の出席を辞退している状況である。</p> <p>全学的には、春学期に行った授業評価アンケートの「学生の意欲や理解に関する設問」の回答より、おおむね8割の学生は授業に意欲的に取り組み、授業内容を十分理解していることを確認することができた。そのため、大多数の学生は、春学期に遠隔で行った授業形態および対面授業を一部取り入れたハイブリッド型の授業形態について理解・納得をしていると判断した。</p> <p>さらに、秋学期授業の中間時期である11月に秋学期授業についての学生アンケートを実施した。その結果、一部対面授業（ハイブリッド型）を取り入れた授業に44%の学生が満足しており、さらに回数を増やして欲しいとの要望が47%であった。そのため、12月より回数を増やす取り組みを行っている。令和3年度は、おもに対面を実施している実技、実験、実習の科目に加え、1年次開講科目および必修科目の割合を増やし、開講科目の70%以上を対面授業とする予定である。対面授業を実施するため、学修環境の整備を行い、感染防止の対策を徹底し、学生の学修機会の確保に努める。また、対面授業を受けることができない学生にも対応できるような授業を計画し、遠隔でも授業に参加できるよう情報通信ネットワーク等の整備を行う予定である。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
						<p>今回の感染はヒトからヒト、さらにヒトへと1対Nの拡がりです。学生諸君は自分が感染するのを避けるだけではなく、自分が拡散者（Spreader）とならないように学外での行動に配慮することに心がけてください。ある意味で私権を自律することでもありますが、今のところ新型コロナウイルス感染拡散防止には必須なことであることを自覚してください。医療科学は日進月歩で発展していますから、それがコロナウイルスの変異に追いつきそして制御できる日は必ず訪れます。そうした未来へ期待を込めて、今求められているのが行動の自己規制ですが、それに耐えてくれる君たちであることを期待しています。</p> <p>（教学部長から秋学期の授業について） 現在、私たちは今まで経験した事がない困難な状況に置かれていて、都内における新型コロナウイルスの感染状況は非常に厳しく最大限の警戒が必要になっています。大学生の通学は都県を経由する場合が多く、かつ連日発表される都内の感染者数のデータでは20代が最大であり無症状者もまた20代が多くなっています。これらを踏まえ、秋学期授業方針について、慎重に検討を重ねた結果、「遠隔授業の継続を基本とします」とともに、「実験・実習・実技等で施設・設備利用が必要な科目、1年生対象の少人数科目、4年生対象の少人数演習科目、大学院開講科目」については「大学内での対面授業」を実施することとします。学生および教職員の安全を第一に考え、遠隔授業を継続することを基本としつつも、対面授業で実施することの必要性があると認められる実験・実習・実技等については、最小限の授業回数を「新しい生活様式」に従い、対面での授業を一部実施することとします。</p>		
134	中央大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
135	津田塾大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の防止のため、本学の授業は、オンライン形式で行うことにしています。授業は基本的にオンライン形式となりますが、オンデマンドの授業ではなく、これまで本学が培ってきた質の高い教育を学生に提供するため、平時の対面授業と変わらない双方向型の授業を行っています。後期についても前期に引き続き教育の質にも十分な配慮を行いつつ、実施してきたオンライン形式で行うことにしています。また、後期から、授業の一部については、実際にキャンパスで授業を受講する学生とオンラインで授業を受講する学生が参加する「授業レベルハイブリッド」という形式の授業を設けることとし、徐々にその対象科目を増やす予定です。本学としては、学生が大学構内での対面型の授業に参加できるよう、新型コロナウイルス感染症の感染に配慮しながら教室ごとに定員の見直しや、学生の希望を聞きながら、「授業レベルハイブリッド」（実際にキャンパスで授業を受講する学生とオンラインで授業に参加する学生がいる形式の授業）に加えて「科目レベルハイブリッド」（一つの科目の中に面接授業の回とオンライン授業の回が混在する形式の授業）も増やすことに努めています。</p>	②大多数が理解	<p>学生に対して授業評価アンケートを実施しています。授業評価アンケートの結果から、少なくともオンライン授業に対してのサポート体制や教員とのコミュニケーション等については、自由記述も含め、概ね学生の理解、納得を得られていると判断しています。また、一部学生や保護者から、施設設備費等の返還請求の意見が届きましたが、丁寧な説明を行っていることと、前述のとおり、オンライン形式の授業とは異なりますが、教育の質にも十分な配慮を行いながら、双方向型の授業を実施していることから、学生の満足度は高いと考えています。</p>
136	帝京科学大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、後期授業方針の策定に当たり、前期末の7月下旬から8月上旬にかけて、オンライン授業を含む緊急修学学生アンケート調査を行いました。（回答率約50%、2,422名からの回答）「後期の対面授業の開講について」のアンケート項目では対面授業を希望する意見、十分な感染症対策を行って対面授業を開講してほしいという意見、今年度の対面授業はできるだけ開講してほしいという意見などが多く寄せられました。対面授業開講に前向きな意見はあるものの、一方では感染症への危機感を持っているとの、抵抗した意見がありました。本学では、上記の調査結果と市中感染状況等の社会情勢を踏まえ、9月19日（土）からの後期授業については、感染防止と学修機会の確保の両立を図るため、主に、講義系の授業科目はオンライン授業として実施し、実験・実習・実技・演習系の授業科目については、対面授業で実施することと致しました。また、対面授業や通学への強い不安があり、どうしても出席できない学生に対しては、別途代替措置を配慮しています。更に、学内の三密状態を回避するために、大学に登校できる学生数を在学者数の概ね25%以下（教室環境も同様）に制限したうえで、各学科からの「対面授業優先開講科目」をもとに、後期授業時間割を設定しています。なお、今後の後期期間中における「対面授業の拡充」については、市中、学内外の感染者動向を見極め、最大限の感染予防策を講じながら、段階的拡充（当面の対面授業実施割合として50%以上）に努めているところです。併せて「対面授業希望者」と「オンライン授業希望者」の双方の要請に対応可能な環境整備（分散授業によるライブ配信・録画配信の拡充を含む）をすすめています。学生に対する、対面授業への計画変更については、準備が整ったものから、すみやかに、本学教務情報システムやホームページを通じて周知しています。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、上述の通り、前期末の緊急修学学生アンケート調査に基づいた、後期授業方針を提示しています。また、アンケート調査のまとめについては、教務情報システムやHP上において、学生や保護者への情報提供のうえで、授業方針の説明を行っているところです。さらに、学生からの個別照会、少数意見、相談、要望事項に対しては、教職員による丁寧な説明により対応しています。また、学科毎の保護者説明会の開催や学期毎の成績通知や大学授業方針等の諸通知、お知らせを経て、全学生・保護者にも大学方針の理解を頂いているところです。以上により、上記②の大多数の学生は、授業形態、授業方針について理解・納得されているものと考えます。なお、来期・2021年度の授業の実施方針については、原則として、従前の対面授業を基本とする形態に戻ることを予定しています。但し、感染症の収束状況に応じて、オンライン授業の一部併用についても想定しています。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
137	デジタルハリウッド大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>第二の集合感染を防ぐために、密集・密着・密接を引き続き回避し、原則として授業をオンライン化して実施します。一部の演習授業のように、オンラインでは明らかに修得が困難である科目や、ゼミをはじめとした教育効果上、対面授業のほうがより望ましい科目、そのほか密閉・密集・密接が発生しない規模のクラス等については、感染拡大防止対策を十分に行えることを確認した上で、キャンパスでの対面による授業を実施する場合があります。</p> <p>その場合、海外から受講している留学生や、対面で授業を受けることについて何らかの支障や不安のある学生など、諸事情によりキャンパスへの登校が難しい学生についても、前期から引き続き配慮します。</p> <p>オンライン授業に関しては、第1クォーター・第2クォーターで蓄積した運営ノウハウを活用しながら、引き続き、以下のいずれかの方法またはその組み合わせにて実施いたします。1) ライブ配信型授業 2) オンデマンド型授業 3) 課題提出型授業 上記授業の実施にあたり、引き続き、以下のような各種配慮をいたします。</p> <p>①学生ポータルシステム、Zoom等のビデオ会議ツール、Google各種ツール、Slack等のSNSを駆使した、デジタルキャンパス化の実現 ②ビデオ会議ツール利用時の入室管理および氏名・ビデオ表示に関するルール徹底による個人情報やプライバシーの保護 ③海外からのアクセスのため使用ツールが限定される留学生に対し、当該地域でも利用可能なWebサービスの利用 ④自宅に制作環境を有しない学生に対し、大学のデスクトップPCの貸出 ⑤通信等の自宅環境が不安定な学生に対し、十分な感染防止対策をした上での学内施設利用許可 ⑥CGアニメーション制作時のレンダリングに必要な外部クラウドサービスの利用 ⑦ビデオ会議ツールを用いた就職活動サポートやメンタルヘルスケア相談室の実施 ⑧オンライン授業では修得が明らかに困難である科目や、教育効果上、対面授業のほうがより望ましい科目、密閉・密集・密接が発生しない規模のクラス等に関し、十分な感染防止対策をした上での学内対面授業実施 【学生・保護者の皆様へ】2020年度後期の授業実施等に関する方針について https://www.dhw.ac.jp/news/2020_3q4q/ 【学生の皆様へ】学長からのメッセージ https://www.dhw.ac.jp/news/2020728/</p>	②大多数が理解	<p>学生より取得した、第1クォーターおよび第2クォーターの期末アンケートおよび来校に関するアンケートが以下のような結果であったため。</p> <p>1. 積極的に受講できていましたか。とてもそう思う 41.1% そう思う 48.1% どちらとも言えない 8.9% そう思わない 1.1% 全くそう思わない 0.8%</p> <p>2. シラバスに示されている「学習目標（到達目標）」をどの程度達成できたと思いますか？ 90-100% 33.5% 80-89% 45.3% 70-79% 15.6% 60-69% 3.7% 59%以下 1.9%</p> <p>3. 教員の解説・指導は適切でしたか。とてもそう思う 46.1% そう思う 42.7% どちらとも言えない 8.6% そう思わない 1.5% 全くそう思わない 1.1%</p> <p>4. 教員は毎回の授業でFS（フィードバックシート）などの理解度チェックの振り返り、および学生の学習のモチベーションを上げる指導を行っていましたか。とてもそう思う 38.1% そう思う 41.9% どちらとも言えない 15.7% そう思わない 2.7% 全くそう思わない 1.7%</p> <p>5. 教員のパワーポイントや配布資料は、分かりやすく工夫されていましたか。とてもそう思う 44.7% そう思う 4.14% どちらとも言えない 10.7% そう思わない 2.0% 全くそう思わない 1.2%</p> <p>6. この授業を後輩に勧めますか？とてもそう思う 41.6% そう思う 41.2% どちらとも言えない 13.6% そう思わない 2.1% 全くそう思わない 1.5%</p> <p>7. 来校に関するアンケート 来校できるが新型コロナウイルスが心配であるため来校を控えたい 52.1% 来校できない 21.3% 来校できる 26.6%</p>
138	東京医科大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学は医療系大学のため、医療機関での実習があります。感染ホットスポットに位置しているため、無症候の学生が院内にウイルスを持ち込み、医療者、患者さんへの2次感染が起こりうる可能性を勘案し、遠隔実習を併用した制限した形式としています。医療機関としての機能を維持し、社会・地域からの負託に応えるためには必要な対応と考えています。</p> <p>「感染しない、させない」ためにも、前期の授業については、オンラインでの講義・実習を中心に進めてきましたが、実習がカリキュラム全体に占める割合は大きいことが、遠隔授業の割合が高い一つの要因となっています。学生の皆さんからは対面での講義・実習を強く希望する声も聞こえてきていますが、一方で、自宅でのオンライン学習の継続を望む学生も少なくありません。そこで、後期の実習と一部の講義については可能な限り、学生各自が面接授業か遠隔授業かを選択できるように配慮しています。実習については、感染状況をみながら最適な実施方法を検討します。</p>	②大多数が理解	<p>医学科では、学生が教育プログラム策定に参加するという方針をとっており、カリキュラム委員会学生部会を通して、全学生から毎週、授業実習、試験学修環境、過程外活動に対する感想、意見、要望、提言を匿名で受け付け、教員が迅速に対応、回答してきました。</p> <p>看護学科では、8月に学生との意見交換会を開催、オンライン意見箱を設置し、回答しています。</p> <p>これにより、授業形式（遠隔授業の方法など、対面が困難な場合はその根拠の説明）、評価の方法（試験が課題か、試験の場合はその時期、感染対策、追試・再試のルール）、学修環境整備（自習室、図書館の使用時間の希望、ネット環境整備）、また、課程外活動の再開（部活や、体育館、グラウンドの使用希望）において、教員と学生が共に考え、試行錯誤しながら改善に努めると同時に、教員が気づかない問題点も解決できました。</p>
139	東京医療学院大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生全員が病院等で実習を行うことなどから、できる限り感染リスクを抑えるため講義授業を中心に遠隔授業を取り入れている。</p>	①ほぼ全員理解	<p>学内情報システムにて、学長と教務課から学生に対してそれぞれ案内を一斉送信しており、学生から教員（クラス担任等）や教務課に対して当該問い合わせがないため。今後は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、来年4月から対面授業を拡大予定。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
140	東京家政大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>以下の内容で大学HP・学内ポータルにより学生・ご家族に説明している。 (R2.8.8/11.18一部修正追記 学長名文書より) 「後期の授業実施についても、皆さんと皆さんのご家族の健康を第一と考え、オンライン授業を優先することとしました。精選した実習・演習を中心に「換気の悪い密閉空間」「多くの人の密集」「近距離での会話」の3つの密を回避する基本的な対策を徹底し、学校入構時の検温、教室で授業を受ける学生数を教室定員の半分以上とすること、アルコール等の消毒体制を整えること等々、大学として万全な感染症対策を講じた上で、教室での対面授業を30%ほど行います。対面授業のためだけに、地方や海外から首都圏に移動する必要はありません。欠席する学生に対しては不利益にならない配慮をいたします。感染拡大が収束しない情勢の中で、本学は、皆さんの安全確保、感染拡大防止という社会的責任を第一に考えながら、教育機関としての使命を果たし、学生生活の充実を図るために、教職員一同、全力でサポートします。」</p>	②大多数が理解	<p>一部でオンライン授業の実施方法・授業内容等に対する苦情はあるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、後期は原則オンライン授業とした。大学の方針自体についての直接的な苦情は、学生全体との比率から、多数ではない。 新型コロナウイルス感染症拡大のため、学生・教職員が経験したことのない全面的オンライン授業となった前期授業アンケート結果からも、学生から、オンライン授業の有効性が一定程度示されている。オンライン授業への不満についても、後期の授業改善の資料としている。(以下抜粋掲載) 以上の点から、上記7は②の回答とした。 学生前期授業アンケート【まとめ】(抜粋) ■ 昨年度と比較可能な3年生について、「オンライン授業の学修時間」は、昨年度の「授業に出る時間+授業外学修時間」よりも長く、1週間当たり40時間を超える学生の割合が高い。 ■ オンライン授業によって「理解が深まり学修成果が得られた」と感じている学生の割合は、学科・科によって比較的大きな違いがある。 ■ 「曜日ごとの学修スケジュールを立てるなどして規則正しく学修」、「資料・課題や動画などにもとづいて、理解できるまで繰り返し学修」ができた学生の多くは、「理解が深まり学修成果が得られた」と感じている。 ■ 学生は、「学びやすく学修成果が得られる授業」の要件として、「学修の進め方についての指示が明確であること(学修の進め方がわかりやすいこと)」「教員に質問できて教員からの回答が得られること」「授業1回当たりの学修量(学修に要する時間)が適切であること」が重要だと感じる学生が多い。 ■ 「課題が出されるだけで学修の目標がわからない」「課題に取り組んでもフィードバックがないので不安」などは、学生アンケートの自由記述に見られる典型的な不満の例である。とくに「資料・課題提示」の授業では、提示の仕方に留意するとともにフィードバックの機会を確保することが重要である。 R3年度前期授業の実施方針については、これまでの感染防止対策を徹底し、各学科、各学年で、実験・実習・実技科目を中心に講義科目を含め、当面30%、最低50%を目途にできるだけ対面授業を実施してゆくことを決定し、具体的な実施に向けた検討をしている。</p>
141	東京家政学院大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
142	東京経済大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>東京経済大学HP 「第二学期以降の大学運営について」より抜粋 第二学期は遠隔授業を基本としつつ、感染防止対策を講じた上で、演習、実技、ワークショップ科目等の少人数授業を中心に一部対面授業を実施します。対面授業に参加できない学生には、遠隔授業でも受講できるように配慮します。 1. 対面授業の教室は、原則、履修者数の2~3倍以上の席数の教室を確保します。 2. 対面授業に参加できない学生への中継・録画配信を行うための機器類を配置します。 3. マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒、教室内では、四方1m以上空けて着席、換気など、感染症対策を徹底し、対面授業を行います。 4. PC自習室のほか、大教室等を遠隔授業受講のための自習室として開放し、Wi-Fi環境を整えています。</p>	②大多数が理解	<p>第二学期の授業方針を決定するために、遠隔授業アンケートを7/15~7/31で実施し、1,892名の学生が回答しました。アンケートにおいて、遠隔授業が望ましいとの回答が41%、対面授業が望ましいとの回答は46%でした。 対面授業については、「少人数の科目だけでも対面授業を実施して欲しい」「オンライン、対面授業ともに利点があるが、ゼミなどは対面が望ましい」等の意見が出されました。遠隔授業については、「コロナが収まるまでは全面的にオンラインで実施してほしい」「オンラインと対面授業の併用は通学費の負担があるため、どちらかに統一してほしい」等の意見がありました。 特に地方在住の学生から、第二学期の授業方針を早期に決定して欲しい旨の強い要望を受け、「第二学期は遠隔授業を基本としつつ、感染防止対策を講じた上で、演習、実技、ワークショップ科目等の少人数授業を中心に一部対面授業を実施します。対面授業に参加できない学生には、遠隔授業でも受講できるように配慮します。」との方針を7月31日に学生へ発表しました。 第二学期の授業方針を発表後、対面授業実施を希望する意見が数件寄せられ、大学の状況を説明させていただきました。「対面授業に参加できない学生には、遠隔授業でも受講できるように配慮します。」との大学方針から、授業への参加方法を任意にした結果、第二学期に対面授業を実施している授業においても、履修学生の多くが遠隔授業での受講を希望し、引き続き遠隔授業を履修している現状です。 なお、2021年度の授業は原則、対面授業を行います。ただし、「3密」が避けられないなど、感染対策上やむを得ない一部の授業については遠隔授業で実施します。</p>
143	東京交通短期大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルス感染症の感染リスクを抑えつつ、学生生活や教育効果の確保を考慮した結果、後期の授業を原則遠隔(オンライン)・一部対面授業で実施することに決定し、この内容を学生に説明した。</p>	②大多数が理解	<p>後期授業実施前に全学生にWEBアンケートを行い、新型コロナウイルスの感染を心配する意見と対面授業を望む学生の意見の両方があり、これらのアンケート結果を踏まえた上での決定をしたから。</p>
144	東京工科大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
145	東京工芸大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学としては学生の皆さんの安全と健康を最優先に、後期も「遠隔授業」と「面接授業」の両方の形態での実施を決定した。遠隔授業を中心としながらも面接授業を併用し、必要な研究・制作活動についても、万全の感染防止対策を講じて、より多くの学修の機会をキャンパスにおいて提供できるよう進める。</p> <p>また遠隔授業については、前期に実施した授業アンケートなどの結果を踏まえ、課題を抽出しながら、さらなる教育の改善を目指すとともに、諸般の事情により通学できない、あるいは通学を控えたい学生の皆さんへのフォローも続けていく。このような趣旨の内容をホームページや書面送付等により説明している。</p>	④把握していない	<p>遠隔授業の受講実態、今後の継続の希望、遠隔授業に適している科目等に関するアンケートは実施したが、「遠隔授業の比率が大きいことについての理解・納得の状況」を把握するための設問は設けていないため、把握できていない。</p> <p>なお、遠隔授業の受講実態に関するアンケートの回答率は芸術学部全体の30.7%であり、そのうち「今後も遠隔授業の継続を希望する」という回答は63.8%という結果になった。</p>
146	東京歯科大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
147	東京歯科大学短期大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
148	東京女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>新型コロナウイルスの感染拡大は未だに収束は見えず、7月に入ってから、新型コロナウイルスの感染者数は首都圏を中心に全国的に増大傾向に転じ、予断を許さない状況が続いている。</p> <p>このような状況を踏まえ、これまでの本学の学生、教職員および関係者の安全確保を第一とする（「感染しない、感染源とならない」）方針に基づき、後期授業は、遠隔授業を主として、一部の授業を対面で実施する。引き続き「感染しない、感染源とならない」方針を堅持する中で、実験・実習科目を中心に一部面接授業を行う。面接授業の受講が困難な学生には遠隔授業でも受講できるように配慮する。</p>	③大多数とは言えない	<p>本学の遠隔授業は、双方向型の授業が8割を占めるとともにすべての授業科目においてコミュニケーションを十分とることを教員に求め、教育の質を高めるよう学長の指揮のもと全学的に取り組んでいる。前期授業期間中に、全学生を対象にアンケート調査を行った結果、不安もあったが大多数の学生は前期の遠隔授業に満足していた。学生の意見を教員にフィードバックし、授業の質の向上に努め、後期についても同様に学生の状況を把握することとしている。前期授業終了後の教員への調査では、学生の授業への出席率、学習時間、課題提出、課題の質が例年以上の高評価となっており、遠隔授業での効果が確認された。</p> <p>後期の授業実施方法について、前期で培ったICT教育の力を活かし、遠隔を主として、一部の授業を対面とすることを前期中に決定し、発表した。早い時期に発表したのは、前期において、当初、対面授業に戻る可能性を示唆し、学生生活（特に地方からの学生）の計画に支障があると報告されたことに配慮したためである。また、遠距離通学の学生も多く、対面にあまり積極的でない学生の声もあった。問い合わせの数は、学生数に対する割合としては少ないが、遠隔授業の比率が大きいことに一部の学生からの問い合わせもあり、すべての学生に理解されているわけではないことを受けとめ、「大多数とは言えない」と回答させていただいた。学生同士の議論や活動機会が少ないことは憂慮しており、後期では、学内設備を整え、本学が独自に設定した活動制限指針の活動制限レベル2において、1年生のキャンパス開放日を設け、また段階的に、図書館への入構数、時間の拡大、課外活動等、学内への入構者制限を緩和するなど、学生のキャンパスでの学びをサポートしている。オンライン授業の質が維持され、後期の授業は今のところ順調に進められている。</p> <p>来年度は、本学の活動制限レベル1またはレベル2に該当する場合には、感染状況を注意深く鑑みながら、今までの遠隔授業で培ったICT教育の力を活かし、対面授業を中心に展開していく予定である。今後も学生の状況を随時把握し、教育の質の維持に努めていく。</p>
149	東京成徳大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>後期の授業については、本学としては、遠隔授業だけではなく、対面での授業が教育効果には欠かせないであろうと判断し、できる限り通学して授業を受講できるよう協議してまいりました。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症拡大が未だ進行している中、感染症拡大防止策を講じて、全ての学部学科等を同時並行して対面授業を実施することが困難と判断いたしました。そこで、キャンパス及び教室内のソーシャルディスタンスを保てるよう対面授業と遠隔授業を併用し、本学の各教育組織を4グループに分け、各グループを週ごとに、対面授業を実施するグループと遠隔授業を実施するグループに分けて行います。</p>	④把握していない	<p>後期オリエンテーションの中で、遠隔授業と対面授業の併用について丁寧に説明し、学生の理解と納得をしていただいているところですが、7月に実施した前期授業（オンライン）に関する全学生による「授業評価アンケート」の結果と、11月に実施する全学生を対象とする「学生生活満足度調査」の結果により、遠隔授業に対する理解と納得度について具体的に把握します。</p>
150	東京成徳短期大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>後期授業体制については、キャンパス内、大学と施設共有のため、全学生の半数が対面することは3密化しやすく、感染リスクが大きいことから、やむを得ず、4週の中の一週間を対面週として設定し、最大限の感染防止対策を講じながら実施している。その結果、本学の対面授業は4週となる予定である。</p>	④把握していない	<p>後期オリエンテーションの中で、丁寧に説明し理解と納得をしていただいているところですが、11月に実施する「理解と納得」についての調査結果及び12月に実施する学生と教員の授業座談会で理解と納得度について具体的聞き取り調査を予定しています。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
151	東京造形大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
152	東京電機大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学においては、令和2年度後期の授業を、講義科目は「オンライン授業(遠隔授業)」、実験・実習・演習科目は「オンライン授業を中心に授業を行うが、更に本学の建学の精神である「実学尊重」を具現化する実験・実習科目の一部や登校が必要な研究活動は、感染防止に留意して対面(対面授業)」とすることを当初の基本方針としました。</p> <p>更にその「実験・実習科目での対面授業」については、登校の「選択」から「標準」への移行を図ることを明示しました。</p> <p>10月20日現在、この方針に則った授業の運用を行っています。</p> <p>なお、11月16日(月)からは、登校できない事情がある学生への配慮(※オンライン授業にて対応)及び新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じたうえで、講義科目についても対面授業を再開します。</p> <p>具体的には、対面授業を行う講義科目の履修登録者の3分の1程度ずつの学生を指定し、入構日を限定したうえで、面接授業を実施いたします。</p> <p>これにより、本学の学生が最も多く通学する東京千住キャンパスにおいては、授業科目の対面授業の機会が5割程度(うち、専門科目は約8割、専門基礎・教養系・語学の科目は約3割が対面授業)となります。</p> <p>これを次のWebページを通じて、学生等に案内しています。</p> <p>https://www.dendai.ac.jp/news/20201001-03.html https://www.dendai.ac.jp/news/20201112-01.html</p>	②大多数が理解	<p>学生に遠隔講義に係るアンケートを行いました。</p> <p>「遠隔授業でも授業内容は理解できましたか。」の問いに対しては、回答者の63%の学生が理解できたと肯定的に回答し、否定的な意見は16%でした。</p> <p>また、昨年度の「対面授業」時の授業アンケートと比較すると「授業に関する満足度」は、「対面授業」と「遠隔授業」との間で、データ上変わらない数字が出ています。</p> <p>遠隔講義にて良かったことの設問への回答としては、ライブ型授業とオンデマンド型授業の形態を提供できたことで、講義の録画が提供されて授業の振り返りが可能になり、効果的に学修を進めることができた等の意見がありました。</p> <p>遠隔講義にて困ったことの設問への回答としては、「課題の多さ」、「友人に会えないこと」、「実験・実習で実物に手を触れる、自ら体験する学習ができなかったこと」等への要望をいただいています。</p> <p>このアンケートの結果については、その一部を次の通り学生及び保証人に公開しています。</p> <p>https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/activities/against_covid19_enquete.html 及び https://www.dendai.ac.jp/about/tdu/activities/e5vdec000002072p-att/survey.pdf</p>
153	東京農業大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
154	東京福祉大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
155	東京未来大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
156	東京理科大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない状況の中で、本学は東京都(新宿区)という感染者が特に多い立地であることを考慮して、通学時の電車の混雑時間帯をなるべく避ける等、学生の健康と安全を第一に考えている。</p> <p>同時に、学生全員が学修をあきらめことなく意欲を持って学び続け、真の実力を身に付け、より良い社会の実現に貢献できる人材となれるよう支援することとしており、遠隔授業だからこそ提供できる質の高い教育の維持・向上に努めることとしている。なお、後期は前期に比べ対面による授業を増やすこととしている。</p>	②大多数が理解	<p>学生に対してアンケート調査(2020年8月実施・回答率:全学生の45.3%)を実施した結果、急速全学的に遠隔授業への対応を行ったこともあり、「遠隔授業を受講した満足度」を問う設問では、満足していないと回答した学生は半数弱となったが、「遠隔授業の学習効果」を問う設問では、学習効果を感じることができなかったと回答した学生は4分の1程度に留まったこと等から、学生の理解・納得は概ね得ていると考えている。</p> <p>また、きめ細かい学生ケアのため、学生参画のFD活動において学生から意見を聴取する、新入生アドバイザー(同学科所属の4年生以上の先輩学生)を配置し学習や生活等の学生生活全般に対するアドバイスやサポートを行う、等の対応を行っている。</p> <p>2021年度に向けては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と学生の対面による学修機会の確保の両立、更なる教育の質の向上、教育のDX化の推進等を目指し、対面とオンラインのハイブリッド型(ハイフレックス型)の授業を展開すべく、現在学内で検討を行っている。</p>
157	桐朋学園芸術短期大学	東京都	私立大学	①全面対面	-			
158	東洋大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
159	東洋学園大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、7月28日に大学ホームページで「2020年度秋学期授業および学事日程変更について」を掲載し、「2020年度秋学期の授業を、原則オンライン授業により実施することとしますが、感染防止策を十分に講じたうえでキャンパス内での対面授業を一部の科目(必修の演習科目等)に限定し実施することいたしました。」と伝えている。</p>	①ほぼ全員理解	<p>原則オンライン授業であった春学期は出席率が例年よりも高かった。また、7月28日に大学ホームページで掲載した「2020年度秋学期授業および学事日程変更について」から現在に至るまで、遠隔授業に対するご意見やお問い合わせの件数が10件前後であり、すでに対応済みであることから上記7.に対する回答へと至った。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
160	二松学舎大学	東京都	私立大学	②併用	②7割対面			
161	日本大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	講義室、実験・実習室、演習室の3密を回避した収容定員を遵守し、実験・実習を中心に安全性を重視して対面授業を実施すると、時間割通りの授業の実施が不可能であるため、基本的には遠隔授業をベースに考えざるを得ないことを説明している。	②大多数が理解	<p>学生に対しては、コロナ禍における授業実施の考え方、受講に係る支援策等の説明をホームページやポータルサイト等を通じて十分に説明している。また、前学期終了時には「オンライン授業に関するアンケート」を全学生を対象に実施し、約24,000名より回答を得た。その結果、70%以上の学生が遠隔授業は有効な授業形態の一つであると考えており、学生は大学の説明を十分に理解、納得した上で後学期の授業に臨んでいると考えている。</p> <p>後学期は、対面授業や対面・遠隔形式の両方を取り入れたハイブリッド型授業を開講している。本学独自の健康管理システムによる体調管理と入構時及びキャンパス内における感染症防止対策の下で、さらに対面授業を増やしていく意向である。同日に対面授業と遠隔授業を受講する学生のために、通信環境が整備された教室を増加するなどの環境整備も進めている。</p> <p>また、教員に対しては、遠隔授業の一層の質向上のため、様々な授業の実施例を紹介する「オンライン授業に関するシンポジウム」を定期的に関催し、情報共有を図っている。</p> <p>なお、来年度については、コロナ禍の収束が進めば、対面授業を積極的に再開していきたいと考えている。</p>
162	日本医科大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
163	日本歯科大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	感染のリスクを軽減するため。	①ほぼ全員理解	学生へのアンケートの結果及び学生からの問い合わせがないため。
164	日本歯科大学東京短期大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
165	日本社会事業大学	東京都	私立大学	②併用	①ほぼ対面			
166	日本獣医生命科学大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
167	日本女子体育大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
168	日本女子大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>・学生とご家族の安全を第一に考えたこと。</p> <p>・学生同士でコミュニケーションを取ることでできる手段や機会を提供するために、後期授業開始前9月に、感染予防を徹底した上で、各学科で1年次を対象とした交流会を実施。</p> <p>・教育効果を認めることが困難な一部の実験・実習などの科目は面接授業を行う。卒論や修論、博論、それに伴う演習等を対面で行うことができる。</p> <p>・大学においては学生に不利益が生じないよう、十分な準備とサポートを実施する。（遠隔授業に対するアンケートの実施及び要望等への対応を検討するための分科会設置・対応の周知、担当者への依頼、所属学科アドバイザーによる十分な支援を実施）</p> <p>・前期授業が遠隔授業のため、地方に在住であった学生、海外から入国できない学生への配慮を行った。</p>	②大多数が理解	<p>○学生の理解についての認識の理由</p> <p>8月までにとりまとめた学生からの意見・要望をふまえて、学修及び学生生活両面の支援体制（学修支援分科会及び学生支援分科会）を整備していること、その結果を学生及び教員双方に公開し、改善策を示した。</p> <p>後期は、各授業に最適な遠隔授業の方法の検討、課題の出し方・質問への対応に関して後期授業担当者に依頼等を行い、10月時点では学生からの個別の問い合わせも少なくなっているため、やむを得ない状況としてある程度理解・納得が得られていると思われる。</p> <p>対面授業に関する配慮の有無の調査の結果、対面授業を希望しない学生も一定数おり、それらの学生へ配慮しなければならなかった。</p> <p>【アンケート調査実施概要】 全学生対象「遠隔授業に関する学生アンケート」7月31日～8月8日実施 学長によるメッセージとあわせて、アンケート結果の公表 9月30日</p> <p>○今後の取組方針等</p> <p>・2020年度後期授業については、対面授業の追加申請期間を設定し受け付けている。</p> <p>・2021年度授業実施方針については、2020年11月に以下の方針を決定し、教授会への報告及び説明会を実施した。</p> <p>学生及び教職員の安全を第一に優先し、対面授業科目と遠隔授業科目とのハイブリッド型の授業形態とする。</p> <p>感染症対策等をしながら可能な限り対面授業の実施を目指し、2021年度後期にはコロナ収束の状況を判断して、対面授業科目の割合を引き上げる場合も想定し、時間割編成方針は前年度策定した内容を継続する。</p> <p>※全体の対面授業科目割合は約50%前後とし、各学科・専攻毎の対面授業科目割合においても約50%前後の実現に努める。感染状況によっては、対面授業科目割合を引き下げる場合もある。</p> <p>※対面授業は、原則として全授業回を対面とする。</p> <p>※対面授業に参加できない学生に対しては、対面授業をライブ配信するなどの配慮を行う。</p>
169	日本赤十字看護大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生に対しては、後期ガイダンスで次のとおり説明をしております。</p> <p>本学は看護系大学であることから実習・演習の対面での実施を最優先に後期の授業運営を検討した。技術演習の授業や学内実習は、身体を使う技術を学び、患者とコミュニケーションをとりながらケアを考える学習であるため、身体接触の機会も多くなり、その中で感染対策を徹底する必要がある。そのため少人数で多くの教室を用い、かつ多くの教員による指導体制で授業を実施する方針とした。</p> <p>その結果、本学の施設規模では、感染対策を講じた上で使用できる教室数や対面授業を実施できる環境上の制約が生じている。また、本学の所在地は東京都渋谷区及び埼玉県さいたま市で感染リスクの高い地域にあり、越県での通学者も多いため、通学上の感染リスクも存在する。学生へのアンケート結果や意見からは、通学による感染リスクを懸念する声も聴かれた。</p> <p>これらの状況を踏まえて、さらに秋から冬にかけての感染動向を推測しつつ、安全にかつ教育の質を維持するための対策として、まずは技術演習および実習の授業が実現できることを優先し、対面授業が可能な教室数などの大学の設備環境を考慮して、週1から2回の対面授業を実施することとした。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、学生の疑問や質問を誰でも発信できる方法として「WEB目安箱」を設置して、メールで意見や質問ができる体制としています。後期開始前に、ガイダンスを実施し、大学の方針と具体的な授業や実習の進め方、感染予防策などを各学年に説明し、質疑応答の機会も設けました。</p> <p>その後のWEB目安箱の意見、および直接対面授業を担当する教員からの反応によると、現状の授業形態そのものについての意見や質問はほとんどないため、大多数の学生は説明内容について理解しているものと認識しています。</p> <p>*本学は看護系大学として実習・演習を優先に考えてきました。本学では8月末から1月末までほぼ毎週何らかの実習を行っています。現在、臨地での実習は一部受け入れを再開していただいておりますが、未だ受入が難しい施設においては学内での実習を実施しています。実習は一日単位で行うため、多くの教室を実習の為に確保する必要があります。演習も密を避ける対策から例年以上の教室を使用しています。このため、講義科目においては全面的な面接授業の実施が難しい状況となっています。以上から授業数の割合でいえば3割程度という回答をしましたが、教室の稼働率自体は例年並みとなっています。</p> <p>*今後の取組方針は次のとおりです。</p> <p>①対面授業と遠隔授業を組み合わせるハイブリッド型教育の実施、②両看護学部（広尾・大宮キャンパス）とも対面授業の増加、③2020年度方針を継続した感染症対策、以上を基本方針として感染動向に即して対面授業と遠隔授業を活用した安全、かつ教育の質の維持に努めます。</p> <p>具体的には広尾キャンパスでは今年度後期の対面授業実施の評価・振り返りに基づき、日によって学年の半数を登校日、もう半数を遠隔受講日とすることにより現在よりも多くの科目で対面授業の機会を増やすように検討しています。それにより各学年で60%から70%程度の対面授業を実施できるように検討中です。大宮キャンパスでは対面授業日を1日増やすことにより、60%から70%程度の対面授業を行えるよう検討しています。実習についても臨地での実施が可能となるように実習施設と交渉を進めているところです。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
170	日本体育大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>後学期の授業展開については全学生対象「インターネット通信環境(2回目)及び遠隔授業に関するアンケート」(7月27日～8月2日実施)の結果を踏まえて検討した方針を策定した。</p> <p>また、全国から集まる学生の居住環境等の準備期間等も考慮して、局長通知に先んじて、8月7日に学生に対して「後学期授業について(授業展開、履修、環境整備等)」を周知した。</p> <p>主な内容は、新型コロナウイルス感染者数が連日最高を記録するなど、日々情勢が変化する状況を鑑み、後学期については、感染防止対策を十分に講じた上で、2つの授業展開パターン(非対面式で15週(回)行う授業と、シラバス上対面式で実施する必要がある週(回)は対面式で行いその他は非対面式で行う授業)で授業を実施すること、対面式で行う授業(回)においては、非対面式も併行して実施することを継続すること、情報通信環境の整備については本学から既に支給している「緊急支援金」等を活用して準備を願うこと、などである。</p> <p>なお、各授業の授業展開パターンと授業の詳細については9月7日から学生に周知し、9月16日からシラバスにも明示して、各自準備を依頼した。</p> <p>問5において「⑤ほぼ遠隔」と回答しているが、各15回の授業の内、1回でも面接授業を行うものは3割程度ある。</p>	②大多数が理解	<p>担当部署に保護者、学生等から個別の確認はあるものの、全学生対象「インターネット通信環境(2回目)及び遠隔授業に関するアンケート」(7月27日～8月2日実施)の結果を踏まえると、遠隔授業の授業形態について、全部または併用が望ましいと回答している学生が8割以上であることから、大多数の学生が了解していると考えられるため。</p> <p>来年度は、各授業の履修者が、教室の収容定員の半数となるよう時間割を設定するなど、すべての授業について対面で実施することを前提に準備を進めている。</p>
171	文化学園大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
172	文化ファッション大学院大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			
173	文京学院大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生・教職員およびその家族の健康面への配慮を最優先としている。後期からは、大多数の学生が週1回程度、登校して面接授業を受けられるように工夫している。</p>	②大多数が理解	<p>前期終了時に遠隔授業に関するアンケート調査を実施した。その結果、後期も遠隔授業を続けても良いとする肯定的意見が多かったため。</p> <p>次年度からは50%以上の割合で対面授業を実施予定。</p>
174	法政大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>公式ホームページを通じて、新型コロナウイルス感染症の感染者数の状況及び政府や1都3県等の自治体からの要請を踏まえて、本学における「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」に基づき、判断した行動方針レベルに応じた教育活動を行うことを説明している。</p> <p>また、公式ホームページを通じて、新型コロナウイルス感染症の感染者数の状況及び政府や1都3県等の自治体からの要請を踏まえて、本学における「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」に基づき、判断した行動方針レベルに応じた教育活動を行うことを説明している。また、現時点における行動方針レベルをレベル2と決定し、原則として授業は、オンライン授業で実施すること、ただし少数受講生の講義、演習、実験・実習は、感染防止に最大限注意して対面により実施することができると説明している。特に卒業研究、卒業論文指導などは科目としてカウントされないが、対面指導の必要性が高いものについて優先的に対面での活動を実施していることについて、指導教員から指導学生に対して説明している。</p>	②大多数が理解	<p>オンライン授業に関する学生対象調査や各学部等で実施した調査の結果において、学生が本学のような大規模大学においてオンラインを中心とした授業を実施していることやオンライン授業形態については、肯定的な意見も多く、一定の理解を示していることが確認できた。また鉄道混雑時の通学への懸念や、自身や同居家族の健康上の状況からオンラインでの受講保障を求める声も少なくない。学生から不満や問題点として指摘されている事項の大半は、オンライン授業という授業形態のものに対するものというよりも、オンライン授業の運営方法によっては教員とのコミュニケーションが取りにくいことであったり、授業中の通信の不調に対する配慮の不足などに対するものであって、オンライン授業をやむを得ないと受け入れつつ、オンライン授業の運営改善を求めているものと受け止めている。ただし、特に1年生からは入学以来キャンパスでの学生間の交流の機会が確保されておらず、学生間の人間関係形成ができていないという訴えが強く、4年生からは卒業論文や卒業研究の取り組みが遅れてしまうとの訴えが寄せられている。1年生に対しては授業外の登校機会を確保するため、キャンパスでの新入生歓迎企画を実施し、4年生の卒業研究、卒業論文指導については研究室への登校人数を調整するなどの感染予防策をとりながら対面での活動をすでに再開している。</p> <p>また一部のキャンパスでは感染予防に留意しながら大学祭も対面で開催した。大学祭では、体調に異変を感じた方に来場を見送ってもらうこと、マスク・消毒・ソーシャルディスタンス・換気を徹底してもらうこと、食事中の会話を控えてもらうこと、会食・飲み会を行わないこと等の感染予防対策を講じて実施した。学生もこうした基本的な感染対策の意識を持って実施した結果、大学祭が開催されて既に三週間以上経過したが、大学祭に関わった学生・教職員等からの感染報告はなかった。</p> <p>なお、2021年度における授業の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ対面授業を基本に展開していくものとし、実施に向けた準備を進めている。準備にあたってはカリキュラムや授業科目の特性を踏まえたうえで、対面とオンラインを組み合わせて実施するハイブリッド型授業、対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業、オンデマンド授業の導入等、近い将来に実現しうる新しい教育活動を想定しつつ、柔軟な授業設計を積極的に取り組んでいく予定である。2020年度において授業実施方法等に係る様々な経験知を高めてきたところであり、2021年度はこの経験知を最大限活かすとともに、オンライン教育の質保証に取り組んでいく。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
175	星薬科大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	(本学は東京にあり) まだ新型コロナウイルスの感染が収束しているとは言えないため、学生の皆さまへの感染防止を考慮して、実習や卒論指導など対面で実施することが必要な科目以外の授業は、原則としてオンラインで実施します。	②大多数が理解	全学生を対象としたアンケートを実施し、4分の3の学生から回答を得ており、オンライン授業への満足度は7割程度、授業の理解度も同程度であるとの回答を得ています。 なお、2021年1月下旬以降実施の後期試験については、原則として登校して受験することとしており、また、来年度の授業は、一部オンラインを活用しつつ、3密を避けて対面で実施することを予定しています。
176	明星大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	明星大学では、本年3月24日時点で『学生及び教職員の生命及び身体の安全確保を最優先とする。』『学生の学修の機会を保障する。』という二つの目標をともに高い水準で達成することを基本方針として掲げ、本年度前期の教育活動・学生活動等を実施してきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の終息が見込めないことから、本年度後期も原則として遠隔授業を中心に学事進行の旨を7月中旬に決定し、学生への周知を図った(本学の修学支援システム「勉天」にて、7月21日【重要】2020年度後期の授業について)及び同日「2020年度後期学事日程(スクールカレンダー)の変更について」。その後、学生及び保護者に対して都度周知(「勉天」にて、8月15日【重要】2020年度後期「対面による授業実施科目」について)、同9月12日【重要】2020年度後期 対面授業の試行について)、同10月19日「対面授業の試行の拡大および学内での遠隔授業の受講教室について」を進めるとともに、9月初旬には本件に関する学長によるメッセージ動画を配信し、説明を行っている。主な周知、説明内容は以下の通り。①本学は、『学生及び教職員の生命及び身体の安全確保』を最優先事項としており、新型コロナウイルスの感染状況から、対面授業の大幅な増加は見込めないこと。②対面授業を実施している小学校、中学校、高等学校と比較して、大学は学生数をはじめ学校規模が大型であること、学生の通学時間や移動距離が長いこと、学内における学生同士の接触機会・人数が多いことなどの理由から、学内におけるクラスター発生が社会に甚大な影響を及ぼす事態を回避するために、対面授業の実施判断は慎重に行う必要があると考えていること。③遠隔授業継続にあたり、導入済みのLMS(Learning Management System)機能の拡大、Zoomアカウントの増加、またパソコン貸与などの措置を講ずるとともに、前期の授業アンケート結果を反映した授業の質の向上に向けた取り組みを進めること。④一方で、前期の経験を活かして、十分な感染防止対策を施すことを前提に、キャンパスで学べる時間を増やせるよう対面授業を計画的かつ段階的に拡大していくこと。⑤教育活動の段階的な拡大に向け、来校者の検温体制を整備するとともに、キャンパス内でも遠隔授業を受けられるように学内のWi-Fi環境の高度化を進めるなど、安心して学べる環境整備に取り組んでいること。⑥これまでの教育活動を通じて、本学では遠隔授業が教育手法として非常に有効な手段であると捉えており、対面授業による学修とオンラインによる学修を組み合わせることで、新たな教育効果を生み出せるよう、2021年度以降をも見通して、授業運営方法の開発に取り組む計画でいること。また、学内において対面授業と遠隔授業とを両立させるために、学生のためのICT環境を整備することについて、学内会議にて教職員が共有し、学生に案内するとともに、一人あたり3万円の『オンライン授業等学修環境整備に関する奨学金』を6月に開始し、7月にはすべての在学学生に対して給付し終えた。その後、更なる支援策を講じ、新型コロナウイルス感染症の直接的・間接的な影響で家計が急変した世帯の学生を対象に、経済的困難を緩和し、修学を継続できるよう、新たに2種類の修学支援緊急奨学金制度(「明星大学エル奨学金」・「明星大学サポート奨学金」)を創設した。「明星大学エル奨学金」は10万円を給付、「明星大学サポート奨学金」は、既存の「明星大学学修支援緊急奨学金(4年生枠)」制度を学部4年生に限らず、その適用を学部1~3年生および大学院生まで限定的に拡大し、30万円を給付する制度となっている。その他、前記の「明星大学学修支援緊急奨学金(4年生枠)」の追加募集を行い、家計の急激な変化などによって困難に陥り、修学の意志があるにも関わらず学費納入が困難となった学部4年生を対象に、年間学費の半額を減免することとしている。	②大多数が理解	①後期授業開始(9月14日)に合わせ、本学では2021年度以降の授業運営の在り方も想定して『試行授業』という名称で、一部の科目について対面授業を実施している。②その後、Wi-Fi環境の高度化など学内の環境整備が進んだことから、10月19日から学内施設の使用制限を徐々に緩和するとともに、『試行授業』の実施を拡大し、対面授業の実施数を増やしつつある。③学生からも対面授業を希望する意見がある一方で、Workplaceを利用した本学の学生間の自由な意見交換の場において、「対面授業の実施にあたって慎重に対応する大学の姿勢」や「後期授業開始時点で示した遠隔授業を中心とした授業運営方針を維持する姿勢」に対して一定の評価をする意見も寄せられており、その意見に同意する学生も少なからず存在することも確認している。④保護者に対しては、本学の保護者会の会報において、新型コロナウイルス感染防止対策や今後の対面授業の拡大に向けての考え方について、5月の段階で学長が説明し、理解を求めている。先般は授業形態の今後等について、学長が保護者会の会長と対談し、説明の上、賛意を得た。その内容も保護者会の会報で周知する予定である。また、保護者会からは、次年度以降も活用できるノートパソコン200台、サーマルカメラ6台などの支援もいただいている。⑤このように明星大学は、コロナ禍の中で、学生、保護者と教職員が一丸となって、次年度以降を見据え、基本方針を順守しながら対面授業の計画的増強に向かっていく。⑥後期授業開始当初は、対面授業の実施を求めた声も寄せられていたが、徐々に対面授業実施数が増加傾向にあること、また11月中旬からはさらに対面授業の実施を拡大する方針であることを明示したこともあり、本件に関する問い合わせ等は減少に転じている。これは前期の経験に基づく学生と教職員の創意工夫の結果であり、中長期的な視点から、今後こうした協働を促進し重視していく方針である。⑦明星大学は、2021年度授業の質的向上に焦点を合わせた取組みとして、今年度の遠隔授業や対面授業の評価をはじめ、学内Wi-Fi環境の整備、学生へのノートパソコン貸与、通信料補助等の教学上の評価を、2020年12月から2021年1月にかけて学内委員会で精査し、2021年度の授業運営のあり方とともに、教育改革に向けた学習データの分析・活用策を決定することとしている。⑧また、学生の定期的な通学が困難となり、大学生としての人間関係を構築できずに自己確立に不安を持つ学生が存在するため、そうした学生をフォローする取組みとして、学生の修学や学生生活が来年度に円滑に繋がるよう、今年度後期授業終了時から来年度授業開始時までの期間を大学生としての意識と意欲の維持・向上期間とし、とくに1年生の大学との関係を深める施策を上級生の協力も得て実施する予定である。⑨以上のことから、本年度後期における最終的な対面授業実施数は全開講科目数の2割程度になるものと見込まれるが、学生の生命と身体の安全確保を最優先としつつ、本学が将来の新たな教育手法の在り方を見据え、対面授業と遠隔授業の融合への取り組みを計画的に進めていることも含めて、概ね理解を得られているものと考えられる。対面授業の実施のみに留まらず、遠隔授業も組み合わせるより効果的な教育手法を生み出すべく、今後も試行授業の実績を重ね、明星学苑の教育方針『人格接触による手塩にかけた教育』をさらに高い水準で実現できるよう努めていきたい。
177	武蔵大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	高校とは授業の形態や規模が異なっており、感染が大規模に広がる危険があるため。	②大多数が理解	対面授業を行う科目数が100を超え、図書館の通常開館や自習スペースの開放等によって学生の理解が深まり、苦情も大幅に減っていることから現行のままの対応を続けており、現下の首都圏の急激な感染拡大も考慮している。2021年4月からは原則、対面授業とする方針である。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
178	武蔵野大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>武蔵野大学は、令和2年7月15日に、原則として後期（3・4学期）もオンラインを中心とした授業を進め、対面授業は、学内外での実験・実習・実技などの諸活動に限定する方針を大学ホームページで公表いたしました（https://www.musashino-u.ac.jp/news/20200715-02.html）。以下に、オンライン授業を継続するに至った理由を説明した箇所を抜粋して記載いたします。</p> <p>「現況では、本学学生や教職員、その家族から、新型コロナウイルス感染者がいつ出てもしばらくはない状態にあります。後期以降、キャンパスにおける対面授業を全面的に実施して学生または教職員の感染が判明すれば、一定期間の建物・キャンパスの閉鎖や臨時休校等の措置を講じることも必要となります。また、本学関係者が濃厚接触者となって自宅待機を余儀なくされる場合、緊急事態宣言が再発される場合等、様々な可能性を想定する必要があります。事態の長期化が予測されるこのような状況下で、対面授業の再開にこだわれば、逆に学修の空白期間を生じさせる事態に繋がりがかねません。後期もオンライン学修を継続するという決定は、大学として、学修を確保するために何が最善かを考えた末の総合的判断とご理解いただければ幸いです。」</p> <p>令和2年9月14日には、後期の授業方針を更新し、オンライン授業を中心として、1年生を優先して対面機会を設けられるように調整する方針を大学ホームページで公表いたしました（https://www.musashino-u.ac.jp/news/20200914-04.html）。以下に説明した箇所を記載いたします。</p> <p>「対面授業に関しては、今日においても、首都圏における新型コロナウイルス感染者の発生状況は依然として深刻であり、全面的に再開するにはリスクが大きすぎると考えています。7月15日に発表した「【重要】後期（3・4学期）の学修（オンライン授業の延長）について」のとおり、原則として後期（3・4学期）もオンラインを中心とした授業を進め、対面授業は、学内外での実験・実習・実技などの諸活動に限定する方針です。</p> <p>その一方で、授業アンケートに寄せられた対面授業再開への要望、特に1年生が一度もキャンパスでの学修を体験できていない事態に鑑みれば、後期は、オンライン学修を継続しつつも、実験・実習科目などに加え、一部の科目だけでも、対面学修の機会を少しでも提供することはできないか、その可能性の模索が必要ではないか、という認識に至りました。</p> <p>また、本学が所在する東京都は、9月10日、新型コロナウイルスの感染状況の警戒レベルを、4段階中最も深刻な「感染が拡大している」から、「感染の再拡大に警戒が必要」に一段階引き下げました。社会全体が、徐々に新型コロナウイルスとの共存を前提とした活動を再開するなか、新規の感染者数が減少傾向にある現状を考慮すれば、大学の授業運営方針も緩やかに修正していく必要があるでしょう。通学制大学は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらも、先の見えない大学生活への不安や孤独が学生の心身に及ぼす影響にも配慮する必要があると考えます。そこで、まずは3学期、1年生を最優先に、一部の科目において、対面授業を希望する学生がオンライン授業か対面授業かを選択できる仕組みを段階的に整える予定です（学科ごとに総合的に状況を判断して対象科目を選定）。</p> <p>そのうえで、今後の首都圏の感染者状況、学部学科単位での通学日の調整、図書館や食堂など学内施設の利用法を慎重に検討していけば、たとえ学期中に数回ではあれ、三密回避対策を講じたキャンパスで学修する機会を提供できるのではないかと考えています。状況が許せば、段階を踏んで、2年生以上の科目においても、対面を実施する機会を整備する予定です。当然ながら、これは対面授業への参加を義務付けるものではなく、通学が難しい学生の皆さんの事情を考慮し、対面授業の実施機会を設ける科目においても、オンラインのみで履修可能な運用を継続します。後期もオンライン学修を原則としながら、一部の科目で対面授業再開の可能性を模索するという決定は、大学として、本学学生と教職員の健康を最優先に考えつつ、学修を確保するために何が最善かを仔細に検討した結果です。武蔵野大学は、教職員総力を挙げて、今後も学生の皆さんの「学修の機会」と「教育の質」を最大限保証できるよう尽力いたします。」</p> <p>令和2年11月16日には、4学期の授業方針を更新し、令和2年9月14日に公表した「令和2年度後期の授業について」の方針を踏まえつつ、十分な感染防止対策を講じながら、対面授業を少しずつ拡充していく方針であることを大学ホームページで公表いたしました（https://www.musashino-u.ac.jp/feature/news_201116.html）。以下に説明した箇所を記載いたします。</p> <p>「令和2年9月14日付「令和2年度後期の授業について」でもお知らせしたとおり、本学では3学期より1年生を最優先に一部科目において、対面授業を行ってまいりました。皆様のご理解とご協力により、これまでのところ、大きな混乱もなく対面授業等が実施できていることに心より感謝いたします。4学期につきましては、十分な感染防止対策を講じながら、対面授業を少しずつ拡充していく方針です。また、それに伴い各施設や課外活動なども開放に向けて徐々に制限を緩和いたします。」</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底しながら、対面授業が中心になるよう、現在、計画を立てています。一部の科目についてはオンラインで授業を行う予定ですが、学生がキャンパスで学べる環境を提供できるようにいたします。</p>	<p>令和2年度は、学生に1・2学期の授業アンケートを実施して、その結果を大学ホームページで公表いたしました（https://www.musashino-u.ac.jp/news/20200914-01.html）。</p> <p>授業理解度は前年の通常授業時よりも高い結果となりました（75.7% 昨年度比+8.2ポイント）。また、学生からは、「授業の説明や質問対応が丁寧」「自分のペースで学修を進めることができる」「より深く学ぶことができるようになった」等、オンライン学修に対するポジティブな意見が多く寄せられました。</p> <p>また、グループワークでは「オンライン上での共同作業の仕方を学べた」「クラスメイトとコミュニケーションを取ることができて良かった」等、双方向性を活かした授業運営が評価されていました。これらから、学生の自律的な学修の様子がうかがえ、そして本学におけるオンラインを中心とした授業が一定の教育効果を上げていることの証しだと受け止めております。</p> <p>前期と比較して後期の方針についてのお問い合わせ件数は減少傾向となっておりますが、対面とは異なるオンラインゆえのコミュニケーションの難しさなどの課題も寄せられておりますので、個別意見も含めてアンケートの結果を全学科で共有し、指摘を受けた課題への対応を中心に、さらなる授業の改善に繋がるよう、大学としてこれからも最善を尽くしてまいります。</p> <p>令和3年度は、対面授業として開講する科目の割合を増やしていくため、令和2年度と比較して対面授業の実施割合は高くなります。一部の科目はオンラインでの実施となりますので、令和2年度中にオンライン授業として教育効果が得られた実施方法を活かしながら、令和3年度に学生の皆さんにより良い学修環境をご提供できるように最善を尽くしてまいります。</p>	<p>②大多数が理解</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
179	武蔵野音楽大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			<p>秋学期の授業運営方針を公表後、また実際に授業が開始されて以降、常設の問い合わせフォームに寄せられている声（4/16開設以降現在まで約13,000件）を見ると、より多くの対面授業の開設を望む声や現状の大学の対応を不満とする声は、それ以前と比べて非常に少なくなっている状況です。</p> <p>その理由のひとつには、オンライン授業に一定の満足度があるということ、対面授業への参加を様々な理由で敬遠する学生が一定数いること、1年生には対面授業の実施に限らず様々な登校機会を設ける工夫を行い、学生間の横の繋がりができてきたことなどが考えられます。</p> <p>これまで、全学生に対して春学期授業開始3週間経過後及び春学期授業終了時の2度のアンケートを実施（第1回9,676名、第2回7,230名が回答）しており、2回目のアンケートでは、オンライン授業の各形態別の満足度に加えて、学部生に対して「来年度以降、一部の授業をオンライン形式で実施して欲しいですか?」「秋学期に対面授業を実施して欲しいと思いますか?」という問いを設けました。（学生アンケート結果については以下URLをクリックください。） https://www.meiji.ac.jp/koho/questionnaire.pdf</p> <p>その結果、オンライン授業の満足度については、オンデマンド型（満足度82%）、リアルタイム配信型（満足度78%）、資料・課題提示型（満足度59%）の順に満足度が高く、資料・課題提示型については改善の必要性が浮き彫りになったものの、授業を何度も見返せることで理解が深まるといったオンライン授業のメリットが数多く挙げられるなど、総じて満足度の高い結果となりました。</p> <p>また、今秋学期や来年度以降について対面とオンラインそれぞれの授業の実施をどのように希望しているのかについては、いずれも1年生と2年生以上で回答に差があり、1年生は対面授業を望む声が多く、一方で上級生ほどオンライン授業に肯定的な考えをもっていることがわかりました。</p> <p>これらの結果を踏まえて、引き続きオンライン授業の課題改善に取り組むとともに、学生により多くの対面授業や登校機会を提供するよう全学方針を各学部等に示し、現在はこれを実行に移しているところです。</p> <p>特に1年生には、より多くの登校機会を設け、学生同士の繋がりを、友人作りを支援していくために、秋学期授業開始前、開始後に対面形式での新入生ガイダンス、対面交流会といった行事を各学部で実施し、新入生が大学生活を実感し、キャンパスに馴染み、そして友人とともに学んでいける環境作りを力を入れてきました。これらの取り組みについては、学生からの喜びの声を数多く聞いています。</p> <p>このようなアンケート結果と大学の対応に対する一定の理解に加えて、大学の特別な事情として、大規模かつ都心型大学であるという制約から、健康と安全を確保し3密を回避しながら対面主体の授業運営に転換することは物理的に難しい状況であるということも、多くの学生が理解していると考えています。オンライン授業の実施を望む学生が一定数いること、感染へのおそれから外出・登校を控えたいという声も数多くあがっていることから見ても、大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得していると考えます。</p> <p>明治大学は、授業以外の面でも様々な工夫を取り入れ、学生の学びを後押ししています。以下は取り組みの一例ですが、コロナ禍にあっても学生の学びを止めない、大学としてできる限りの様々な支援を行うことを全学の共通理解のもとに進めています。</p> <p>また2021年度の授業については、今年度の経験を活かし、より質の向上を目指していくとともに、本年12月に実施する第3回の学生アンケート結果も踏まえて運営していきます。</p> <p>【海外留学支援の取り組み】 海外渡航制限により、海外大学への留学が困難な状況の中、オンライン形式による協定留学（派遣、受入）の制度をいち早く構築し、留学を志す学生の希望を尊重する形を取り入れ、留学機会の提供に努めています（2020年秋季学期実績：派遣12名、受入13名、2021年度春学期も派遣、受入予定）。</p> <p>また、短期プログラムでは、夏期にケンブリッジ大学コーパスクリスティカレッジの教員・学生による2週間のオンライン型研修プログラムを実施し（参加21名）、高い満足度が得られているほか、海外の協定校等過去に学生派遣の実績がある研修校のオンライン型研修プログラムを紹介、提供しています。2020年度秋学期には、外国人留学生との学生交流の機会を確保するため、本学学生と協定大学学生が参加するオンラインワークショップ（4日間）を2回実施するなどしており、2021年春学期のオンライン型研修プログラムも実施予定です（11月15日現在6つのプログラムを調整中）。これらの国際交流プログラムの取り組みは、次年度も継続して実施します。 （次頁へ続く）</p>
180	明治大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>これまでに実施した学生アンケートや常設の問い合わせフォーム等を通じた学生からの声では、キャンパスに登校し友人とともに授業を受けたいという声も数多く寄せられていた一方で、感染へのおそれから外出・登校を控えたいという声も数多くあがっており、この両面を第一に考えて、検討を重ねました。</p> <p>結果、学生とご家族の皆さんの健康と安全を最優先し、「秋学期はオンライン形式での授業を中心に実施しつつ、対面での授業を希望する学生の皆さんにそうした機会を少しでも多く提供できるよう、感染防止に留意しながら、対面授業を実施していく」という授業運営方針を決定し、公表しました。</p> <p>その際、学生に対しては、「対面授業の機会が少ないこと」を説明するというネガティブな姿勢ではなく、コロナ禍で様々な制約がかかることがやむを得ない現状の中でも、対面に劣らないオンライン授業を提供し、教育の質の維持向上を目指して大学としてできる限りの努力を行っていく決意を示すことが重要であるとの判断に至りました。学長メッセージでは、上述の授業運営方針を示すと共に、それまで実施した2回の学生アンケートで把握したオンライン授業の課題、実際に学生が困っている声に対して、改善・支援を行っていくことを伝えています。 明治大学HP「秋学期授業について」 https://www.meiji.ac.jp/koho/natural-disaster/6t5h7p000034m2e8.html</p>	②大多数が理解	

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
								<p>国際教育センターHP https://www.meiji.ac.jp/cip/from/index.html 【就職キャリア支援の取り組み】 就職キャリア支援センターによるZoom個別就職相談（11/15現在で7,459件）、オンラインによる就職支援行事（11/15現在で約180回実施、満足度90%超）、就職情報会社等からのイベント情報閲覧を目的としたオンライン掲示板の設置、低学年向けのキャリア支援イベント（内定者による支援、業界理解仕事理解イベント）のオンライン実施など。 就職キャリア支援センターHP https://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html 【明治大学父母会の取り組み】 これまで明治大学が伝統的に力を入れてきた47都道府県での父母懇談会（教職員が現地を訪問しての懇談会）について、コロナ禍を考慮して今年度は父母Zoom懇談会として実施（大学全体、各学部個別）し、大学役職者から御父母の皆様へ大学の取り組みを説明また直接の意見交換を行うことにより、御父母の理解促進にも努めています。 明治大学父母会HP https://www.meiji-parents.jp/</p>
181	明治学院大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>明治学院大学の基本的な考え方は 方針1 明治学院大学の授業の基本は対面授業であり、秋学期以降においては、その可能性をできる限り模索するというものです。しかし、コロナの今後が分からず、コロナへの警戒心も人によってそれぞれですので、 方針2 コロナの脅威が収まっていない間は、教員・学生の双方に大学への授業に関する出校を強制しないことにいたしました。こうした大学の方針をなるべく早く学生に知らせるために 7月21日 『2020年度秋学期の授業について』 https://www.meijigakuin.ac.jp/news/archive/2020/2020-07-21.html 9月16日 『秋学期開始を前にして』 https://www.meijigakuin.ac.jp/news/archive/2020/QXVy6JpB.html という二通の文書を大学HPで公表しました。上記の方針1と方針2を両立させながら授業を遂行するため、 ア 秋学期に開講される全授業を『遠隔授業』と『対面授業を取り入れる科目』に分け（この段階で教員は遠隔か対面かの選択ができるようにしています）、 イ 次に『対面授業を取り入れる科目』では、学生の側に「遠隔で聴くか対面で参加するか」を選べるようにしました。 このように教員・学生の双方に選択権を与えることで、対面授業という形態を守りながら、「コロナの状況に応じて大学の活動を柔軟に対応させる」ことができることと判断したためです。イを実現するためには、対面授業では遠隔で視聴している学生のために《同時配信》をしなくてはならず、教員側の負担はかなり大きくなります。これは、機器や情報環境を整備する・授業時に学生の補助を手配する（希望する教員のみ）といった対策をいたしました。 面接授業と遠隔授業の比率に対する回答は「3割程度を面接授業で行い」となっておりますが、これはアのステップで、教員側の「対面型か遠隔型か」に対する希望を集計した結果、コマ数比で 対面型：遠隔型が 3：7 程度になったためこのように回答したものです。 明治学院大学でも春学期は全部遠隔で授業を行いました。春学期の終わりに《春学期の授業全般に対する学生の声》をアンケート調査によって集めたところ予想されていた通り、「遠隔授業に対する学生の満足度はかなり低い」という結果が得られました。こうした学生の声に答える形で、春学期の最後に学生に対して発表したものが上記《7月21日の文書》で、ここでは、上記《方針1》と《方針2》について述べ、秋学期には「コロナへの用心をしながら」「対面授業を始める」旨を予告してあります。 ついで、8月初旬には時間割に記載された授業全部について、《対面授業型》で行われるのか、《遠隔授業》なのかを発表いたしました。 そして秋学期の始まる直前に上記《9月16日の文書》を公表して、明治学院大学の授業形態に関する方針を繰り返したうえで、秋学期の授業について少し細かく記載してあります（実施要項は教務部より別に発信した）。 こうした一連の発表により、学生あるいは保証人に対して「明治学院大学の秋学期の授業がどういった方針の下で行われようとしているのか、それはどのような手段によっておこなわれようとしているのか」について、ある程度説明をすることができていると考えます。</p>	①ほぼ全員理解	<p>学生が授業の形態等について理解しているか、という点については、学生への説明内容の項目で述べたような「かなり複雑な授業形態」に対して学生が正しく反応したか、つまり、秋学期中の授業遂行に際してトラブルや混乱はなかったか、これをみればある程度まで学生の理解度は測れると考えています。 そして、秋学期中、本学では授業形態や授業遂行について、ほとんど支障はありませんでした。最も気になるのは、「コロナを用心する学生が対面授業を遠隔でも視聴できる」という《ハイブリッド授業》の利点を、学生が理解してこれを活かしたかという点ですが、これは非常に多くの授業で活用されていました。ハイブリッドの採用によって、対面授業を続けたいという本学の意図は理解してもらえたものと考えています。 学生が授業の形態について納得しているか、という点については、《秋学期の授業アンケート》を実施するのがこれからのので（12月中旬にオンラインで実施します）、正確な割合はまだ把握していません。ただ、秋学期中もコロナが収まる心配がなかったこともあり、「今の時期、これしか方法がないことは理解・納得できる」と考える学生が大半ではないかと思えます。 大学側にとって、学生が授業形態について納得していない場合、しばしば苦情という形で広報部や教務部に伝わってくるのですが、本学の場合、こうした授業形態への苦情が10月以降、ほとんど寄せられておりません。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
182	明治薬科大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では緊急事態宣言が発出された前期の令和2年4月22日以来、合計3回に渡り在學生及び保護者に対して授業関連の情報提供をおこなっています。後期授業については、令和2年9月14日に、学長名で「学生の皆さんへ」と題して学内メールシステムにより、以下の内容を周知しています。</p> <p>「現時点で首都圏の新規COVID-19患者減少傾向にあるものの第二波流行は終息していません。いわゆる夜の街に關係する感染者は減りましたが、依然として20~30代の感染者は高い状態にあり、高齢者と家族内感染者の比率が増加しています。このような状況を考え、学部および大学院学生の皆さんの後期教育活動は以下のように予定されていますので、あらかじめ準備をお願いします。ただし、新型コロナウイルス感染の状況により内容が変更となることもありますので、常に大学からのメール、ホームページでの案内を確認するようにお願いします。</p> <p>記 1) 学部授業、実習、研究活動実施の基本方針について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業について 後期の授業は学生及び同居者の安全を考慮して遠隔授業（オンライン授業）と課題提出で行います。 2. 定期試験について 後期の定期試験は、6年生が11月下旬、薬学科4年生が12月上旬、その他の学年については、令和3年1月20日（水）から1月28日（木）までを予定しており、原則として通常通り大学教室で筆記あるいはマークカード形式で行う予定です。ただし、前期と同様に三密状態を避けて実施します。科目によっては課題やレポート提出による評価になる可能性もあります。また、前期の追再試験は12月中に行う予定です。試験の詳細についてはmy-portより随時お知らせします。 3. 学部学生の实習について 1年生から4年生の实習は10月6日（火）より開始する予定です。実習の詳しい日程については該当する学生にmy-portより連絡します。実習室を使い、通常の半分の人数以下で実施します。集合実習の回数は例年より減らし、可能な内容については動画配信で行う予定です。マスクの着用を義務付けますので準備をお願いします。 4. 4年生の卒論研究について（薬学科、生命創薬科学科） 各配属研究室が定める3密を避けたスケジュールで実施します。登校日程は各配属研究室の主任教員と学生による調整に基づき決定されます。 5. 5年生病院・薬局実習について 実習先や日程が変更になった学生も多くなりますが、病院や薬局で実習を行い、各実習期の学内報告会も三密状態を避けて実施します。 6. 6年生国家試験対策について オンデマンドの遠隔授業で行いますが、模擬試験などは学内で実施します（日程はmy-portより連絡します）。 7. 以下、略」 	②大多数が理解	<p>本学では、本年度前期の定期試験を9月初旬に、COVID-19感染対策として3密回避、検温の徹底、必要な消毒の実施等を行ったうえで講義室での対面方式により実施しました。その際、一部の学生および保護者の方から、対面方式での定期試験実施にたいして苦情が寄せられました。</p> <p>内容としては、(1)東京都内の通学経路を利用するため通学時の混雑により感染リスクが高まる事への不安を感じるにも関わらず、単位取得のために出席を強制されること、(2)学生本人が通学中に感染すると、同居している高齢者家族や重症化リスクが高い疾患を持つ同居家族に家族内感染を起こすリスクがある事等でした。これらの事由による欠席は成績で不利にならないように追試験受験を認めましたが、苦情の件数は想定より多数かつ深刻でした。学生アンケートでは登校して集合授業を希望する声もある一方で、オンデマンド授業を中心に後期を開講することを評価する意見も認められました。</p> <p>現時点では、都内の感染状況は収束に向かう気配が見られず、学生と保護者、教職員、関係者の健康を優先すべきであり、オンデマンド授業を中心に後期を開講するのが妥当であるとの判断です。</p> <p>また、本学では、キャンパスへの入構制限や授業、試験への対応をホームページに公開し情報提供に努めていますが、情報の一方通行に終わらぬよう、教員と在学生の保護者組織である後援会の役員会とのWeb意見交換会、前期成績などに関する学習指導を希望する保護者を対象としたWeb相談会、学生へのアンケート等を適宜企画、実施しています。これらの結果を踏まえ、集合授業による感染リスクと集合授業の利益のバランスを考慮して今後の本学の対応方針を定めていく所存です。</p> <p>なお、感染予防を行いながら対面授業を可能な限り確保するため、本学の多くの講義室について、授業の同時配信システム（ハイブリッド講義システム）の導入を行うために同窓会を通じて「新型コロナ禍における寄付」を募りました。これを原資として、令和3年度初頭から施設整備の工事にまいります。これにより令和3年度から5割以上の対面講義が確保される計画です。</p>
183	目白大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>下記の説明を、学長から全學生に向けて行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの遠隔授業では、全ての先生方と学生の皆さん一人一人が、共に新しいスタイルでの授業に取り組んできましたが、その中で、今まで対面で行われてきた授業だけでは見せなかつた、新たな教育の在り方やその効果も見えてきており、今後の教育に向けての指針となることが期待されます。ここまで続けてきた遠隔授業を、目白大学・目白大学短期大学部共通の財産として一層確かなものとしたいと考えています。 ・一方で、新型コロナウイルスの感染状況は拡大の勢いが止まらず、誰もが不安を抱えていることと思います。全面遠隔授業になったことで、通常の大学・短大生活を送ることができず、不自由な思いをしながらも、多くの皆さんが熱心に授業に取り組んでくれたことを嬉しく思います。特に1年生の皆さんは、楽しみにしていた大学・短大生活を送ることができず、孤独感や将来への不安を感じることもあったと思いますが、一生懸命に頑張ってくれました。首都圏を中心とした感染状況の拡大や教育上の必要性等を鑑み、また皆さんの思いも受け止めながら、大学・短大として検討してきた秋学期の授業実施の基本方針をお伝えしたいと思います。 ・秋学期は、原則として遠隔での授業を継続しますが、遠隔での授業実施が困難な科目を「面接授業」で実施することとします。とくに「講義・演習科目」は原則「遠隔授業」となりますが、実技指導や学内外での実習が必須である「実技・実習科目」は、対面での授業を再開することとします。その場合は、十分な感染防止措置を講じた上での実施となります。 	②大多数が理解	<p>本学では2020年度春学期は全面的に遠隔授業とした。学生が授業内容に満足し、十分に学修したかどうかを検証するため、2020年度春学期授業全科目についての授業評価アンケートの結果を集計した。</p> <p>その結果、「総合的にこの授業は満足だ」に対して「あてはまる(42%) +ややあてはまる(34%)」であり、「授業の内容は今後役立つと思う」に対して「あてはまる(49%) +ややあてはまる(31%)」であった。これは全面面接授業の2019年度とほぼ同じ水準であった。したがって、本学で実施した遠隔授業に対し、学生は満足し、十分な学修が行われたものと判断した。</p>
184	ヤマザキ動物看護大学	東京都	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
185	山野美容芸術短期大学	東京都	私立大学	②併用	④3割対面	新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が未だ減少傾向とならないこと、多くの新規感染者が発生している地域であることなどを鑑み、後期授業に関しても原則同時双方向型の遠隔授業を継続するが、実習を中心とした一部授業を面接授業で実施することとした旨、学生へ周知・説明した。	②大多数が理解	前期授業評価アンケートの結果、オンライン遠隔授業において面接授業と概ね同等の内容であったとの意見を聴取している。加えて、後期も同時双方向型の遠隔授業および一部の面接授業を実施する旨を学生に周知・説明したが、オンライン遠隔授業に関する問い合わせはごく少数であった。これらのことから、オンライン遠隔授業については、一定の学修効果が得られていると判断している。 また、同時双方向型の遠隔授業で一部美容実習系科目についても対面授業と質的に同等の教育効果を確認することができている。今後は、新型コロナウイルス感染症の動向に対応できるよう実習系科目において、さらに遠隔授業の質の向上を図るとともに充実させ、学修の質を継続的に担保する体制を整えたい。
186	立教大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	総長より全学生にメッセージを配信し、ソーシャルディスタンスを確保した教室利用の難しさ、首都圏の感染状況、学生・家族の健康を守ることを理由として説明し理解を得ている。また学部長からも随時説明を行っている。	②大多数が理解	秋学期（後期）からは演習科目や実験科目を中心に面接授業を一部で開始したこと、大学施設の利用が可能になったこと、課外活動が再開されたこと等により、学生の苦情や不満は減少している。また、1年次生に対しては、基礎演習・ゼミナール科目を面接授業で実施したり、1年次生向けの対面プログラムを開催したりすることで、キャンパスへの登校機会を各学部で設け、大学生活に関する説明やオリエンテーションを通して現在の大学の状況に対しての理解を得るように努めている。 この他、遠隔で実施する授業科目についても、学期中に1～2回程度、対面形式で補講を実施したり、学生の研究活動に関するリサーチ・フィールドワーク等を学外で実施したりと、感染防止策を講じながら学内外で実施できる活動範囲を広げている。遠隔授業に関しても、学生や教員に対する大規模なアンケート調査を通じた授業改善に向けた取り組みや自宅周辺のコンビニエンスストアで教材を印刷できるサービス導入等、遠隔授業の質の向上に取り組んでいる。 このように、本学においては、オンラインによる遠隔授業を中心としながら、正課・課外の両面で対面による諸活動を取り入れ、学生生活の質の維持・向上を図っている。また来年度に向けて、十分な感染防止対策を講じたうえで、遠隔授業と併用しながら面接授業実施数を増やすことができるよう検討と準備を進めている。
187	立正大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	第2期授業における対面授業の一部実施について 本ホームページにおいて、8月7日付「令和2年度 第2期授業について」で掲載いたしましたとおり、10月1日（木）開始の第2期授業において、原則オンライン授業を継続いたします。 小・中・高等学校が集団授業を再開する中で、大学における対面授業が全面的に再開されないことに対する様々なご意見があることは承知しています。しかしながら、大学では学生数はもとより授業規模が格段に大きく、受講者数が数百人に及ぶ授業が多数開設されています。そのため、ソーシャルディスタンスを確保しながら対面で実施可能な授業および教室数には限りがあること、また学内外での個人の活動が広範囲にわたるため感染拡大リスクが高いこと等、大学は小・中・高等学校とは異なる様々な問題を抱えています。学生の皆さんのお気持ちは重く受け止めていますが、こうした問題と今後の感染状況の見通しを総合的に判断し、原則オンライン授業を継続するという決断に至りました。 一方、感染防止対策を徹底した上での対面授業の実施についても、学内で慎重に検討を重ねてまいりました。その結果、学部・研究科の実験、実習、演習等の一部科目、および、必修科目の一部で、限られた機会ではありますが感染防止対策を講じた上で対面授業を実施することに決定いたしました。対面授業実施にあたっては、実験、実習、演習といった授業の特性を考慮すると同時に、入学時より1度も入構していない年生が本来の大学生活を少しでもイメージできるよう、また不可欠な研究の実施および必要な指導を受けられず不安を抱えている卒業・修了年次生が直接指導を受けられるよう配慮いたしました。 集団感染への危機管理対策として、10月1日より、学内外の感染状況を注視しながら、段階的な対面授業に伴う入構学生数の規模拡大を計画しております。対面授業対象科目の詳細については、9月7日付でポータルサイトに掲出しますので、学生の皆さんは必ず確認してください。 なお、対面授業実施において、遠距離通学や諸事情により受講が困難あるいは通学自体に不安を持ち、対面授業を希望しない場合には、学生の皆さんに不利益にならないよう配慮しながら、授業を進めてまいります。 未だ収束の兆しの見えない新型コロナウイルス感染拡大について、学内でも感染者が発生する等、感染は身近なものであるとの認識のもと、感染防止対策を講じたうえで、対面授業の実施に取り組みます。学生の皆さんも、マスクの着用や手洗い、うがい等の感染症対策に努め、「感染しない」「感染させない」ためにできることは何かを自ら考え、行動するよう心がけてください。 本学では学生およびご家族の皆さん、教職員の生命と健康を守ることを最優先に、今後も大学としての社会的責任を果たせるよう取り組んでまいります。 引き続き皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。 立正大学長	③大多数とは言えない	面接授業・遠隔授業に対する直接のアンケート調査を学生には実施しておりませんが本学では毎年、授業に関する学生評価アンケートを実施しており、授業に対する評価の中で面接授業・遠隔授業に対する評価として一部把握しております。 なお、2021年度は、6～7割を目標として面接授業を実施する方向で準備を進めています。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、履修者数を教室収容定員の1/2以下として実施する予定です。 そのため全ての授業を面接で実施することができず、一部、遠隔授業となります。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
188	LEC東京リーガルマインド大学院大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	事前に実施した後期の授業実施方法に関する学生アンケートの集計結果を開示（半数以上がオンラインでの実施を希望）したうえで、新型コロナウイルス感染防止の観点から、原則、遠隔授業で実施する方針であること、及び論文指導については、限定的に対面指導を実施可能な体制を整えていることを説明しました。	①ほぼ全員理解	<p>前期遠隔授業（オンライン授業）に関する学生アンケートの結果概要</p> <p>1. 前期実施の遠隔授業に関する満足度 ①非常に満足 39% ②どちらかと言えば満足 45% ③どちらかと言えば不満 13% ④非常に不満 1% ⑤無回答 3%</p> <p>2. 後期授業の実施形態の希望調査 ①遠隔（オンライン）のみの実施希望 55% ②遠隔（オンライン）と面接授業の併用 41% ③面接授業のみ希望 3% ④無回答 1%</p> <p>その他科目別のアンケートではFD委員会で分析の後、各教員にフィードバックしております。</p> <p>後期授業形態の検討にあたっては、上記学生のアンケートの結果及び新型コロナウイルス感染状況（特に東京地区）を踏まえ、教育効果と新型コロナウイルス感染防止の両面から本学FD委員会及び研究科委員会で複数回審議の上、決定しております。</p> <p>学生アンケートでは、遠隔授業に対する満足度は高く（上記アンケート①②で84%）、定期実施している各科目の授業アンケートにおいても遠隔授業実施における支障、弊害は確認されず授業評価においても面接と同等の満足度があったことから遠隔授業による教育効果の低下は認められなかったこと。</p> <p>新型コロナウイルス感染予防については、オンラインのみの実施を希望する学生が最も多く、東京都の感染状況も第2波による感染増加傾向にあることから後期においても遠隔授業を中心とした実施が妥当と判断しました。</p> <p>また、本学においては、学生の9割以上が社会人でありZoom等の操作に慣れている方が多いこと、新型コロナウイルス感染予防についても職場への影響を考慮し慎重な方が多いことなども考慮しました。</p> <p>その上で、教職員の遠隔授業のスキルアップ研修など遠隔授業の円滑な運営への対策を講じるとともに、学生アンケートで面接授業の要望があった修士論文指導については、学生が主査に申し出ることでも面接授業を受けられる対応もしております。</p> <p>学生に向けては、前期授業の学生アンケート結果を公開した上で上記決定内容を伝えており、対応については理解・納得していただいていると認識しております。</p>
189	和光大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学長代行から学生・保証人宛の文書にて、以下（概略）を説明している。</p> <p>「本学には約3千人の在籍者がいます。中学校や高等学校と比べるとかなり大規模です。また、大学では受講する科目がひとりひとり異なることから、自分の授業を受けるために学生の皆さんが縦横無尽に構内を移動します。人が密集しやすい条件が揃っていますし、万が一、感染が生じた場合、その経路を特定することが困難です。また、本学には遠方から通っている学生も多く、駐車スペースなどの都合で自動車やバイクでの通学も禁止しているため、通学途中での感染の可能性を低く抑えることが難しい状況にあります。そうしたことから、学生やご家族の皆さんの安全を第一に考え、オンライン授業を継続すべきと判断しました。」</p> <p>「後期においても、感染拡大が一定水準に抑えられている期間は、実技、実習、実験を伴ういくつかの授業は対面で実施します。」</p> <p>「後期授業期間が始まるまでに教員の研修会を開き、教員の経験や学生の皆さんからの意見を共有して、教授法の改善に努めていきます。」</p>	④把握していない	<p>学生の理解・納得の状況について、一部の学科で調査を実施したが、全学的な調査は行っていないため。なお、後期、面接授業の機会が少ないことについて、9月に経済経営学部で開催した父母保証人懇談会でも改善の要望が出されており、大多数の学生が理解・納得しているとは言いえないだろうと推測している。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
190	早稲田大学	東京都	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>【基本的な方針】</p> <p>①「誰一人取り残さない」という理想を掲げると同時に、第1に学生の健康と生命を守り、第2に教育を提供し、第3に研究を続けるという3つの使命を果たす。</p> <p>②秋学期はオンライン授業を基本としながら、三密を避け、ソーシャルディスタンスを前提とした教室利用を行うことで、教室、教場での授業をある程度再開する。</p> <p>③本学における対面授業、また学生同士あるいは学生と教職員が交わる機会は大学生活において欠かせないものと認識しており、学生への安全、健康を第一としながら、学生が登校できる機会を少しでも増やす方策を検討している。</p> <p>④カリキュラム上の必要性に応じて、対面授業を実施しており、ゼミ、実験、実習等少人数の授業が対面授業の中心となる。</p> <p>⑤毎週でなく月数回などであっても、あるいは授業以外であっても対面の機会を増やすよう、検討を進めている。</p> <p>●対面授業の数は全学では多くないが、履修者数が多い対面授業（3つの理工学部は合計で約1,600人が必修の「実験」の授業に毎週出席しているが、科目数は1科目に過ぎない）もあり、学部、学生によっては登校機会が多い学生もいる。</p> <p>【対面授業を大幅に増やしていく理由】</p> <p>①三密を避ける教室利用をしているため、大教室で小規模の授業を実施せざるを得ず、大教室が不足し、対面授業の数は限定的にならざるを得ない。</p> <p>②学生の履修科目、時間割は学生ごとに異なり、小中高のように学生のクラスごとに登校日、登校時間を指定することができない。</p> <p>③対面と配信を同時に行う科目が多くなると、学生は配信の授業も大学内で受講せざるをえず、大学全体が密な状態となってしまう。</p> <p>④人文社会学系の学部では1年生のゼミは春学期に配当され、すでに終わってしまっている学部が多い。</p> <p>⑤特に1,2年生は学生ごとに必修科目の時間割が重複しないよう、緻密に時間割が設計されており、クラスを分割するなど時間割を動かすことになるとその影響で他の学生の時間割が重複してしまう現状がある。</p> <p>⑥本学は約5万人の学生が在籍しており、大学生を一度に大学に集めることは首都圏の電車、バスの混雑につながり、また大学生は中高生より行動範囲が広く、首都圏のクラスター、家庭内感染の要因となりやすい。</p>	②大多数が理解	<p>【オンライン授業アンケート】</p> <p>●調査方法: オンライン調査 調査時期: 2020年8月3日(月)～2020年8月22日(土) 調査対象者: 早稲田大学の学生48,119名 回収状況: 15,093件回収率(31.4%)</p> <p>①オンライン授業の割合に対する学生からの評価 授業のオンライン化について学生を対象にアンケートを実施し、新型コロナウイルス感染症のリスク下における望ましいオンライン授業の割合を聞いたところ、以下のような回答があり、約69%の学生が授業のオンライン化に理解を示しており、7割以上のオンライン教育を希望している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全授業がオンラインが望ましい: 21.0% ・全授業のうち9割がオンラインが望ましい: 12.9% ・全授業のうち8割がオンラインが望ましい: 19.0% ・全授業のうち7割がオンラインが望ましい: 15.7% <p>また、「自身にとって有益なオンライン授業はあった」という問いに対して、40%以上の学生が「3つ以上の科目がオンライン授業で有効だった」と回答している。</p> <p>さらに、ポストコロナになり、普通に対面授業ができるようになったとしても、学生の多くは対面授業が7割、オンライン授業3割と答え、一方、ウィズコロナではオンライン授業7割、対面授業3割程度と答える学生が最も多かった。</p> <p>②オンライン授業改善に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部研究科に、本アンケート結果の要点を動画を用いて共有。 ・アンケートを分析し、教員がオンライン授業を実施するうえで留意事項をまとめ、各学部研究科に通知した。各教員にも発信予定。 (シラバスへの明示、適切な教材、効果的なフィードバック、積極的な対話機会、学習目標に応じた計画的な課題のデザイン、多様な学習環境への配慮等) <p>【対面授業の再開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬クォーター(11月23日)より、教室定員を緩和し、対面授業を増やすことができるようにした。 ・対面授業実施にあたっては、以下のような工夫を検討、実施している。 ・対面授業を同時配信したり、配信した内容を録画し、後日視聴できるようにしている。 ・教室定員の範囲で学生を教室に呼び、教室のPCをリアルタイムでつなぎ、教員、登校できない学生をオンラインでつなぐ。 ・複数教室に分割して、一方の教室へは配信しながら授業を実施。 ・学期中数回でも、対面での学生同士の顔合わせ機会を設ける。 ・リアルタイム配信授業について、授業終了後に教員のみ退室し、学生同士の交流が続けられる機会の創出。 ・来年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、十分な感染対策を実施したうえで、全学的に対面授業を拡大していく予定(現在、7割の授業を対面で実施する予定で計画を進めている)。なお、感染拡大状況などが著しく悪化した場合は、オンライン中心に転換する可能性も視野に入れて計画を練っている。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
191	横浜国立大学	神奈川県	国立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学では、秋学期の授業方針について、学生・教職員の安全を第一に考えていること、全国のなかでも首都圏の感染者数が非常に多いこと、神奈川県以外からの出身高校（神奈川県以外の割合71.4% 2020年5月時点の新入生）の学部生が非常に多いことなどの理由から、オンライン授業を原則としつつ、感染拡大防止対策を最大限講じた上で、卒業・修了年次以外の学生も進級等に必要な対面授業（実験・実習・実技等）を可能とする方針を、学長メッセージ等として学生に対して公表・説明した（令和2年7月28日、令和2年9月28日）。</p> <p>なお、特に新入生に対しては、学部ごとに、対面による必修科目（実験、実習、演習など）、対面によるキャンパスツアー、対面又は遠隔によるガイダンスなどを中心に、秋学期の授業方針の説明を行い、理解を得る取組を進めている。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、8月までの春学期授業は原則として遠隔授業で行った。8月に実施した「学生による授業アンケート」における遠隔授業に関する回答の分析結果によれば、8割近くの回答者が遠隔授業は自らの学びを深めるのに効果的であったと評価し、さらには、8割以上の回答者が遠隔授業で行われた授業の内容に満足していること回答した。また、本学では双方向や一方のライブ型の授業が多く実施されたこともあり、授業形態別の学生の満足度を比較すると、双方向ライブ型授業が最も効果度・満足度が高く、オンデマンド型授業よりも教育効果が高いことが確認された。秋学期も遠隔授業を原則としたことで、引き続きライブ型の授業が多く開講されている。</p> <p>加えて、9月から10月にかけて、学生が遠隔授業をどのように受け止め、今後どのような授業形態を望んでいるかを全学部生を対象に調査を行った。「Withコロナ下で適する授業方法について、講義中心の授業に、より適する授業方法はどれだと思いますか。」の質問では、「状況が許せば感染防止対策を取り、できるだけ対面授業」とした回答率は31.5%に留まった。つまり、Withコロナ下では感染拡大防止の意味から、授業形態として、遠隔授業が学生の約7割から支持を得ている。</p> <p>また、「感染症の流行が収束した後の授業形態について」の質問では、すべて対面授業がよいが31.5%、併用が60.0%、すべて遠隔授業がよいが8.5%となった。つまり、対面、遠隔それぞれの利点を生かし併用することのメリットが学生への調査結果から示唆されている。</p> <p>以上の点から、県内における感染拡大が収束していない中、感染防止対策を講じて実験・実習・実技など一部の対面授業を実施しつつ、学生から評価の高いライブ型遠隔授業が多く開講されている現状について、対面授業の実施を強く希望する意見はあるものの遠隔授業を原則とした判断を支持する意見もあり、全体としては多くの学生から一定の理解が得られていると判断している。なお、キャンパスツアーや対面又はオンラインによる教員や上級生との相談会や、バーチャル謎解きツアーといったオンラインイベントを開催するなど、大学生活を十分経験できている1年生の不安を取り除く努力を継続的に行っている。また、秋学期の授業（遠隔、対面）の実施に際して、これら学生アンケートの結果（特に課題が多いという学生意見に対する課題の出し方や教員からのフィードバックに関する分析結果）を各学部で共有し、授業改善に取り組んでいる。さらに当該分析結果等を検証し、令和3年度春学期の授業実施方法やカリキュラムの在り方について検討を行っており、早期に令和3年度授業実施の基本方針を公表する予定である。</p> <p>以下、参考データ 【2020年度 春学期授業アンケート集計結果抜粋】 実施期間：2020年6月6日～8月28日、実施方法：授業支援システムによるインターネット回答、回答者延べ25166名。 ○遠隔授業形態の内訳 1. 双方向ライブ配信22.9%、2. 一方方向ライブ配信23.4%、3. 動画録画配信20.1%、4. 音声付き画像・資料配信18.8%、5. 資料のみの提供14.8%。 ○遠隔授業の効果度 1. 非常にそう思う27.6%、2. ややそう思う51.0%、3. あまりそう思わない16.2%、4. まったくそう思わない5.2%。 ○授業内容に関する満足度 1. 非常にそう思う35.1%、2. ややそう思う49.1%、3. あまりそう思わない11.9%、4. まったくそう思わない3.9%。 【YNU学生ポートフォリオ（学生プロフィール）結果抜粋】 実施期間：2020年9月15日～10月16日、実施方法：学務情報システムによるインターネット回答、対象学生：学部学生、回答者数6880名。○（Withコロナ下で適する授業方法について）講義中心の授業（講義のみ、または講義+質疑応答レベルのやり取りの授業）に、より適する授業方法はどれだと思いますか。1. 状況が許せば感染防止対策を取り、できるだけ対面授業（31.5%）、2. 双方向ライブ配信型（ZOOM等）授業で代替えし、その中で質疑応答を実施（11.1%）、3. 講義は一方方向ライブや動画録画配信で代替えし、質疑応答は別の方法で実施（29.1%）、4. 講義は音声付き画像・資料配信型授業で代替えし、質疑応答は別の方法で実施（13.9%）、5. 資料のみの提供型授業で自学自習し、質疑応答は別の方法で実施（6.5%）、6. わからない（7.9%）。 ○感染症の流行が収束したのち、あなたはどのような授業形態を望みますか。1. すべて対面授業がよい（31.5%）、2. 対面中心で、科目や授業内容（たとえば一方の講義）により遠隔式を併用する授業がよい（36.9%）、3. 遠隔中心で、科目や授業内容（たとえばディスカッション）により対面式を併用する授業がよい（23.1%）、4. すべて遠隔授業がよい（8.5%）。</p>
192	神奈川県立保健福祉大学	神奈川県	公立大学	②併用	③半々			
193	横浜国立大学	神奈川県	公立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
194	麻布大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			
195	小田原短期大学	神奈川県	私立大学	②併用	②7割対面			
196	神奈川大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学では、学生ひとり人の時間割は異なり、キャンパス内の複数の講堂を移動して授業を受けることから、不特定多数による施設や機器の共用なども想定される。このような状況のなかで、感染者や濃厚接触者が発生した場合、学内での活動状況の確認や接触者の特定をして、出席停止や校舎内の消毒などの措置を行うことになる。対象が広範囲に及ぶ場合には臨時休業等の措置も必要になることもある。大学生の活動範囲は小学校から高等学校までと比べて格段に広く、キャンパス内だけでなく、アルバイトや社会的活動を行っている周辺地域にまでその影響が及ぶことも考えられる。</p> <p>また、オンライン授業との併用が避けられないなかで一定数の対面授業を実施すると、学生のほとんどが対面授業とオンライン授業の両方を受講するためにキャンパス内に滞在することとなり、「3つの密」の回避と十分な感染防止対策を講じることは困難である。</p> <p>さらに、対面授業の再開を強く望まれる方がいる一方で、キャンパスへの通学を不安に感じている方がいることにも思いを致さなければならない。</p>	②大多数が理解	<p>前学期に実施した遠隔授業に対する学生アンケート集計結果では、満足度の回答は、例えば講義科目において「とても満足」と「満足」及び「どちらでもない」の回答の合計は約7割弱であることから、コロナ禍の中での遠隔授業の実施について、学生には相応の理解は得られていると考える。</p> <p>本学ではキャンパス内への入構規制の措置を講じているが、学生、保護者等から寄せられる問い合わせや意見のなかには、小学校から高等学校では対面授業を行っているのに、なぜ大学ではできないのかとの声もある一方で、健康上等の問題から新型コロナウイルス感染を懸念し、キャンパス内への入構規制を一層強めるべきとの声もあり、満足／不満足程度の一概にはかえることができないものとする。</p> <p>次年度の授業実施の方針としては、感染防止対策の徹底を継続しながら、今年度後学期に実施している面接授業の比率を可能な限り引き上げ、面接授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型の授業実施を行う。</p>
197	神奈川工科大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、独自の行動指針レベル（大学内の学生入構数などを含む）を定め、ホームページなどで開示している。行動指針のレベルについては、学長を中心とした新型コロナウイルス対策室において、立地する神奈川県及び周辺地域の状況を鑑みて、都度、判断している。その結果として、10月19日時点のレベルに応じた判断では、面接授業実施率が3割程度となっているものの、学生総数に対し9割を超える学生が分散し、大学に入構している。12月4日現在、感染拡大が進む中、学内でのクラスターを発生させないための感染予防対策を徹底しつつ、遠隔授業を併用し教育活動を推進している。また、今年度については、周辺地域の感染者数が減少すれば、面接授業の割合を高めることも計画している。</p> <p>本内容については、学生および保護者に対しホームページや独自WEBシステムにより伝達しているところである。現在の状況で、面接授業を望む声もある一方で、学生もしくは同居家族に基礎疾患を有するなどの様々な家庭事情により登校自体を望まない学生からの声が多数寄せられたことを鑑みて、一部の学部を除き、後期からの授業に際して登校自粛申請書（学生及び保護者による署名押印）の提出により登校を免じる制度を導入しており、保護者から一定の支持を得ている。</p> <p>なお、2021年度の授業実施方針は、12月11日付で在学生および保護者ならびに本学入学希望者に対して以下のとおり周知予定である。</p> <p>『学生の皆様の安全と健康を第一に考えつつ、2021年度は、キャンパス内に入構する機会をさらに増やすことを目指し、2020年7月27日に文部科学省高等教育局大学振興課から示された「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症対策に十分な配慮を行った上で、原則として「対面式授業」とすることを目指します。改めて、学生の皆様が安心して大学で授業が受講できるよう継続した感染予防に努めておりますので、引き続き、マスクの着用、手指消毒・手洗い、三密の回避、検温などによる感染予防にご協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大も報告されており、先が見通せず引き続き注視していかなければなりません。感染状況によっては、実験・実習・演習科目等を対面式授業として実施し、それ以外の科目については、「オンライン式授業」とするなどの配慮を継続する可能性があることも申し添えます。</p> <p>また、今後の感染状況により、学期中でも本学が定める「行動指針」を見直しキャンパス内への入構を解除・制限することも想定しております。』</p>	②大多数が理解	<p>各種ホームページ及び郵送などでの案内における学生・保護者からの照会数およびその内容に加えて、登校自粛申請を申し出た学生数が10月6日時点で180名（学生の約4.6%相当）、11月17日時点で189名（学生の約4.8%相当）、12月4日時点で191名（学生の約4.9%相当）であることを鑑みて大多数の学生に理解を得たと認識している。</p> <p>なお、2021年度の授業実施方針は、学生の皆様の安全と健康を第一に考えつつ、キャンパス内に入構する機会をさらに増やすことを目指し、2020年7月27日に文部科学省高等教育局大学振興課から示された「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策に十分な配慮を行った上で、原則として「対面式授業」とすることを目指す。学生が安心して大学で授業が受講できるよう継続した感染予防に努め、マスクの着用、手指消毒・手洗い、三密の回避、検温などによる感染予防対策を継続実施する。</p> <p>ただし、感染状況によっては、学期中でも本学が定める「行動指針」を見直し、キャンパス内への入構を解除・制限することも想定している。感染拡大時には、実験・実習・演習科目等を対面式授業として実施し、それ以外の科目については、「オンライン式授業」とするなどの配慮を継続する可能性があることも想定している。</p>
198	鎌倉女子大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			
199	相模女子大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
200	湘南工科大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学公式Webサイトを通じておこなった説明を、以下に示す。また、これらに加えて、後学期開始時に実施した学科学年別ガイダンス（1年次生のみ対面、他はオンライン）で大学の方針について、各授業のガイダンスでそれぞれの授業計画と個別対応について、口頭で十分な説明をおこなっている。</p> <p>①2020.08.24 令和2年度後学期授業の実施方針について 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染拡大リスクの抑制と教育目標達成度の向上、両方のバランスを慎重に検討した結果、後学期の授業もオンラインを主として一部を対面とする形で行うことといたしました。この判断の背景には、前学期終了時に全学生を対象として行った「後学期授業実施方法に関するアンケート」および、前学期の全授業について各受講者に回答を依頼した「授業評価アンケート」の結果があります。分析結果は別紙に示す通りですが、重要なポイントとしては、以下などが挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後学期にできる限り対面での授業実施を望む学生は、全体の20%程度。 2. オンラインでの授業実施で最大の問題点は、コミュニケーションの機会減少と質の低下。 3. 同時双方向型ツールを活用した授業では、授業評価は昨年度より高くなったものも多い。 4. 授業で身についた力の評価からは、オンライン授業のメリットも認められる。 <p>授業を通して知識・技能を身につけることに加え、社会人基礎力を伸ばすという本学の教育方針を守り、4月から全学的に取り組んだオンライン授業でした。各教員の努力により同時双方向型を取り入れた授業が半数以上を占めるなど、さまざまな工夫の結果として教育の質の低下を何とか防ぐことができた、アンケートの結果から判断しています。</p> <p>また、改善すべき点も明らかになっており、後学期はさらにレベルの高いオンライン授業を提供できるものと考えています。一方で、比較的少ないとはいえ、特に1年次生を中心に従来と同様の修学環境を望む声が上がっていることも事実です。これに応えるべく、感染リスク軽減に配慮しながら 対面授業を増やすため、時間割の組み換えを含めた対応を検討しているところです。その内容につきましては、それぞれ対象となる学科・学年ごとに、できるだけ早くお知らせするようにいたします。以上、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>②2020.09.17 令和2年度後学期授業開始にあたって 9月24日（木曜日）から始める後学期においては、すでにお知らせしているように一部の授業を対面で実施するほか、学内施設、設備の利用や研究活動、課外活動のための入構は制限しない方針です。つきましては、学生・大学院生が登校する際の注意事項を別紙にまとめました。一度、目を通して確認の上、それぞれ適切な行動をとるようにしてください。新型コロナウイルスの感染はまだ終息しておらず、これから冬に向かう中で再度の拡大やインフルエンザとの同時流行のリスクなども懸念されています。ひとたび学内で感染者が出た場合は、ある程度の期間の入構禁止措置は免れないでしょう。この後学期を無事に乗り切るためには、一人ひとりが感染防止に対して高い意識を持ち続けることが求められます。</p> <p>中には、高校までの学校は普通に授業や部活動などを行っているのに、どうして大学だけできないのか、と思う人もいるでしょう。これについては、私たちも同様に感じる一方で、従来通りの大学で感染が起こった場合、どれだけ広い範囲に影響が及ぶかを想像すると、少なくとも現時点で全面的な対面授業実施に踏み切るという判断に至りませんでした。期待していた皆さんには、大変申し訳なく思っています。この決定が正しかったと後に振り返るためにも、後学期はより充実したものにしなければなりません。授業においては、前学期に得た経験や気づきを生かし、オンラインの優れたところをうまく活用するとともに、足りなかった部分を新たな工夫により補うことで、この要求に応えていきます。また、学生生活の面でも、状況を見ながら更なる改善を進めたいと考えています。以上、ご理解とご協力をお願い申し上げます。</p>	②大多数が理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学では従来より授業を通じての学生・教員間のコミュニケーション構築には力を入れており、後学期すでに実施している対面授業および同時双方向型の遠隔授業においてもそれは維持されている。その中で、学生から特に大きな不満の声が上がっているという状況は、これまで報告されていない。 2. 後学期は一部の授業で対面と遠隔を学生が選択できる形での実施を試みているが、対面のために登校する受講者の割合は10～20%程度にとどまっている。逆に、家庭や個人的な事情により、対面実施の授業をオンラインで受講することを希望する学生も少なくない。 3. 授業に限らず、新型コロナウイルス感染症に関わる大学の対応についての意見や質問などは、対策本部宛のメールで受け付けている。後学期開始前後にあった問い合わせは数件のみで、それも遠隔授業の内容というよりは、施設利用の制限に対する学費の減免に関するものであった。 4. その他、教務課など事務窓口に対する学生や保護者からの問合せにおいても、個別の問題が主であり、全体的な授業実施方針に対するものはほぼ無い。
201	情報セキュリティ大学院大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			
202	聖セシリア女子短期大学	神奈川県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>感染症予防のため、後期も遠隔授業の実施を継続します。一部授業で通学（対面授業）も実施しますが、通学についての不安など事情がある場合には短大にご相談ください。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業（オンライン、オンデマンド、課題提出の組み合わせ）に多くの学生は適応していると思われる。特段の不満は届いてない。満員電車での通学が怖い、等の不安を述べる学生もいて、遠隔授業は必要と思われる。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
203	専修大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、6月29日から7月8日にかけて、本学に在籍する全ての学部学生（17,460人）を対象に「オンライン授業に関するアンケート調査（以下「アンケート」という。）」を実施し、全学生の41.8%にあたる7,307人から回答を得た。アンケート結果から読み取れる学生の現状は、オンライン授業に対応できる環境を有して、メリットを感じている学生が予想よりも多いことが分かった。ただ、その一方で、厳しいコロナ感染状況において本学学生が抱える様々な困難も浮き上がった。</p> <p>本アンケートの結果や東京都で連日200名を超える感染者が続いていた7月中旬時点での社会状況も考慮し、本学では、7月16日に、後期授業の実施方針を「オンライン授業を主とし、一部の授業科目については対面授業を実施する」ことを決定し、各曜日・時限における学内で授業を受講する学生数の目安を「生田校舎2,000名程度」「神田校舎1,200名程度」とした。学生数の目安決定にあたっては、教室の収容能力や食堂の席数等を鑑みて、キャンパスで「三密」を回避できる同時入構人数の上限を決めることから始めた。また、対面授業科目のリスト選定作業にあたっては、学部毎に対面授業科目のリストを作成し、シミュレーションを繰り返しながら決定した。なお、対面授業とオンライン授業の時限が連続している場合は、当該学生はオンライン授業を学内で受講することとなるため、上記人数には学内でオンライン授業を受講する学生を含むものである。これにより、学生が大学で授業を受講する適当な日数の目安は、1年次で2日、2年次で1～2日、3・4年次は1日とした。これは、対面授業を希望する学生が比較的多い1年次に多く対面授業を設けるといった配慮である。上記の内容は、本学学長よりホームページを通して周知した。https://www.senshu-u.ac.jp/news/nid00011437.html。</p> <p>以下、ホームページ内容の抜粋である。 <ホームページ周知内容抜粋「学長伝書鳩No.6」（2020.8.7発表）>「アンケート」は、オンライン授業の発信側（教員）と受信側（学生）の双方で、オンライン授業の品質を向上させる環境作りを強く求めるものでした。また対面授業への希望は、やはり1年次の学生から多く認められました。私は、このようなアンケート結果も踏まえて、後期の授業運営をコロナ禍の現況を考慮しつつ、学生・教職員の間感染防止策に万全を期することを前提に、オンライン形式を主とし、対面形式は、各学部が必要と判断した科目に限定して実施することを決めました。対面授業科目のリスト選定作業は、教室の収容能力や食堂の席数等を鑑みて、キャンパスで「三密」を回避できる同時入構人数の上限を決めることから始まり、厳しめに見積もって、生田キャンパスは2,000名、神田キャンパスは1,200名とすることを決めました。この人数を超えないようにするため、適当たり、1年次は2日間、2年次は1日ないし2日、3年次と4年次は1日の入構回数を目安として、全学部毎に対面授業科目のリスト作りをお願いし、シミュレーションを繰り返しながら公表リストの内容にたどり着きました。また、諸事情で対面授業に出席することを避けたい方への配慮として、対面授業をオンラインでも聴講することができるように決めました。</p>	②大多数が理解	<p>「アンケート」では後期授業の希望についても調査を行った。その結果、全面オンラインを希望する学生が最も多く（2,028名：28%）、次いでオンラインと対面の併用（1,652名：23%）、施設利用の解禁（1,368名：19%）、実習以外オンライン（1,158名：16%）の順で、全面対面を希望する学生は最も少ない（1,064名：15%）という結果となった。アンケート結果を受け、本学では、以下のとおり「新しい時代のオンライン授業に向けたアクションプラン—SENSHU 5 PROJECTS—」を掲げ、後期オンライン授業の品質を向上させて学生の理解・納得が得られるように努め、ホームページを通して周知した。</p> <p>「1. オンライン授業の基盤ツールの充実プロジェクト」本学でのオンライン授業は、前期においてGoogle社が提供しているG Suite for Educationプランを利用していたが、後期は、前期と同様の操作環境を維持しつつ、より高機能なGoogle社「G Suite Enterprise for Education」を導入した。</p> <p>「2. オンライン授業コンテンツの充実プロジェクト」アンケート結果に基づき、講義・実習・演習等の授業形態ごとに推奨されるオンライン授業の組み立て方法をまとめた教員向けパンフレット『後期オンライン授業に向けて授業デザインの原則と若干のティップス』を作成した。本パンフレットは全教員間で共有し、学生の後期オンライン授業への満足度を向上させるように努めた。</p> <p>「3. 聞きやすい見やすいオンライン授業の開発プロジェクト」話す速度や滑舌に留意することやマイクは外付けタイプを使用すること等の工夫により、オンライン授業の聞きやすさが格段に向上する。このような「留意事項」をまとめた冊子を教員向けに作成した。</p> <p>「4. オンライン授業受信環境のスペックアップに係る支援プロジェクト」本学は、後期オンライン授業においてGoogle Meetの利用の比重が高まることを踏まえ、定額でデータ通信量無制限型の通信環境の整備に係る支援と、オンライン授業の資料印刷環境の改善に係る支援の必要性を認識した。そこで、前期中に実施してきた「オンライン授業受講のためのインターネット環境及び機器に関する補助」に代えて、あらたに「オンライン授業の受信環境整備及びプリントサービスに係る支援金」として、全在生を対象に、一律15,000円を給付する。また、パソコンを必須とする後期授業を受講している学生でパソコンを所有していない学生に対して、ノートパソコンを貸し出すこととした。</p> <p>「5. 学生の健康維持プロジェクト」学生が体と心のストレスを軽減できるように、教員がオンライン授業時間中の適当なタイミングで授業を数分間休止して、学生に行うことを求める「リラクセス法」、「ストレッチ」、「ミニツヨガ」等、35パターンのメニューを作成した。教員には、これらのメニューを活用したオンライン授業を実施するよう依頼している。その他、学生からの各種の問合せに関しては、関係所管において丁寧に対応しており、前期から後期にかけて問合せも大幅に減少している。以上のような取り組みから、本学では、「大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得している」と判断した。</p>
204	洗足学園音楽大学	神奈川県	私立大学	②併用	②7割対面			
205	鶴見大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			
206	田園調布学園大学	神奈川県	私立大学	②併用	②7割対面			
207	桐蔭横浜大学	神奈川県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
208	東海大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では秋学期の開講にあたり、学生ポータルシステム並びにオフィシャルHPを通じて以下の通り学長からのビデオメッセージを学生宛てに配信している。「後期は前期とは違い一部対面の授業を取り入れる。少人数の授業やゼミナールなど、密を避ける環境のもとでは、できるだけ皆さんに、登校してほしい。ただし、不安で大学に来られない、などというお考えのある方は、必ず大学に相談してほしい。」</p> <p>特に一年生の皆さんは、後期は、全てではないが、学校にくる機会を設けるので、ぜひクラスメートや先生との直接の交流を行っていただきたい。」</p> <p>また、学生達からは、対面授業を行ってほしいという意見と同時に、遠隔授業を活用してほしいという意見も届いている。両者の意見を尊重するため、コロナ禍以前と同様の授業数・授業内容を確保することを前提に、環境整備を行い、学生に対しては、オフィシャルHPから「新型コロナウイルス対応サポートセンターに問い合わせができること」、ガイダンス等においては、「授業実施に対して、意見や要望、不安や不満が生じた場合には、登校時やオフィスアワー等を活用して、先生に相談をするように」と伝えている。</p> <p>学生数の多い本学としては、クラスターの発生により貴重な対面授業の機会が奪われることは避けなくてはならない。そして、学期を通じて最後まで授業を行う必要がある。したがって、授業形態などにより、対面・併用・遠隔授業を使い分けると同時に時限毎の入構者数を管理しながら後期の授業運営を行っている。</p> <p>以上の理由から、本学においては、個別対応により学生の理解が得られていると判断している。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業を開始した当初より、本学では「新型コロナウイルス対応サポートセンター」を開設し、学費・授業等に関する質問のワンストップサービスを行っている。新型コロナウイルス対応サポートセンターへの遠隔授業に対する質問・苦情等は秋学期科目の時間割が公開された9月10日（木）から9月末において、本学学生28000人に対して23件に留まっており、以下の理由からも、大多数の学生からは、授業の形態等について理解・納得を得られていると判断している。</p> <p>①上記のサポートセンターには、対面授業を望む声と共に、遠隔授業を希望する声もあがっている。授業の内容により遠隔・対面授業を使い分けているが、その判断基準や開講数のバランス等について、両者から一定の理解を得ている。</p> <p>②大学院においては、5割以上の対面授業（併用含む）を行っている。</p> <p>③新型コロナウイルスの感染者が少ない地域の校舎においては、5割以上の対面授業（併用含む）を行っている。</p> <p>④本学においては、学修の機会を奪うことがないよう、コロナ禍以前と変わらず可能な限り開講する方針をとっている。したがって、一般教養科目、専門科目、全学共通の科目など学生が履修登録できる科目は、コロナ禍以前と同数であることについて一定の理解を得ている。※学生個人レベルから見た場合には、50科目を超える一般教養科目と専門科目に加え、学生の興味やスキルアップなどを目的とした語学や情報系などの「全学共通科目」として、コロナ禍以前と同レベルの400科目以上を開講している。</p> <p>⑤学生を対象として、2020年度春学期のオンライン授業について、アンケートを実施した。不満が多く挙げられた遠隔授業のシステムについては、秋学期より刷新し、技術的・環境的な面からも改善を進めている点について、一定の理解を得ている。</p> <p>以上、本学においては、全学的に約1800科目の対面授業（併用を含む）を行っているが、大学全体の科目数という視点では、教育効果を考えた少人数のクラス別けや多彩な共通科目を開講していることから科目数が多く、対面授業（併用を含む）の実施は約3割となっている。</p> <p>今後の授業運営については、引き続き対面授業の再開を検討していくが、「開講科目という選択肢を維持すること」と「対面授業という機会を維持すること」、そして「大人数での授業実施を望まない声についても応えること」「クラスターの発生を防止すること」が不可欠であるため、現状の開講バランスになっていることについてはご理解をいただきたい。</p>
209	東洋英和女学院大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>2020年7月22日に、ホームページおよび学生向けの学内ポータルにて、後期授業方針を提示した。内容は以下の通りである。</p> <p>本学の教育方針は、キャンパスにおける面接授業を本旨としているが、いまだ新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない状況の中、学生の安全と健康を最優先した結果、苦渋の決断として、今年度後期授業において免許・資格課程の実習に係わる授業を中心に、教育効果上面接授業が必須と判断した授業に限定して面接授業を行い、その他は引き続き遠隔授業を実施することとした。</p> <p>方針説明の中で、「学内での時間分散・空間（教室）分散・消毒検温等、可能な限りの三密対策を施した」ことを条件としてあげており、ソーシャルディスタンスを確保するためには教室キャパシティを勘案しなければならない点についても言及した。</p> <p>一部の保護者および学生から、「面接授業がなぜ少ないのか」という旨のご意見を頂いたが、1件ずつ丁寧な対応を心がけた。10月7日の会議にて、学長より残りの後期授業において、特にゼミ等について面接授業を行うよう全専任教員に指示がなされたため、現在、空き教室の利用を全学的に推進するなど面接授業を増やす努力をしている。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、ホームページにて2020年7月22日及び同年9月4日付で、2020年度後期授業方針について公表した。それに対し、ごく一部の学生及び保護者より面接授業への要望や遠隔授業に対する苦情が寄せられたが、本学の方針について、後期授業受講マニュアルを送付するなど個別に丁寧な説明をしたところ、現在、批判的な意見は寄せられていない。</p> <p>10月7日以降、ゼミごとに面接授業を増やすべく、ゼミ担当教員からゼミ生へ日程調整等打診が進んでいることも要因の一つとして推察される。また、2020年7月3日～8月17日に行われた「オンライン授業学生アンケート」、同年9月7日に開催された「オンライン授業講習会」及び同年9月に行われた「学生生活意識調査」においても、遠隔授業に対する否定的な意見は少数であった。</p> <p>9月から11月にかけて、学科単位での1年生向け対面ガイダンスを行い、学生からの好意的な声が寄せられている。学生等関係者の不安を一日でも早く払拭するために、本学ではいち早く次年度の授業形態をホームページで公表した。</p> <p>10月7日に、2021年度方針を公表して以降、現在に至るまで批判的な意見は寄せられていないことから、現在の後期に際しての面接授業が限られた数であること、徐々に面接授業を推進していく本学の姿勢について、一定の理解を得られていると考えた。</p> <p>コロナ禍の下、今年度初の試みとして、オンライン保護者会をゼミ担当教員ごとに、事前予約制で実施した。学生の声を最も聞いていると考えられる保護者からは、ご納得いただけているとの報告を教員から受けている。授業方針に関する内容は個別に丁寧な回答を行った。</p>
210	フェリス女学院大学	神奈川県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>https://www.ferris.ac.jp/news/20200731/13069/ 及び https://www.ferris.ac.jp/news/20200923/13330/</p>	④把握していない	<p>カリキュラムを遂行するための資源制約（施設、設備、時間割等）を踏まえて、もっとも教育効果が高い手段を選択することが肝要であるため。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
211	横浜商科大学	神奈川県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	COVID19の感染拡大防止は本人だけでなく、周囲の方への考慮も必要であり、そのためコロナ禍前とは相違する状況を受け入れてもらいたいこと。また遠隔授業を行うにあたっては、対面と変わらない授業の質を約束すること。	②大多数が理解	<p>前学期に、期初、期中、期末に悉皆、実施感想等多岐にわたる学生への意見聴取の調査結果による。その結果、対面授業復活の「希望」は多数あることは事実だが、現実の状況を十分理解してもらいながら就学してもらっていると考え。</p> <p>その中で、受講学生の収容状況に関して、大学での対面授業での通学入構当日に受講する学生は、他のオンライン開講科目を受講するための、三密を回避したスペース確保も必要である。また、それら両方に対応する受講用教室の確保などの学内の物理的条件に加え、大学のキャンパスの立地は住宅の密集した地域に立地しているため、最寄りの交通機関からの通学経路等にかかる近隣住民などへの影響、通学時の公共交通機関の乗車時間や経由地の状況等、大学内外を問わず、想定できる要件を考慮に入れながら、最大限のリスク回避を想定しつつ、安全をある程度確保できる数値で予測を行った結果である。</p> <p>また、地方出身や公共交通機関の乗車利用時間が長時間に及ぶ学生の中には、学外での感染リスクに不安を抱いている学生もあり、これらの学生に対しては、対面授業の通学時も、オンラインでの並行実施や、その他の課題付与などを行うことにより、学修時間の確保に務めた上での対応を行っている。</p> <p>緊急事態宣言が解除された秋学期（今期）については、学生同志、あるいは教員と学生とのコミュニケーションを可能な限りとることや、上級年次のゼミ等に関する研究活動、指導を少しでも上げるために、周囲の感染拡大状況を鑑み、マスク、フェイスシールドの着用、手指消毒、感染拡大対策学生の入構記録の取得を行いながら、アクティブラーニングを行う必修科目やゼミについて、全14週のうち2週分ではあるが、各学年で分け実施中である。また、その際、各学年毎での感染があった時のことを考慮し、2週間の（隔離）オンライン期間も設けた。</p> <p>これに加え、施設設備面で学生が対面授業での通学の際のオンライン授業受講について、本学はすでに全教室無線LANを設置しているものの、可能な限りオンラインでの受講を安定した状態で一般講義科目を大学でも受講できるよう、教室収容定員を3割に設定した上で、情報送受信容量の確保のため、基幹線の増強と有線のLANを臨時的に設置し、受講させている。</p> <p>なお、現在までの各科目の成績の取得状況等修学上の変化については、集計、検証をした結果、教員の努力により、従前の対面授業と大幅に変化した授業はないものの、オンライン機能変化等に対応するため、教員の講習会や担当者間の情報共有の機会を学期中に数回設け、オンライン授業における質の維持、向上を図る予定である。</p> <p>同時に（オンライン実施による）大学祭でのスタッフの学生の状況、ゼミ等対面授業における学生の感想や表情を読み取ると課外活動等の面での対面も重要要素であると受け止めている。</p> <p>今期より、すでに、感染防止、リスクの回避を維持することを前提として、感染拡大状況に応じた形で、臨機に対応しているため、来期もこのような体制を維持する。</p> <p>また、上記のとおり今期対面の授業受講率は約3%弱である。</p> <p>そのため来期4月からの予定については、対面受講率30%を目標に、1年次での初年次教育科目および2年次以上のゼミナールを全週対面で行った上、その他の講義科目について、教室収容率の概ね50%を上回らない科目を前年同期の履修状況より割り出すほか、実習など対面や体得が必要な授業を、事前に対面授業として設定した上、リアルタイムでのオンライン授業のほか、オンデマンド授業の導入も検討した上で、これらを効率的に導入し、授業の実施計画・時間割を計画している状況である。</p> <p>※なお、本学の授業対面率の算出は、純粋に学生、教員が共に通学し同一教室で授業を実施、受講する形態のみを「対面授業」として取り扱い、学生の履修数を分母に、受講する対面授業を分子として算出した数値である。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
212	長岡技術科学大学	新潟県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>本学行動指針の基本方針として、学生と教職員の健康を最優先とし感染防止に努めるとともに、教育は、感染防止に最大限配慮しながら、オンラインを用いた遠隔授業及び対面授業を併用して行うこととしている。</p> <p>学生に対しては、9月から開始した2学期の授業は、Zoomによる遠隔授業を原則としているが、研究室での活動は感染防止策を講じることを条件に制限はせず、対面による授業（講義、演習、実験）が必要な科目はソーシャルディスタンスを確保して行うことを説明している。</p> <p>また、遠隔授業を受講する学生への支援として、受講する環境が不足している学生には、モバイルWi-Fi等の機器を貸出し、学力に不安がある学部学生に対しては、大学院生がZoomにより学習サポートを行う支援制度があることを説明している。</p> <p>本学では（回答の8で示した通り）例年10月初旬～2月中旬までの長期インターシップ「実務訓練」に学部4年生の8割を派遣しているが、今年度はコロナの影響もあり、9月、10月は全員が課題研究の実施を課した後の11月初旬開始に変更している。学部4年生、大学院生の多くは対面で小教グループでの研究指導を受けており、また、学部1年生から3年に関しても、実験・演習科目の小人数グループで指導が可能なものを中心に対面を実施している。</p> <p>学生は基本的に大学へ登校しており、授業科目としてはカウントしていないが、殆どの学生が研究室での対面指導を受けており、大学内での友人等との生活も通常に戻りつつある。実際に1学期は、新入生を中心に200名以上の学生が、地元等で遠隔授業を受講していたが、2学期からは大学所在地である長岡に全員が居住し、感染に注意しつつ大学キャンパスでの生活を行っている。</p>	①ほぼ全員理解	<p>学生の遠隔授業下の状況を把握するために、遠隔授業アンケートを行った結果、授業に満足していると回答した学生が67%であった。学生からは、「アーカイブで授業の復習が受けられるのでとても便利であった」、「対面授業に比べて質問がしやすかった。オンライン授業の継続をして欲しい」、「コロナ感染が不安だったので自宅で学習できて良かった」、「講義科目などは遠隔のままでもよいのではないかな」などの意見があった。</p> <p>また、学部4年生で大学院に進学する学生が、企業等で実践的な長期インターシップを行う「実務訓練」については、希望する学生から中止を危惧する声があったが、派遣先を国内に限定するとともに、開始時期及び期間を例年の10月初旬～2月中旬から11月初旬～2月中旬に変更し、保護者の了承を得た実務訓練を希望する者299名（学部4年生の62%）を派遣することとした。派遣学生には、大学負担で該当者全員のPCR検査を実施して陰性を確認するとともに、派遣中24時間のケガや病気を補償する学研災付帯学生総合保険に加入した上で派遣することで、例年と同様の学習機会を確保している。</p>
213	新潟大学	新潟県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>3月より、学期の開始や終わりに、随時学生に学長メッセージを発信し、コロナの感染状況やその科学的解釈、それに対する大学の姿勢と対策の必要性を伝えている。また保護者に対しても、学長メッセージをホームページで発信している。</p> <p>これと連動して、学生や教職員の安全面と学内クラスター感染防止が重要であることを踏まえ、非対面授業を原則とする旨を全学生に対してメール及び本学ホームページで周知している。</p> <p>また、各学部においても対面の機会を設けるなどして、きめ細かい周知を行っている。第1学期の第1タームは非対面形式のみとしたが、第2タームからは、当該時期のコロナの感染状況を伝えながら、実験・実習科目など一部の科目について、その科目の特性や教育効果を考慮し、感染対策を十分に講じたうえで一部の授業科目の対面を認めることを同様に周知した。</p>	②大多数が理解	<p>毎学期行っている授業の到達目標の達成度及び授業の満足度に関する学生へのアンケートについて、今年度の第1学期の結果が「達成度」及び「満足度」ともに前年と比較して高くなっていることから問7のとおり判断した。</p> <p>また、1年生の状況が懸念されたが、他学年や前年度の1年生と変わらない結果であった。</p> <p>学生に対するアンケートの結果は、以下の状況であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の到達目標を達成することができたか」 2020年度 「そう思う」52.0%（1年生：50.0%）、「ややそう思う」43.0%（1年生：45.0%） 2019年度 「そう思う」50.0%（1年生：50.0%）、「ややそう思う」43.0%（1年生：43.0%） ・「授業の満足度」 2020年度 「満足している」65.0%（1年生：67.0%）「ある程度満足している」34.0%（1年生：29.0%） 2019年度 「満足している」60.0%（1年生：61.0%）「ある程度満足している」34.0%（1年生：32.0%） <p>全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学は、学生数約13,000人を擁する大規模総合大学であり、教員数を含めると20,000人近くになる。そして、その多くが1つのキャンパスに集まる。こうした総合大学の特徴として、特に初年次学生が受講する授業は大人数のものが多く、また時間ごとに教室の移動も多く、受講学生も異なる。したがって、対面授業により学生の接触機会が複雑であることから、万一、感染者が出た場合の感染経路の追跡が困難である。また、寮生もいることから大きなクラスターとなる可能性が懸念され、さらに地域・社会にもリスクを負わせかねないので、比較的慎重な対応を取らざるをえない状況にある。 ・その中でも感染状況をみながらハイブリッド型を進めており、特に実験・実習を持つ学部はハイブリッド型が中心になっているが、座学を中心とする文系学部の授業においては非対面型の割合が多いため、全体では非対面型の比率が高くなっている。 ・上記の事情を踏まえて、新型コロナウイルス感染拡大防止に関しては、学長を座長とする感染症対策本部会議において、最新の感染等の情報を共有しながら方針を決定しており、第2学期以降は実験系科目を中心に対面による授業を増やすとともに、課外活動等も情報の共有を図りながら認めるなど、きめ細かい対応をしてきている。 ・また、2021年度第1学期（第1ターム、第2ターム）については、学生の教育効果及び学生生活の充実のため、「対面型授業」の範囲を拡大して授業を実施することとしており、おおよそ5割の授業科目が対面型或いはハイブリッド型授業となる見込みである。なお、感染状況の悪化により、対面授業ができなくなる場合の代替措置も想定して授業計画を立てることとしている。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
214	長岡造形大学	新潟県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>学生の健康の維持及び安全、安心を最優先するとともに、学内における感染者発生防止を第一義として考えている。また、学生間の適切な間隔を確保するため、各教室の収容定員を再設定したことにより、対面授業を行うために必要となるスペースが不足することも、小規模大学である本学においては事実である。</p> <p>しかし、対面授業の実施は有用であり、教育機関として、学生への教育・指導、学生が行う研究活動に対面授業や校舎の開放は必要であることから、可能な限り対面授業を実施する。このような大学の方針を学生用ポータルサイト、ホームページで周知するとともに、個別の質問に対応することにより、学生に説明を行っている。</p>	②大多数が理解	<p>全学生を対象とした後期授業形態に関するアンケート調査の結果、本学の現状の授業形態について、回答者の8割の学生が、現状に理解・納得、または遠隔授業の割合増加を希望すると回答している。</p> <p>自由記述における授業実施形態に関しては、遠隔授業により、感染防止の観点から安心して授業を受講できること、また、対面授業と比較し集中して授業を受講できることや授業動画を反復して視聴できることで授業の理解度が高まったなど、遠隔授業のメリットについての記載が7割を超えた。</p> <p>これらより、本学の大多数の学生が、遠隔授業の利点を感じながら、現状の授業形態に理解を示しているものと考えている。</p> <p>高等教育機関として教育の質の担保を前提条件とし、授業において対面、遠隔又はそれらの併用を有効に活用し、授業の実施をしている。作品の制作スペースや研究施設については、今年度6月初旬より学生に開放している。</p> <p>なお、令和3年度からは、学生の健康と安全を最優先としたうえで、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、各教室の収容定員の緩和、対面授業の増加、対面と遠隔の併用による効果的な授業の実施など、学生が大学にて授業を受講する環境や友人と交流する環境を整備していく。</p>
215	事業創造大学院大学	新潟県	私立大学	②併用	③半々			
216	新潟経営大学	新潟県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>学生に面接授業の機会が少ないという理由については具体的には示していないが、各授業方式については、各授業の担当者や事務担当から学生に対し、電子掲示板、授業中やシラバス等を通じて知らせている。</p> <p>具体的な授業方法の説明として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者の数により三密を避け、ソーシャルディスタンスが十分確保できない教室の利用については、慎重にならざるを得ず、そのような場合、新型コロナウイルス感染予防観点から教室を利用する面接授業ではなく、遠隔授業を実施する。 2. 少人数で行える科目（演習科目等）については、三密を避け、ソーシャルディスタンスを十分確保したうえで、面接授業を実施する。 3. 遠隔授業を行っている科目であっても、15回のうち何回は必要に応じ面接授業を実施する。 4. 面接授業を行っている科目であっても、遠隔授業形式も同時に実施する。 5. 面接授業を行っている科目であっても、該当科目の前後の授業が遠隔授業である場合において面接授業への出席が困難な場合、別途遠隔で何らかの対応を実施する。などが挙げられる。 <p>以上のように、面接授業と遠隔授業を併用し、様々な授業方式を工夫しながら採用することで、学生に対し、新型コロナウイルス感染予防に最大限の配慮をした形で授業を行っていることを説明し、授業方式について理解してもらえるように努めている。</p>	④把握していない	<p>現時点において、学生の理解や納得の状況についての詳細な調査を行っていないため、④と回答した。しかし、学長より学生及び保護者に対し「新型コロナウイルス感染症に対応した後期に向けた教育活動方針について」を书面で8月上旬に周知しており、後期の授業方針や授業方法については、学生に明確に提示している。また、対面授業の全面再開や増加を求める意見や要望は寄せられていない。</p>
217	日本歯科大学新潟短期大学	新潟県	私立大学	②併用	②7割対面			
218	富山県立大学	富山県	公立大学	②併用	③半々			
219	北陸先端科学技術大学院大学	石川県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>授業に関しては、渡日できていない外国人留学生が多いことへの対応や、また、約6割の学生が大学構内にある寄宿舎に居住している状況から、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、本学独自の学習管理システムを使ったオンライン授業を4月から実施している。</p> <p>また、10月からは、オンライン授業を継続しながら、実験、実習や語学科目等の受講者が少人数の科目については、感染防止対策を講じた上で対面授業を開始しており、学生に対してはメール、大学HP、学習管理システム等を通じて周知している。</p> <p>なお、本学は大学院大学であり、研究室では、個々の学生に対し、指導教員による対面での研究指導を丁寧に実施している。</p> <p>さらに、12月からは、学生が主体的にオンライン授業か対面授業かを選択できる方式（ハイフレックス）を導入するなどの工夫により、9割程度の授業において対面授業の機会を確保した。</p>	②大多数が理解	<p>オンライン授業については、学生に対してアンケートを実施し、実施形態にかかる満足度を確認しつつ、教育の質が低下しないよう努めている。6月下旬に学生に実施したオンライン授業の実施形態や学習管理システムなどについてのアンケートの結果では、80%程度が満足しているとの回答を得ている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
220	福井大学	福井県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>授業の実施方針等については、大学ホームページや学生ポータル等を活用し、学長をはじめ各学部長からのメッセージや、各学部の実情に応じた授業実施に向けたお知らせ等、学生に対する説明を常に情報発信し、周知を図っている。</p> <p>(主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学設置基準」において、大学の授業は、基本的には対面で行うこととされているが、一方で多様なメディアを利用して教室等以外の場所で学生に履修させること(遠隔授業)が可能であることを踏まえ、国内外の新型コロナウイルス感染拡大の状況を受けて、本学でも学生の教育機会を確保するため、前期から遠隔授業に取り組んでいること。 ・学生の生命・安全を最優先に考慮し、第2波、第3波の感染拡大にも対応できるよう、遠隔授業方式を基本としながらも、後期からは「面接授業の具体的な実施方法等」を定め、実験・実習科目のほか講義・演習についても対面による授業が必要なものを、可能なものについては、感染防止対策の徹底を図ったうえで面接授業を行っていること。さらに、面接授業を徐々に拡大することとしていること。 ・なお、履修指導等に関しては、窓口での対面による対応のほか、オンラインによる指導を十分に行っている。 ・また、メンタル面も含め、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学生の様々な相談に対応する「よろず相談窓口」(カウンセラーを常駐)を開設し、利用方法を学生に周知するとともに、学生同士の連絡や相談の場として、Googleクラスルームを使った「学生掲示板」や、Google Meetを使った「コミュスベ・オンライン」を開設し、学生同士の交流を促している。 ・その他、学部・学科の状況に応じて、新入生同士顔を見せたオンライン座談会を開催し、友達づくりへのケアを行うとともに、教員が対面で質問に対応する時間を設け、学生同士及び学生・教員間のコミュニケーションを図る場を確保する等の対応を行っている。 	②大多数が理解	<p>全学生を対象に、遠隔授業の効果の検証および改善に資するためのアンケート調査を前期の中間及び終了時に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回のアンケートとも、「移動が不要で効率が良い」「自分のペースで学修ができる」「繰り返し学修ができる」等、面接授業と比較して、自分のタイムコントロールがしやすい点をメリットとして捉える学生が多くを占めた。さらに、終了時のアンケートでは、達成目標の達成状況についても遠隔授業によって達成できたかの問いに対し、否定的な回答をした学生は1割以下であった。また、「コロナウイルス感染が怖いので後期も遠隔授業を継続してほしい」との要望意見もあった。 ・一方、学生の約6割が「オンライン授業に順応して学べている」と回答している反面、1割程度の学生は「学修効果が低い(オンライン形式が合っていない)」と回答している。 <p>これらのアンケート結果より、大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得していると考えられる。</p> <p>なお、問題点について工夫・改善したうえで後期も遠隔授業を続けてほしい等の意見を受けて、各学部教員及び教務課職員による録画配信型のオンデマンド形式のFD・SDシンポジウム「みんなで考えるオンライン授業～より良い大学教育を目指して～」を開催し、授業内容の改善を促しており、今後とも遠隔授業の質向上に資するようFD・SDを継続することとしている。</p> <p>また、学生ポータルの活用や、医学部ではG Suite for Educationをシンプルに使いやすくカスタマイズした遠隔授業支援アプリ「F. MOCE」を開発し、教育効果や満足度の高い授業方法への改善を図っている(「F. MOCE」は、オープンソース・ソフトウェアとしてネット公開・無償配布を行っている)。</p> <p>さらに、本年4月に入学し渡日できていない外国人留学生や前年度以前に入学した外国人留学生のうち一時帰国して渡日できていない学生に対し、遠隔授業を実施している。加えて、本学の学術交流協定先であるラトガース大学(米国)とのオンラインによる合同授業を実施した。</p>
221	仁愛大学	福井県	私立大学	②併用	③半々			
222	福井工業大学	福井県	私立大学	②併用	③半々			
223	山梨大学	山梨県	国立大学	②併用	③半々			
224	大月短期大学	山梨県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では新型コロナウイルス感染症への対応についての切り替え目安を「新型コロナウイルス活動指針」と定めました。また学生には下記のように8月にMicrosoft Teamsやメールなどで周知しました。</p> <p>新型コロナウイルスは新型のウイルスであり、ワクチンも治療薬もまだ開発されていないため、現時点で対面授業を全面解禁するリスクをとることは、学校でのクラスター発生事例を見る限り難しいと判断しました。学生及び教職員の健康と安全、保護者の方々の安心を最優先にするという観点からご理解とご協力をお願いします。</p>	②大多数が理解	<p>学生にアンケート調査を実施(回答率約83%)し、その結果授業の形態に不満を感じている学生の割合は約16%でした。しかし持病や新型コロナに対する不安や同居の親族への配慮などオンライン授業に理解を示したコメントも多くありました。本学は山梨県東部に位置し住民の生活圏も東京、神奈川など都市部に隣接し、感染のリスクも高く、また県外の学生も多く移動のリスクも高い状況です。今後、新規感染者が低水準であれば感染リスクに注意しながら、対面授業の回数を7割程度まで増やす予定です。</p>
225	都留文科大学	山梨県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、大学の様々な活動に関して迅速かつ適切に活動するための指針を策定したこと。活動レベルは感染症の発生状況等によって変化するため、本学新型コロナウイルス感染症等対策本部にて判断基準を参酌し、諸条件を総合的に判断して決定することを説明しています。</p>	②大多数が理解	<p>前期終了後、教員及び学生に行った「遠隔授業についてのアンケート調査」の結果、学生が「面接授業が良い」と回答した結果と、本学が面接授業を行なっている科目形態別の割合がほぼ一致していることを根拠としているので示します。</p> <p>ゼミ(64.3%)、語学系科目(53.4%)、情報技術系科目(48.1%)、実習系科目(80.5%)、小規模講義(52.9%)、40人~70人の講義科目(30.6%)、70人~100人の講義科目(21.1%)、100人以上の講義科目(18.5%)</p> <p>7月に策定した活動方針及び授業実施等の指針の見直しを行っており、12月1日付け、大学ホームページに「2021年度については、学生、教職員の健康と安全を守る対策を十分に講じたうえで、基本的に対面授業を実施します。状況に応じて密集を避けるために学生数が100名以上の授業は遠隔授業とするなどの対策を講じ、また、基礎疾患があり対面授業に出席できない学生に配慮し、適宜、遠隔授業の方法を併用します。」と公表しております。</p> <p>また、教員による遠隔授業の研修会を2月に行う予定となっています。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
226	山梨県立大学	山梨県	公立大学	②併用	④3割対面	①現状の県内感染者の発生状況からみて、ただちに対面授業に切り替えることは難しい。 ②学生に感染者が発生した場合、資格取得に必要な福祉施設や医療機関での実習が受け入れてもらえない恐れがある。 ③教室の規模・受講者数に照らし、ソーシャルディスタンス等の感染対策を実施しての対面授業実施は困難。 ④学生と大学職員とのオンライン座談会を実施して学生から意見を機会を設けるとともに、学生同士の交流の機会を設定。（専門家によるメンタルヘルス等の相談を実施しているほか、入学式の実施を検討）	④把握していない	①新型コロナウイルス感染症への対応については様々な意見がある。 ②オンライン座談会を9月に実施（1年生は必須）して意見を聞く機会を設けたほか、個々の問い合わせに対しては、電話やメールにより1つ1つ丁寧に対応している。
227	健康科学大学	山梨県	私立大学	②併用	④3割対面	主に大学ホームページ上において学生及び保護者に対し後期の授業方針（オンラインによる遠隔授業を中心とする旨）について次の内容を発信し、説明をしている。 後期の授業については、文部科学省の通知を遵守のうえ、感染症対策を講じ授業スケジュールを抜本的に組み直すことで、前期よりも登校機会（対面式授業を含む）を増やした。学生の大学への登校については様々な意見があることは承知しているが社会全体や山梨県内の新型コロナウイルス感染症流行状況を見極めながら、学生の皆さんが安心して学修できるよう対応を引き続き検討していく。また、学生及びその家族等の健康と安全を守ることを最優先に考え今後も大学としての責任を果たすため全力で取り組んでいく所存である。 健康科学大学ホームページ： https://www.kenkoudai.ac.jp/information/7060/	②大多数が理解	オンライン授業の実施にあたり各科目の学修内容に合わせた授業方法の工夫を図っており、これにより学生からは特段の意見や要望もなく進行している。また、一部の学生からは登校が再開されたことを不安に思う様子も見られたため、担当教員等によるきめ細かいフォローを行うことで精神面のケアにも配慮している。
228	山梨英和大学	山梨県	私立大学	②併用	③半々			
229	山梨学院大学	山梨県	私立大学	②併用	④3割対面	本学ホームページ及び学習支援システム（LMS）において、感染症の拡大防止を念頭に置いて、「後期については、オンライン授業の継続を基本としつつ、実験、実習、実技、演習などの対面授業の必要性が高い科目については、感染防止対策を十分にとった上で対面授業を実施する旨」を説明している。	④把握していない	学生向けのアンケート調査を実施していないため、学生の理解・納得の状況については把握していない。 ただし、遠隔授業をキャンパスで受けるための教室・PC実習室の開放や、授業以外で学生がキャンパスに訪れるような企画を実施し、学生が極力キャンパスを訪れるような体制を感染症対策をおこなった上で整備している。また、学生に対しては、eメールやSNS等を活用して、学生の質問、意見、改善要望などに対応し、学生の遠隔授業に対する理解、納得の向上に努めている。
230	信州大学	長野県	国立大学	②併用	③半々			
231	公立諏訪東京理科大学	長野県	公立大学	②併用	③半々			
232	長野大学	長野県	公立大学	②併用	③半々			
233	岐阜県立看護大学	岐阜県	公立大学	②併用	④3割対面	演習や実習など対面授業により効果があると思われるものは、感染対策を固りつつ対面授業とする。本学では従来より双方向型の授業展開を行っていることから、グループワークを実施したり、学生からの意見を聞くためにも遠隔システムを用い、安全かつ双方向の授業に取り組んでいく。	①ほぼ全員理解	遠隔授業を行うにあたり、学生側の通信環境等を調査し、学生の意見も確認しながら無理のないように準備を整え実施した。また、学生への説明も丁寧に行うように努めた。新型コロナウイルス感染症感染者の増減により、授業方法については随時検討していく。 11月2日より大学キャンパスにおける学びの機会を保障するために、対面授業の割合を増やす。11月30日からは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、学生の健康・安全の観点から、申し出によっては遠隔システムを利用した授業参加も可能とし、対面授業とオンラインのハイブリッドで授業を行う予定。
234	情報科学芸術大学院大学	岐阜県	公立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
235	岐阜保健大学	岐阜県	私立大学	②併用	②7割対面			
236	静岡大学	静岡県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>後学期における面接（対面）授業の実施の際の要件を、前学期に比べ緩和（教室の収容定員を3分の1以下から50%以内に變更し、1つの授業の学生数の上限（最大でも50人程度）を撤廃）した。</p> <p>この方針に基づき、令和2年9月11日付け理事（教育・附属学校園担当）通知「令和2年度後学期の授業について」において、現時点での新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、面接（対面）授業と遠隔（在宅）授業を適宜併用することとし、3密対策等の感染防止対策を講じられていることを要件として、実施可能な授業については面接（対面）授業を実施する旨を周知した。</p>	②大多数が理解	<p>前期授業アンケートの概要 期間：2020年8月17～31日 回答者：本学の学部生及び大学院生 回答数：5,374人（回答率：52.9%） 実施方法：学務情報システム 【回答結果】（5:とてもそう思う 4:少しそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画配信型授業で適切に学習できましたか？ 3.7 ・動画配信型授業の総合満足度 3.6 ・同時双方向型授業で適切に学習できましたか？ 3.6 ・同時双方向型授業の総合満足度 3.5 <p>また、アンケート結果の自由記述欄においても、以下のような肯定的な意見が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業とは異なり、後に授業をもう一度見直せるのはとても良かった。 ・しっかりと中身を丁寧に解説している授業は大変良いと思う。 ・通常の対面授業では時間の都合で一回の授業で説明しきれないこともある内容を伝えられるのは、動画や教材を配信する授業の利点だと思った。
237	浜松医科大学	静岡県	国立大学	②併用	③半々			
238	静岡県立大学	静岡県	公立大学	②併用	③半々			
239	静岡英和学院大学	静岡県	私立大学	②併用	②7割対面			
240	静岡産業大学	静岡県	私立大学	②併用	③半々			
241	沼津工業高等専門学校	静岡県	高等専門学校	②併用	③半々			
242	豊橋技術科学大学	愛知県	国立大学	②併用	③半々			
243	愛知県立大学	愛知県	公立大学	②併用	③半々			
244	愛知大学	愛知県	私立大学	②併用	②7割対面			
245	愛知医科大学	愛知県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>同一キャンパス内に附属病院があることや、高学年の学生が附属病院や他の医療機関で実習を行っていることなどから、医療系大学として特に感染防止対策が必要であることを説明し、理解を求めている。</p>	②大多数が理解	アンケート調査を実施したところ、多くの学生がオンライン授業に満足していると回答した。
246	愛知淑徳大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
247	愛知文教大学	愛知県	私立大学	①全面対面	—			
248	星城大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
249	大同大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
250	東海学園大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
251	豊田工業大学	愛知県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>コロナが猛威を振るい始めてから、本学は学内での感染防止対策を徹底し、学生・教職員に責任ある行動を求めつつ教育研究活動を進めている。特に、本学は学部1年次を全寮制とし、寮生活での人間教育を特色としており、それを楽しみに入学した学生も多い。</p> <p>しかしながら、学生間の交流を促進するような造りとなっている本学の学生寮にあっては、クラスター発生の危険性が極めて高い状況にあるため、全寮制をいったん中断し、やむを得ない事情のある学生を除き自宅等に帰っていただいた。これにより、全ての学生が通学圏内に住んでいるわけではないという状況が生まれ、後期においてもオンラインから面接授業への柔軟な切替えを難しくする原因の一つとなっている。このような他大学にはない特殊な環境の中でも、国内・県内の感染者の発生状況に留意しながら、可能な限りの対応を検討・実施し、学生に説明している。</p> <p>具体的には、6月から大学院生、8月からは学部4年生の出校を許可し、研究室に所属する学生全員が研究活動を再開している。また、授業については、後期もオンライン授業を原則としつつ、履修者の少ない大学院科目から面接授業を開始した。さらに、11月からは学部1～3年生の出校を認める。完全な面接授業とはいかないものの、一部の科目では教室で教員の顔を見ながら授業を受けられるようにするとともに実験実習科目の体験会の開催を予定している。今後も3密対策とその啓蒙を徹底し、学生が安心して授業に出席できることを前提に、可能な限り教室で受けられる授業を拡大していく計画である。</p> <p>このような対応に至った経緯については、4月以降、6回にわたり学長メッセージを発売、8回にわたり感染防止対策に係る対応をホームページに掲載し、学生に説明を行った。また、全学生を対象とした説明会（4・7月）および後期ガイダンス（9月）、加えて学部1年生には9～10月に学長との懇談会をオンラインで開催し、学長から学生に直接説明を行っている。なお、保護者に対しても本学のコロナへの取組みをまとめた広報誌を10月に送付したほか、11月にはオンラインでの保護者懇談会を計画しており、学生、保護者、社会に対して広く説明を行い、理解活動に努めている。オンライン授業については、学生に対して通信環境調査（4月）やオンライン講義に関するアンケート調査（8月）を実施して学生の状況を把握。ネットワーク回線の強化、通信環境整備費の支給、授業方法の改善等に取り組んだ。</p> <p>また、本学では、小規模大学の特徴を生かし、オンデマンド方式ではなく、臨場感のあるライブ配信（この録画をWebサイトに置き復習に活用）による授業を原則としており、学生からも評価をいただいている。</p>	②大多数が理解	<p>8月末に、全学生を対象に「オンライン講義に関するアンケート調査」を実施し、学生の状況を把握した（回答率70%）。アンケート結果は全教員と情報共有し、後期からの授業改善に役立てている。</p> <p><調査結果概要></p> <p>オンライン講義の学修効果は1年生の半数近くが「良く学べた」と感じており、学年が上がることにその割合が増加し、3・4年生は2/3に近い。上位学年ではオンライン授業の方を望む回答も多くあった。一方で、オンライン授業が続くことの「目の疲れ」が顕著。講義スタイルは、黒板での板書が不評で、所要所要での参加度の高い講義が好評。課題の量は「多い」と感じている学生が多い。成績評価は定期試験とレポートのどちらが望ましいかについて意見が分かれる。後期もオンライン講義が続くことへの不満は次の2点にあり、それぞれ対応を予定している。</p> <p>(1) 学部1～3年生は出校禁止のため、大学の施設を利用できない。⇒11月から出校を許可する。施設の利用も順次開始していく予定である。</p> <p>(2) 講義科目はオンラインでも仕方がないが、実験実習科目は面接授業で実施してほしい。⇒実験実習は少人数グループに分かれて数テーマを順次履修する方式である。テーマごとにオンラインで受講する学生と面接で受講する学生が出てしまい、不公平が生じる。成績評価も公平性を保てない。また、教員はオンライン授業を準備・実施してきたものを急には面接授業に切り換えられない、といった問題がある。そのため、希望者を対象に春休み等に実験実習の体験会を開催する予定である。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
252	名古屋外国語大学	愛知県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>高等教育機関として質の高い教育を施す使命があること、及び新型コロナウイルスの集団感染リスクを抑え学生の生命を守ること、この2つの使命を果たすためにオンライン授業を行う。</p> <p>https://www.nufs.ac.jp/media/20200410-02-004.pdf</p> <p>特に本学は少人数教育を大切にしている大きな教室が少ないこと、また、学生の約8割がスクールバスを利用して、密の回避が非常に難しいことから、主として遠隔授業を行っている。</p>	②大多数が理解	<p>本年度1期（前期）末にオンライン授業に関する学生調査（全学生対象）を行った（回答者数3,521人/在籍学生数4,599人：回答率76.6%）。</p> <p>https://www.nufs.ac.jp/media/20200919-01-001.pdf</p> <p>このアンケート調査におけるオンライン授業の満足度に関する問いに対して、81.8%の学生が「ふつう」以上と回答している（「非常に満足」、又は「満足」、又は「ふつう」）。また、「不満」又は「非常に不満」と回答した学生は、18.2%であった。このアンケート結果から、問7において「②大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得している」と判断した。本学のオンライン授業は、6割程度がリアルタイム双方向型であり、授業の質の維持に配慮して学生の満足度も高い（ほぼ全学生がリアルタイム双方向型授業を受講）。</p> <p>なお、本学では学生の登校機会を設ける観点から、1期に1年次生を対象にOpen Campus for Freshmenを実施した。https://www.nufs.ac.jp/media/20200615-01-001.pdf</p> <p>また、2期（後期）においては、1～4年次生を対象に「Creative Week（創造的な週間）」及び「Creative Week Plus」（計6週間）を設け、登校の機会を確保している（「教育學術新聞」11月11日号に紹介）。</p> <p>https://www.nufs.ac.jp/media/20200804-01-002.pdf</p> <p>https://www.nufs.ac.jp/news-topics/cw/</p> <p>さらに、本学における感染症予防対策の強化と感染症自体の一時的な小規模状態等を総合的に勘案し、アクティビティ指針の見直しを図り、10月26日（月）から一部の科目区分において対面授業を開始することとしている。</p>
253	名古屋学院大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
254	名古屋経営短期大学	愛知県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>コロナウイルス感染拡大予防の観点から、不特定多数との接触が生じる環境（通学、学内）を可能な限り減らすため、また、教育上の効果を鑑み、一部実習、演習科目については、感染拡大予防に配慮しつつ実施をする。</p>	②大多数が理解	<p>ゼミなどでの学生の意見から、大多数の学生はこれらの授業形態について理解していた。12月1日より対面授業を拡大（すべての授業を対面に実施）</p>
255	名古屋産業大学	愛知県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>現在、コロナウイルスの広がりは落ち着いてきていますが、大学生の多くがアルバイトや電車通学等、不特定多数の人との接触がある環境にあります。状況をみて対面授業に切り替える予定はしておりますが、現時点では遠隔授業と対面授業の両立としてご理解ください。</p>	②大多数が理解	<p>ゼミなどでの学生の意見から、大多数の学生はこれらの授業形態について理解していた。12月1日より対面授業を拡大（対面授業9割、遠隔授業1割）</p>
256	名古屋造形大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
257	南山大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
258	日本福祉大学	愛知県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>2020年4月に大学トップページにおいて、学長より全ての学生に対して、①感染防止を最優先する（学生・大学院生、教職員の健康と安全）、②教育保障（学生・大学院生の学びの保障）、③臨機応変に対応していくこと（状況の変化への細やかな対応）の3つを柱とするコロナ禍に対する本学の基本方針を示した。基本方針の中で、本学は障害のある学生を多く受け入れている上に、学内関係者や学生の保護者には福祉や医療の現場のエッセンシャルワーカーも多く、学内でクラスター感染を引き起こした場合、学内での重症者・死亡者の発生や、家庭内感染を通じて地域のライフラインにまで甚大な影響を及ぼすおそれがある。</p> <p>「ふくしの総合大学」を標榜する大学として、①の感染防止を最も優先した上で教育保障を追求した結果として、多くの科目で遠隔授業を導入したことを説明している。他方で、本学の多くの学部で福祉、医療、教育の現場での対人援助職の養成を行っていることから、2年次以上の学年では実習をはじめ対面での指導が必要不可欠な演習、実験・実技科目も多いため、政府及び自治体の発表や県内感染状況を踏まえながら、受入可能な施設については実習を6月から後期にかけて再配置して実施している。実習については、国家資格等の取得には必須の要件となる為、実習を安全に行う上でも、前期7月後半の新型コロナウイルスの再拡大後は、講義系科目については遠隔授業を基本として実施した。</p> <p>ただし、演習、実技、実験等の一部の科目は、前期後半にオンライン授業を基本とした際にも、面接授業での実施とし、後期開始時においても面接授業で実施している。また、入学以降、キャンパスライフの機会が少ない1年生に対しても、後期後半の10月19日からゼミ科目、実技科目とこれらが開講される曜日に配置されている1年次配当科目について対面授業を再開した。</p>	②大多数が理解	<p>問6の回答のとおり、2020年度当初より、遠隔授業は、本学の理念と固有の事情を踏まえて導入したものであることを全学生に情報発信するとともに、学部学科の教育課程や人材養成目標に照らして、対面指導の必要性の高い科目を学年ごとに選定することで、あらゆる学生層に偏りなく一定の面接授業を行っている。</p> <p>また、遠隔授業の導入に際しては、その実施手段であるwebビデオ会議システムについて、実際にユーザーとなる学生、科目担当教員の目線での、操作性をはじめとするアクセシビリティを最優先にして選定を行い、全ての科目で対応可能なライセンス数を購入して、大学として授業実施方法を当該システムに統一した。</p> <p>さらに、学生に対して、マニュアルや日常のヘルプデスクの設置、情報環境支援（PC貸与や大学独自の一律給付金の支給）を行うことで円滑に遠隔授業に移行した。個々の授業運営においてもオンライン上でグループワークを行うなど、できるだけ面接授業相当の教育効果が得られるような取組を行っている。</p> <p>本学では、教学機関、理事会、各校地の学生代表、教職員組合、大学生協の、キャンパスを構成する5つの組織間で定期的に課題を共有、意見交換する機会として全学協議会を設けている。直近で開催された6月の同協議会においては、その時点では全面遠隔授業であったにもかかわらず、コロナ禍における遠隔授業導入に係る大学側の姿勢と対応について、いずれのキャンパスの学生代表からも肯定的に受け止めるとともに学生としても協力をしていきたいとの意向が表明された。技術面についても、いくつかの課題は提起されつつも、録画データを反復して視聴することで理解が深めやすい、教室よりも質問がしやすいなどの遠隔授業ゆえのメリットを評価する声も出された。以上を踏まえて、本学としては、「②大多数が理解」と認識している。</p>
259	人間環境大学	愛知県	私立大学	②併用	③半々			
260	三重大学	三重県	国立大学	②併用	③半々			
261	津市立三重短期大学	三重県	公立大学	②併用	③半々			
262	四日市看護医療大学	三重県	私立大学	②併用	③半々			
263	滋賀文教短期大学	滋賀県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	感染拡大防止のため。	③大多数とは言えない	<p>教員と学生との面談の中で不安や、理解が得られていないような旨やり取りがあった。また、大学メール等でも学生の理解・納得の状況に関する問い合わせがあったため。</p>
264	聖泉大学	滋賀県	私立大学	②併用	③半々			
265	京都大学	京都府	国立大学	②併用	④3割対面	<p>後期授業は、前期に引き続き遠隔授業を中心に実施するが、京都市内の感染者数の推移や学内の感染対策の進展などの状況を踏まえ、今後は、学生相互や教員との交流機会の回復も含めた、より質の高い学修機会を確保するため、接触機会の抑制の配慮により遠隔で予定されている授業についても、感染拡大防止に最大限の配慮をしつつ、可能なものについては、適宜、面接での授業の再開を進めて行くこととする。</p>	②大多数が理解	<p>本学で6月に実施した「学生の状況に関するアンケート調査」では、面接授業の開始時期についての設問では、「徐々に段階を踏んで面接授業を実施してほしい」「当分そのまま遠隔授業で実施してほしい。」という回答が約65パーセントとなっていた。</p> <p>しかしながら、学部新入生を中心に学修への不安や対人関係への不安を持っている学生も多いことが現実である。このような中で、学生が安心して通学できるようキャンパスの整備（面接と遠隔の併用授業のための機器等の整備、遠隔授業を視聴する自習室の増設や食堂の整備）を行い、面接授業又は面接と遠隔の組み合わせで行う授業を徐々に再開していくことを検討している。また、大学全体では面接授業の割合は3割程度で留まっているが、複数の部局が授業全体の半数以上が面接授業（面接と遠隔の併用授業を含む）で実施している。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
266	京都工芸繊維大学	京都府	国立大学	②併用	④3割対面	<p>後学期授業の実施方法については、新型コロナウイルスの感染状況は勿論のこと、前学期に実施したオンライン授業の教育効果、キャンパスライフで得られる様々な経験の重要性、そして学生からの要望など、様々な要素を踏まえ、慎重に検討を行った結果、対面授業とオンライン授業を併用して実施することとしました。</p> <p>対面授業科目の選定にあたっては、京都市内においては、依然、感染のリスクが高い状況ではありますが、すべての学生が登校の機会を得られるように配慮し、必修の実験・実習・演習、コア科目等を中心に一部の専門科目を対象とすることとしました。</p> <p>なお、通学・対面授業の再開にあたって、京都府が定める「大学等の再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン」に基づき、教育研究活動をはじめとする大学の諸活動の基本的なルールを定めた、本学独自の「京都工芸繊維大学新型コロナウイルス感染症拡大予防マニュアル」を策定し、当該マニュアルに従って行動するよう、学生・教職員に周知・徹底しています。</p>	②大多数が理解	<p>前学期はすべての授業をオンラインで実施しましたが、学生による授業評価アンケートでは教職員の努力もあり、オンライン授業を高く評価する声が寄せられました。</p> <p>一方で、実験・実習・演習科目については、対面授業の再開を希望する意見があったため、本学のような工科大学では対面での実施が必要不可欠であると判断し、後学期から対面授業とオンライン授業を併用して実施することとしました。</p> <p>また、京都府は、他の地域と比して、感染者の発生数が多い地域であり、かつ、学生が多い街であるため、若年層の感染者数が増加している最近の状況も踏まえ、本学の対応について一定の理解をいただいているものと考えています。</p> <p>なお、来年度については、対面授業を基本とし、必要に応じオンライン授業を併用する方法で実施できるよう検討を進めています。</p>
267	京都市立芸術大学	京都府	公立大学	②併用	③半々			
268	京都府立大学	京都府	公立大学	②併用	③半々			
269	京都府立医科大学	京都府	公立大学	②併用	④3割対面	<p>大学教育の到達目標を達成するため、演習・実習については原則、対面授業により開講し、それ以外の授業（座学）については、オンラインで実施する旨説明し、本学ホームページにも掲載している。</p>	②大多数が理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本学は府内唯一の第一種感染症指定医療機関であり、感染予防には特に慎重な対応が必要である。 ・学生、教職員からの感染を防ぐため、これまでから一般の大学等よりも厳しい生活上の自粛も行ってきており、本学独自の活動指針を定め、遠隔授業により年度当初から授業を実施してきたところである。 ・学生や保護者の方からの感染を心配して、より慎重な対応を求める声の両方がある中、遠隔授業との両立や通勤ラッシュ時間帯を避けるなど細心の注意を払いながら、十分な感染対策を行った上で、必要不可欠の授業については、対面授業を実施しているところであり、遠隔授業に関するアンケート結果についても、一部の学生から対面授業拡大を求める声はあるものの、概ね学生からの評価は高い。 ・将来の医療人を育成する意味で、コロナ禍は医学生への自覚を高める機会とも捉え、指導している状況の中、学生の理解を得ているものと考えている。
270	福知山公立大学	京都府	公立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
271	京都外国語大学	京都府	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>2020年8月5日付けで、以下のようにホームページおよびweb mailにより、秋学期の授業についての本学の方針を次のように案内した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う秋学期の授業について学生の皆さんには、春学期中の本学の新型コロナウイルス感染防止対策にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、7月以降も全国各地で感染者数が増加し、第2波の来襲が懸念される中で、引き続き慎重かつ柔軟な対応が求められる状況です。本学では、感染拡大の状況を注視しながら、秋学期の授業について慎重に協議・検討を重ねた結果、学生の皆さんの感染予防と健康維持のため、秋学期は原則として遠隔授業とします。</p> <p>ただし、本学の行動基準が「レベル1」になる、もしくは感染者数の増加が一定数にとどまる場合は、一部の科目について感染防止策を講じたうえで、対面授業を実施することとします。これは、学生皆さんの健康と安全を確保しつつ、本学の教育活動を実施するための苦渋の決断であることを申し添えます。引き続きご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。</p> <p>9月末、学内のコロナ対策会議にて、京阪神地区の「感染者数の増加が一定数にとどまる」傾向にあると判断し、「一部の科目について感染防止策を講じたうえで、対面授業を実施する」ということを決めた。本学は全国の大学の中でもかなり面積が小さいキャンパスであり、さらに語学の学修を中心とした校舎の作りとなっているため、小教室と中教室がほとんどで、大教室はごく少数である。そのような教室で、語学の授業に欠かせない発音訓練、ペア活動などによる飛沫を防止するためには、履修学生間のソーシャルディスタンスを保たねばならない。また、廊下、階段も狭く、授業だけではなく授業外の滞留に対する対策が必要である。本学施設の収容能力から考え、三密を避けるためには、1日の入構できる学生数を約900人と考え、その対面授業と教室について対策を講じた。</p> <p>その結果、次のように計画し、そのことを学生に説明している。(2020/9/25、関連項目のみ抜粋)</p> <p>・教室は、原則として通常の収容定員の概ね40%以下となるよう、受講者数から計算して選んでいます。・対面授業を行う教室は、1日に1回しか使用しません。したがって、授業終了後に机や椅子を学生の皆さんが消毒する必要はありません。・対面授業で登校する学生の皆さんが学内で遠隔授業を受けられるよう教室を準備します。その教室は、通常の収容定員の概ね50%以下で使用し、パソコンを設置します。電源も用意していますので、各自持ち込んだパソコンも利用できます。その対策結果により、1日の入構者数が制限され、対面式の授業が週1度に制限されたことになる。</p>	②大多数が理解	<p>本学では授業活動における三密と、授業外での滞留による三密を避けるため、1日の入構者数を制限することを基本に秋学期の授業計画を行ってきた。大学における対面授業は、京阪神の通学時での感染の不安（とくに電車・地下鉄・バス）、京都市という学生人口密集地（地方と比較した上で）への移動、海外からまだ日本に入国することに不安を抱えている学生など、学生の不安を考慮し、大学に来たくない学生、保護者が来させたくない学生に強制的に大学に来させないような配慮を行った。それ故、対面授業においては、遠隔からも授業に参加できるような授業形態を導入すべく、緊急に教室内の機材整備を行い、教員のIT機器使用の研修も行った。学生に対しては、対面授業への参加について次のように説明し、対面授業に参加できない学生については、理由を提出した上で遠隔授業から参加する手続きを行った。</p> <p>・対面授業が実施される科目を履修する学生は、基本的に対面での授業の出席を想定されています。</p> <p>ただし、以下のいずれかの理由により対面での出席が難しい場合は、授業担当教員にその理由とともに遠隔での授業参加を申し出て下さい。a. 基礎疾患や既往症のために新型コロナウイルスの感染に対して高いリスクがある。b. すでに下宿を引き払っていたり、日本に入国できていなかったりするなど、秋学期に対面で授業に出席するための環境が整わない。c. 通学や対面授業の中で新型コロナウイルスに感染する危険性について、精神的に強い不安を抱えている。d. その他、通常の状態では生じないが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って生じた理由によって、対面での授業出席が難しい。</p> <p>・遠隔での授業参加の申し出は、Microsoft Teamsでのクラス設定後から当該授業の開始日までに、Microsoft Teamsで授業担当教員からアンケートフォームが届きます。それに記入して下さい。理由がdの場合には、その内容を具体的に伝えて下さい。・対面出席か遠隔参加かの選択を、その日の気分や、学期途中で「変更」に変更することはできません。対面での出席人数によって、授業計画や教室のセッティングに影響する場合があります。ただし、遠隔参加の理由が解消されるなど、学期の途中で状況が変わり、対面から遠隔、あるいは遠隔から対面に変更を希望する場合は、授業担当教員にその理由とともに変更を申し出て下さい。</p> <p>・対面出席を選んだ学生が体調不良などで出席できない場合は、その日だけ無理に遠隔で授業に参加したりせず、授業担当教員に理由と欠席する旨を伝え、体調の回復に努めて下さい。</p> <p>・ただし、プロジェクトベースの科目などで、個々の学生の対面での授業の出席が授業計画に従って決められている場合は、授業担当教員の指示に従って下さい。</p> <p>その結果、対面授業に参加したい学生は対面で、遠隔授業で参加したい学生は遠隔での選択を与えた。学生は自分自身の事情に合わせ、参加形態を選んで参加している。すなわち、自分の納得した形で参加を行っていると感じている。現在、その授業形態を10月1日の秋学期開始以降4週間目に入ったところである。1年次学生と保証人からは、対面授業を増やして欲しいとの要望は出ているが、多くはない。1年次学生については、授業以外に得られるメリットである人的交流などに課題があるため、各学科で学生へ門をを広げられる方策を11月以降実施する。なお、学生や保証人の声をいつでも受け付けられるよう、本学では、次のような窓口を設けている。①授業教学面：教務部②大学生生活面：学生部、学生相談室、保健室③留学生全般：留学生サポートデスク大学院：大学院事務室、学生の納得できない事柄、理解できない事柄があれば、いつでも問い合わせに応じる体制を整えている。以上 追記 12月上旬に決定する予定であるが、来年度の授業形態を基本的には対面で行うこととしている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
272	京都外国語短期大学	京都府	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>2020年8月5日付けで、以下のようにホームページおよびweb mailにより、秋学期の授業についての本学の方針を次のように案内した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う秋学期の授業について学生の皆さんには、春学期中の本学の新型コロナウイルス感染防止対策にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、7月以降も全国各地で感染者数が増加し、第2波の来襲が懸念される中で、引き続き慎重かつ柔軟な対応が求められる状況です。本学では、感染拡大の状況を注視しながら、秋学期の授業について慎重に協議・検討を重ねた結果、学生の皆さんの感染予防と健康維持のため、秋学期は原則として遠隔授業とします。</p> <p>ただし、本学の行動基準が「レベル1」になる、もしくは感染者数の増加が一定数にとどまる場合は、一部の科目について感染防止策を講じたうえで、対面授業を実施することとします。これは、学生皆さんの健康と安全を確保しつつ、本学の教育活動を実施するための苦渋の決断であることを申し添えます。引き続きご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。</p> <p>9月末、学内のコロナ対策会議にて、京阪神地区の「感染者数の増加が一定数にとどまる」傾向にあると判断し、「一部の科目について感染防止策を講じたうえで、対面授業を実施する」ということを決めた。本学は全国の大学の中でもかなり面積が小さいキャンパスであり、さらに語学の学修を中心とした校舎の作りとなっているため、小教室と中教室がほとんどで、大教室はごく少数である。そのような教室で、語学の授業に欠かせない発音訓練、ペア活動などによる飛沫を防止するためには、履修学生間のソーシャルディスタンスを保たねばならない。また、廊下、階段も狭く、授業だけではなく授業外の滞留に対する対策が必要である。本学施設の収容能力から考え、三密を避けるためには、1日の入構できる学生数を約900人と考え、その対面授業と教室について対策を講じた。</p> <p>その結果、次のように計画し、そのことを学生に説明している。(2020/9/25、関連項目のみ抜粋)</p> <p>・教室は、原則として通常の収容定員の概ね40%以下となるよう、受講者数から計算して選んでいます。・対面授業を行う教室は、1日に1回しか使用しません。したがって、授業終了後に机や椅子を学生の皆さんが消毒する必要はありません。・対面授業で登校する学生の皆さんが学内で遠隔授業を受けられるよう教室を準備します。その教室は、通常の収容定員の概ね50%以下で使用し、パソコンを設置します。電源も用意していますので、各自持ち込んだパソコンも利用できます。その対策結果により、1日の入構者数が制限され、対面式の授業が週1度に制限されたことになる。</p>	②大多数が理解	<p>本学では授業活動における三密と、授業外での滞留による三密を避けるため、1日の入構者数を制限することを基本に秋学期の授業計画を行ってきた。大学における対面授業は、京阪神の通学時での感染の不安（とくに電車・地下鉄・バス）、京都市という学生人口密集地（地方と比較した上で）への移動、海外からまだ日本に入学することに不安を抱えている学生など、学生の不安を考慮し、大学に来たくない学生、保護者が来させたくない学生に強制的に大学に来させないような配慮を行った。それ故、対面授業においては、遠隔からも授業に参加できるような授業形態を導入すべく、緊急に教室内の機材整備を行い、教員のIT機器使用の研修も行った。学生に対しては、対面授業への参加について次のように説明し、対面授業に参加できない学生については、理由を提出した上で遠隔授業から参加する手続きを行った。</p> <p>・対面授業が実施される科目を履修する学生は、基本的に対面での授業の出席を想定されています。</p> <p>ただし、以下のいずれかの理由により対面での出席が難しい場合は、授業担当教員にその理由とともに遠隔での授業参加を申し出て下さい。a. 基礎疾患や既往症のために新型コロナウイルスの感染に対して高いリスクがある。b. すでに下宿を引き払っていたり、日本に入学できていなかったりするなど、秋学期に対面での授業に参加するための環境が整わない。c. 通学や対面授業の中で新型コロナウイルスに感染する危険性について、精神的に強い不安を抱えている。d. その他、通常の状況では生じないが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って生じた理由によって、対面での授業出席が難しい。</p> <p>・遠隔での授業参加の申し出は、Microsoft Teamsでのクラス設定後から当該授業の開始日までに、Microsoft Teamsで授業担当教員からアンケートフォームが届きます。それに記入して下さい。理由がdの場合は、その内容を具体的に伝えて下さい。・対面出席か遠隔参加かの選択を、その日の気分や、学期途中で「安易に」変更することはできません。対面での出席人数によって、授業計画や教室のセッティングに影響する場合があります。ただし、遠隔参加の理由が解消されるなど、学期の途中で状況が変わり、対面から遠隔、あるいは遠隔から対面に変更を希望する場合は、授業担当教員にその理由とともに変更を申し出て下さい。</p> <p>・対面出席を選んだ学生が体調不良などで出席できない場合は、その日だけ無理に遠隔で授業に参加したりせず、授業担当教員に理由と欠席する旨を伝え、体調の回復に努めて下さい。</p> <p>・ただし、プロジェクトベースの科目などで、個々の学生の対面での授業の出席が授業計画に従って決められている場合は、授業担当教員の指示に従って下さい。</p> <p>その結果、対面授業に参加したい学生は対面、遠隔授業で参加したい学生は遠隔での選択を与えた。学生は自分自身の事情に合わせて、参加形態を選んで参加している。すなわち、自分の納得した形で参加を行っていると解釈できる。現在、その授業形態を10月1日の秋学期開始以降4週間目に入ったところである。1年次学生と保証人からは、対面授業を増やして欲しいとの要望は出ているが、多くはない。1年次学生については、授業以外に得られるメリットである人的交流などに課題があるため、各学科で学生へ門を広げられる方策を11月以降実施する。なお、学生や保証人の声をいつでも受け付けられるよう、本学では、次のような窓口を設けている。①授業教学面：教務部②大学生生活面：学生部、学生相談室、保健室③留学生全般：留学生サポートデスク。学生の納得できない事柄、理解できない事柄があれば、いつでも問い合わせに応じる体制を整えている。以上 追記 12月上旬に決定する予定であるが、来年度の授業形態を基本的には対面にて行うこととしている。</p>
273	京都光華女子大学	京都府	私立大学	②併用	③半々			
274	京都産業大学	京都府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>対面授業の再開と感染予防を両立させるため、少人数クラスである実験・実習・演習科目を中心に、学生の動き、施設の使用状況その他のキャンパス内の状況を踏まえながら、段階的に対面授業の数を増やす計画であること。また、学部ごとに、どのように優先順位をつけ、対面授業を再開するのかを学生に対して説明している。</p>	④把握していない	<p>秋学期半ばまでには、大多数の学部において、専門教育科目の概ね半分以上が対面授業となる。現在も、キャンパス内の感染予防の面からの検証とともに、概ね半分以上の科目が対面授業となることを目標に、対面授業の拡大に取り組んでいる。現時点では取組途中であり、今後学生へのアンケート調査も予定している。オンライン授業に関することも含め、学生の理解・納得の状況調査を含めた総括的な検証を行う。</p>
275	京都情報大学院大学	京都府	私立大学	②併用	②7割対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
276	京都西山短期大学	京都府	私立大学	②併用	②7割対面			
277	京都先端科学大学	京都府	私立大学	②併用	③半々			
278	京都美術工芸大学	京都府	私立大学	②併用	③半々			
279	京都薬科大学	京都府	私立大学	②併用	③半々			
280	立命館大学	京都府	私立大学	②併用	③半々			
281	大阪市立大学	大阪府	公立大学	②併用	④3割対面	<p>本学の後期授業の大方針は「令和2年度後期授業においては、感染拡大の防止を最優先して遠隔授業を基本としてきた前期授業の方針を踏襲しつつも、学生と大学との、また学生同士の結びつきを確保する観点から、一定の条件を満たすものについて、感染防止対策を徹底した上で対面授業を実施するものとします。」としている。</p> <p>具体的には特に1年生の多くが履修する科目(健康スポーツ実習や初年次ゼミなど)や実験・実習科目、演習科目については可能な限り対面授業とし登校機会を設けている。</p>	②大多数が理解	<p>学生向けアンケート(7月実施・有効回答数1691)の設問「今後、大学の授業形態として、どのような形態が望ましいかを教えてください。」の回答は「すべて遠隔8.6%」「遠隔中心22.4%」「遠隔対面同程度26.3%」「対面中心31.0%」「すべて対面11.6%」と分散しており、全面的な対面化のニーズは1割程度であり、学生意向も多様であることが判明した。</p> <p>特に「すべて遠隔」と回答した学生からは、通学や学内での感染リスクによる登校忌避のコメントが多く寄せられた。よって、学生意向にも沿い対面授業と遠隔授業を混在させることにより個々のニーズに沿えるようにしたところである。</p> <p>また、後期授業において、1年生の多くが履修する対面授業の健康スポーツ実習の履修者が例年に比べ少ない状況もあり、このことから全面的な対面化を本年度後学期中に実施するのは時期早尚であると考えている。</p>
282	藍野大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
283	大阪大谷大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
284	大阪学院大学	大阪府	私立大学	②併用	②7割対面			
285	大阪経済大学	大阪府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学方針として以下の内容の学長名文書を学生・保護者に向けて郵送している。感染状況ふまえ、演習科目、実習、実技科目、PCの特殊なソフトを用いた少人数の授業については対面授業とし、その他の授業はWEBを活用した授業を実施する。</p> <p>また、感染防止のため、対面授業は通常より大きい教室を割り当て、各教室の収容者数を50名以下、収容定員率を50%以下とし、一日の来学学生数を全在生学生数の30%以下に制限することとする。</p>	②大多数が理解	<p>学生へのアンケート調査ならびに電話・メール・授業内での意見等から。アンケート「秋学期に受講したい授業類型」結果：対面のみ15.9% WEBのみ52.6% 現段階では学生・保護者からの対面授業を増加するようこの要望はほとんど寄せられていない。(その他回答にあたり特殊な事情)感染拡大防止のため、校内に入る際の正門前での検温、座席間の間隔確保を徹底している。現段階では、円滑な授業実施のためには一日あたりの来学学生数をある程度制限する必要があると判断している。</p> <p>また感染防止対策をとった上で、ゼミナールを中心とした演習科目は原則対面で実施し、PC教室等の学内施設を開放することで、学生が大学に来る機会を提供し教職員に相談できる環境を整えている。</p> <p>(今後の取り組み方針)</p> <p>感染状況にもよるが、来年度からは対面授業を増やす方向で検討を進めている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
286	大阪工業大学	大阪府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>文科科学省高等教育局大学振興課からの令和2年7月27日付事務連絡文書「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」における「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法を検討するに当たっての基本的な考え方」に沿い、当時キャンパスが所在する地域（大阪府）が第2波とも受け取れる感染者急増の最中にあつたため、本学では、9月24日から始まる後期授業の実施方針を次の内容で学生に周知した。なお、遠方に居住する学生が、後期授業に備えて大阪に生活拠点を移すことも想定されたため、速やかに学内で意思決定を行い、8月7日には周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染者が全国的に増加し拡大の様相を呈していることから、学部は前期に引き続き遠隔授業を主とする。（この時点で、大学院は面接授業を主とする旨、周知している。） ・前期と同様に実験・実習など大学が必要と判断する授業科目は、初回授業から対面を取り入れていく。 ・学部学科によっては、対面実施を控えていたゼミ授業やPBL授業でも対面を取り入れるなど、少しでも充実を図っていく。 ・登学の機会は、教員や学生同士が直接意思疎通できる機会であるため、有効に活用して欲しい。 ・図書館も閉館し、学修支援を行う。 ・後期の遠隔授業は、より一層教育効果の最大化を図っていく。 ・今後の新型コロナウイルス感染状況をみながら、すべての授業を対面に切り替える時期を模索し続ける。なお、本学では2020年10月9日に、11月上旬より面接授業を主体とする授業体制に移行することをHPにて周知している。 	②大多数が理解	<p>本学では、緊急事態宣言下の5月7日に前期全授業を遠隔授業で開始したが、遠隔授業の受講環境が整わない学生や受講方法に不慣れな学生に対しては、感染予防対策を徹底しながらキャンパス内に受け入れ、学修支援を行ってきた。</p> <p>同宣言が解除された直後にはキャンパス閉鎖も解除し、引き続き全授業を遠隔授業としながらも登学機会の確保を積極的に進め、6月からは感染者の多い地域の中でもいち早く実験・実習等を対面により再開し、遠隔授業であっても対面での試験が必要と判断される授業科目は、学生に登学してもらい試験を行ってきた。</p> <p>このような対応を行う際には、HPで本学の考え方も含めて周知、理解を求めており、学生や保護者からも賛同の声を頂いていた。遠隔授業を主とする中での上記の取組みと、本学で実施した前期遠隔授業アンケート（実施期間：2020年7月31日～8月29日、回答総数：2,552名）の「学生各自に適すると考えられる授業形態は？」という設問で「全て面接授業」と回答した学生の割合が19.32%であった結果を踏まえ、後期の授業実施方針として前期より面接授業の割合を増やしつつも、遠隔授業を主とすることに對し多くの学生が理解・納得していると考えている。</p> <p>ただし、前期から面接授業を取り入れていた本学としては、対面での授業を可望しており、後期授業実施方針の中で「新型コロナウイルス感染状況をみながら、すべての授業を対面に切り替える時期を模索し続ける」旨を明記し、本学の意思を学生に伝えてきたところである。並行して、本学は新型コロナウイルスの感染者が多い地域にあるため、学生本人や家族が基礎疾患を抱えているなどの理由により登学できない学生も一定数存在することから、当該学生に対する学修機会確保のための面接授業をリアル配信などの必要機材の手配に着手し、各キャンパス全ての一般教室に完備できる時期、かつ、教員側の準備期間も考慮して、11月上旬から面接授業に移行することを10月8日に最終決定し、翌9日に学生に対し周知済みである。</p>
287	大阪樟蔭女子大学	大阪府	私立大学	②併用	②7割対面			
288	大阪電気通信大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
289	大阪保健医療大学	大阪府	私立大学	②併用	②7割対面			
290	大阪薬科大学	大阪府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>面接授業の比重についての考えは特別に説明はしていませんが、後期日程における授業開始日から終了予定日までの全開講科目の毎日の開講スケジュール（面接授業が実施されるのか、オンデマンド授業が配信されるのか）を明示するとともに、「後期授業実施の考え方」として次の内容を学生や対外に周知しています。</p> <p><後期授業日程の考え方>前期については全てオンデマンド授業（実習は対面授業）で実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の情勢を踏まえ、後期についてはオンデマンド授業と対面授業を併用して実施していきます。（全てをオンデマンド授業又は対面授業で実施する科目あり。）対面授業の実施にあたっては、学年ごとに対面授業を実施できる週を振り分けて登校の集中を避けるようにします。また、教室の収容人数を勘案し、教室の人口密度を下げるため、大講義室を主に用いて実施します。</p>	②大多数が理解	<p>学生から面接授業の比重についての苦情や意見はありません。逆に、学生や保護者からはまだまだ感染が怖いので全てをオンデマンド授業にして欲しいという意見はあります。</p>
291	関西外国語大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
292	近畿大学	大阪府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>各学部のカリキュラム、科目の特性等を勘案し、適切な環境のもとで授業を実施しており、本学の授業の実施方針についてご理解いただけるよう周知しています。</p>	②大多数が理解	<p>本学では、学修成果の可視化のため毎年度半期ごとに授業評価を実施しております。今年度前期末に実施した授業評価では、「授業内容の理解度」「教員の説明や資料提示のわかりやすさ」「授業中のコミュニケーションの取りやすさ」などの授業に対する満足度に関する項目について、昨年度と同様に約80%の学生から高い評価を得られました。この結果に基づき、大多数の学生から理解・納得は得られていると考えています。</p> <p>なお、次年度については、原則対面授業としますが、授業の特性や教育効果を考慮したうえで一部の授業について対面授業とオンデマンド授業の併用実施に向けて検討しています。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
293	四條畷学園短期大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
294	摂南大学	大阪府	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では、9月11日から開始した後期授業の実施方針について、遠方に居住する学生が後期授業に備えてキャンパスが所在する地域（大阪府）に生活拠点を移転することも想定されたため、早期周知が必要と考え7月22日付で学生に周知した。周知時点においては、当時大阪府における感染者数が第2波とも受け取れるほどに急増している状態であり、今後のさらなる感染拡大の可能性も否めないことから、方針として、教育効果の面で面接での実施が望ましい一部の科目（実験・実習科目、演習科目、ゼミ科目など）について面接授業を実施しつつ、学生の安全確保と感染拡大防止を最優先に、「面接授業」以外の授業方法も含め、より学修効果を高める授業運営をする旨の説明を行った。</p> <p>その後、8月にかけて大阪府での感染者数はさらなる増加を見せたものの、9月に入って減少傾向となったことに鑑み、さらなる感染防止策を講じたうえで面接授業を増やしていく旨を改めて9月14日付で学生に周知した。</p> <p>現在も面接授業の割合が増えつつあり、調査回答時点（10月20日時点）では1年次生の授業を中心として約4割の科目が面接授業を再開しており、今後増える見込みである。調査回答時点までに全面的な面接授業への転換が進んでいない理由として、面接授業と遠隔授業を併用するハイブリッド授業の準備期間が必要であることがあげられる。つまり、本学は新型コロナウイルスの感染者が他の地域に比べて多い地域にあるため、学生本人や家族が基礎疾患を抱えているなどの理由により通学の自粛を望む学生も一定数存在することから、面接授業を再開するにあたり、当該学生に対して面接授業を同時配信する等、学修機会の確保が必須となる。そのため必要機材の準備を進めているところであり、それらの搬入遅延がハイブリッド授業の運営課題となっているのが現状である。必要機材の準備ができれば、更なる面接授業の再開が可能となる見込みである。</p> <p>一方、前期から、遠隔授業であっても希望する学生には学内から受講できるように学生向けにノートパソコンの貸し出しや情報処理室等の学内施設を感染防止策下で利用できる体制を構築するなどのキャンパス回帰の取り組みも行っている。今後も感染拡大防止等の学生の安全確保を念頭に、面接授業再開も含めたより学修効果を高める授業を目指すとともに、次年度においては全面的に面接授業が開始できるよう学内において面接授業実施の課題と対策の調査を行うなど準備を進めているところである。</p>	④把握していない	<p>本学では、全学生の理解・納得の状況を直接確認するアンケートは実施していないことから問7の回答を「④」とした。しかしながら、学生や保護者・保証人に対して以下の説明を行い、学生の安心・安全でより効果的な教育・学修体制についての理解を求めている。</p> <p>本学では、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令を受け、前期授業を主に遠隔で実施することを決定した。不安と戸惑いを感じているであろう学生に対して、学長名で「学生が今取るべき行動」等について発信し、コロナ禍の中で本学の教育体制を伝えることで学生の不安解消と遠隔授業が主となる授業運営の理解に努めた。</p> <p>さらに新入生に対しては、前期授業開始までにゼミ担当教員から電話連絡をして、大学の授業運営方針や遠隔授業の受講方法について説明を行い、キャンパスに通学できない学生の不安な気持ちを少しでも解消できるよう全学をあげて対応を図った。併せて在学も新入生向けの歓迎動画を配信し、新入生が孤独感を感じることはないよう努めた。前期終了後には、遠隔授業の受講環境や実施方法における改善点を見出すこと等を目的として、学生に対して「遠隔授業に関する学生アンケート（実施期間：2020年8月24日～30日）」を実施した。4割程度の学生が「面接授業が好ましい」と回答している一方で、「コロナ禍の影響を考えると後期もオンライン授業がよいと思う」などといった遠隔授業の継続を望む声も多く寄せられた。</p> <p>さらに、「遠隔授業による高い学修効果が実感できた」「PCやICTスキルが向上した」などの遠隔授業の学修効果の理解も進んでいる。この前期終了時のアンケート結果や日々寄せられる学生からの多様な声を踏まえ、教育効果も考慮したうえで先述の方法で本学の後期授業方針を発信している。遠隔授業の運営方法や設備についても学生の意見を取り入れて改善していることや現時点で教職員に対する直接的な不満の声が寄せられていないことなどから、多くの学生には理解されていると考えている。</p>
295	帝塚山学院大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			
296	阪南大学	大阪府	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
297	神戸大学	兵庫県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>遠隔授業に係る本学の基本的な姿勢については、学長からのメッセージという形で説明している。そこでは、コロナ禍のもとでの学生・教職員の健康と学生の学修機会を確保するという視点から、遠隔授業を実施するに至った理由やその意義を説きつつ、あわせて大学の使命として面接授業の重要性についても論じている。</p> <p>4月13日付「学生・教職員のみなさんへ」(https://lecturehub.kobe-u.ac.jp/)</p> <p>また8月12日付「学生の皆さんへー第2クォーターを終えるにあたってー」では、後期に向けて面接授業を増やす方向であることも説明している(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_08_12_02.html)。</p> <p>なお、後期において遠隔授業を中心にしつつも面接授業を増やす方向であることについては、その際の注意事項を含めて、学務部より周知している。</p> <p>・8月11日付「令和2年度後期の授業実施について」 https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_08_11_02.html</p> <p>・9月8日付「令和2年度後期における授業等の取扱いについて」 https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_09_08_01.html</p>	②大多数が理解	<p>本学では、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」を定め、これに基づき、5月からの第1クォーターにおいてはほぼすべての授業を遠隔授業として実施したが、6月下旬からの第2クォーターでは、一部の演習、実験及び実習等で面接授業を行い、その対応を緩和した。</p> <p>また、学部新入生については、各学部に対して県内等における感染症拡大の状況に配慮しつつ大学への登校機会を設けるよう依頼し、一部の学部で7月から9月にかけて実施された。</p> <p>遠隔授業に係る学生の理解の状況については、8月に実施した第1・2クォーターの「授業振り返りアンケート」等において、昨年度と比べて、授業理解度(72.6%から80.7%に増加)、シラバスの到達目標の達成度(69.1%から76.3%に増加)において伸びがみられ、1週間あたりの学修時間が昨年度の12.3時間から15.9時間に増加した。</p> <p>また、9月に行った全学生への遠隔授業に関するアンケートでは、学部生・大学院生ともに7割以上が、遠隔授業で受講した科目全体の8割以上は特に支障なく十分受講することができたと回答しており、面接授業を望む意見もあるものの、本学では遠方から通学する学生も多いため、感染予防の観点から遠隔授業の継続を望む声や、遠隔授業の優れた点を挙げる学生も多く見られた。</p> <p>なお、本学では学習管理システム(LMS)を導入済(平成27年度)であり、平成31年4月の学部入学者からノートパソコンの必須化とともにアクセスポイントの強化も実施している。さらにこのたびの事態に際しては、早い段階でWeb会議システムも全学的に導入したこと、遠隔授業に係るポータルサイト(「神戸大学レクチャーハブ」)や遠隔授業ヘルプデスクを開設し、学生及び教員の利用に供したことから、遠隔授業の実施環境や機器の操作に大きな支障は発生しなかった。</p> <p>大学全体としての面接授業の割合は3割程度であるが、学部・研究科によってばらつきが大きい。国家資格取得を目的とする医学系の研究科では9割近くを面接授業で実施しており、また、比較的少人数で行う授業を多く開講する部局や十分な数の教室を保有している部局においては、感染症対策を比較的容易に行うことができることなどから、文系の1学部・2研究科、理系の2学部・3研究科でも5割程度は面接授業を実施しており、今後も各部局の事情に配慮しながら、面接授業の実施等登校機会の確保に努めていくこととしている。</p>
298	神戸市外国語大学	兵庫県	公立大学	②併用	③半々			
299	神戸市看護大学	兵庫県	公立大学	②併用	②7割対面			
300	芦屋大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
301	関西看護医療大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
302	関西学院大学	兵庫県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>大学生は、中学・高校生とは異なって、学外での社会的活動の範囲も広くなり、その分感染のリスクが高いこと、本学においても学外での会食や飲み会、あるいはアルバイト先で個々に感染した学生が存在すること、万が一、大教室等での授業によりクラスターが発生した場合、その範囲は大規模なものになると懸念され、学生からご家族への感染拡大、友人やアルバイト先での感染拡大などが発生することも危惧されることを伝えている。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症は秋学期以降もどのように推移するか判断を許さない状況であるものの、感染経路が飲食や飲み会などを通じたものが極めて多いことや手指の消毒、マスクの着用、三密を避けるなどが有効な予防策であることが明らかになっているため、感染防止策を講じながら対面授業とオンライン授業を併用することを説明している。その感染防止対策としては、教室における3つの密の回避のため座席は前後左右1席ずつ空けて着席すること、一人当たりの換気量を確保するため全教室の換気量を調査し出席者数は教室の収容定員の1/2以下とすることを示した。また、通学経路や休み時間など教室以外での3つの密の発生を防止するために、各キャンパスへの登校者数を在籍者数の約25%となるよう調整することも説明している。さらに、陽性者と接触したことを速やかに把握しクラスターの発生を防止するため接触確認アプリ「COCOA」のインストールを学生に求めており、大学生協と協力して導入推進の割引キャンペーンを実施している。一方、秋学期の授業開始と同時にキャンパスの立ち入り禁止を全面解除し、各学部の事務室も通常通りに開室することもあわせて周知している。</p>	②大多数が理解	<p>「2020年度秋学期学生状況調査」（2020年9月実施）において、「通学に不安がある」と回答した学生が全体の49%、「家族への感染リスクに不安がある」と回答した学生が全体の55%、「対面授業であってもオンラインでの受講を継続したい」と回答した学生が全体の40%に上るよう、対面授業再開に不安感を持つ学生も存在する。</p> <p>また、「学修行動と授業に関する調査」（2019年6月と2020年6月の比較）では、授業に「満足している」という回答が「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせて7割を超えており、前年比マイナス5ポイント程度にとどまっている。</p> <p>2021年度の授業は、原則として対面授業で実施する基本方針を決定した。ただし、オンラインでの実施の方がより教育効果があると認められる一部の科目については、オンラインで授業を実施する。なお、来日できない留学生や基礎疾患等によりキャンパスでの対面授業を受講できない学生には、所定の手続きによりオンラインで受講できるよう配慮する。</p>
303	神戸医療福祉大学	兵庫県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>本学キャンパスの立地する兵庫県では、8月時点においても新型コロナウイルスへの感染者が発生し続け、感染収束の傾向を確認することはできない状態であった。学生を始めとした大学構成員の健康と安全の確保を第一に考えるという大学の方針に基づき、本年度後期の授業は前期に引き続き、原則として遠隔で実施することを決定した。</p> <p>一方で、学習効果の観点から面接による授業が必須であると判断した一部の授業（主として実技・実験・実習を伴うもの）については、十分な感染防止策を講じた上で対面授業を実施することとした。これらの決定について、前期授業期間の終了直後（8月中旬）に学生および保護者に通知した。</p>	②大多数が理解	<p>後期の授業開講方針を決定し通知した後、学生や保護者から後期の授業に関する問い合わせを受けたが、面接授業の開始についての要望はほとんど寄せられていない。一方で、感染拡大地域と見なされている地域に位置する大学に戻って一部の面接授業を受講することに対する不安や、自宅等で外出することなく学習を継続できることに関する安心感を訴える声が一足数寄せられている。</p> <p>また、小規模大学の特性を生かし、後期授業の開始後学生との対面または遠隔による面談を順次実施しているが、中でも現在の開講方針に関する否定的な声は寄せられていない。以上より、現在の本学の授業の開講形態については概ね理解されていると判断している。面接授業の開始についての要望に対しては、学生の健康と安全を最優先した上での判断であるという本学の方針を説明し、理解を求めている。</p> <p>なお本学では、在学生の多く（約8割）が大学内に位置する寮に居住しており、面接授業の開始を判断する際は、学内だけでなく寮内の感染防止策を徹底することが求められる。</p>
304	神戸国際大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
305	神戸松蔭女子学院大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
306	神戸情報大学院大学	兵庫県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>コロナウイルス感染症への配慮。クラスターの防止。</p>	①ほぼ全員理解	<p>学生からは理解の声を聞く。学生との対話の中でこの状況を理解して頂いたと考える。</p>
307	神戸女学院大学	兵庫県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>HP上（https://www.kobe-c.ac.jp/application/files/9915/9661/6050/2020secondsemester_3.pdf）で次のように説明している。</p> <p>「本学では週5日間、1日5時間、学部だけで800以上の授業が開講されており、単純に計算して1時間に32科目、960名が受講していることになる。特に昼前後の時間帯はその1.5倍ほどの学生が密集した状態である。収容率を半分以下に留め三密を避ける教室配分を行い、学生が待機する場所も確保するには教室数が足りないという施設上の問題がある。感染が収束しない中、大学としては教育とともに学生・教職員の健康を維持する責務があり、後期の授業については、対面授業は対面ではなくは授業が成立しない科目に限定し、そのほかの授業は遠隔授業を方針とする決断をした。」</p>	③大多数とは言えない	<p>前期末に実施した「遠隔授業についての学生アンケート」結果から、ほとんどが遠隔であった前期授業について、「満足、ある程度満足」と「どちらともいえない」が拮抗しており、前期遠隔授業の成果をある程度評価しつつもキャンパスでなければ得られない体験を待ち望む思いが読み取れたこと、また、個別に学生から対面授業を希望する声も複数届いていること等から判断した。</p> <p>来年度については、全学生・全教職員を対象に「授業運営に関するアンケート」を実施しており、対面授業の再開に向けて前向きに検討を行っている。</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
308	神戸常盤大学	兵庫県	私立大学	②併用	②7割対面			
309	神戸薬科大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
310	聖和短期大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
311	兵庫大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
312	兵庫医療大学	兵庫県	私立大学	②併用	③半々			
313	奈良女子大学	奈良県	国立大学	②併用	③半々			
314	奈良県立大学	奈良県	公立大学	②併用	③半々			
315	畿央大学	奈良県	私立大学	②併用	③半々			
316	帝塚山大学	奈良県	私立大学	②併用	③半々			
317	奈良学園大学	奈良県	私立大学	②併用	①ほぼ対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
318	和歌山大学	和歌山県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>和歌山大学ホームページにおいて令和2年3月31日に新生及び在学学生へ「新型コロナウイルス感染症の影響拡大状況を受け、学生・教職員の健康及び安全の確保、教育活動維持のため緊急に措置する」として、「授業科目については、原則として遠隔授業（e-Learning）等に変更し、通常の対面での授業は極力避ける」ことを説明しました。</p> <p>さらに緊急事態宣言発出を受け、授業開始を4月22日から5月7日に再延期するとともに、4月8日から学生は登学禁止を通知し、5月7日からの授業はすべて遠隔授業で実施しました。ただし、「インターネット環境についての緊急調査」により大学の教室等で遠隔授業の受講が必要と認められる学生に対しては「許可証」を発行し、登学できるようにしました。</p> <p>その後、緊急事態宣言解除を受けて、5月27日に「大学における登学禁止の一部解除及び授業」について通知し、「学士・修士・博士論文の作成に係る研究活動を行う」学生に対しては研究の進捗状況に支障が生じないように、6月1日から登学を許可すること、また第2クォーター開始日（6月25日）以降は、実験、実習、実技等の対面実施が必要と認められる授業科目の履修登録者には登学を許可することを説明し、対象科目一覧を公表しました。本学ではセメスター科目も開設されていますので、これについても6月25日から対面で実施する科目一覧を公表しています。第3クォーター・後期についても8月28日に新型コロナウイルス感染症対策を徹底するために遠隔授業を主としますが、実験、実習、実技等の対面実施が必要と認められる授業科目に加えて、対面を必要とし、三密（密閉・密集・密接）回避を徹底できる講義科目についても対面実施を認めることを説明し、一覧表を公表しています。</p> <p>以上のように、学生には遠隔授業を主としますが、必要な授業科目については、対面で授業を実施し、今回のコロナ禍に対応していることをその都度ていねいに説明・公表しています。</p>	②大多数が理解	<p>遠隔授業の実施にあたっては、まず授業を準備する担当教員のこれまでにない入念な教材作成や授業構成に関する工夫をあげることができました。オンデマンド型の遠隔授業の場合には、担当教員は準備の段階で教材を何度も見直し、説明・解説する自分の声を何度も聴き直し、学生の理解が深まるように教材を改良し、説明・解説を改善することで、授業内容・構成の完成度が次第に向上していききました。</p> <p>一方、学生は教員のそのような努力によって配信される授業を見直し、聞き直しすることができるので、授業理解が深まりました。また、同時双方向型の遠隔授業の場合には、授業が同時進行するという点では従来の面接授業と同じですが、双方向の利点を活かし、学生の授業参加を促す工夫をしました。これによって、これまでであれば自分の考えや意見を述べることは大規模の授業では一部の学生に限られていたものが、より多くの学生が授業に参加できるようになりました。</p> <p>特に、授業中に発言することが苦手であった学生にとっては、教室のほかの学生の視線等を意識せずに発言することが容易になりました。オンデマンド型の遠隔授業においてもWEBを通して、意見・質問等を担当教員へ寄せることができ、教員がそれらに目を通して、ていねいに答えることも実現しました。対面ではないということで、遠隔授業はデメリットについて言及されていましたが、授業を改善する良い契機になりました。</p> <p>以上のことは、本学が学期ごとに毎年実施している授業アンケートから裏付けすることができます。本年度前期授業評価アンケート項目から、授業の満足度（授業評価）及び理解度を抽出し検証しますと、教養教育と学部教育（教育学部・経済学部・システム工学部・観光学部）において前年度の評価を上回っています。教養教育と学部教育に分けて、詳細を示しますと、以下のとおりです。（カッコ内は前年度同期）</p> <p>◎満足度：教養教育及び学部教育において、高い満足度と評価がすべて前年度より向上しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育：「この授業の満足度を評価してください」満足度が70%以上：91.4% (87.5%) < 100-90%：46.5% (41.0%) ・89-80%：33.3% (32.0%) 79-70%：11.6% (14.5%) ・教育学部：「この授業の満足度を評価してください」 やや良い以上：85.5% (81.8%) <満足度良い：53.1% (52.4%) ・やや良い：32.4% (29.4%) ・経済学部：「この授業を評価してください」良かった以上：81.0% (77.9%) ・（非常に良かった：33.5% (28.5%) ・良かった：47.5% (49.4%) ・システム工学部：「この授業の満足度は」満足度が70%以上：79.4% (79.1%) <満足度100-90%：26.1% (25.8%) ・89-80%：33.4% (29.7%) 79-70%：19.9% (23.6%) ・観光学部：「授業を評価してください」良かった以上：88.2% (84.8%) <非常に良かった：44.2% (34.3%) 良かった：44.0% (50.5%) <p>◎理解度：教養及び観光学部では前年度に比べて、高い評価の数字の方が際立って伸びている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養：「授業のねらい・目当てがよく理解できましたか」どちらかというと思う以上：85.4% (77.0%) ・（確かにそう思う：50.8% (41.9%) どちらかというと思う：34.6% (35.1%) ・教育学部：「授業のねらい・目当てがよく理解できましたか」 ややそう思う以上：88.0% (83.7%) ・（そう思う：56.7% (55.2%) ややそう思う：31.3% (28.5%) ・経済学部：「よく理解できたか」 そう思う以上：86.2% (85.8%) <強くそう思う：27.0% (36.5%) そう思う：59.2% (49.3%) ※経済学部のみ「強くそう思う」の比率が下がっているが、合計ではほぼ前年度と同等である。 ・システム工学部：「授業のねらい・目当てがよく理解できたか」 ややそう思う以上：69.0% (68.1%) ・（確かそう思う：39.6% (36.9%) ややそう思う：29.4% (31.2%) ・観光学部：「授業の内容はよく理解できたか」 そう思う以上：94.9% (87.0%) <強くそう思う：38.0% (26.9%) ・（そう思う：56.9% (60.1%) <p>以上のことから、大多数の学生は、授業形態等について理解・納得していると判断されます。</p> <p>（次頁へ続く）</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
								<p>来年度4月からの授業は、新型コロナウイルス感染症防止対策を図りながら、実施可能な限り対面を中心とした授業を行う予定です。</p> <p>感染予防対策を考えた上で、現在の各講義室、実験室、演習室などの収容人数を緩和し、人数制限により対面実施が可能な授業については、対面実施を予定しています。体育実技などの実技科目は、実施可能な種目を検討することに加え、三密を避けるために仮の広い空間を更衣室にするなどの工夫を検討しています。</p> <p>また、複数教室での同時配信が可能な授業は、対面授業を取り入れて実施を予定しています。</p> <p>さらに、事前学習など反転授業を取り入れたり、対面授業と遠隔授業を併用しての開講などハイブリッド式を取り入れる予定です。</p>
319	和歌山県立医科大学	和歌山県	公立大学	②併用	③半々			
320	鳥取大学	鳥取県	国立大学	②併用	③半々			
321	島根大学	島根県	国立大学	②併用	③半々			
322	島根県立大学	島根県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>「学生・教職員の健康と安全を最優先に配慮しながらも、学生にはできるかぎりの学びの機会を提供する」ことを基本的な考え方とし、本学の主要キャンパスの所在地である浜田市内では新型コロナウイルス感染者の報告は2件（10/21時点）だが、非常事態宣言が解除され、県境を越えての移動が可能となった6/22（月）頃に比べて、全国の感染状況が劇的に好転する見込みは少ないと判断し、「秋学期中も春学期に引き続き遠隔授業を主とすることとした」旨を学部長名にて説明した。</p> <p>また、学生に実施したアンケート結果から、学生には対面授業も遠隔授業もほぼ同じ程度の支持があることを説明し、対面授業を希望する学生への「できるかぎりの学びの機会の提供」と遠隔授業を実施する「健康と安全を最優先に配慮」という点の双方を考慮して、「遠隔授業のみ」とせず「遠隔授業を主として」という表現とした旨もあわせて説明した。</p>	①ほぼ全員理解	<p>総合政策学部では、学生アンケートの結果、「対面授業を希望が29.4%」「遠隔授業を希望が33.1%」「対面と遠隔の併用を希望が34.6%」であり、対面授業も遠隔授業もほぼ同じ程度の支持があり、アンケート結果にそった判断を実施したと考えている。また、秋学期の履修登録前に各授業の開始当初3週間程度の実施形態を明確にした上で履修登録を行ったこともあり、大学に寄せられた学生からの反対意見はなく、むしろ対面授業についての不安を訴える内容が多かった。</p> <p>また、教員からは秋学期3週間経過後のそのあとの授業形態について、対面授業に切り替えようとする学生の意見をアンケート等で聞き取ると、ゼミ以外では対面授業の希望が少なく、対面授業に切り替える時期をもう少し先に行いたいとの報告もある。人間文化学部では、春学期授業アンケートをとったところ、「非常に満足している」「満足している」との回答が73%であった。（回答率74.2%）なお、看護栄養学部では面接授業と対面授業はおおむね半々となっており、他学部とは状況がやや異なる。</p> <p>前述したとおり、本学ですべてに半数以上が対面授業となっている学部（看護栄養学部）もあるが、半数に満たない人文・社会学部系の学部でも教室の3密防止として、座席の前後1列左右1席あけ等により収容定員を1/2から1/3に減らし、教室の換気、扉の常時開放や消毒薬の配置、検温の実施など、可能な限りの感染拡大防止に努めながら対面授業を徐々に増やしており、10/16付調査時の約3割が対面授業から、1か月半が経過した11/30現在で約4割が対面授業となっている。</p> <p>今後も感染対策に努めながら、コロナの感染に不安を抱く学生も対面授業を希望する学生にも、どちらにも学びの機会が確保されるよう、担当教員と履修学生との同意を踏まえ、可能な授業から対面授業（又は遠隔授業とのハイブリッド型）を実施していく予定である。</p>
323	岡山県立大学	岡山県	公立大学	②併用	③半々			
324	環太平洋大学	岡山県	私立大学	②併用	①ほぼ対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
325	ノートルダム清心女子大学	岡山県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>政府の「緊急事態宣言」を受け前期から遠隔授業としている。緊急事態宣言は解除されたが、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況が続いており、感染予防及び感染拡大防止の観点から、また、県外からの通学者も含め公共交通機関を利用する学生の多くから通学に対する不安の声が上がっていることもあり、後期も遠隔授業中心の授業実施とした。</p> <p>遠隔授業のため登校が制限されている学生の要望や不安の声に対して、現在行っている遠隔授業実施に伴う支援や経済的な支援を説明するとともに、後期に向けて計画している様々な支援策について説明し、大学が一人ひとりの学びを大切にしていることを伝えた。</p>	②大多数が理解	<p>後期を遠隔授業中心による授業実施とすることに関し、学長及び学務部長からの説明文を全学生に対するSNS及び本学ホームページ上に掲載し、遠隔授業とする理由やそれに対する支援策等について周知している。</p> <p>学生からの要望や不安の声に対して、中止となっていた入学式を緊急事態宣言解除後に、「入学感謝の集い」として開催するなど、学生行事もコロナ後の形態で実施し、本学学生としての自覚を持てるよう努めている。さらに、遠隔授業で孤立する学生が生じないよう、アドバイザー教員から個々の学生への声掛け、学生が大学の各担当窓口と直接連絡を取ることができるシステムの構築や、本学になじめていない新入生等がピアサポーターから自由に何でも聞けるインフォーマルな場を設ける等、遠隔授業で登校できない状況であっても大学と繋がりを持てる体制を構築している。</p> <p>また、遠隔授業により教育の質が担保できているか検証するため、11月中旬に全授業科目について学生アンケートを実施した。学生の各授業科目への満足度は、対面授業と遠隔授業に大差はなく、ともに約9割の学生から満足もしくはどちらかといえば満足との回答を得ており、遠隔授業自体に対する学生の不満はあまりないと考えている。さらに、アンケートの自由記述では、対面授業再開ではなく遠隔授業の継続を望む多くの意見が寄せられている。</p> <p>保護者に対しては、大学への質問・要望等について個々に照会を行った結果、対面授業の再開、授業料の減額・施設設備費の返還、教育の質への不安等について、様々な意見をいただいた。この様々な意見に対して、Q&Aを作成し、内容についての問い合わせ先を明記したうえで、全保護者あてに郵送しているが、ほとんど意見が寄せられることはなかった。</p> <p>今後は、コロナ感染症の感染状況を注視しながら対面授業の拡大を図ることとし、来年度からは対面と遠隔の併用による授業実施に移行する予定である。</p>
326	広島大学	広島県	国立大学	②併用	③半々			
327	県立広島大学	広島県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>コロナ禍が収束していない状況下で、学生の健康と安全を第一に優先すべき課題であると考え、さらに仮に構内で感染者等が発生した場合でも、学修機会を確実に確保するための対策として、面接授業・遠隔授業を適切に組み合わせ、それぞれの長所を最大限に活かした「ハイブリッド授業」を原則とした結果である。</p>	②大多数が理解	<p>オンライン授業に関するアンケート調査において6割以上の学生がオンライン授業の継続を希望している。</p>
328	広島市立大学	広島県	公立大学	②併用	④3割対面	<p>●大学全体としては、オンライン授業と対面式授業とを併用して実施します。ただし、感染防止の観点から、オンライン授業の割合を多くします。また、対面式授業は、3密回避など感染防止に最大限留意して行います。(2020年8月20日付け「学生・家族宛て「2020年度後期の授業実施方針等」について」)</p> <p>●2020年度後期授業は、オンライン授業と対面式授業を併用して実施します。オンライン授業が多くなる見込みですが、前期のようにオンライン授業を原則とするのではなく、教育効果を考慮しながら対面式授業も柔軟に取り入れることにしています。大学は、後期においても、教育効果を妨げることなく、ウイルス感染拡大防止に最大限の措置を実施しますので、学生の皆さんも感染拡大防止にご協力をお願いします。(2020年9月30日付け「学生・保護者宛て「後期授業開始にあたっての学生・保護者への学長メッセージ」」)</p>	②大多数が理解	<p>一部の学生・保護者等から後期の授業形態に関する意見等をいただいています。が、単位取得状況について、前年度と比較してほぼ横ばいであること、また、授業アンケートでは、授業の満足度に関する問いに対して、普通以上と回答した学生が9割以上、そのうち、満足又は非常に満足と回答した学生が7割近くであったことなどから、多くの学生は、一定程度、理解・納得しているものと認識しています。</p>
329	広島商船高等専門学校	広島県	高等専門学校	②併用	①ほぼ対面			
330	山陽小野田市立山口東京理科大学	山口県	公立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
331	下関市立大学	山口県	公立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学長メッセージで、秋学期授業についての本学の考え方を以下のとおり示しました。(2020年9月18日付け 本学ホームページに掲載)新型コロナウイルス感染症がまだ収束していない現状においては、9月28日から始まる秋学期についても、原則としては遠隔で実施します。</p> <p>しかし、大学における学びには、学生同士や教員とのコミュニケーション、先輩後輩とのつながりなど、人と人が触れ合うことによる成長も重要です。このため、実習科目や演習科目など、対面が必要な科目については、感染予防対策を十分にとったうえで、対面授業を実施することにしました。</p>	④把握していない	アンケート調査等は特に行っておりません。 2021年4月から、原則として対面授業を実施する予定です。
332	山口県立大学	山口県	公立大学	②併用	③半々			
333	宇部フロンティア大学	山口県	私立大学	②併用	②7割対面			
334	宇部工業高等専門学校	山口県	高等専門学校	②併用	③半々			
335	鳴門教育大学	徳島県	国立大学	②併用	①ほぼ対面			
336	香川大学	香川県	国立大学	②併用	③半々			
337	愛媛大学	愛媛県	国立大学	②併用	③半々			
338	松山大学	愛媛県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学生の安全確保、大学生は小・中・高校と比べて行動範囲が広いこと、学外において様々な人と接触すること、大学は授業の受講携帯が大きく異なり履修者数が100名を超える授業も多数あること、短い休憩時間には多くの教室での出入りがあり廊下等での「密」状態を避けられないこと、万が一学内で感染者が出た場合、どこでどのように他人と接触しているかを追跡することが非常に困難であること。</p>	②大多数が理解	「後学期の授業開講形態について希望はあるか」というアンケートについて、26.5%が対面希望であったこと、また9月7日付HP掲載の学長文書「後学期のオンライン授業（遠隔授業）の実施について」で後学期の授業形態について検討の結果、なぜオンライン授業となるかを説明していること。
339	尾道商船高等専門学校	愛媛県	高等専門学校	②併用	①ほぼ対面			
340	九州大学	福岡県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>7月下旬から8月上旬に本学で発生したクラスター（集団感染）により、対面授業を積極的に導入することを判断できない状況下で、秋学期（10月1日～12月3日）の授業実施の方法等について、シラバスの公表や授業準備の関係から8月中に決定する必要があった。そのため、当時の本学の行動指針や文部科学省通知を踏まえ、8月24日付で、「原則として遠隔授業による科目の開講とするが、学生の状況・希望、教育効果等を総合的に考慮し、学部長・学府長等の判断により、対面での授業実施が必要あるいは望ましい科目及び研究指導等、並びに遠隔での成績評価が困難な科目の教室での学期末試験については、対面により実施できる」とした。</p> <p>これを受け、学生に対して、「後期の授業にあたって、感染状況は依然として厳しい状況であり、授業の実施についても引き続き、原則、遠隔授業とするが、感染防止に万全の対策を施したうえで、部分的に対面授業の実施を行う」旨を各個人あてにメールするとともに、ホームページへ掲載して理解を求めた。本学の行動指針の内容や授業の実施方法等については、4月以降逐次、ホームページやメールにより学生に周知し、理解促進に努めてきている。</p>	②大多数が理解	<p>学生には、「後期の授業にあたって、感染状況は依然として厳しい状況であり、授業の実施についても引き続き、原則、遠隔授業とするが、感染防止に万全の対策を施したうえで、部分的に対面授業の実施を行う」旨を各個人あてにメールするとともに、ホームページへ掲載して理解を求めている。</p> <p>特に、新入生については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に実施できなかった入学式の代替行事として、9月下旬に新入生歓迎式を、感染防止を徹底のうえ、対面で開催した。二部開催で約1,300名もの新入生が参加し、遠隔授業を原則としながらも、一部、対面授業を実施していくことや感染防止の対応について大学としての姿勢を示し、学生に理解を求めた。 ・対面による教育効果が高いと考えられる少人数でのアクティブラーニング型科目等を、秋学期からは対面により実施し、毎週2日程度通学している。学生や保護者等から対面授業の実施についての個別の要望が若干見受けられるものの、学生からは、一定以上の理解を得ていると考えている。 <p>また、本学において実施した学生を対象としたオンライン授業に関する学生アンケートでも、概ねオンライン授業の受け止められ方は良好であると思われる。</p>
341	九州工業大学	福岡県	国立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
342	北九州市立大学	福岡県	公立大学	②併用	④3割対面	第2学期の授業は遠隔を原則としつつ、教育の質保証を考慮し、一部の科目は感染防止策をとった上で段階的に対面授業を開始すること、また、対面授業の実施にあたっては、文部科学省・厚生労働省等のガイドラインや感染症専門医の指導にもとづき、学生・教職員の感染症防止に努めていることや、遠隔授業は、教職員に研修を実施し、個々の教職員も学生のために教育の質の維持・向上に努めているとの説明を行った。	②大多数が理解	2020年7月に、学生に対し2学期の授業方法に関する調査（アンケート）を行ったところ、遠隔授業を実施している講義形式の授業については、約半数の学生（54.1%）が遠隔授業を希望しており、感染リスクを回避したい学生が一定数存在することを踏まえ、②として回答した。 今後は、専門家の実地指導や助言を受けながら、ソーシャルディスタンスの確保が難しい講義等においても、様々な工夫を加えることにより、対面授業への移行ができないか鋭意検討していく。
343	九州歯科大学	福岡県	公立大学	②併用	③半々			
344	折尾愛真短期大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
345	九州産業大学	福岡県	私立大学	②併用	②7割対面			
346	久留米大学	福岡県	私立大学	②併用	②7割対面			
347	香蘭女子短期大学	福岡県	私立大学	②併用	②7割対面			
348	産業医科大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
349	西南学院大学	福岡県	私立大学	②併用	④3割対面	後期の授業の方針を決定した8月上旬においては、7月下旬から8月上旬の新型コロナウイルス感染症が再拡大していた時期であったため、大学が定める警戒レベルⅢを前提に、安全性を確保しつつ、いかに「対面授業」を実施するかという課題に対して様々な視点から検討を施し（7月22日付「2020年度後期授業について」 http://www.seinan-gu.ac.jp/news/8441.html ）、結果、後期授業については、原則、遠隔授業を実施するが、必要性が高く、3密回避が可能なゼミや実験・実習・実技や資格等要件科目について、対面授業を実施する旨を決定し、仮に警戒レベルⅡに下がった場合の対面授業の拡大及び仮に上がった場合の全面遠隔授業への移行の方針とともに学生に説明した（8月5日付「後期の授業について（お願い）」 http://www.seinan-gu.ac.jp/news/8523.html ）。 9月上旬の後期授業開始前には、後期授業時の登校状況を、対面授業時のみでなく前後の遠隔授業の学内受講、昼食、図書館利用等、学内での行動を考える際に、学内の状況を想定するための情報として公表し、学生に感染防止に向けた行動をとるよう注意喚起した（9月9日付「9月14日からの後期授業時の登校状況について」 http://www.seinan-gu.ac.jp/news/8565.html ）。その後、後期授業開始の約2週間後に、警戒レベルⅡに下がったことを受け、学生の安全を守ることを最優先課題とする基本方針を念頭においた上での対面授業の実施の拡大を図っていくとして、3密回避等の感染拡大防止対策を講じたうえで実施可能な共通科目外国語部門等の科目を追加して対面授業とする旨、説明した（9月28日付「後期における対面授業の追加計画について（お願い）」 http://www.seinan-gu.ac.jp/news/8595.html ）。更に、授業の運営状況や教室の利用状況等を考慮し、スポーツ実習科目等、対面実施による高い学修効果が見込まれる科目について、追加して対面授業とする旨、説明した（10月14日付「後期における対面授業の追加について」 http://www.seinan-gu.ac.jp/news/8617.html ）。	②大多数が理解	前期の学生による授業評価アンケートの結果及びIR（インスティテューショナル・リサーチ）による結果分析を踏まえると、遠隔授業に対する評価は、概ね良好であり、従来の対面授業時のアンケートと大きな差異はない。後期の授業実施に際しては、可能な限り早い段階から学生に情報を提供するという方針の下、大学の実施方針を踏まえて実施計画を示し、対面授業の実施拡大をできる限り図っている。 具体的には、学医・産業医の助言を仰ぎながら諸状況を勘案し、履修者が100名以下の科目を対象に対面授業の追加を募ることとした。仮にこれがすべて対面授業に移行すれば9割の科目が対面授業が可能となる状況となった。しかし、それを望まない学生やハイリスク要因を抱える教員も少なくないことから、学生・教員双方の意向により実施するかしないかを科目ごとに決定することとし、現在の対面授業の割合に至っている。 こうした実施方針の周知、及び学生の意向も加味した計画の策定により、学生の理解・納得を得て現状に到達していると考えている。なお、後期の対面授業の実施に向けた本学の取り組みは以下のとおり。 （1）感染防止の観点から本学の学生1人当たりの敷地面積5.3㎡を考慮して、最大登校時の学生数の割合（登校率）を17%程度から始めて、50%程度まで回復することを目指した。 （2）その対象とした各授業で授業開講形態について教員と学生で調整した。 （3）その結果、追加の開講科目は想定まで到達せず、登校率は目標の50%程度までには至らなかった。また、対面授業を1科目も受講できない学生の割合は全学生の約25%となった。 （4）対面授業が1科目もない学生が、1年次生において6.4%であるのに対して、2年次生以上になお28.0%いることから、対策本部でこの割合を低下させるべく選定したクラスに絞って、対面授業の実施を個別に依頼した。加えて、多くの教員からの要望に応えるため、感染拡大防止対策の面も考慮して、受講者数100名未満の科目に限り、一部の授業回に限定した対面授業の申込受付を行った。 （5）その結果、対面授業を1科目も受講できない学生の割合は、全学生の7.4%まで改善した。また、対面授業を実施する科目の割合は、全科目のうちの40.6%となった。 また、2021年度の授業については、「可能な限り対面授業を実施し、授業の規模や特性によって感染対策が難しい授業については、遠隔授業を行う」という基本方針を決定し、2020年12月4日にホームページにて公表した。

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
350	聖マリア学院大学	福岡県	私立大学	②併用	②7割対面			
351	第一薬科大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
352	西日本工業大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
353	日本経済大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
354	日本赤十字九州国際看護大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
355	福岡大学	福岡県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学は9学部で2万人近くの学生が在籍しひとつのキャンパスで学んでいるため、すべての授業を対面授業に戻した際の通勤、通学時間帯の混雑によるリスクを憂慮しています。</p> <p>本学の基本方針を示す学長メッセージにおいて、後期開講時は「原則として遠隔授業」が打ち出され、今後の社会状況（国や県のコロナに関する規制状況等）を注視しながら、学生の学内入構規制緩和などを検討していくことを説明しています。9月14日の後期開講時は、498授業を対面授業で実施していましたが、10月12日に行動指針の引き下げを行い、対面授業の再開を各学部へ依頼し、739科目を対面で実施しています（12月1日現在）。</p> <p>前期の社会状況から、4年次生のみならず、1年次生においてもアパートを引き払い、実家に戻る判断をした学生もいることから、対面授業への参加を希望した場合の引越などの準備を考慮して、遠隔授業から対面授業へ段階的な移行を進めています。現在、学生には、後期授業の教室を公開するだけでなく、同時に空き教室の公開もしています。併せて、消毒液設置、学食の感染防止対策などの準備を整えており、ノートPCを持参すれば授業教室や、空き教室で、学内無線LANを利用して授業を受講できます。また、学内PCや印刷機の利用、図書館などの施設利用も通常通り行っています。</p> <p>また、来年度については、対面授業を原則として、準備を進めています。</p>	②大多数が理解	<p>現在、各学部の授業のうち、対面授業の実施率が3割以上と3割未満が半々です。後期授業については、前期に引き続き遠隔授業実施の要望、また、逆に対面授業実施の要望が、学生および父母から寄せられています。</p> <p>本学では、10月12日に、行動指針の変更、各学部に対面授業への切り替え依頼などを行っており、対面で実施する授業を増やしています。</p> <p>各学部においては、特に1年次生に向けて、学食で利用できる食券の配付、対面での課外授業、ゼミ単位でのオリエンテーション、キャンパスツアー、球技大会などを企画実施し、大学に来る機会、大学に慣れる機会を提供しています。また、学内Wifiを利用し、空き教室での自由な視聴、図書館等の施設利用ができる状況です。一日の入構者は3,000人程度となっています。</p> <p>来年度については、対面授業を原則として、準備を進めています。</p>
356	福岡工業大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
357	福岡女学院大学	福岡県	私立大学	②併用	④3割対面	<p>本学では学内情報システムおよびホームページを通して一部面接授業を実施すること、また、双方向型遠隔授業を実施することについて方針を配信してきた。面接授業が一部に限定される理由を以下に記す。</p> <p>(1) 「生命を第一」の合い言葉で学習環境の整備 学生には新型コロナウイルスの特性・罹患した場合の症状についてホームページ等で説明し「生命を第一」に学習環境を提供する旨を説明してきた。感染防止対策として手洗いの慣行・3密回避を徹底することも呼びかけてきた。また、面接授業実施にあたっては事前にアンケート調査を行い、基礎疾患を抱えて登校できない学生、心理的要因で登校をためらう学生に対しては遠隔での特別指導を行う旨を伝え安心して学習できる環境を維持することを説明してきた。</p> <p>(2) 文科省の衛生管理マニュアルに沿った教室環境 感染防止の観点から「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.5.22）」（文科省）に記載された基準を遵守する方針を学内情報システムで学生に伝え周知徹底した。「密閉」「密接」はもとより「密集」回避における身体距離（2メートル間隔）を確保するため着席できる座席を指定しそれ以外の座席は着席できないようにマーキングを行った。その結果、面接授業で使用できる教室数が限定されることになった。使用できない教室は施設として入室できないようにし感染防止に努めた。このような措置及び意味については文書で学生に説明した。</p> <p>（次頁へ続く）</p>	②大多数が理解	<p>大多数の学生が本学の授業形態について理解・納得していると考えられる理由を以下に記す。</p> <p>(1) 学習成果アンケート調査結果（関係部分のみ別紙添付） 前期終了後、「学習成果に関するアンケート調査」を実施（2020/8/31～9/14）した。そのなかで授業形態に関する質問項目を設け学生の意見を収集した。大学3学部7学科の平均回答率は75.7%であった。当該質問の回答選択肢に5項目を設け、遠隔授業及び面接授業について満足度を尋ねた。その結果、「全ての授業で遠隔を求める」及び「遠隔授業を基本とし数回のみ面接授業を希望する」の合計が67.5%、これに「遠隔・面接のこだわりはない」の10.8%を加えると78.3%の学生が双方向型遠隔授業を肯定的に捉えていることが分かった。これに対し、「面接授業を基本とし数回のみ遠隔授業を希望する」及び「全ての授業で面接を求める」の合計は21.6%であった。自由記述の回答では、遠隔授業の方が感染リスクが低い、復習に役立つなどの意見が目立った。また、前期開始前に校友会（学生組織）から「遠隔授業」を求める嘆願書が学長に提出されており、総合的に見て遠隔授業が学生に受け入れられていると判断している。ただし、本学は面接授業を求める声があることも理解しており、感染状況の沈静化に応じて面接授業を追加する検討を行っている。</p> <p>（次頁へ続く）</p>

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
						<p>(3) 時間割に沿った双方向型遠隔授業の実施 生命最重視の観点から面接授業を必要不可欠な科目・時間数に絞り、遠隔授業の質向上に力を入れてきた。学生に対しては、本学の遠隔授業がオンデマンド型でなく、面接授業と同じ「時間割に沿って行われる双方向型遠隔授業」であること、「チャット」や「テレビ会議システム」を通して意見交換ができることを伝え遠隔授業の質の高さを説明した。前期終了後の学習アンケート調査では「チャット」機能が復習に適している等の意見が学生から多数寄せられた。本学は遠隔授業の質を維持した上で面接授業をどう増やしていくかを検討しており、方針は逐次学内情報システムおよびホームページで伝達し理解を求めてきた。</p> <p>(4) 免許・資格に関する面接授業の実施 本学では教職をはじめ免許・資格科目が多数準備されている。そのような科目については、できる限り面接授業を行う計画があること、また、前期未消化分を後期に回して面接補講授業を十分確保していることを学内情報システムで逐次学生に伝達して理解を促してきた。今後もこの方針に沿い、感染状況の沈静化に伴い面接授業を増やすことを伝えていく。</p>	<p>(2) 時間割に沿った双方向型遠隔授業の実施 本学の「遠隔授業」は学生の自主性に任せるオンデマンド型を採用せず、「時間割に沿った双方向型遠隔授業」を採用した。このため、学生は面接授業と同じ学習習慣を維持したまま遠隔授業が受講でき、日常生活のリズムを壊すことなく学習できるのが特徴である。また、面接授業で登校した学生に対しては、学内で遠隔授業が受講できるようPCルームを開放して感染防止対策を徹底している。したがって、面接授業と遠隔授業が同一日であっても学生が授業に専念できる環境が整備されている。</p> <p>(3) 双方向型遠隔授業の質の担保 通常90分の授業時間のなかで「チャット」機能を使った意見交換、「テレビ会議システム」を使った講義、意見交換を行っている。授業で使用する教材は事前に遠隔授業システムに提示し、教材に目を通したうえで学生が授業に臨むため、所謂反転授業が可能となった。また、「チャット」機能を使った意見交換は書き込みが保存されるため、授業後に再読することが可能であり、学生からは復習に役立つという意見が出されている。また、学生の通信環境を配慮し、Wifi環境を持たない学生にルーターを無料貸与しており、全学生が同様の環境で受講できるよう手立てを講じている。</p> <p>(4) 遠隔授業の公開授業研究の実施 本学では全学的に授業公開を行い教師の相互学習・研修機会をこれまで提供してきた。前期後半に遠隔授業を対象に授業公開を行い、教員が学生と同じ条件で受講し遠隔授業担当者の指導法を学ぶ機会を設けた。後期については、学科単位で遠隔授業を公開し、学科の教育方針（カリキュラムポリシー）に則り授業が実施できているかどうかを確認・検討する機会を設ける。これにより、教師は遠隔授業の指導法について情報共有できるだけでなく、学科の教育目標が遠隔授業を通して実現できているかどうか検証することが可能となった。遠隔授業に対する学生の満足度が高い原因は、こうした授業研究によって支えられていると考えられる。</p> <p>(5) 各種センター・部署の遠隔支援体制 図書館、進路就職課、キャリア開発教育センター、学生心理相談室などからオンラインでの支援状況を逐次モニターして学生の相談件数を把握している。それぞれの部署がオンライン（テレビ会議システム、メール、電話相談など）を通して常時学生からの相談を受け付けており、利用者数も多い状況である。今後感染が沈静化に向かう場合はさらなる対面指導を検討しており、オンライン遠隔支援と合わせて学生のニーズに応えるよう努めている。こうした後方支援も遠隔授業評価が高い理由の1つとなっている。</p> <p>(6) 「福岡コロナ警報」の発令と解除 福岡県の感染者数は47都道府県中第6位で、県が「福岡コロナ警報」を2020/8/5に発令し、10/8に解除した。遠隔授業・一部面接授業の本学の方針が県の感染状況と関係することも学内情報システム及びホームページを通じて逐次伝達し理解を求めた。また、これまで本学によせられた意見・要望に答えるため、2020/9/9には5,300字にわたる本学の「基本方針」をホームページに掲載した。そのなかで、環境の変化、危機管理体制、学習環境、校納金等に関する本学の方針を総合的かつ詳細に説明した。面接授業の大幅な増加は感染防止の観点から現在難しいが、大学としてできる限りの説明責任を果たすよう努めている。</p> <p>(7) 2021年度の授業実施方針 本学は「生命を第一」と考え、そのうえで「教育の質」維持・向上に努めてきた。したがって、環境・条件が整えば面接（対面）授業数を大幅に拡大する予定である。現段階（2020年12月）の感染状況から2021年4月までに終息は期待できないが、文部科学省のガイドラインに照らしてできる限りの面接授業を行う。また、これまで同様、基礎疾患や登校への不安を抱える学生に対しては面接授業科目においても特別に遠隔指導を行う。遠隔授業については2020年度は前期・後期とも「授業公開」（授業研究）を実施した。特に後期は学科単位で授業を公開し、遠隔授業の指導法について教員間で情報共有を行った。双方向授業がオンラインにおいても可能となった現在、遠隔授業のさらなる質の向上を目指して研究を継続していく予定である。</p>	
358	福岡女学院看護大学	福岡県	私立大学	②併用	③半々			
359	保健医療経営大学	福岡県	私立大学	②併用	①ほぼ対面			
360	佐賀大学	佐賀県	国立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
361	長崎大学	長崎県	国立大学	②併用	①ほぼ対面			
362	熊本大学	熊本県	国立大学	②併用	④3割対面	<p>本学HPIにおいて、学生・家族の安全確保及び感染拡大防止を最優先し、遠隔授業ではどうしても対面授業に相当する教育効果が得られない科目のみ対面授業を実施する旨説明している。特に熊本では感染状況が拡大傾向にあり、なおさら慎重とならざるをえない。ただし、1つの授業で対面と遠隔を併用するなど、対面授業を増やすための様々な工夫を行っている。</p>	②大多数が理解	<p>例年実施している授業改善のためのアンケートにおいて、学生の授業目標達成度や授業の有意義度を問う項目については、大半の科目を遠隔授業で実施した前学期の結果は前年度よりも良い結果となっている。</p> <p>また、授業担当教員が、個別に学生に遠隔と対面のどちらを希望するかを尋ねたところ、引き続き遠隔を希望すると答えた学生が多い科目もあった。</p>
363	九州ルーテル学院大学	熊本県	私立大学	②併用	②7割対面			
364	崇城大学	熊本県	私立大学	②併用	③半々			
365	大分大学	大分県	国立大学	②併用	③半々			
366	別府大学	大分県	私立大学	②併用	②7割対面			
367	立命館アジア太平洋大学	大分県	私立大学	②併用	⑤ほぼ遠隔	<p>学生の半数が外国籍であり、多くの学生が入国できない状況に鑑み、全ての学生に授業を履修する機会を提供するため、秋semesterにおいても全授業オンライン実施が本学の場合、大前提となる。ただし、秋semesterについては、オンラインで実施する授業の内、いくつかの授業について「オンラインかつ対面授業」として実施しているが、その割合は高くない。実施比率が低い理由は、1) 90%以上の学生が地元大分県以外の国内各地や海外出身であり感染予防に最大限の配慮が必要のため、2) オンライン・対面同時授業はリアルタイムで実施する必要があり、環境整備やノウハウが十分に確立していないため（ハウリング回避のためのノイズキャンセラー設定、対面授業受講学生のための電源確保のための電源工事など）、3) 全授業がリアルタイム・双方向性授業のため通信環境に余裕を持たせるため、である。割合は低いと言えオンライン・対面同時実施授業を行うため学生は徐々にキャンパス所在地に集まってきており、withコロナの行動様式が確立していくにしたいが、また環境整備が進み、ノウハウが蓄積されるにしたいが、オンライン・対面同時実施授業割合を増やしていく予定である。</p>	③大多数とは言えない	<p>学生からは、対面を望む意見、感染を恐れてオンライン授業を望む意見、入国できないのでオンライン授業を望む意見の、おおよそ3通り寄せられている。2020年秋入学の留学生については、新型コロナの影響により、30%超の新入生が当面（今年度中）は日本への入国を希望しないというアンケート結果がある。</p> <p>また、2020年春semesterのオンライン授業を履修した学生のアンケート結果では、本学のオンライン授業が、全てリアルタイムかつ双方向で実施したためか、60%以上の学生がオンライン授業で問題なく学べている、80%以上の学生が対面授業と同等もしくはより分かりやすいと、答えている。また、教員への質問のしやすさ、授業資料の見やすさなどはオンライン授業の方が、評価が高い。</p> <p>一方、授業内でのグループワークやプレゼンテーション、学生同士の交流では、オンライン授業の評価が低かった。その結果、秋semesterの授業形態は、対面のみもしくは対面メインを希望する学生が50%、オンラインのみ・オンラインメインを希望する学生が40%弱という結果となった。以上の通り、大多数の学生の理解・納得が得られているという確信はないが、大学としては、全ての学生に平等に授業を受ける権利を保障することが最低限の責務と考え、秋semesterも全授業オンライン実施、一部の授業をオンラインかつ対面授業実施と判断した。</p>
368	宮崎県立看護大学	宮崎県	公立大学	②併用	①ほぼ対面			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
369	宮崎公立大学	宮崎県	公立大学	②併用	④3割対面	新型コロナウイルス感染症のリスクを避けるとともに、学生の卒業や単位修得に影響を及ぼさないこと、更に学生とその大切な人を守るためと説明しています。	②大多数が理解	<p>後期の授業実施方針については、8月に学長メッセージを公表するとともに、後期授業開始前に実施した履修ガイダンスにおいても学生に説明しています。また、後期の授業実施方針の参考とする意味も含め、全学生を対象に前期に実施した授業アンケートでは、遠隔授業に対するメリットや良かったという意見が多く見られました。</p> <p>本学は、教養教育を中心とした、入学定員200名の小規模校であり、実技・実習等を伴う科目は非常に少ない大学です。講義室等の収容定員や数が少なく、収容定員を減らした状況での教室のやり繰りは非常に厳しい状況にありますが、県内の感染状況を踏まえながら、後期はゼミ等を中心に対面授業を増やしています。</p> <p>また、遠隔授業を行っている科目の中には、授業自体は遠隔で行っているものの、課題の作成等において学内の施設を利用したり、発表会を行ったりしているもの、あるいは、学生の意向を尊重して遠隔で行っているものなどもあります。</p> <p>さらに、図書館やコンピューターを設置した講義室等は、学外者には利用を制限していますが、感染対策を行った上で、学生は利用できるようにしています。また、課外活動も感染対策の下に行われており、学生が交流できる場も提供しています。なお、感染状況をみながら、対面授業を増やしていく方向で検討しているところです。</p>
370	南九州大学	宮崎県	私立大学	②併用	②7割対面			
371	南九州短期大学	宮崎県	私立大学	①全面対面	-			
372	鹿屋体育大学	鹿児島県	国立大学	②併用	②7割対面			
373	琉球大学	沖縄県	国立大学	②併用	③半々			
374	沖縄県立看護大学	沖縄県	公立大学	②併用	③半々			
375	沖縄県立芸術大学	沖縄県	公立大学	②併用	③半々			
376	名桜大学	沖縄県	公立大学	②併用	①ほぼ対面			
377	沖縄国際大学	沖縄県	私立大学	②併用	③半々			

No.	学校名	所在地	設置種	授業形態	比率	学生への説明内容	学生の理解状況	学生の理解についての認識の理由、今後の取組方針等
-----	-----	-----	-----	------	----	----------	---------	--------------------------

(備考) 「授業形態」「比率」「学生の理解状況」の選択肢について

・「**授業形態**」の質問と選択肢

質問：本年度後期等の授業について、どのような形態で実施しているか、10月20日（火）時点で最も近いものを御回答ください。

選択肢：① 感染拡大の防止に配慮しつつ、例年通りの範囲で面接授業を実施している。

② 面接授業と遠隔授業を併用して授業を実施している。

③ 面接授業は実施せず、遠隔授業を実施している。

・「**比率**」の質問と選択肢

質問：本年度後期等の授業について、面接授業と遠隔授業を併用している学校にお尋ねします。面接授業と遠隔授業の比率について、最も近いものを御回答ください。

選択肢：① ほとんど（8割以上）の授業を面接授業で行っている。

② 7割程度を面接授業で行い、残りを遠隔授業としている。

③ 面接授業と遠隔授業は、おおむね半々で行っている。

④ 3割程度を面接授業で行い、残りを遠隔授業としている。

⑤ ほとんど遠隔授業を行っている（面接授業は2割以下である）。

・「**学生の理解状況**」の質問と選択肢

質問：本年度後期等の授業について、遠隔授業の比率が大きい学校にお尋ねします。上記6. で回答いただいた説明（※学生への説明内容）の結果、貴学に所属する学生は、遠隔授業の比率が大きいことについて理解・納得しているか、貴学の認識として最も近いものを御回答ください。

選択肢：① ほぼ全ての学生が、授業の形態等について理解・納得している。

② 大多数の学生は、授業の形態等について理解・納得している。

③ 大多数の学生の理解・納得が得られているとまでは言えない。

④ 学生の理解・納得の状況については把握していない。